

松本市赤木山遺跡群Ⅱ

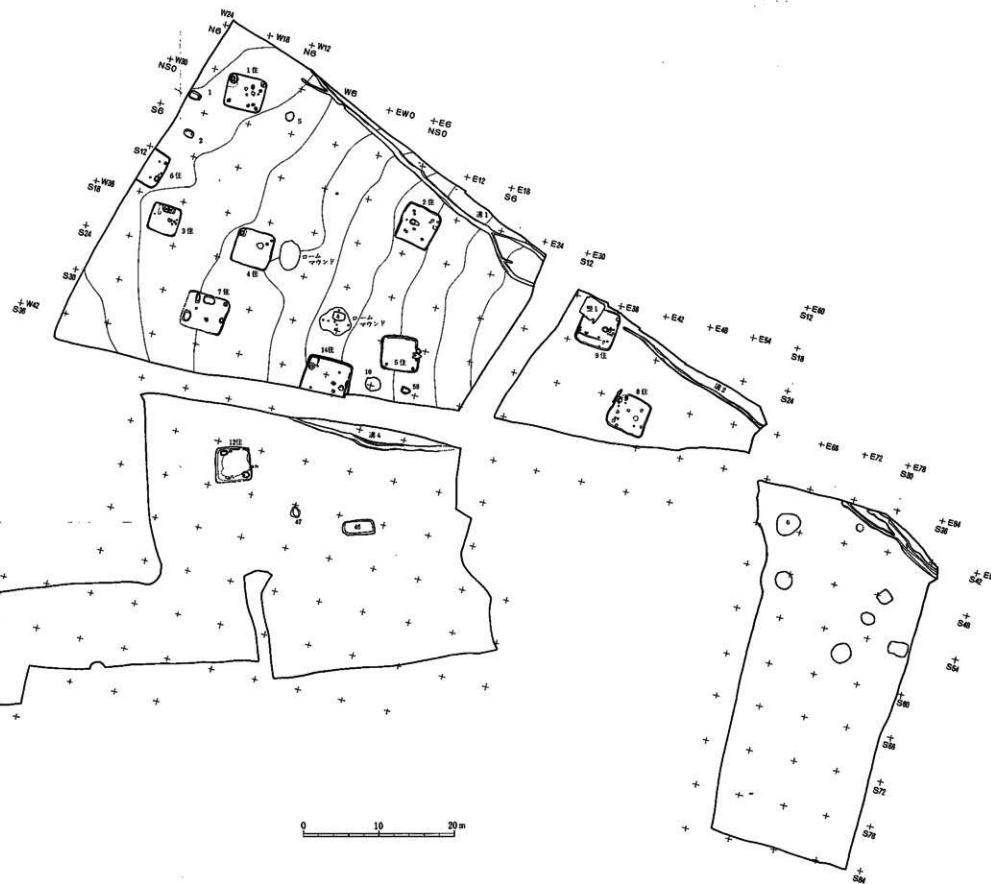
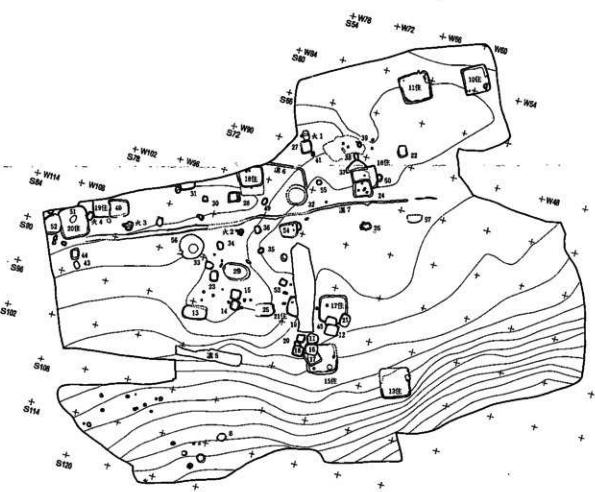
—緊急発掘調査報告書—



1987・3

長野県松本地方事務所
松本市教育委員会

石行遺跡全体図



松本市赤木山遺跡群Ⅱ

—緊急発掘調査報告書—

1987・3

長野県松本地方事務所
松本市教育委員会

序

この遺跡は昭和55年度に着工しました、県営は場整備事業小赤地区にあり、当初から埋蔵文化財の存在が確認され、その規模においても松本平で最大級の遺跡であります。今回畠地の区画整理工事の着手にあたり、県・市教育委員会の担当者と事前に調査方法等について綿密な検討をいただき、発掘調査による記録保存の方針を決定しました。

調査の実施は、松本市教育委員会で全面的に受託していただくことになりました。その結果縄文晩期の土器、石器をはじめ古墳時代の土師器、平安時代の土師器等貴重な土器、石器類が出土しました。なお古墳時代前期の集落址は、松本平でもめずらしく歴史を知るうえで貴重な資料となることと思います。

この調査が計画どおり完了できましたことは、県・市教育委員会の適切な御指導とお忙しい中、調査団として発掘調査にあたられた皆様の御尽力のたまものと感謝しております。

なお遺跡発掘にあたり、5月より12月までの長期に亘り支障なく調査が行なわれましたことは寿土地改良区の役員、地元関係者のご協力とご理解によるものであり心から感謝の意を表します。

昭和62年3月

松本地方事務所長 佐藤善處

序

寿地区の南端に位置する赤木山には、赤木山遺跡群と総称される十数箇所の遺跡があり、先土器時代から近代にわたる各種の遺物を出土するところとして関心を集めしておりました。ところが、昭和55年から進められている県営は場整備事業がこの遺跡群の周辺にも及んだため、松本市教育委員会では長野県中信土地改良事務所の依頼を受けて、昭和57年度から埋蔵文化財の発掘調査を行ってきました。今回の調査はその4年目にあたり、2遺跡を対象とした規模の大きいものとなりました。

発掘調査は市教委職員を中心に地元考古学研究者の先生方等で組織した調査団により、5月21日から12月6日というこれまでにない長期間にわたって実施され、多大な成果をおさめて無事終了いたしました。調査内容は本文で詳述してあるとおりですが、縄文時代の土器楽て場や、古墳時代から平安時代以降にわたる住居址、墓址などと、それらに伴う土器、石器が多数発見され、この地が古くから人々の生活の根拠地となっていたことが証明されました。特に、石行遺跡から出土した縄文時代晩期の土器、石器は、きわめて多量多種で、松本平の縄文時代から弥生時代への変化をさぐる上で今後大いに注目されるものと思われます。

今回の発掘は、記録保存とよばれ、開発のために遺跡を破壊するがその前に記録をとっておくという性格のもので、本書を残して遺跡は消え去る運命にあります。せめて、本書に記された調査結果が充分に活用され、郷土や先祖の歴史を探る一助となれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、この調査にあたり多大な御理解と御協力をいただきました寿史談会、寿土地改良区、炎天の下、発掘に従事された地元の皆様に心からなる謝意を表して序といたします。

昭和62年3月

松本市教育委員会教育長 中島俊彦

例　　言

- 1、本書は昭和60年5月21日から12月6日にわたって実施された、松本市大字寿に所在する赤木山遺跡群の内、石行遺跡、原度前遺跡の緊急発掘調査報告書である。ただし原度前遺跡は遺構・遺物の発見がなかったので、本文中で特に断りのない場合は石行遺跡の記述となっている。
- 2、本調査は県営は場整備事業に伴う事前の緊急発掘調査であり、長野県中信土地改良事務所より委託をうけ、松本市教育委員会が調査を行なったものである。
- 3、本書の構成については、各遺構の説明は挿図と表により行い、それらでは表現できない事項に限り、挿図の下段に項目別に要約して記す形をとった。また遺物についても表などで説明した他は本文で触れなかつたものがある。
- 4、出土遺物は極力、図化提示に努めたが、数量が多く、一部を一覧表に譲ったものがある。
- 5、周辺遺跡の説明は、「赤木山遺跡群Ⅰ」と同様なので省略した。
- 6、提示した各遺構断面図の標高は調査地に任意に設定したB.M.Iとの差で示した。尚、B.M.Iの標高は海拔675.219mである。
- 7、調査の委託契約書、作業日誌等や事業の経緯を示す事務的な記録は、調査結果の提示を重視したため文章として掲載できなかつたが、出土遺物および図版と共に松本市教育委員会が保管している。
- 8、本書の執筆・一覧表等作成の分担は次の通りである。

太田守夫	I	関沢 聰	II-2-2-(2)・(3)・(4)
神澤昌二郎	II-4-2-(4)		II-3-2-(2)
竹原 学	II-2-2-(1), III-1		II-4-2-(2)・(3)
宇賀神誠司	II-3-2-(1), III-3	松本建速	II-2-2-(3)

上記以外については 直井雅尚

9、調査体制

調査団長：中島俊彦　調査担当者：神澤昌二郎

調査員：太田守夫 西沢寿亮 石上阿藏 田中正治郎

協力者：青木雅志 赤羽包子 阿久澤昌子 浅田勝夫 飯田竜一 五十嵐周子 石合英子 乾靖子 岩脇豊美 内山尚哉 江渡暢宏 大石英 大出六郎 大谷成喜 岡野路子 奥河鶴一 小口妙子 関島八重子 上條茂一 斎科由加理 小祝仁司 小島健一 小林敬一 小林敏男 小林美弥子 小松史子 近藤晴一 齋藤明也 酒井保久 佐々木謙司 佐藤文雄 島田恵美 白川祐子 住田祐子 鹿川長広 曾和香代子 竹内清長 竹原学 浅沢智恵子 高橋裕保 土橋久子 土屋君子 鶴川登 横永文和 戸塚亮 友田新弘 内藤貴久 中垣内薰 中島新蔵 中島督朗 中野明子 中野芳治 野々山敏雄 原田啓二 藤田英博 古屋人兄 細口喜則 舛内いくみ 枝島一 松本建速 丸山愛徳 丸山更志 丸山友子 丸山誠 丸山正喜 三沢元太郎 宮坂てるみ 宮澤富美恵 向山かほる 村山正人 森光 蓋星博之 山田真也 山本淳子 山本直樹 横山信七 横山保子 吉岡文 直井スガ子

目 次

I 遺跡付近の自然環境	4
II 調査	
1. 調査の概要	9
2. 縄文時代の遺構と遺物	
1. 遺構	11
(1) 土壙	12
(2) ロームマウンド	13
(3) ピット群	14
(4) 焼土面	14
(5) 土器集中区	15
2. 遺物	
(1) 土器	16
(2) 土製品	66
(3) 石器	78
(4) 石製品	133
3. 古墳時代の遺構と遺物	
1. 遺構	135
(1) 坪穴住居址	136
(2) 土壙	145
2. 遺物	
(1) 土器	146
(2) その他	153
4. 平安時代およびそれ以降の遺構と遺物	
1. 遺構	163
(1) 坪穴住居址	164
(2) 土壙	173
(3) 火葬墓・墓址	180
2. 遺物	
(1) 土器	181
(2) 金属製品	185
(3) 石製品	188
(4) 錢貨	190
III 調査のまとめ	
1. 縄文時代の土器について	194
2. 古墳時代の遺構について	206
3. 古墳時代前期の土器について	207
IV 結語	212

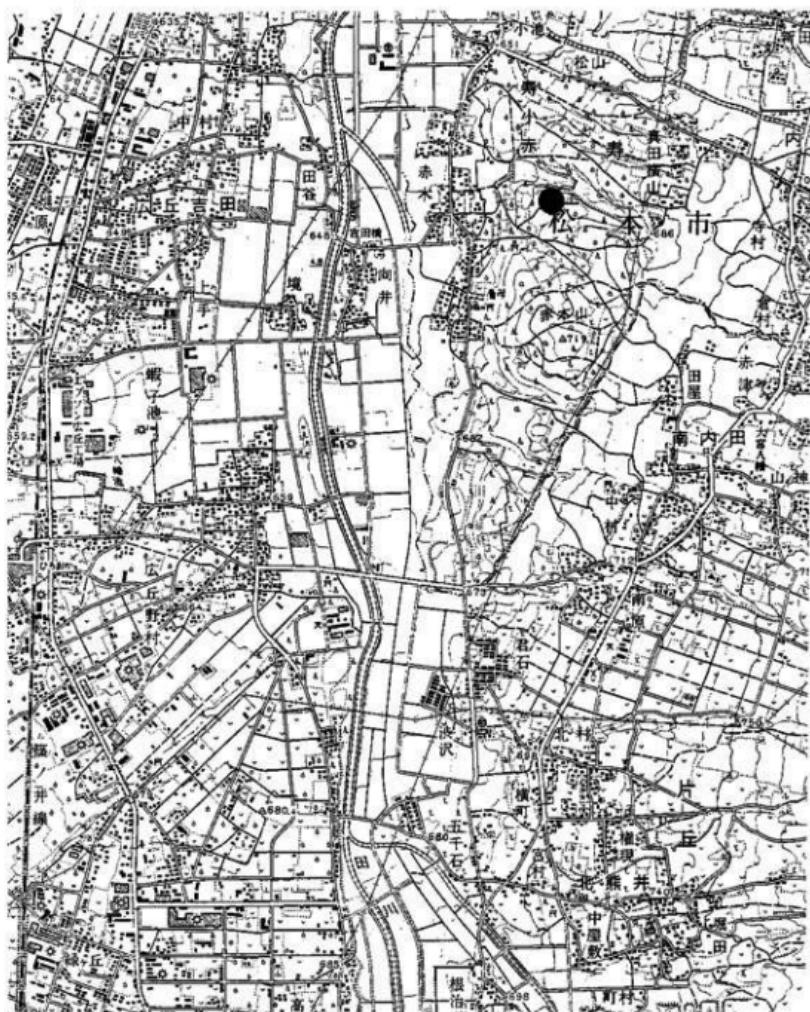
付 図 石行遺跡全体図

挿図 目次

第1図 遺跡の位置	3	第92図 第9号住居址	143
第2図 土層断面図	6	第93図 第14号住居址	144
第3図 周辺地形と調査範囲	8	第94図 古墳時代の土壌	145
第4図 グリット設定及び遺構配置模式図	10	第95図 古墳時代土器 (1)	154
第5図 縄文時代の遺構分布	11	↓	↓
第6図 縄文時代の土壌	12	第100図 古墳時代土器 (9)	162
第7図 ロームマウンド	13	第104図 平安時代及びそれ以降の遺構分布	163
第8図 ピット群	14	第105図 第5号住居址	164
第9図 焼土面	14	第106図 第10号住居址	165
第10図 土器集中区分布及び層位模式図	15	第107図 第11号住居址	166
第11図 晩期土器分類模式図	25	第108図 第12号住居址	167
第12図 第1類土器口径分布	26	第109図 第13号住居址	168
第13図 第1類土器整形方向	26	第110図 第15号住居址	169
第14図 第1類土器底部の整形	26	第111図 第16・17号住居址	170
第15図 縄文晚期土器組成表	27	第112図 第18・19号住居址	171
第16図 縄文時代土器 (1)	33	第113図 第20・21号住居址	172
↓	↓	↓	↓
第48図 縄文時代土器 (3)	65	第114図 平安時代以降の土壌 (1)	174
第49図 土製品 (1)	70	↓	↓
↓	↓	↓	↓
第56図 土製品 (8)	77	第115図 平安時代以降の土壌 (6)	179
第57図 石器 (1)	107	第116図 火葬墓、近世墓の分布	180
↓	↓	↓	↓
第82図 石器 (29)	132	第117図 平安時代土器 (1)	182
第83図 石製品	134	↓	↓
第84図 古墳時代の遺構分布	135	第118図 平安時代土器 (3)	184
第85図 第1号住居址	136	第119図 鉄器 (1)	186
第86図 第2号住居址	137	第120図 鉄器 (2)	187
第87図 第3号住居址	138	第121図 磚石	189
第88図 第4号住居址	139	第122図 古銭 (1)	192
第89図 第6号住居址	140	第123図 古銭 (2)	193
第90図 第7号住居址	141	第124図 針塚遺跡出土土器 (1)	197
第91図 第8号住居址	142	↓	↓

表 目 次

表1 晩期土器観察表	28	表7 土壌一覧表	173
表2 土製品一覧表	68	表8 平安時代土器一覧表	181
表3 石器一覧表	87	表9 金属製品一覧表	185
表4 石製品一覧表	133	表10 磚石一覧表	188
表5 古墳時代土器一覧表	146	表11 銭一覧表	190
表6 磚石縫一覧表	153		



1:25,000

5000 500 1000 1500

第1図 遺跡の位置

I 遺跡付近の自然環境

1. 位置

石行遺跡は赤木山丘陵の中央やや北寄りの西斜面(標高675~680m)に位置している。赤木山丘陵を切る三つの河流(南洞・中洞・北洞川)と顯著な空谷及び塩沢川・小場沢川によって分けられた六つの小地形の南から四番目の中地形上にある。遺跡の北は北洞川によって切られ、南側は空谷に臨んでいる。ただこの空谷は上流への浸食が少ないため、丘陵の東側では赤木山山頂(標高719m)を含む小地形と連なっている。したがって一見同じ平坦面上の起伏と感じる。

2. 周辺の地形

赤木山の地形と地質については、すでに松本市文化財調査報告No23、27、30、34等で述べてきたので、ここでは省略し、石行遺跡と関連をもつ周辺の事項だけ報告する。石行遺跡のある地形面は、赤木山丘陵形成の最終段階における地形である。前に述べたように、この丘陵は六つの小地形に分けられ、その最頂面は赤木山山頂を含む面(700~719m)を除き、いずれも690mである。また最高所を連ねた線はほぼ一直線で、丘陵全体の東側に片寄っている。それだけ西斜面は長く、東斜面は短い。その比は南部・中部でほぼ2:1、北部で3:1である。ここで注目されることは、前述の河流や空谷の谷頭(浸食の先端)が大体この線に並んでいることである。現在河流の谷頭は丘陵の東駆線に近づいているが、かつてはずっと西にあり、そこまで小流が曲流していた。すなわち現在の空谷の谷頭がこれを示していると考えられる。

また各小地形の最頂面には厚いローム層(波田ローム)が残存し、空谷の様子と合せる、浸食堆積を繰返した赤木山の最終地形である残丘状の地形面をうかがえる。したがって最終地形の後に働いた大きな地形形成は、西側からの現河流にみられる新しい浸食と、東側に発達した湿地性の堆積(特に横山付近に発達)である(赤木山の丘陵形成に働いた構造運動は省略)。最終地形の平坦面の起伏を地質的にみると、深さ2~3mまでの地層の状態は共通している。またこの状態は東の南内田や北熊井の県道沿い(標高710~750m)の地形の起伏とも共通している。すなわち前に述べたローム層の地域の外に、二次堆積のローム質土壌や石英閃緑岩の角礫~亜角礫を多く含むローム質土壌からなっている。ただこれらの土壌は、その当時の堆積環境により堆積の状態を幾分異にしている。

3. 石行遺跡の地形と地質

石行遺跡はこのような起伏面上にあり1・2区はその高所に、4・5区は低所(浅い谷)にのっている。この地形も形成後における土層の風化・土砂の移動により次第に状態を変えている。特に

4・5区の低所（浅い谷）は、土砂の移動により形成当初の凹地形を埋積してきている姿がわかる。高所は平坦面と緩い斜面からなり、果樹（リンゴ）や野菜の耕地に利用され、土砂の移動の供給地である。低所は極めて浅い谷で、左右からの土砂の供給により埋積され、やはり果樹や野菜の耕地となっている。谷は走向N-65°-E、南西へ傾斜20°、谷幅およそ30m、谷底までの深さ4区～50cm、5区東半～1m、5区西半～1.5mほどの凹地形である。凹地形の原形は地形面形成時のものと考えられるが、その後の土砂の移動により第2図（A）のような埋積が行なわれたものであろう。その土砂の移動の仕方は、左右の高所から低所の中心線へ向けて運ばれたものである。さらに中心線にそい下方に運ばれたものが、末端の5区に堆積されたものであることが観察される。

第2図は、高所と低所の一般的土層を示したものである。明らかに低所には付加された土層～黒色土層が存在する。今その堆積の順序をみると下部より黄土色土層（二次ローム・含角礫）、その上に黑色土層（層の下部に角礫多数）、褐色土層～黄褐色土層（層の下部に砂・細礫層）、表土となっている。

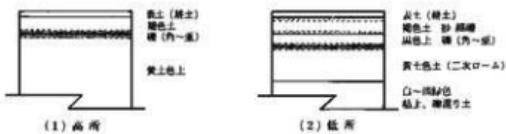
次に堆積の状況を土層ごとみていくことにする（第2図B）

褐色土層：褐色土層は部分的に赤褐色土や黄褐色土がある。表土に続く土層で、黄土色土層の風化あるいは移動したものと考えられる。黄褐色土、褐色土、黒色土、黄土色土を風乾したり、沈澱法によって粒子や色の状態をみると、すべて同じであり、最終的沈澱物質（土）の色は共通して黄土色である。これによって色は異にしているが、黄土色土を起源とする土と考えられる。谷の中央や末端では砂質になっている。

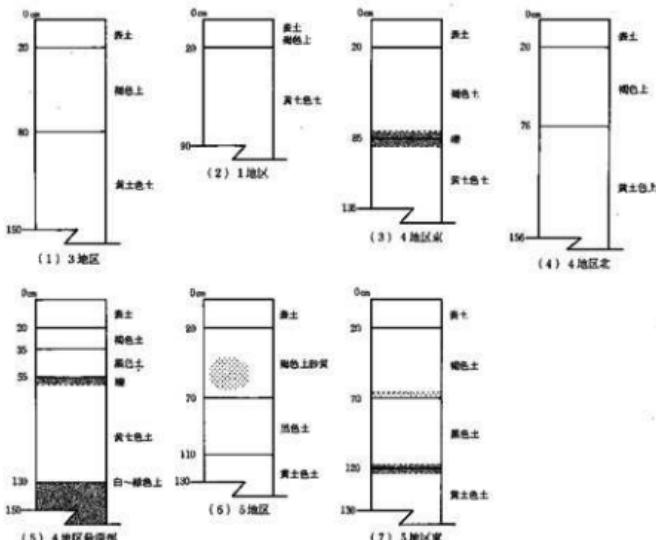
砂層：砂層（砂・細礫）の存在は谷の堆積の特徴であって、上部～表土と褐色土層の間と、下部～褐色土層と黒色土層の間の二層がみられる。この土砂の移動の原因は、風と御行による外、降雨の影響が大きいと考えられる。地表面に降った雨は斜面に雨裂、雨溝を生じ、土層中の砂質分、細礫を洗い出し、次第に低所へ低所へ運んだことが観察される。したがって谷の下方へ行くほど雨溝の幅が広くなり、砂の堆積が厚くなっている。上層も谷の上方より砂質分が多い。5区西半の雨溝は幅3m、厚さ5～10cmわん状の堆積を示し、細砂、微砂からなり、石英閃緑岩の細礫や径3cmほどの小礫を含んでいる。堆積が乱堆積やラミナ状を示すところから、何回かの雨による流れによったものと考えられる。

黒色土層：黒色土層は前述のように斜面では薄かったり、あるいは欠いている。谷の中心線に近くなるほど厚くなり、4区では60～70cm、5区東半50cm、5区西半60cmとなっている。特に谷下方に当る5区では黒土色層の範囲も広く厚い。

黄土色土層：黄土色土層は遺跡の基底となる層である。ローム質土層を主とした土層であるが、砂質で礫の多い部分と少ない部分さらにはほとんどない部分からなる。高所では褐色土層に覆われ、低所では褐色土・砂層・黒色土・礫の堆積の下層となって存在している。二次的なロームと考えられるが、一部に風成ロームの存在があるかもしれない。



A 一般的土層の概念図



B 各地区的土層断面

第2図 土層断面図

土層中の礫：以上の土層に含まれた礫は、角礫が主で細礫に亜角礫がみられる。礫の種類は石英閃綠岩が多数で、ひん岩・緑色火山岩のホルンフェルス・礫岩、砂岩のホルンフェルスなど、いずれも鉢伏山地起源のものである。礫径は $65 \times 30\text{cm}$ の石英閃綠岩、 $30 \times 50\text{cm}$ の礫岩が大きなもので $15 \times 7\text{ cm}$ ぐらいが多数である。礫岩は石英閃綠岩について多く、特に大礫が遺跡に多い。石英閃綠岩は風化して、土層中に粗砂となっているものもある。これらの礫は黄土色土層の上部、黒色土層下部に多数みられ(黒色土層を欠くところでは褐色土層下部に)、黄土色土層と黒色土層とに不整合の関係を思わせる。礫の堆積がどのような働きでなされたかは、あまりはっきりしない。ただ北部の空谷や白神場等でみられる、二次ロームの上部礫混りローム質土壤、あるいは二次ロームを挟ん

だ疊混りローム質土層からみて、赤木山の起伏の原地形をつくった風成ローム層、二次ローム（黄土色土層）の堆積を削はくした流れ、雨堀、雨溝状の働きによる疊の移動とも考えられる。その後黄土色土層の風化、表層土の移動、続いて黒色土層の生成の順を経て、さらに表層土の移動（褐色土）が行われたものと考えられる。この時黒色土層は褐色土に埋積され、雨溝と考えた下部の砂層もこの間の生成とみられる。

最下層と透水層：黄土色土層の下部は4区東で一個所しか得られなかつたが、表土から約130cmの底部に白～淡緑色、疊混り（石英閃綠岩・緑色火山岩）、粘土性の土層を発見した。上記のものとは異なる、水分をもつ疊混り土層であった。このタイプの土層（地層）の発達しているのは、横山集落の東側と南側（北洞川の谷の東口）である。亜角疊とローム質土の混合土が粘土化し、白色～褐色（一部に淡緑色）、明らかに湿地性を示す土層である。南洞川などの壁面の地層でもみられたタイプであつて、赤木山丘陵の透水層に当つているように思われる。石行遺跡では湧水は現在発見されていない。土地の人は湧水はなかつたが、降雨の場合4・5区が湿地になることはあったといふ。

ただ遺跡の南に当り、遺跡の谷（N-65°-E）が交わる、赤木山山頂の北、山頂付近より西へ下る深い空谷（N-70°-W・N-40°-W）には流水の跡がある。現在N-40°-Wの空谷の下流には小流がある。この空谷の入口にある社祠の裏には現在湧水があり、さらに約5～10m上のリンゴ園の草むら中に、湧水と思われる湿地が存在する。この湧水は標高670mで遺跡の4・5区と標高が同じである。一方湿地は標高およそ680mで、遺跡の4区東部と標高が同じである。遺跡と湧水・湿地との距離はいずれも60～70mに過ぎない。現在湧水・湿地付近とも地層の露頭がないため、確かなことは言えないが、前記の不透水層が存在していると考えられる

4. 遺跡と地形

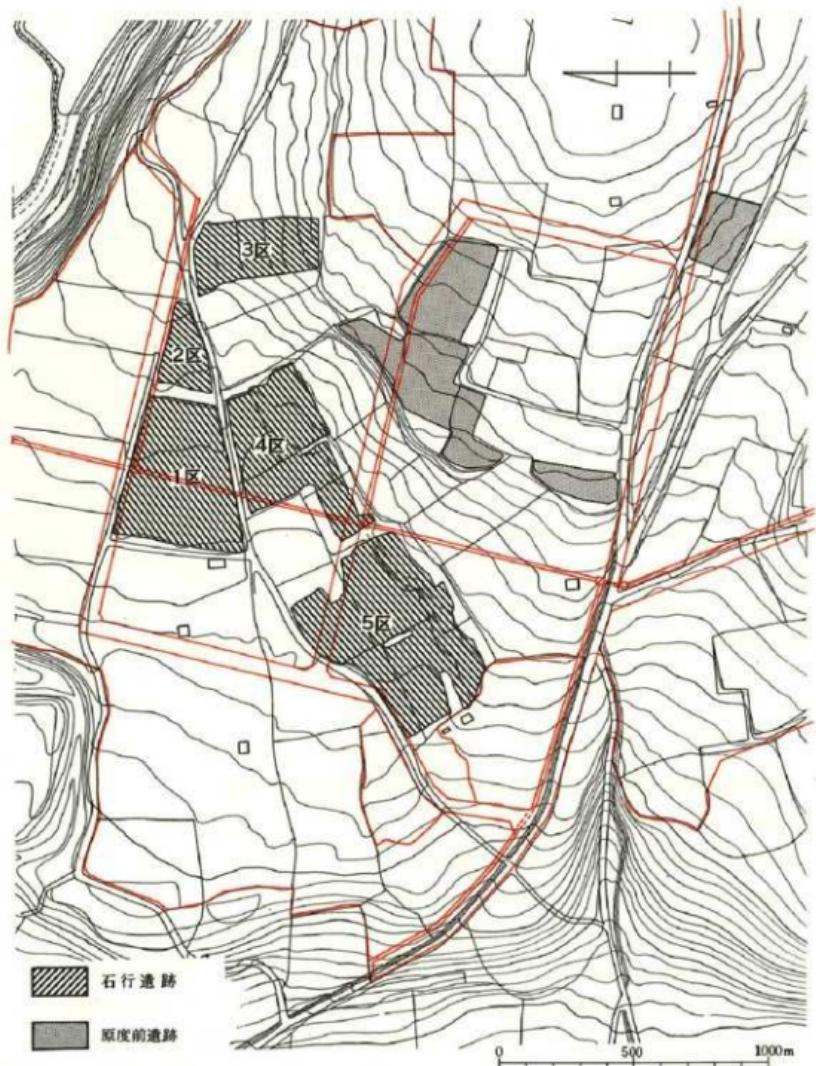
次に遺構の時期と遺構の地形面の土層との関係をみると次のようである。

縄文時代—3区 褐色土層・黄土色土層

古墳時代—1・2区 薄い褐色土層・黄土色土層

平安時代—4・5区 褐色土層・黒色土層・黄土色土層・砂層・疊

これを地形面の起伏からみると縄文・古墳時代の遺構は起伏の高所に、平安時代の遺構は低所（谷）にあることになる。一方縄文・古墳時代の遺構は褐色土層・黄土色土層に、平安時代の遺構は黒色土層に切りこんでいる。中世の遺構は黒色土層上に留まっているといふ。この状況から考えられることは、大まかにみて黒色土層は、縄文時代以降古墳時代頃までに形成され、平安時代にはすでに安定していたことになる。したがって縄文時代や古墳時代には南の谷にある湧水や流水の水を利用するほか、この谷の水も利用した可能性もあり、黒色土層の生成もこのあたりにあるかもしれない。黒色土層はその後褐色土により埋没土となつたことになる。



第3図 周辺地形と調査範囲

II 調査

1 調査の概要

調査地は松本市大字寿小赤2270番地の一帯に位置し、調査前の地目は畠地と果樹園であった。地形的にはこの周辺は先述の様に浅谷状の部分と小高い丘陵が連なっており、石行遺跡はこの浅谷状部分を中心に、また原度前遺跡はその南方の高地を対象として調査を実施した(第3図)。面積は石行遺跡8000m²、原度前遺跡3000m²である。

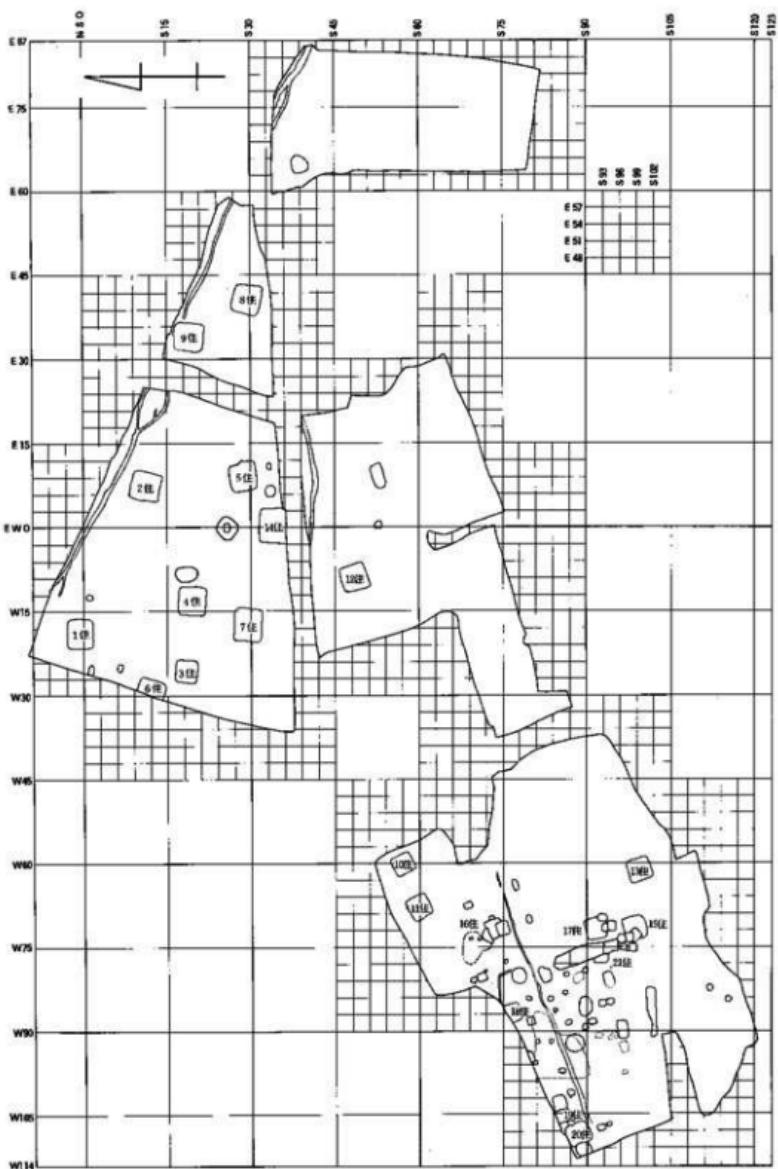
石行遺跡の調査は重機による表土剥ぎの後、人力により遺構の検出を行ない、確認できた遺構から順次掘り下げを進めた。

ただ4・5区については、浅谷状地形の底部にあたるため、表土下に厚い黒色土が形成されており、しかも、この層中に平安時代以降の遺構が埋り込まれていた。このため測量用の3×3mのグリッドを用いて、遺構の有無を確認しながら人力で慎重に掘り下げた。調査中の労力の大半はこの作業に費やされた。測量は1区北端に設けた基準点から3m間隔のラインを南北と東西に順次振り出して調査地全体をおおった3m方眼により簡易な遺構検出を行った。

原度前遺跡の調査は、遺構検出の結果、遺構の存在が認められなかつたため、今回の調査地は遺跡の範囲から若干はずれるものと判断しその段階で打ち切った。本文において特に断りのない場合はすべて石行遺跡での成果を指している。

石行遺跡における調査成果の概要是次の通りである。発見された遺構は、縄文時代のものでは土壙5基、ロームマウンド2基、ピット群1ヶ所、焼土面1ヶ所、晩期土器集中区7ヶ所、古墳時代のものでは堅穴住居址9軒、土壙4、平安時代およびそれ以降のものでは堅穴住居址12軒、土壙46基、火葬墓4基、墓址17基である。この他層位的にみて溝7本も平安時代以降のものであろう。

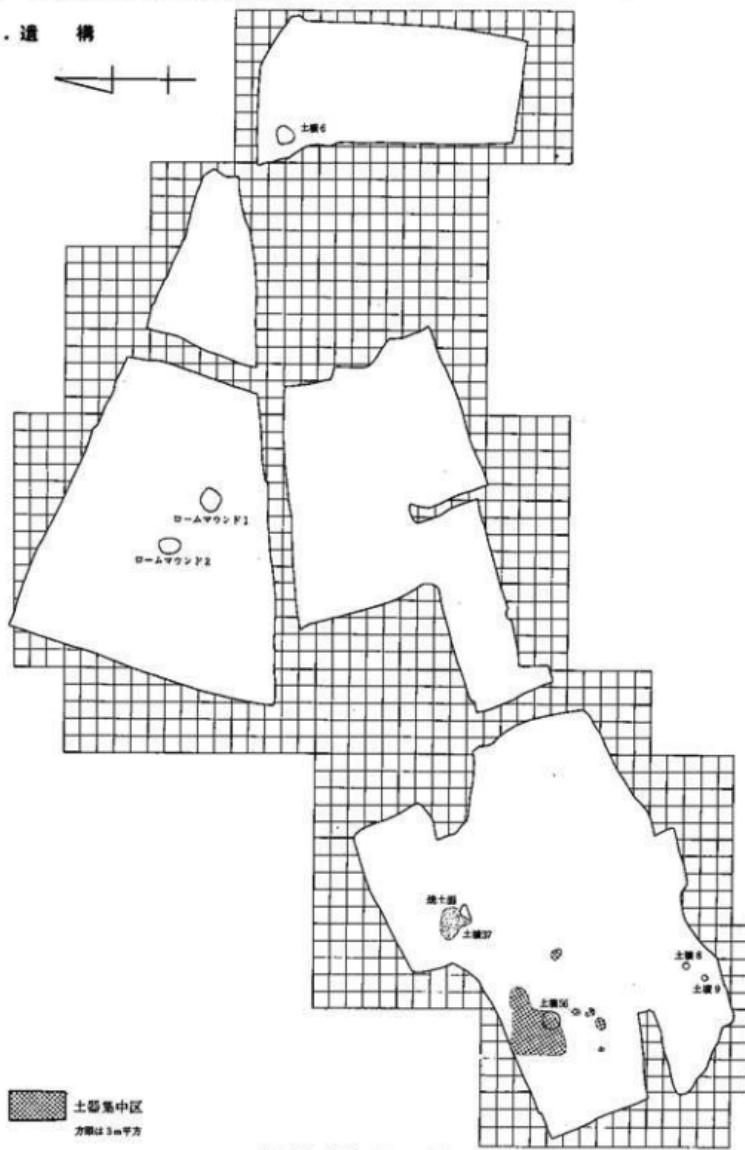
これらの遺構に伴い、あるいは検出面、遺物包含層から出土した遺物は、多量の縄文晩期土器・石器・土製品・石製品・古墳時代土器・平安時代土器・鉄器・および錢貨である。以上のうちで特に注目すべきは第1に、縄文時代晩期の土器が大量に発見されていた土器集中区の発見があげられる。土器は晩期末葉のもので、整理用コンテナ100箱に及ぶその膨大な量は該期土器の多様性をあますところなく示していた。またこれらの土器に混じって、石鎧250本、打製石斧500本余が出土したもの驚異である。次に注目すべきものとしては古墳時代の堅穴住居址とそこから出土した土器があげられる。これらは古墳時代前期のもので、今まで松本平においてこの時期の資料がとりわけ僅少だったため、今回の発見は当地方における古墳時代前期の遺構や遺物の様相を探るのに格好の材料を提供したといえよう。



第4図 石行遺跡グリット設定及び遺構配置模式図

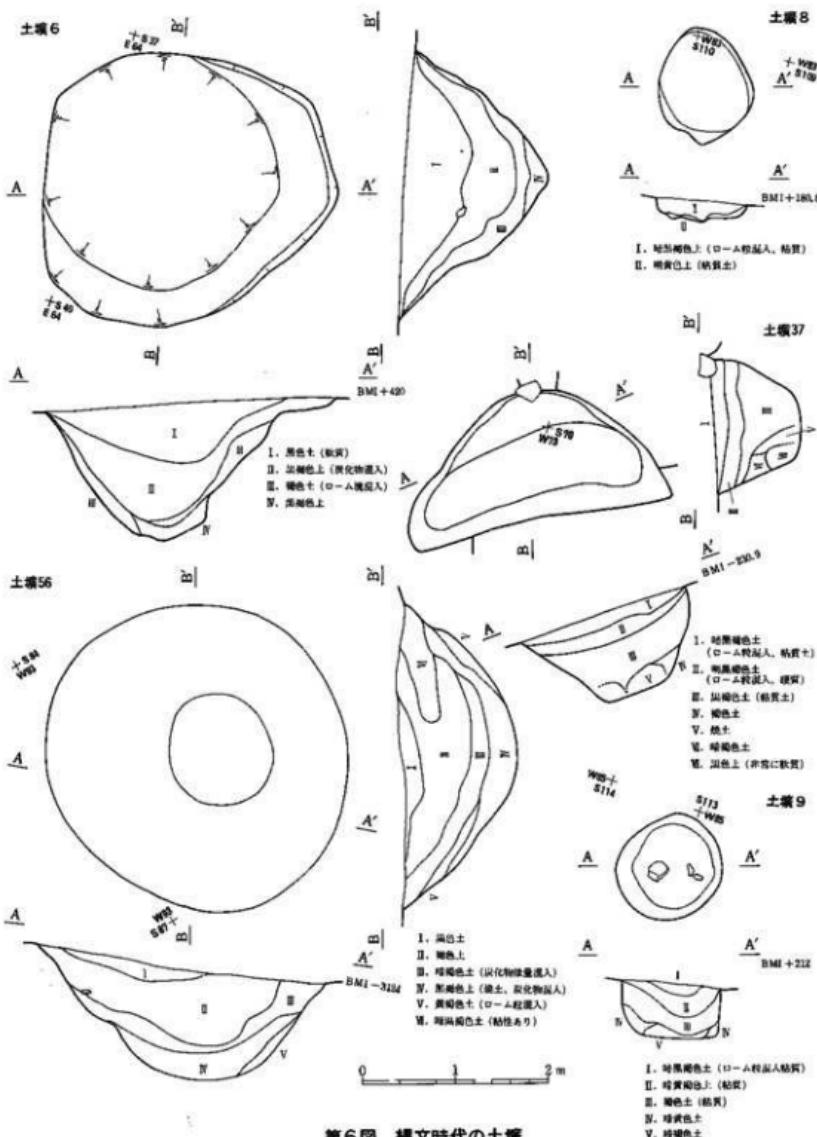
2 繩文時代の遺構と遺物

1. 遺構



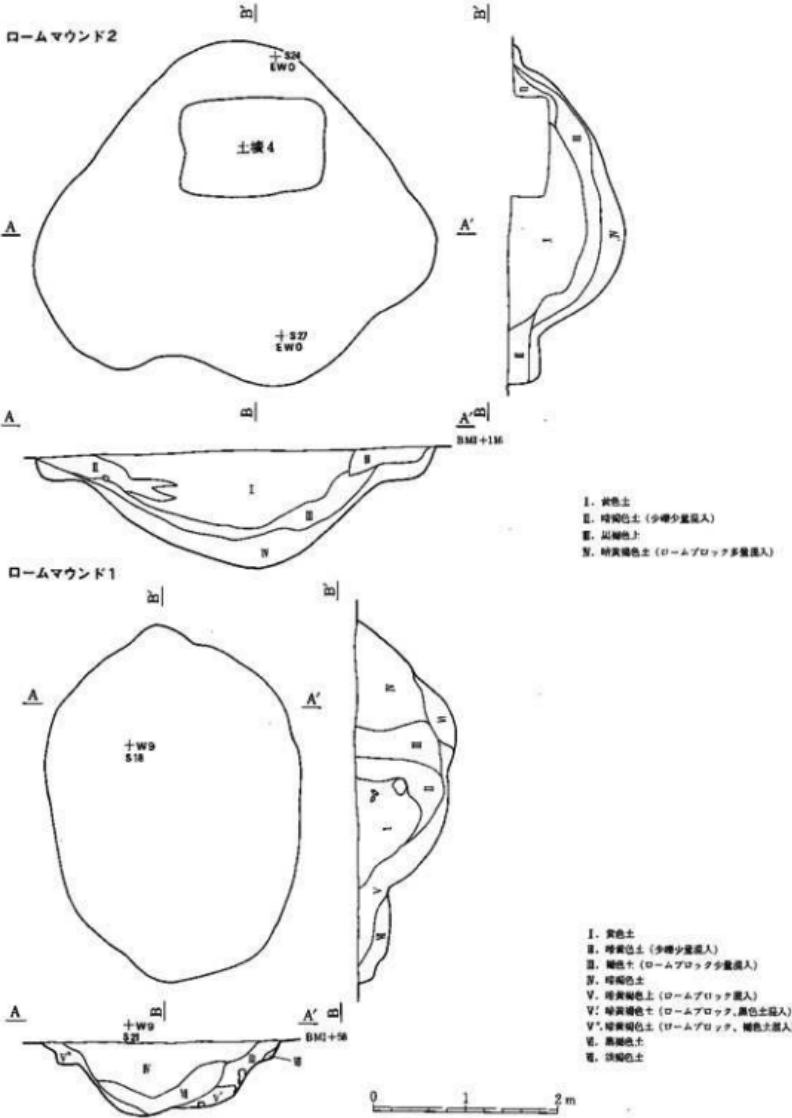
第5図 繩文時代の遺構分布

(1) 土 擃 (表7:P173参照)



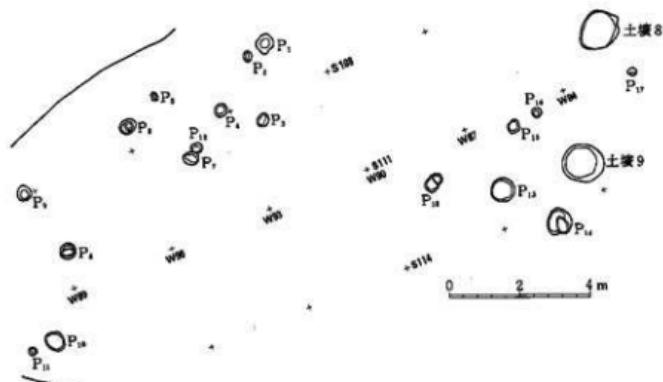
第6図 繪文時代の土壌

(2) ロームマウンド



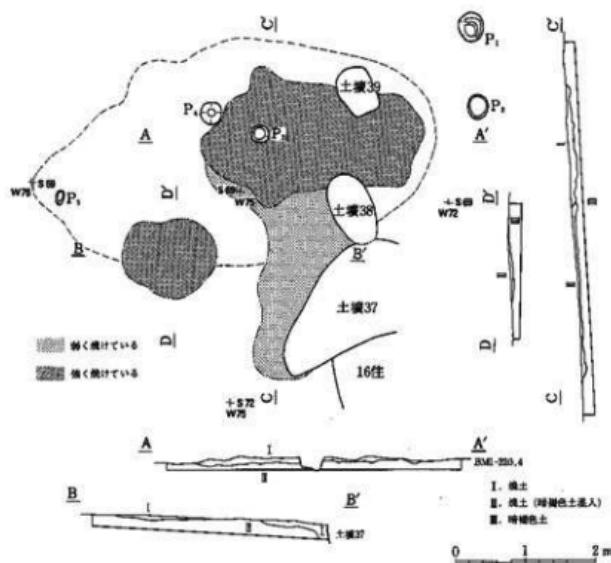
第7図 ロームマウンド

(3) ピット群



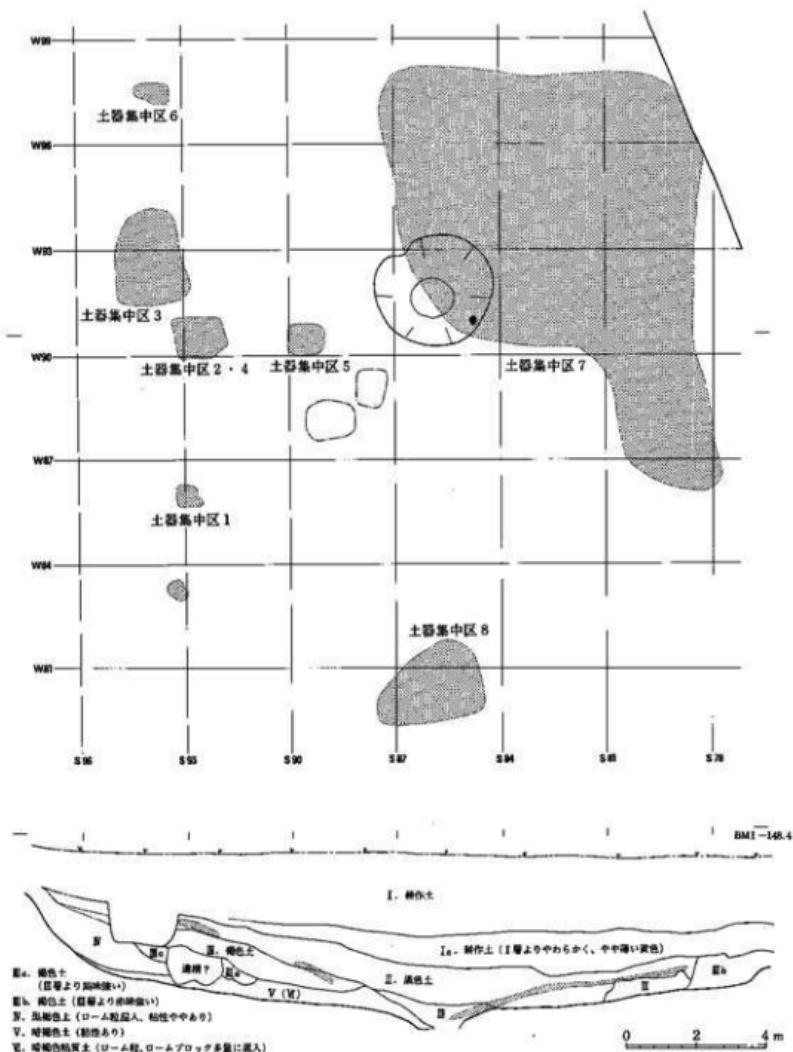
第8図 ピット群

(4) 焼土面



第9図 焼土面

(5) 土器集中区



第10図 土器集中区分布及び層位模式図

2. 遺物

(1) 土器

今回出土の縄文土器はおよそコンテナ100箱近くあり、その殆どが晩期末葉である。短期間の整理ではその全てを扱う事は不可能で、実際に整理出来たのは土壌・焼土面等の遺構と、土器集中区下面出土の土器のみ1000点あまりである。

①縄文時代晩期土器

ここでは基本的な分類・観察点を記し、詳細は分類観察表に譲る。尚分類に当たっては御社宮司遺跡・梨久保遺跡等を参考とした¹⁾。

i) 第1類土器

本類は浮線網状文を指標とする土器群で、晩期土器の9割以上を占める。

器種 浅鉢・壺・深鉢・壺・舟形土器・耳付筒形土器・注口土器²⁾がある。(第11図) 壺・深鉢は本類の主体であり、舟形土器・耳付筒形土器・注口土器はごく僅かで、特殊な器種といえる。

類型 各器種は文様帶の有り方に共通性があり、同じ基準で類型が設定できる。(A~D)しかし器種によっては固有の類型も存在する。

浅鉢 A~Dがある。Aは浮線網状文等の文様帶を有する。Bは陸線帶・沈線帶を有するもので、B1彫刻による陸線帶・B2陰刻による沈線帶(彫刻的)・B3非彫刻的な沈線帶に細分できる。Cは無文のものを一括する。Dは非彫刻的な沈線により文様帶をおくもので、1点のみ見られた。

A~Dには口外帶を有するものと有さないものがあり、前者をA~D、後者をA'~D'とする。

壺 浅鉢と同様にA~Cの類型があるが、Dは見られない。口外帶をもつものをA~C、ないものをA'~C'とする。

深鉢 壺と同様、A~C・A'~C'が存在する。

壺 A~Eがある。A~Cは他器種と同様である。Eは無文の壺のうち、口縁端部を外方に屈曲させるか、突帯を附加するもので、大型品が多い。突帯は1条の場合と2条の場合があり、それ故E1、E2とする。壺Dは僅かに存在する。

その他 舟形土器・耳付筒形土器はいずれも無文で、上記の分類には当てはまらない。注口土器は体部不明である。

浅鉢・壺・深鉢・壺についての口縁部の有り方にいくつかの形があり、a~fで表示する。いずれも口外帶をもたないものである。(第11図)aは単純な口縁で、貼付をするものも含む。bは端部上方にのびる突起をもつもの。cは端面或いは端部側面に圧痕を連続させるものである。圧痕はなんらかの工具を使ったものが多い³⁾。dは端部を外側に肥厚させ、玉縁状にするもの、eは口縁を外側に折り返して肥厚させるものである。d・eは深鉢にのみ認められる技法である。

口外帶の有無については、第11図に示した特徴を備えるものを有とした。口端側面を肥厚させる

か口端面を外側に向け、面取りをするものである。いずれも刻目や貼付を施すが、沈線と組合せるものも多く存在する。

器形 各器種ともいくつかの器形を含んでいるが、器形の把握できるものが少なく、口頸部の形態により区分せざるを得なかった。(第11図)

浅鉢 1～6の器形がある。1は浅く皿状に開くもの。2は外傾する口縁部を有し、3は口縁部が直立するか、内傾している。4は口縁部が外傾するか直立し、肩が張る。5は強く外反する口縁部に、肩の張る体部が取り付く。口縁部内面には弱い稜が走る。6は平面形が橢円形を呈するものである。

甕 肩が段をなして張り、上下で整形を変えるものを一括する。口頸部破片の中には深鉢と区別できないものもあり、多少の誤差を含む。

1は口頸部が外傾又は外反し、口径が体部径を上回るもの。体部には張りをもつものと、肩部以下直線的に収束するもの等がある。2は口頸部が直立又は内傾して立ち上り、体部径が口径と等しいか上回るもの。3は口縁部が直線的に外傾して開き、肩は張らずゆるく開き、体部中央かやや上方で最大径となるもの。全体に細長い器形となる。

深鉢 肩が張らないものを一括する。1口縁部が外傾又は外反するもの。2直立する口縁部をもつもの。3やや内湾する口縁部を有する。4は口縁部が強く外反し、頸部でくびれるものとする。1・2が主体で、3・4は少ない。

壺 1～4があるが、体部は不明である。1は甕を細身にした形態で、肩に段をもつ。2は肩の張る体部から屈曲して口頸が取り付くもので、2a口頸が外傾・外反するもの。2b直立するもの。2c内傾する口頸をもつものに細分される。底部は口径に比してかなり小さく、体部上位に最大径をとる。3は短く直立又はくびれる口縁部に外開する体部が取りつく、無頸壺形。4は体部よりくびれながらカーブを描いて収束し、外反して開く口縁部をのせるものである。

舟形土器 小破片が出土したのみだが、類例に従えば⁽⁴⁾カヌー形をしたプロポーションをとる。

耳付筒形土器 ゆるく外傾して開く円筒状の体部を呈する小形品である。口縁及び体部下位に縱方向に穿孔を施した耳が取り付く。

注口土器 形態不明である。注口は斜めに取り付くようである。

口径 実測資料のうち、浅鉢・甕・深鉢・壺について口径の分布をグラフ化した。(第12図) 容量は未計測のため、御社宮司遺跡報告と対比して見てゆく。

浅鉢 10～40cmに分布する。15～20cmが主体で、30cm以上は少ない。小形10～20cm・中形20～30cm・大形30cm以上とすると、小形1～2ℓ・中形2～5ℓ・大形は5ℓ以上と推察される。

甕 15～25cmを小形・25～30cmを中形・35～45cmを大形・50cm以上を特大とする。小形は2～10ℓ・中形は10～30ℓ・大形30ℓ以上と推定され、超大形は不明だが50ℓ以上はあろう⁽⁵⁾。

深鉢 15～20cmを中心5～50cmに分布する。甕と同じく小形・中形・大形に分ける。容量は

甕と同じか、やや下回ると思われる。

壺 3~45cmに分布する。10cm未満のものを小形とするが、3~5cmのものはミニチュアかもしれない。10~20cmのものは一般的で、中形とする。25cmを超える大形のものは、壺Eに限られる。

口縁部・底部の形態と手法 口縁部の形態は、浅鉢・甕・深鉢とも御社宮司遺跡でみられた各形態が存在する。浅鉢はa1がA・Cに多く、a2はCに見られる。bはA~Cの器形5に固有の形態であり、dは浅鉢Aに1点認められたのみである。

甕・深鉢もa1~eまでみられる。このうちb1は口外帶を有するものに固有である。

底部の形態は詳細に観察をしていないが、浅鉢にはa1~a3が認められる。浅鉢A・C5にはa3が多いようである。甕・深鉢はa・bが多い。壺は底部不明のものが多いが、甕と同様の形態（とりわけb）のものと、小形品に限って丸底や浅鉢のa2が認められる。

整形の技法 各器種とも、基本的にケズリ・ナデ・ミガキ・細密条痕により整形を行っている。

浅鉢 内外面ともに横方向のケズリを行い、後にミガキを加える。ミガキは横方向又はラセン状に施す。浅鉢Aには徹底して行われるが、Cにはミガキ不十分でケズリ痕を残すものも多い。底部はケズリにより造りだし、さらにミガキをかけている。

甕 外面の整形は基本的に、①ケズリ②ナデ・細密条痕等③ミガキ・ナデ・底部及び底部付近のケズリの順に行う。

ケズリは大部分の個体に認められ、その方向には規則性がある。体部下位は継位（下→上）、中央では斜位（右下→左上）、体部上位・口頸部は横位（右→左）に行う。

ナデの方向は継位から斜位が多く、ケズリの方向とはほぼ一致させる。

細密条痕は肩部以下に行われ、その方向には規則性がある。（後述）また、器体を数段に分割して整形するのを常とする。原体ははっきり捉えられるものは少ないが、幅5~25mm（10~15mmが主体）、1cm当たりの条数は3~4本を中心として1.8~8本までみられる。中には条間隔がばらつくものや、明瞭な条を示さず、土師器の板ナデに似たものもある。（11、147等）逆に櫛齒状に条を深く刻むものも認められる。（深鉢C'cに顯著）

細密条痕の他に、櫛或いはヘラ状の工具により施す、「整わない条痕」も少數存在し、（81、153、293）又櫛状具によると思われるものも見られた。（35、151等）この他少數だが繩文や撲糸文を細密条痕の代わりに施すものも見られる。

ミガキは仕上げの整形として行われる。比較的多くの個体に見られるが、精粗に差がある。一般に口頸部では丁寧で、下半部では雑になる。細密条痕やナデとともに、その方向には規則性がある。底部付近は最後にケズリを行い、形を整えている。

内面の整形も外面と同様、①ケズリ②ナデ・ミガキの順に行われるが、外面より徹底されず雑なものが多い。ケズリやナデは体部では斜位（右下→左上）、口頸部では横方向（右→左）に施す。

深鉢 基本的には甕の肩部以下の整形と同じである。細密条痕は甕と比べ、条間の大きなものが多い。仕上げのミガキを外面に施すものは、小形のものを除き少ない。

壺 全体像の把握が困難なため不明な点が多い。どの器形においても、口頭部は基本的に①横方向のケズリ②横方向のナデ・ミガキを行う。ミガキ・ナデは甕・深鉢より丁寧である。体部の整形も甕・深鉢同様細密条痕を施すものや、ナデ・ミガキを加えるものが多い。(小形品)

その他の器種 舟形土器はケズリ・ナデにより整形する。耳付筒形土器は難なナデで仕上げる。注口土器は体部は不明で、注口部はミガキ・細密条痕を用いる。

甕・深鉢の整形方向には規則性があることを述べた。御社宮司遺跡では3類型が示されているが、本遺跡ではそのうちA型とB型が認められた。集計結果を第13図に示す。数量的な問題は厳密には問えないが、おおむね傾向は把握できよう。

整形の方向A型(縦位→斜位→横位)には細密条痕を施すものよりも、ナデ・ミガキで仕上げるものの方が多く、逆にB型(縦位)には細密条痕を施すものが多い。これは甕・深鉢とも同じ傾向にある。全体的にはA型・B型ともほぼ同数存在する。御社宮司遺跡でもこの傾向は同じである。

壺の整形方向については不明なものが多いため、ケズリ・ナデ・ミガキとともに縦位に加えるものが多いようである。しかし例外的に、底部からラセン状に施すものもあり、(247)第3類土器と関連するかもしれない。

ここで底部の整形について再度触れておく。甕・深鉢・壺の底面には網代・木葉等の圧痕を残すものが多く見られ、また圧痕をケズリ・ナデ・ミガキで消すものも多数ある。第14図に全底部の観察結果を示した。数量を見ると、圧痕の有無にかかわらず、最終的にナデ・ミガキを加えるものが過半数を占める。基本的には体部の整形と同じく、ケズリの後ナデ・ミガキを行うものと言えよう。圧痕は網代が大半であり、その編み方は多様である。今回は詳細に観察できなかった。

施文技法(第11図) 類型Aは器面を彫刻し表出させる「細隆線」⁽⁶⁾により網状文を描く。技法的には工具による彫刻の後、彫刻面やその周囲にミガキを加えることにより細い隆線を造り出す。本遺跡出土例では彫刻面のミガキが徹底されないためか、細隆線の上端面は幅広である。また彫刻面のミガキが省かれる例もある。(36)類型B1・B2も基本的には同様の手法により施文される⁽⁷⁾。B1の場合は、隆線帯両側の器面も削り取り浮き出させるが、B2では省略される。またB2は沈線幅(B1でいう隆線の間隔に相当)が大きく、浅い。沈線内はナデを行い、陰刻の痕跡を消していく。沈線間にミガキを施すものが多く、沈線内両側縁にも及んでいる。B2はB1の省略形と言えそうで、本遺跡では顕著に見られる。B3はヘラ状の工具による沈線帯で、一般的に幅が狭く深い。沈線内はミガキ・ナデを施すことはなく、沈線間も未処理のものが多いわゆる「幅狭沈線」⁽⁸⁾か、それに近似するものと考えられる。

文様モチーフ 浅鉢 浅鉢Aの浮線文は、量の少なさに加え、小片のためモチーフの不明なものが多い。判明するものを御社宮司報告に従い分類した結果、網状文Aのモチーフb~dが確認できた。

モチーフ b では b 1・b 4 又はその変形、モチーフ c は c 1・c 2、そしてモチーフ d では区画線を有する d 1・d 2 がある。量的に比較できないが、モチーフ d が多いようだ。

浅鉢 D は 1 点しかなく、モチーフの具体像はつかめない。浮線文のモチーフとは異なるようだ。

甕・深鉢 A は 2 点あり、網状文 A のモチーフ a に近似した構図をとるものが見られる。(348) 73 は肩部に沈線帯をおくもので、隆線間を連繋している。同様の手法は B 1 にもみられ、刻目を入れたこぶ状の貼付をする。

甕体部の文様は分類に当たって考慮しなかったが、いわゆる雷文を施文するものがある。工具は幅の狭い板状のもの・櫛状具・ヘラ状具があり、施文法も直線をジグザグに繋ぐものと、S 字状に蛇行させるものがある。その他、壺 D と関連するが、ヘラ状の工具による細い沈線を集合させ、三角形の構図を連ねたり雷文を描くものが少量ある。

壺 浮線文はモチーフ b 7 が 1 点ある。B 1・2 の文様は要と変わりないが、口頸部全体に多条の沈線帯をおくものが少數見られる。D は頸部～肩部に文様帶をもち、三角形の構図を描く。

その他 特殊な文様として刺突による施文がある。刺突文は土偶に多く見られる施文法であるが、稀に土器にも使用されるようだ。基本的には刺突を一定の幅に集合させた帶を用い、絵画様の構図を描く。全体像の把握できるものはない。甕・深鉢もしくは壺に認められる⁽⁹⁾。

本類の土器には少數ながら、赤色塗彩するものが認められる。特に浅鉢の内面に多いが、甕や壺にも見られる塗料の材質については不明であるが、全て焼成後に塗っている。

その他、浅鉢・壺・甕・深鉢には穿孔が認められる。浅鉢・壺の場合は口縁下にあり、焼成前に刺突穿孔しているものが多い⁽¹⁰⁾。当初から意図された穿孔といえる。甕・深鉢は口縁部付近のものに加え、体部に穿孔するものも認められる。多くは焼成前乾燥段階に回転穿孔しており、孔より 1 ~ 2 cm のところに破断面が縦方向に走る。200 は破断面に沿い、口縁下 3.3cm・11.4cm に 2 孔を外側より穿つ。口縁寄りのものは焼成後回転穿孔を行い、他方は焼成前乾燥段階に回転穿孔をする。さらに特記すべきこととして、焼成前に破断面とその内外側縁に粘土を塗っている。特に内面側には、指で塗付けミガキを加えた痕跡が生々しく残る。おそらく土器整形後の乾燥段階に口縁部に亀裂が入り、粘土を塗って接合、下方の孔を穿って補修孔とした。さらに焼成後にもう 1 孔設けたものと推察される。縄文時代の各期を通して見られる穿孔、いわゆる補修孔の意味を示す稀有な例と言えよう⁽¹¹⁾。

ii) 第 2 類土器

体部に沈線による大柄の渦文を数段に配し、無頸壺形を呈する類を一括する。

器種 無頸あるいは短頸の壺形のみ認められる⁽¹²⁾。

類型 分類は第 1 類浅鉢に準ずる。文様帶を有する A のみ認められ、口外帶と同様、口端部に三角形の貼付文を有するものを A、ないものを A' とした。

器形 器形の判明する個体は少ないが、口縁部の形態により、1 口縁部が内傾する無頸壺形、2 口

縁部が短くくびれて直立する短頸壺形に分けられそうだ。体部は両者とも肩が丸く張り、径の小さな底部が取り付く。(第11図)

口端部は1・2とも、端面を水平に広く造り出し、沈線を配する。従って御社宮司報告の端部形態c 1・c 2とは異なる。底部はb 1形が認められる。

整形技法 外面の整形は、ナデ・ハケ状工具による整形・ミガキによる。第1類に一般的なケズリは行わず、指で押された後ナデやハケ状工具により整える。従って器面の凹凸は完全には消されず、器厚も一定しない。ハケ状工具は条が細かく、細密角度よりもハケ目に近い痕跡を残す。ミガキは肩部以上の文様帯に施されるが、ほとんど加えないものもある。下半部は仕上げのナデ・ミガキ等徹底されないものが多い。底部は削り取りを行い、若干上げ底にするものがある。

内面の整形も外面と同様だが、一層凹凸や輪積痕が顕著である。259は内面下半部を中心に爪形(半円形)の圧痕が多数残される。おそらく外面調整の際に当てた爪によると思われるが、或いは工具かもしれない。

整形方向のわかるものは1点のみである。(259) 外面は肩部以下が縦位、口頸部は横位に加える胎土 本類の胎土は白色の砂粒がやや目立ち、色調も灰色系統を示す、第1類とは異なる傾向を示す。整形技法・器形・施文も第1類には見られないものである。

文様 文様帯は大まかに口頸部文様帯と体部文様帯に分けられる。

口頸部文様帯には2者が認められた。類型Aは口端部外面に粘土帯を貼付し、三角形の連續文を彫刻、さらに無文帶をおいて肩部にレンズ状の付帯文をおく。A'は肩部にやはりレンズ状付帯文をおくが、口縁部外面は沈線帯を設けている。両者とも1例ずつしか確認していないが、Aはミガキが徹底され、付帯文も彫刻的であるのに対し、A'は徹底されず、沈線・付帯文とも非彫刻的かつ立体感を失っている。

体部文様帯は、各個体ともよく似た構図をとる。3~4条の沈線帯により2段前後に区画された内部には、非彫刻的な沈線による大柄の渦文・円文が配される。渦文は2単位を連結して1対とするようだ。沈線帯・渦文に囲まれた三角形の空白部は、器面を彫刻しくぼめるが、雑で徹底しない。

iii) 第3類土器

貝殻条痕及び「東海系胎土」⁽¹³⁾に表徵される土器群である。

器種 壺・甕・鉢がある。さらに細分でき、類型とした。

類型 分類は第1・2類と觀点を変え、器形により類型を設定した⁽¹⁴⁾。甕A~C・壺A~C・鉢がある。さらに細分できる要素をもつが、個体数が少ないので考慮しない。(第11図)

甕 Aは直立又は外傾する口縁部を有する。Bは内湾、Cは外反する。

壺 Aは口縁部が直立するか、ゆるく外反するものを一括した。最も多く見られる類である。Bは頸部がしまり、強く外反する口縁部となるもの。Cは無頸壺で、口縁部は内側に折り返す。

鉢 1点のみで、口縁部の形態から鉢としたが、異なる可能性もある。口縁部が内湾して開く。

体部の器形は不明なものが多いが、壺の場合肩が張るものが多いようだ

胎土 いわゆる「東海系胎土」の特徴を示し、石英・長石等の粗粒を多く混入する。素地の質には軟質で脆いものと、密でしまるものがあるが厳密に区別はできない。380は明らかに第1類の胎土だが、器形・整形等は本類の特徴をもつ。

色調は明黄褐色～茶褐色を呈するものが一般的である。

整形の技法 基本的には①器体内外のナデ②外面の条痕の順に整形する。

ナデは押さえの後行われ、工具の圧痕を残すものもある。ケズリは行われず、従って器表の砂粒は沈められず、器厚も一定しない。口端部は強くナデをし、上向きの端面を造る。端面はややくぼむものもある。(甕A・B・壺A) また、端部は丸くおさめるものも存在する。(壺A・B) 内面のナデは横位ないし斜位に加える。

外面調整は、大半が貝殻による条痕を施すが、櫛状工具や半剖竹管状の工具によるものや、一部又は全体をナデて仕上げるものも僅かにある。原体には条の密なものと、幅広のものがあり、甕Bに前者が多いようだ。同一原体でも引き方により条の太さが変わるようであり、壺の下半部では粗く、上半部では細目に引く。

外面整形の方向は、壺の場合下半部では左上がり斜位(ラセン状)に下→上へ施し、体部最大径以上では水平かやや左上がりに整形する。壺には口頭部だけ条痕を省くもののが存在する。(65)貝殻条痕は原則として外面の整形手法であるが、少數の個体には内面にも施すものがある。(379)

底部の形態は甕・甌とともに小径でやや突出し、不安定である。底面中央部は若干くぼませる。

文様 口縁部の突帯と条痕文のバラエティーについて触れておく。

壺口縁下の突帯は殆どが1条で、いずれも端部直下に設ける。断面形は三角形を呈し、刻目を入れる。刻目にはヘラ状工具を縦に押し付けるもの(62・272)・条痕と同一の原体を用いるもの(260・422)・指によると思われるもの(373)があるが、中には二枚貝の背面を押し付けるものがある。(377・465・471) この種に限って口端部は丸く、突帯も低く丸い。壺Bでは突帯は下向きに付く。

2条以上の突帯を付するものは3点しか認められない。379は3条有するもので、指?による押さえを行う。164は断面形がF字状に突帯を取り付け、推定4単位耳状に大きく突出する突起を付す。

壺・甌のとりわけ上半部に、縦方向の羽状構図をもつ貝殻ないし櫛状工具による条痕や、波状文を施すものが少數ある。波状文は壺肩部に見られ、羽状条痕とともに文様帶を形成している。(467) 口縁部の形態は不明であるが、おそらく類型Cとなろう。甌Cにも羽状条痕が認められ、口縁直下より施される。波状文・羽状条痕ともに右→左に施文される。第1類胎土の380も同様である。

iv) 各類土器の組成(第15図)

各類の土器について、最も出土量の多かった土器集中区7を例にとり、土器組成の算出を行った。方法は口縁部の破片数によったが、細片が多いため誤差を含む。

結果は全体では、第2・3類は3%にも満たず、極めて少ない。第1類においては甌・深鉢が75%

を占め、壺・深鉢は僅かである。

器種別に見ると、各類とも A (浮線文) は無に等しく、B (とりわけ B 1) も僅かである点が指摘できよう。主体となる C (無文) も、大半が C' で占められ、最も主体的な土器といえる。

v) 各類土器の位置づけ

第 1 類土器はおおむね水 I 式の特徴を備えているが、浮線文が僅かで、口外帯も少ない点水遺跡や御社宮司遺跡と異なる。逆に壺 3・深鉢 4 のような器形や、C'c 類の存在が目立つ。水 II 式の特徴に似たものも (D 類等) 僅かだが認められる。

第 2 類土器は水 I 式や櫻王式に客観的に存在する。本遺跡出土のものは整形・施文等や省略傾向にある。

第 3 類土器は大半が撒入と思われるが、地域の限定はできない。多くは櫻王式の特徴を備えると思われるが、羽状条痕や波状文を施す水神平式の特徴もある。特に在地で模倣したらしいものが存在する点、注意される。

以上の点を総合すれば、本遺跡の土器群は水 I 式の終末段階のものが中心で、少数次の段階のものを含むものと言えよう。条痕文系土器との並行関係もおおむね上記の通りと言える。

第 1 類土器は從って 2 時期に分離できる可能性をもつが、大半は無文の壺・深鉢であり、その作業は困難と言わざるを得ない。量的にも水 I 式以後のものは少ないと思われる。

② その他の土器

i) 土壙 6

縄文中期～晩期の土器が出土している。このうち図示できたものは 4 点である。

2・4 は後期前葉の土器で、1 は粗製の深鉢である。口縁端部は内側に若干折り曲げ肥厚させる。外面の整形は横位のケズリのち同方向にナデを行う。内面は横位のナデ整形である。胎土は粗く茶褐色を呈する。4 は注口土器の破片で、大きく集約する体部の上端を短く折返し、外傾する面を取る。把手は 1 対になると思われ、板状の粘土を橢円形に貼付する。上端には渦文を施した突起を設ける。注口は把手下端より取り付くが接合部より欠損する。整形は難なミガキを行い、胎土はやや粗い。茶褐色を呈する。

1・5 は晩期後半の土器である。1 は浅鉢 C'a で、器形は 2 に属する。内外面ともケズリの後ミガキを行う。5 は深鉢又は壺 B 2'a で、外面口縁下に 2 条、内面に 1 条の細目の沈線をおく。内外面ケズリの後横位にナデを行う。1 は基本的に土器集中区のものと変わらない。5 は内面に沈線文を有する唯一のもので、水 I 式前半に位置づけられよう。

ii) ロームマウンド 2

晩期土器が 1 点ある。3 は壺口縁部～肩部の大形の破片で、丸く張る肩部に短く外反する口縁部が取り付く。外面は無文で横方向にナデ仕上げする。内面はナデの後口縁下に 2 条の太い沈線文を引き、再び周囲をナデする。本土器の器形・施文は佐野遺跡の資料中に見られ、佐野 II 式に比定でき

よう⁽¹⁸⁾。

iii) 土器集中区

ここでは第1～3類土器の規格から外れたものを一括する。300は台付の皿形土器になろうか、接合部の破片である。脚部外面には三叉文モチーフの磨消繩文が施文される。繩文は無節Lの原体を横位に転がす。三叉文は全容が不明だが、陰刻された沈線により描かれる。胎土は砂粒を含むものの良好で、外面十分なミガキがなされる。脚部内面もケズリの後ミガキを行うが、外面より難である。佐野I式に比定される土器と思われる。

472・473は弥生時代中期前半のもので、深鉢の口縁部・体部破片である。口縁直下には櫛描の波状文・直線文が左→右に施文される。口縁端部内面には2本1対のヘラによる刻目が加えられる。

註1 本稿での分類は基本的に百瀬長秀氏の考え方を踏襲しているが、筆者の浅学拙知により誤謬も多く生じていると思われる。その点についてお詫びするとともに、度々御教示を頂いたことに對し、謝意を申し上げる。また、下記の方々にも有益な教示を頂いた。

石川日出志 石黒立人 長沼良一 市沢英利 大森義一 神村憲 読楽博己 (主音楽 教務略)

2 耳付筒形土器・佐野土器はこれまで認識のされなかつたものである。前者は女鳥羽川遺跡に1点あるが、佐野土器については初見である。

3 百瀬長秀氏が文献の中で藤原正廣¹⁹を手法としたものが多く認められる。前に述べた可能性を指摘されているが、本遺跡出土例には、小さく隠い正廣²⁰もあり、多くは工具を用いているようだ。

4 御社宮司道跡【文獻4】など。

5 御社宮司道跡では超大型はみられない。本遺跡では残存の良好なものもあり、數も多い。口縁計画の誤差を考えても、確実に存在するとしてよいだらう。

6 文獻1

7 百瀬長秀氏は両者を一括して種級としたが(文獻5)、ここでは後者が多く、時期的な問題を勘案して区別した。

8 文獻5

9 外面の整形ミガキ・細密条痕兩者に見られる。

10 実地が柔らかい程度に当す。

11 石川日出志氏の教説によれば、新潟県村尻遺跡でも底部の龜裂に粘土を詰めるものがあるという。

12 形態的には無腹型・短腹型といふが、器種としてよいかわからない。

13 文獻10

14 文獻8の分類を用いた。

15 文獻9によった。

参考文献(本文・考収で参考としたもの)

1 永峯光一 「水道跡の調査とその研究」『石器時代』9 1969

2 藤楽博己 「中部地方における弥生式土器の成立過程」『信濃』34-4 1982

3 石川日出志 「中部地方以西の國文時代後期肝突文土器」『信濃』37-4 1985

4 百瀬長秀也 「御社宮司道跡」『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』茅野市その5 1982

5 百瀬長秀 「國文時代後期末～弥生時代中期土器の分類と検討」『聖久保遺跡』1986

6 百瀬長秀 「浮雕文土器の変遷と分布」『歴史手帖』14-2 1986

7 稲口昇一郎 「長野県木戸市女鳥羽川遺跡緊急発掘調査報告書」 1972

8 愛知考古学研究会 「奈良文化をめぐる諸問題 資料編Ⅰ」 1985

9 永峯光一 「佐野 長野県考古学会研究報告書3」 1967

10 長沼良一 「十二の庄遺跡」『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』南坊市その4 1975

第1類土器				
浅鉢	甌	深鉢	壺	舟形土器
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6

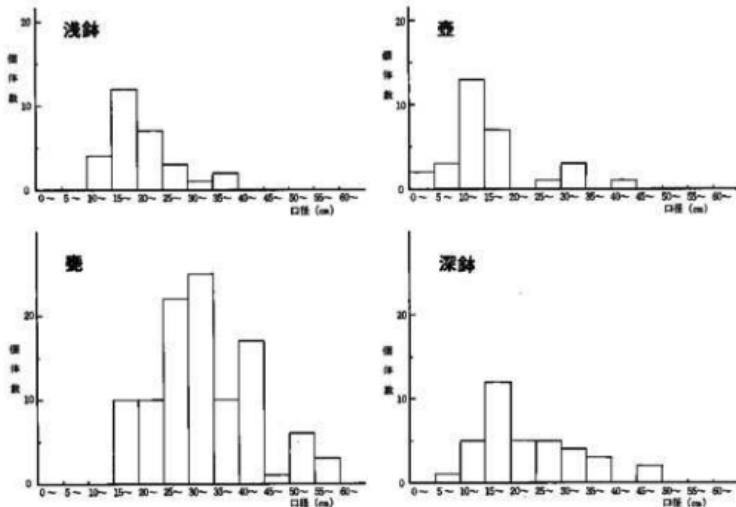
第2類土器				
1	2	3	4	5
		A	A	
		B	B	
		C	C	

第3類土器		

口外帶		
浮縫文 (A)・陸縫帶 (B1)	沈縫帶 (B2)	沈縫帶 (B3)

 ①縫割 ②ミガキ ナデ ミガキ	 ①縫割 ②ナデ ③ミガキ ナデ ミガキ	 ①表面網目 ②沈縫施文 ナデ ミガキ

第11図 晩期土器分類模式図



第12図 第1類土器口径分布

整形方向	A			B		
	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ+細密条痕等	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ+細密条痕等		
疊	25	16	4	24		
深鉢	6	7	6	12		
合計	31	23	10	36		
	54			46		

第13図 第1類土器整形方向

压痕のまま			压痕→ケズリ			压痕→(ケズリ)→ナデ・ミガキ			ケズリ (ケズリ) + ナ デ ミ ガ キ
網代	木薙	その他	網代	木薙	その他	網代	木薙	その他	
56	25	4	5	1		35	10		33 (11.2%)
85 (28.9%)			6 (2.0%)			45 (15.3%)			125 (42.6%)

第14図 第1類土器底部の整形

浅鉢
85

A - A'	B 1	B 2 B 2'	C		C's		
9	3	4	38		49		
10.6	3.5	4.7	38.2		56.5		
B 3							D - D'
2							1
4.7							1.2

廣・深鉢

596

A - A'	B 1 - B 1'	C	C's - b	C's - b	深鉢	C's	不明
1	0.2		208	208		0.7	
			36.1	36.1			
B 2 - B 2'		C					
64		123					
10.7		20.6					
B 1 - B 1'							
10							
1.7							
B 1 - B 1'							
2							
0.3							
10.7							
B 2 - B 2'							
64							
C 9							
1.5							
C 9							
3.2							
35							
6.2							

臺 52

52

			C's	C's	E 1'		D
			32	4	13		1
			42.3	7.7	25.0		1.9
B 2 - B 2'							
5							
9.6							
A - A'	B 1 - B 1'	C					
2 3.8	2 3.8	1 1.9					
E 2'							
2							
3.8							

総合

733

第1類		廣	深鉢	不明	金	第2類	第3類
浅鉢							
65							
11.3							
B 1 - B 1'							
419							
55.7							
C's							
150							
19.9							
4.5							
27							
6.9							
1.0							
B 1 - B 1'							
2 0.3							
1.0							

第15図 綱文晚期土器組成表

表1 晩期土器観察表

第1類土器

種類	形 形	施 形	文 標	使用度等	備
洗鉢 A・A'	○2-5があり、4-5が主体となる。 ○2(341)・3(96・339・467)・ 4(40・342)・5(6・36・93・330・ 344)	○一般に丁寧なミガキ仕上げをする。	○施縫による網状文を付す。 ○モザーフ(40・93・339)、C(96・344) d(6・36・68)、b又はd(303・341) (モザーフは脚社宮道跡報告参照) ○施縫は爪底のものが多い。361施縫 間の肩割面がV字形を呈し、工具痕が残る。 2例に分けるか、先端V字形の工具を用い るか。(仕上のミガキは及んでない)	○93は内面に赤色施 彩をする。 40・68 93・96 339・339 341 342・344 467	6・36 40・68 93・96 339・339 341 342・344 467
洗鉢 B1・B1' B3・B3'	○564はとんどである。 ○2(7)・5(26・92・106・319・ 345)	○A・A' と同様施して丁寧なミガ キを施すが、B3・B3'はやや難 である。 ○106は内外面ナデ仕上げする。	○106は内外面に施縫が一致的と思われ る。319は貼付による施縫と想定される。 B2(7)・B5(26)、 B2(92-106)	○ B1(318・319・ 345・38) B2(7・456) B3(92-106)	7・38 92・105 318・319 345・456
洗鉢 C・C'	○Cは25のみ認められる。 ○C'はC13・50が主体となる。 ○1(71・98・296)、2(239・484) 3(67・94・95・103・106・282) 4(66・280)・5(72・97・99・101・ 102・108・110)・6(85) ○67は洗鉢の小さい底状口縁と なる。	○Cは丁寧にミガキを施える。 ○C'は施縫クリーク(ミガキが基 本だが、ミガキ不足でケメリ化を したものや、ナデ仕上げのものがあ り)。 ○57の底面はケメリ→ミガキ により上部にするものが多いよ うだ。 ○器形1・2の輪幅は内側する面を もつたのが多い。	○Cの内外面は脚面に付ける貼付を行 う。 ○C'は見一見下に施縫の施縫をよくよ うに見えるが、施縫4-5の変化と考えたい。	○282・296は赤色施 彩をする。 ○111は内底面に黒 色タール状の付着物 が認められる。	34・66 67・71 72・94 95 97-99 101-104 106-108 110-111 282-296
洗鉢 D'	○2のみ存在。	○内外面ナデ施縫する。 ○縁部は丸くおさめる。	○口縁は小突起を付す。 ○内縫に凹凸で、さらには下部に3条の浅 い施縫の下端に凹い、下角の弧線を施縫 とする。厚壁式とはモザーフが異なる。		346
壺 A・A'	○1・2がある。 ○348は壺の可能性もある。 ○1(72)・2(348)	○口縁部は内外面全面に横ミガキを 行う。	○348は器形ミサフAに近似する網状 文を施す。 ○73は器形と同じ施縫をもつ。 ○348はB2'と同じ施縫をもつ。 器形は施縫なしで太棒の斜向旋錐を設け、 内側から上を施縫とする。 器形下部は密接底を施す。器形方向はA である。	○73は口縫下に開削 前の回転穿孔を行な う。 上面にススが厚く付 着する。	73 348
壺 B1・B1'	○1が多い。 ○1(44・61・142・293)・2(32・ 75) ○142・293は裏の張りが綿い た傾向となろう。	○口縫部外表面はミガキが多い。 ○体部外表面はミガキ。肩部外表面の ほか、ヘラや鉛筆芯による垂れな い条痕がある。(293) ○器形方向はAが多い。	○施縫は口縫下に1条件付す。 ○施縫はB2'と同様部にもつものが多く(?) 少しだけ見られる。 ○施縫は1(11・14・119)のものではなく、 2-3(61)よりむしろ(?)大半数である。117 は多くの施縫を引く。施縫は細く、開削で あるが、内面はミガキをする。 ○3条件の施縫は下部の施縫が剥離されずB1 とは別にされる。 ○119の体部には3本の施縫により、大柄の當 文53部位が施される。 ○347は施縫よりやや下って施縫を施し、ミ ブ状の貼付を行なう。	○124は口縫下に施 或前回転穿孔する。 ○142・293は外面上 ススが付着する。	12・44 61・142 293
壺 B2・B2'	○1・2が見られる。 ○2は少ない(B2に限らぬ)。 ○14・112は肩の張りが綿い た傾向となろう。 ○293は壺の可塑性もある。 ○1(11・33・39・79・74・77・ 78・112・115・135)・2(24・75・ 117)	○口縫部はナデないしミガキで仕 上げる。 ○肩部以下はナデ・ミガキ仕上げ が多い。 ○器形方向A(14・49・116・117) ・ B(11・70・78・112) ○117の輪幅は右下→左上、右 →左に施すようである。	○施縫はナデないしミガキで仕 上げる。 ○B2'は貼付部周囲にもつものが多く(?) 少しだけ見られる。 ○施縫は1(11・14・119)のものではなく、 2-3(61)よりむしろ(?)大半数である。117 は多くの施縫を引く。施縫は細く、開削で あるが、内面はミガキをする。 ○3条件の施縫は下部の施縫が剥離されずB1 とは別にされる。 ○119の体部には3本の施縫により、大柄の當 文53部位が施される。 ○347は施縫よりやや下って施縫を施し、ミ ブ状の貼付を行なう。	○大手の土器に、メ スの付着が見られ る。 60・76 74・75 77・78 112・116 119・117 125・347	11・14 60・76 74・75 77・78 112・116 119・117 125・347
壺 C	○1のみ認められる。 ○前面の張りで施して弱く、118 は腰が消失、輪形を変化させて 口縫に切る。 ○133は口縫に比して輪部が少 ない。	○口縫部はナデ・ミガキにより仕 上げる。 ○体部の輪形はナデ・ミガキと輪 縫系の施縫がある。	○口縫部には施縫ある。 ○口縫外側を剥離させ剥離するもの ・沈縫(114・115・120・123・127・128・ 131・138・267) ・沈縫(16・57・109・134・ 124・125・132・134・136・137・146・150)	○ほどんどの個体に ススの付着が見られ る。	9・16 57・76 109 113-115 118・130 122-124

種類	器形	基形	文様	使用範囲等	回
		76・113・114・123・125・126 ○整形方向はA・B部が見られ、後者はすべて細密条痕を有す。 ○A(9・109・114・123・124・127・128・131) B(42・76・98・134・169・185・192・199・272・341) ○細密条痕には魚が不明瞭で、擦痕にならぬのがある。(76)	○口周面を肥厚させ、擦痕の小さい模様をなすもの(9・294) ○口端を外方に向け面をとるもの(118・130・139)		126・132 134 136・139 146・156 267・294
圓 C'a	○15%円筒的多数を占め、2-3回わざかである。 ○2(21・25・83・185・157・287・168・176)・3(79・160・274) ○1・2回は底部の後が消失しかかったものが有る(13・144・149・152・155・176・268)。特に288は基本的に底部の形状と変わらず、口部に条痕を及ぼさない点に底の名残をとどめる。	○口周部はナデ・ミガキを施し、前者が多い。 ○体部の型態はCと同様である。 ○ナデ・ミガキ(31・21・25・79・83・121・144・148・149・152・156・158・160・162・164・166・176・270) ○細密条痕(36・45・59・80・91・155・166・161・147・154・155・163・174・274) 擦状痕?による条痕(31) ○整形方向 A(13・25・79・83・135・140・344・149・152・154・160・168・176) B(10・21・45・59・80・141・147・153・163・270・274・288)	○口周部の型態は、整形口には外反気泡に丸くおさめるものが多い。2は水平かやや外傾する面をもつ。3には両者が有る。 ○口外縁の退化と思われる貼付が少量認められる。貼付には正直を付すものが多い。(8・10・21・25・59・80・135・143・149・151・155)擦状には認められない。 ○10は経年で変容の一例と思われる擦痕が施される。	○多くの側面の外縫にはススの付着が見られる。 ○45は口周部外面と内面に赤色擦痕を施す。	8・10・33 21・25 37・45 58・59 79・80 83・91 121・135 140・141 143・145 147・149 151・158 160・162 163・168 174・176 270・274 288
圓 C'b	○16%多い。C・C'aと変わらない。	○C・C'aと同様である。 ○ナデ・ミガキ(133・174・178・180) 細密条痕(177) ○整形方向はAと認められる。 ○174・178は比較的丁寧なミガキを行なう。	○小突起は2者がある。 小突起に正直を付するもの(174・175・178) * * * しないもの(133・177・180)	○他と同様、ススの付着が見られる。	133・174 175・177 178・180
圓 C'C	○16%認められる。	○口周部は内外面ナデを行う。 181・189は体部もナデで仕上げる。	○正直の近く位置に2者がある。 185は端面に行い、他は口周侧面に加えられる。 ○正直はニビヤ工具を用いる。46は正直の中央に瓦條の痕跡がある、「口周部擦痕と手筋」である。工具を用いるようだ。	○ススの付着が185・189に見られる。	46・181 185・189
深鉢 B1・B1' 1 B3・B3'	○全部が判別するものは少ない。1・2回認められる。 ○103・188・350・352・353・464) 2(183・252・355)	○口周部はナデ・ミガキを行う。 B3はナデのみ認められる ○体部の型態は不明瞭である。183はケヅリの後ナデを行うが、擦かい糸を有する本物を用いている。擦密条痕とナデの中間的なやり方である。	○B1は25の1のみで、口周下に1条の擦痕を認める。端面上にはヘラ工具による刻目が有される。 ○B2は2者がある。 口縫下に3条前後の擦痕を付するもの(351・353・352) * 1条の太く浅い擦痕を付するもの(130) 前者は擦痕内をミガキ。後者はナデで仕上げる。 ○B3は口縫下に4条前後。ヘラ工具による擦痕を認める。(356・355・464) 186は口周外面にノブ状に突出する貼付をする。 334は小突起を設け、端面に刻目を入れる(B3'c)	○183は外縫にススが付着する。 262・306 351・353 355・464	183・186 262・306 351・353 355・464
深鉢 C・C's	○1・2のみ存在する。 ○119・20・29・42・52・81・90・173・179・187・275・276・450) 2(30・41・169・172・182・188・194) ○30・171・172・188は脣部にわずかな擦を有するが、齒とは区別した。	○ナデ・ミガキによるものと、擦密条痕によるものに大別される。 ○ナデ・ミガキ(20・29・41・52・169・171・179・187・188・275) 細密条痕(30・42・81・90・173・182・194・276・356・450) ○整形の方向は、Aはナデ・ミガキ仕上によるが確認される。(29・171・172・179) Bには両者が有る	○Cは276の1点である。小突起、端面は擦取りをし、突起上に刻目を入れる。	○ススの付着する側体が多い。	19・20 29・30 41・42 52・51 90 169・173 179・182 187・188 194・275

部 形	形 形	施 形	文 學	使 用 間 際	回
	○276は小形で浅い鉢形を施す。○296はニチュアの土器か。	が、小形品はナゲ。ミガキが多い。(39・41・42・52・81・90・169・173・182・187・188・194・275・278・256・450)○Bのうち42・96・182・194・356は口部直下まで底模が及ぶが、他の側面にナゲを施す。			356・450
深鉢 C'c	○1・2・4があり、2が大半を占める。○1(398-291)-2(260-205-209・215-217)・4(35)	○鉢形はすべて細密朱赤等による。(233はナゲ)○施形方向も全てA型である。○底原体はこの型に属して粗大なものが多く、継状に近い風致を残す。○3は明らかに継状工具によると思われる	○口端部の圧痕はヘタ状の工具によると思われる工具を残す。307は「口端部圧痕手延」である。全て上向きの施面に施す。	○184はヌスの付着見られる。	35・196 232-263 299 215-217
深鉢 C' d	○424の1点のみ存在する。○形態は第3類型A又はBに似る。(第3類にすべきか)	○外側面ナゲ施形される。外側のナゲは粗く、凹凸が残る。	○口端部は肥厚し、外側は玉錠状に突出する。幅広の施面を有している。		424
深鉢 C' e	○225の1点のみ存在し、器形は1に当たる。	○口端部は折り返して肥厚させ、内側には底面に施文を行す。○3は密な網目朱赤を施す。施形方向はA型である。	○口端側面には圧痕を施す貼付を連続させている。○体部は植物茎を模したような原体で大切S字状の施文を施す。	○口端より柄めに生じた破断面に沿い、成形前、成形後2つの凹印穿孔を行っている。	225
壺 A・A'	○190・205・304の3点がある。○190・304は最初1、205は不明だが、おそらく1であろう	○190-205は口部にミガキを行う。○190の内側は能力方向の網目朱赤を施す。	○205は表文状に施文する。ミカーフは表文状文の37である。○190-304は肩部に施文をもち、304は施縫間に圧痕を付ける。		190 205 304
壺 B2・B'2 B3・B'3	○器形122を主体とする。○2(46・195・199・295・297・362)・3(197)○2には肩部の開きの狭いもの(195・199)がある。	○口部は12、197・295は鏡方向、他は横方向にミガキもしくはナゲ施形を行う。○体部は195・199・295を抜き不明である。185は鏡方向のミガキを肩部に行い、199は鏡方向に網目朱赤を施す。295は体部下半は鏡方向ケメリ、上半は横方向ナゲを行う。	○B2は施縫の有り方に2者がある。46・197・295は瓶B2と同様、口縫下に太幅の深い沈縫を1条引き、内部をナゲする。199・362は口部底端ややや瓶口の施縫を本体前後引くもので、半円形の施縫を呈する。施縫内外にはナゲを行なうが、粘土のはみ出しは完全には消されない。○B3は瓶部にヘタ状工具による細い施縫を3~4条引く。297は口縫下によく太幅1条の施縫を施し、内部をナゲする。○口部の施縫はB2となっている。○口外側は46を模倣もたらす。(B')197はB'2で、施縫4条の貼付を行い、B'2は285・297は工具による圧痕をそれぞれ口周囲、口端側面に連続させる。	○295は外面にヌスの付着が見られる。	46・195 197・199 295・297 362
壺 C・C'	○192-4・6があるが口部底の破片のみでは判断が難しいものが多い。大きさ的には下のように分類されるが、1・2については判断が微妙である。 1(43・196・266)・2(18・46・82・191・192・205・210・213・271・301)・3(17・207・298)・6(299)○268は丸底を施す。196は斜形の口部底である。○205・301は球状の跡部を有する小型品だが、壺の特徴を留めている。	○口部は193・239を除き、横位ミガキナゲを行なう。ミガキが主なる。193は鏡方向ミガキ、239は工具によるナゲを行なう。○体部は205・210・310が模範しないし利多ミガキ・ナゲ、239・268は能力方向の網目朱赤を施す。268は上半は上→下、下半は下→上に施している。	○268は瓶部に突縫を付し、上部にヘタを。ミガキが主なる。193は鏡方向ミガキ、239は工具によるナゲを行なう。○口外側(43)は小段状縫をめぐらす。26-193は口縫外側に粘土を貼付し、ヘタ又はヘタによる押圧を加える。193は瓶外側に、浅いミドニーハウの押圧をする。	○48・195・205・268は口縫下に成形前側突縫孔を行なう。○193・232・298には赤色施彩が認められる。	17・18 43・48 82・191 192・196 205・267 210-213 239・277 298・301
壺 D	○369は口部欠損し、器形不明である。口部は崩くびれ、体部はゆるく開いて張る。	○外面は丁寧に仕上げ、ナゲミガキの施形を行われる。内面もナゲミガキで、瓶部以下は丁寧にミガキをする。○他の意窓に對し薄手。	○口部、体部の接縫にはヘタ振の繊維状縫を1条付し、その上下に施して文縫帶をおこす。○瓶部、体部とも三内形のモチーフを先の鋸の工具により施く。(右→左へ)○施縫は非規則的だが、いわゆる「繊維状縫」とは異なるようだ。		369

種類	器形	形態	文様	使用範囲等	目
直 E1	○261のみられる。 ○254は肩部以上が大きく集約する。 ○255・366はE2かもしれない。 ○体部は不規則だが、直の發る長大なものとならう。	○口縁部は内外面ナデ仕上げである。 ○肩部以上は粗大な細密模様を施す行なうが、密には施さない。 ○本體の土器は他と比較してかなり厚い。	○端部側面の突起に12正度等が施される。 (裏の口縁部分と同じ) ●單純で目口・貼付を複数付するもの。 (251・253) ○正度を連続させるもの(51・258) 正度は浅く深く、51は口縁部正度と手筋の痕跡を残す。 ○肩部には突帯を付するものが見られる。 (51・254・366)突帯上には口縁部と同手筋の正度が施される。		51 251～253
直 E2	○E1と同じ特徴を示す。	○E1と同じ整形手法による。	○口縁部では正度を施す突帯が2条付加されるが、口縁側面のものは突帯を省略する場合がある。(367) ○正度は364・368は工具用い、174はエビ押えかも知れない。		363 364 367
舟形 土器	○362は小片だが、薄社古司通鑑 編文P92No415と同様な器形と ならう。	○腹位ケメリの後、粗クナダを行なう。	○無文		308
耳付 形土器	○261・340がある。 ○340はやや外傾し、336より僅の大きいものとならう。	○ケメリ・ナデにより整形されるが、椎である。 ○把手は半円形の断面を呈し、粗クナダ仕上げする。 ○穿孔は単孔工具により、腹位に行われる。	○340は斜光する芯線(非形的的な沈線)が 施文される。	○穿孔部の使用によ る磨耗等は見られな い。	271 340
体部の 破片	○311・323・333・357・360・371・ 421・463・465・469は腹・深部、 337・344・365・368は壁の破片 と考えられる。 ○354は無縫の腹(?)となるか。 ○337・365は腹と思われるが那 1-3割の當てはまらないもの かもしない。	○421・466は直文である。421は直 口と同手筋の、細いアラ模様により ケメリで直文、466は腹形状を5 字状に引く。 ○311は無縫文を腹位に施すが、腹形は不明である。 入念に1タキが行われる。359は腹圓が異な るが、両手筋による。 ○323は底く太い腰縁(貼付)による 直縁を直に施し、ヘラによる 刻みを入れる。(腹部) ○333・357は刺突文により輪画模 の構造をつく。 ○371は腹AかBになるものか、 頭部を付した腰縁より形的的な沈 線が施される。	○358・360・463は直Dの手筋により三角形 の腰圓が施されるが、腹形は不明である。 入念に1タキが行われる。359は腹圓が異な るが、両手筋による。 ○368は369と似た腰縁となるものか、太く 深い沈突文が施される。 ○337は内面にヘラ模の腰縁が施され、 365は腰縁に刻目を付す。	○469は腰・深部の体 部破片だが、部分的に 赤色塗装がなされる。	
穿孔	○414・415・418・459は直口縫 付近の穿孔。 ○417・419は腹体部である。 ○450は深部、416・460は浅部 である。	○腹および縫は全て腹或前に凹 穿孔孔する。 ○460は跳成筋に刺突穿孔する。			414～420 459・460
底部	○59・69・47・151・204・206・ 208・223・233・240は腹底部と 考えられるが、あるいは小形の 腹鉢を意味かもしれない。 ○他は腹・深部と思われる。	○底面は本文で述べた各種があ る。 ○大半の器体は外側面を横方向に ケメリ、形を整えているが、49・ 69・222・229・240・241は行わず、 細密朱痕等が下端まで残る。 ○59・69・204・206・236は技筋の 技術により底面を作り出す。 ○体部下位の腹形は、腹・深部の 結合部おおむね腹形の方向A・Bの 特徴を示す。	○459は直文の一端とみられる施文をもつ。	○内面は器體の剥落 や、炭化物の付着が 見られる。 ○外側は二次火熱の ため変色、器皿荒れ をおこしているもの が多い。	
底部 の整形	○28・47・229・284・476は側 底のまま未調整である。 ○475は中央部を若干ナダ削し、 50は1タキを消す。	○119はケメリを行なう。 ○225・263は木墨正度をとどめる。			28・47 85・119 225・229 263・284 475・476

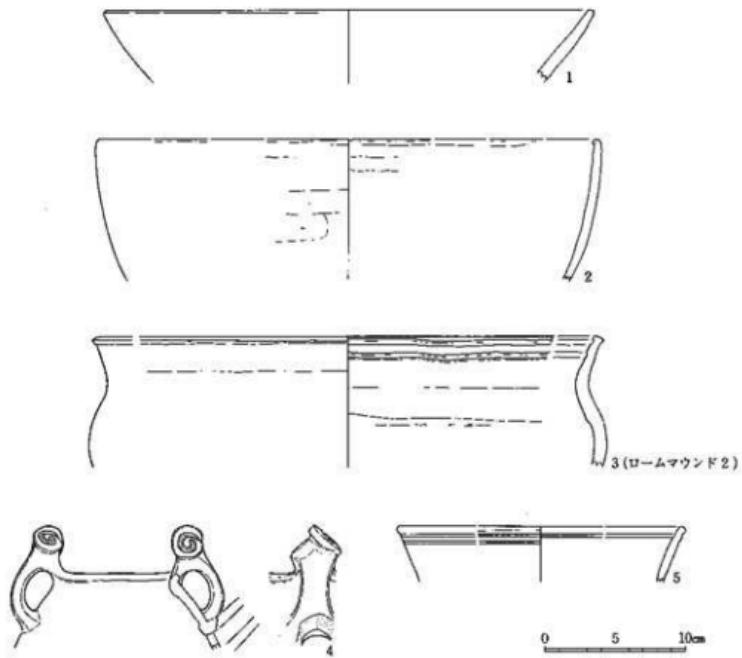
第2類土器

種類	器形	蓋形	文様	使用範囲	箇
A・A'	○1・2点あるが、判明するもの H256・259の2点のみである。 ○1・2とも底面は水平に仄くとり、沈線を1条付加する。	○内外面ケメリは行わず、ナデで仕上げるものが多い。 ○259は内外面にハケ状の縦かい条が走り、何らかの工具を用いて彫刻する。内面は下半部を中心にして?の正度6多段残される。 ○ロ底部の沈線帯・レンズ状付帯文は259などとほとんどなされず、薄め仕上りをみせる。116は逆に歴然としている。 ○腹は沈線帯により体部を2段前後に区画し、内部に沈線による巻き文を施すのを遺傳とする。(井伊利の沈線) ○306は3条の沈線を山形に連続させ、末の葉状のモチーフを描く。	○ロ底部 A(256)は口唇側面に施土帶を貼付し、三角形を連続させるモチーフを描寫する。 A'(259)は沈線帯を3段(3本)をおく。 A'・A」として、底部は無文帯をおり、肩部にレンズ状付帯文を貼付により施す。(259) ○体部は沈線帯により体部を2段前後に区画し、内部に沈線による巻き文を施すのを遺傳とする。(井伊利の沈線) ○306は3条の沈線を山形に連続させ、末の葉状のモチーフを描く。	256・259 305・323 320・322 374・376 433	

第3類土器

種類	器形	蓋形	文様	使用範囲	箇
甌 A	○口器はまっすぐに直立、外傾するものの(62・257・260・373・422)から外反するものの(262・377・465・470)がある。A(257・379)は底付する。 ○端部は再取りをするのが一般的だが、丸くおさめるものがある。(377・465・470)	○ロ端及び内面はヨコ方向のナデを行う。外縁は両端以下を横ないしや左上りに右へ左貝殻朱張を施す。 ○379では縁内面に横置の貝殻朱張を施す。 ○378は突唇以下の整形は貝殻朱張か?	○突唇は底面三角形を呈し、ヘラ・貝殻原体・ヨコにより圧定をする。 押圧は深く、接着部近くまで行う。 ○377・465・470は断面多く低い突唇上に二枚貝背面により圧定を施す。 ○A2のうち378は突唇は断面下字に高く貼付し、耳状の突起を付す。	62・257 260・272 373 377～379 422	
甌 B	○やや細い脚部に強く外反して開口部を取付する。(255) ○287は木頬。	○底Aと基本的に同じである。 ○端部は丸くおさめている。(255)	○突唇は、口器の張りが大きいため、下向きになる。圧定は貝殻によるか。(255) ○287はA2と思われ、下方の突唇を残す。突唇は低くなく、四角いヘラ先端の工具により圧定を施続させる。	255 287	
甌 C	○382の1点のみ存在。 ○内面する1巻は折り返して倍近く厚くなる。端部は外方が突出する(強く外側をつむる)。	○右へ左に横置貝殻朱張を付す。 ○内面は口唇部部分は押えののちナデを行う。		382	
甌 A	○一般的な特徴を示す。(口唇側) ○体部は不明	○腹位ないしは新成の貝殻朱張を外側に引く。(322は斜位) ○内面・端部はヨコ方向ナデを行う。		321・322 383・451	
甌 B	○256の1点示し得た。 ○一般的な特徴を備える。	○内面・端部はナデ(横位、右へ左)整形。 ○端部はやや内傾し、若干くぼませている。 ○外縁は裏位(右へ左)に貝殻朱張を施す。 革体の表は細いものを使用。		256	
甌 C	○380・384の2点示し得た。	○内面はナデを行う。 ○外縁は横状工具により右へ左に羽状の朱張を施す。 ○胎土は泥質(灰土)の特徴を示す(380のみ) ○384の内面はハケ状工具により整形。		380	
鉢	○381の1点のみ確認される。	○張なしやや左上りの浅く細い 弧度(其腰)を施す。 内面は横置ナデ、口唇部は外方につまんナデする。		381	
体部の破片	○65・264は頭がしまり、肩が強く張る型である。最大径は底部(体部上位)にある。特に65の肩部は頭張り並曲して陥れ、水平に近く開いた後下方に星龜する。 ○273・283は頭下半嵩である。273は突出した小唇不安定の底盤よりくらみをもって開く。 ○264・281は底底底と思われる。	○65は横位(右へ左)に貝殻朱張を施すが、端部は範野方向の工具によるとナデにより仕上げる。 ○264は底Cの体部上部で、貝殻による被状文を2筋、右へ左に施す。 ○以下は起軸の小さい羽状に貝殻朱張を施す。(右へ左) ○273・283は266同様の整形を施す。 ○281は頭部による朱張かもしれない。	○389は腰Cないし頭Cの体部端片で、羽状の貝殻朱張を施す(右へ左) ○467は底Cの体部上部で、貝殻による被状文を2筋、右へ左に施す。 ○以下は起軸の小さい羽状に貝殻朱張を施す(右へ左) ○その他の示(折割)した多くの破片は、大半が頭・腰と考えられる。ほとんどのものは整形、整形の方向等一般的な特徴を示している。	65・264 266・273 281・283 305・309 312・317 334・339 335・336 338 364・413 423・429 463・455 457・458	

土壙 6・ロームマウンド2



第16図 繩文時代土器 (1)

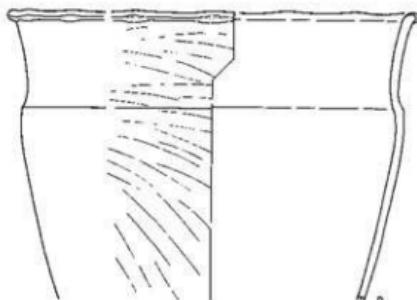
土壤37



6



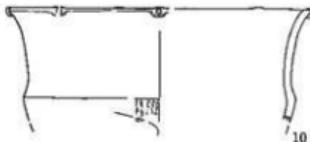
7



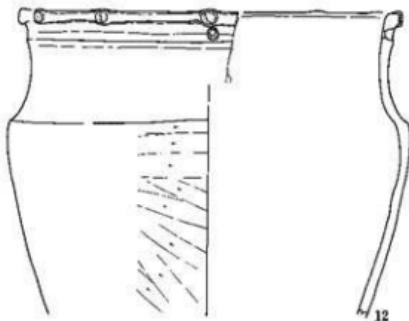
9



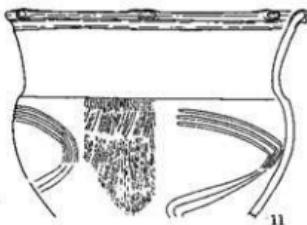
8



10



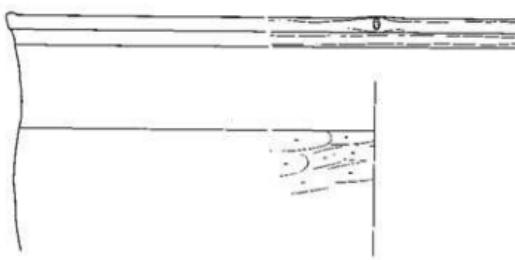
12



11



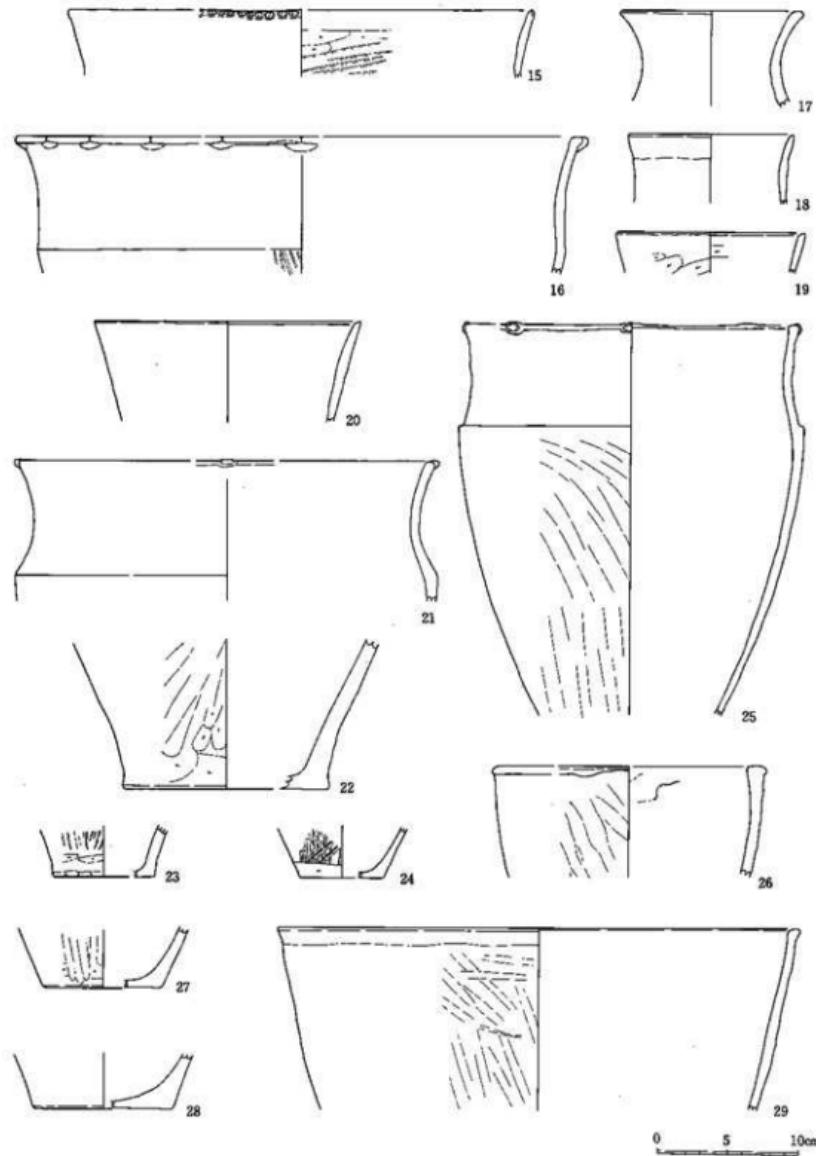
13



14

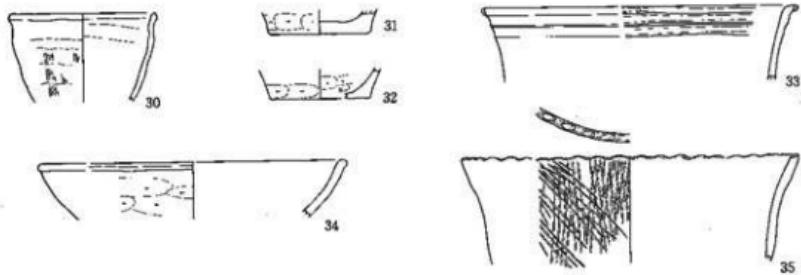
第17図 裝文時代土器(2)

0 5 10cm

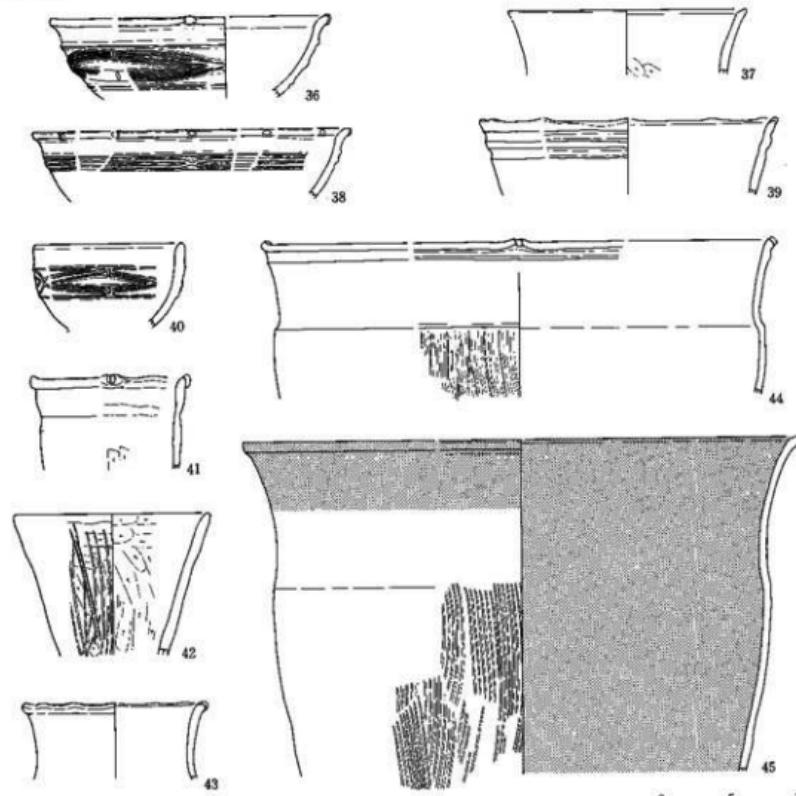


第18図 繩文時代土器(3)

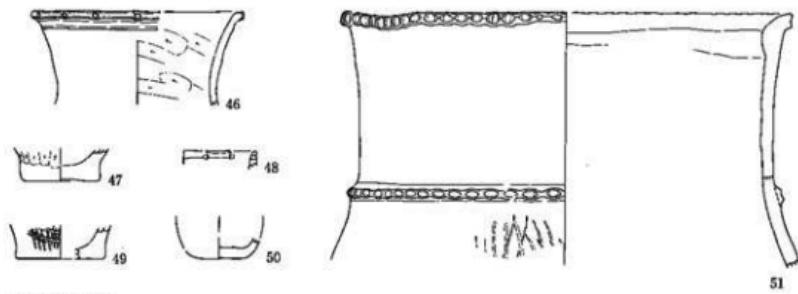
土壤56



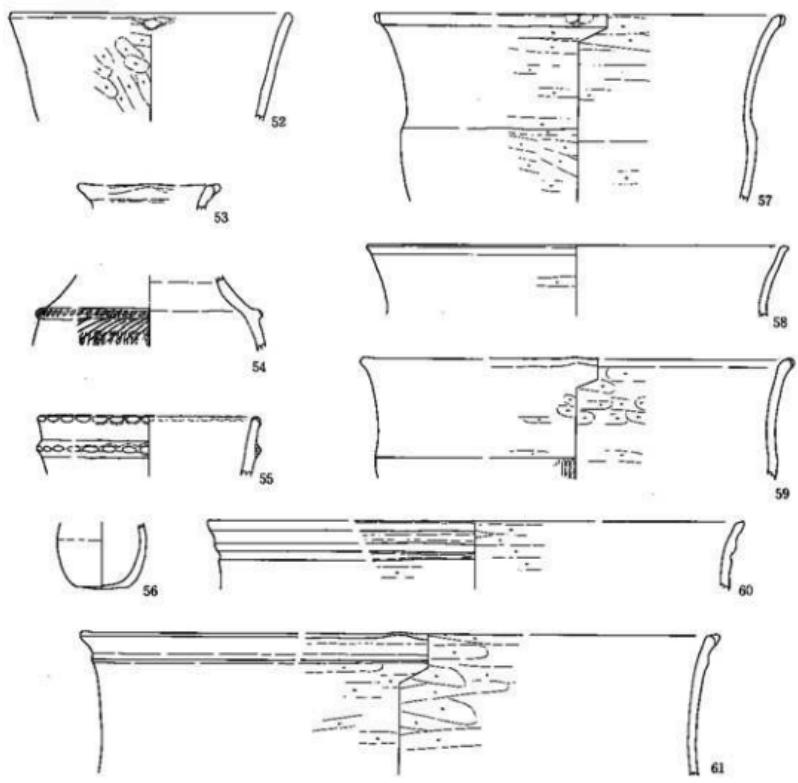
焼土面



第19図 繩文時代土器(4)

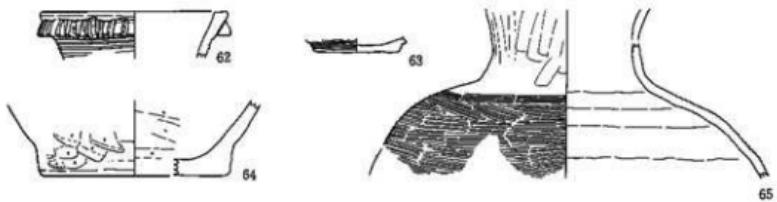


土器集中区 3

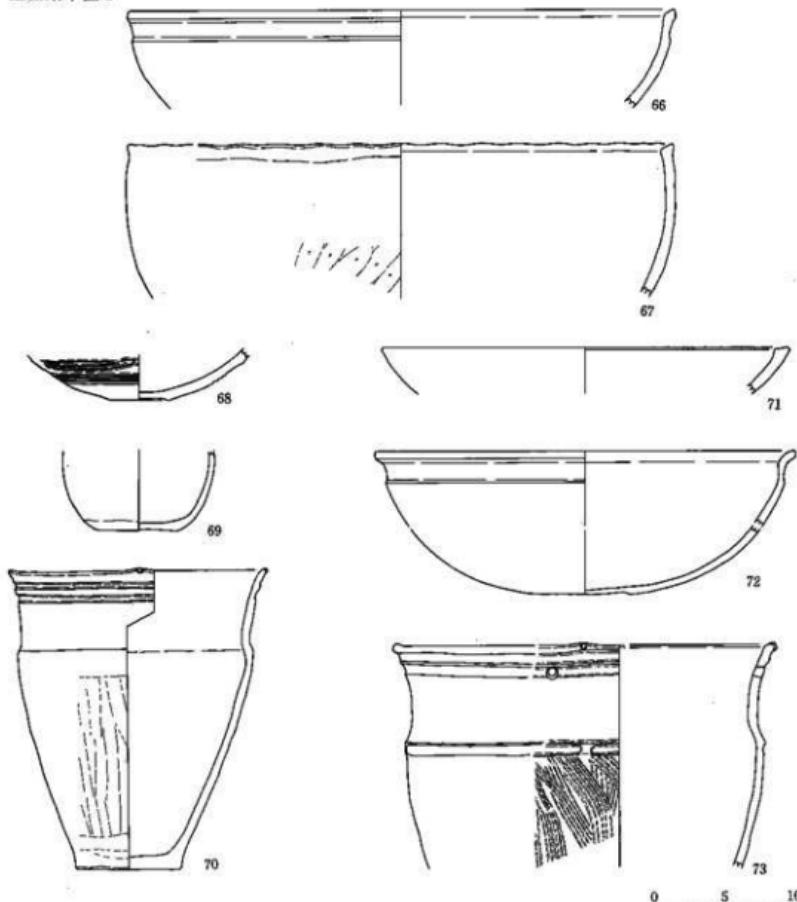


第20図 桶文時代土器(5)

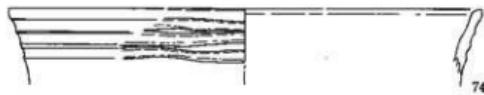
0 5 10cm



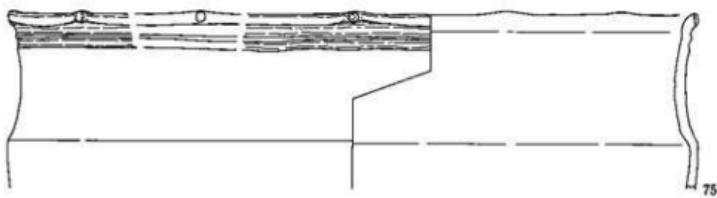
土器集中区 8



第21図 調文時代土器(6)



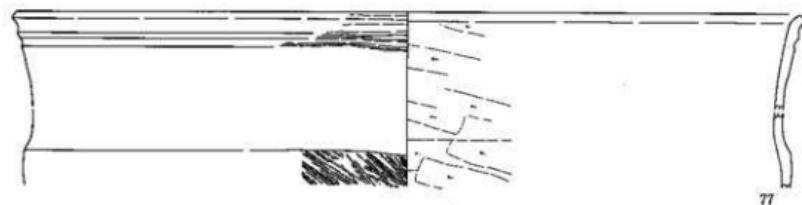
74



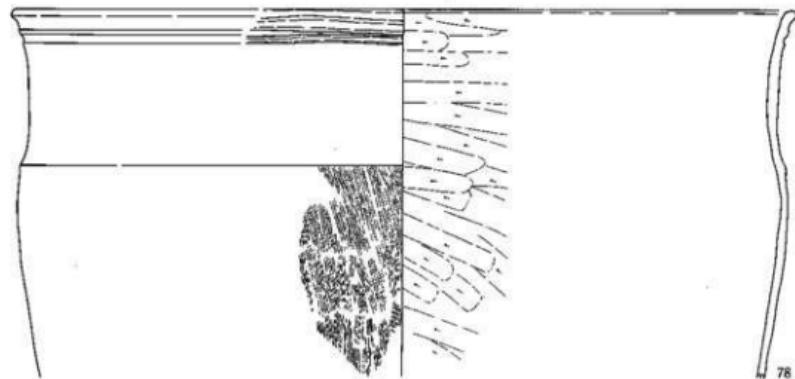
75



76



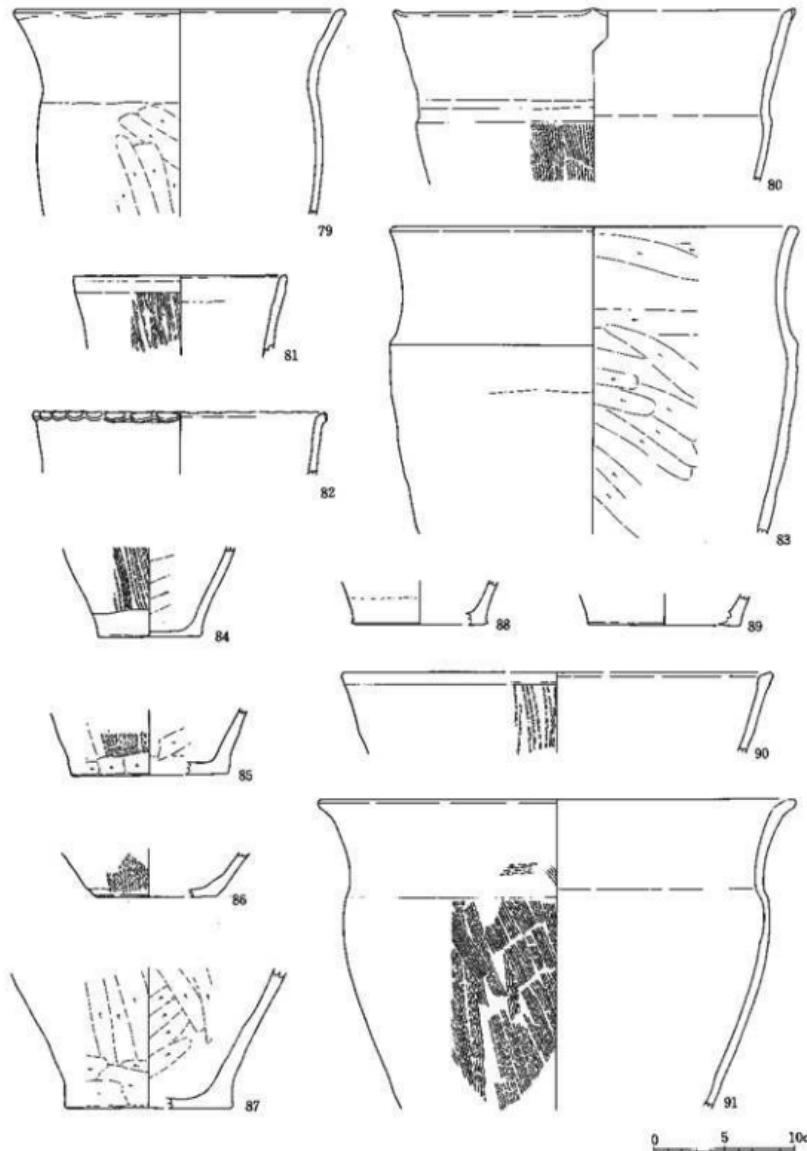
77



78

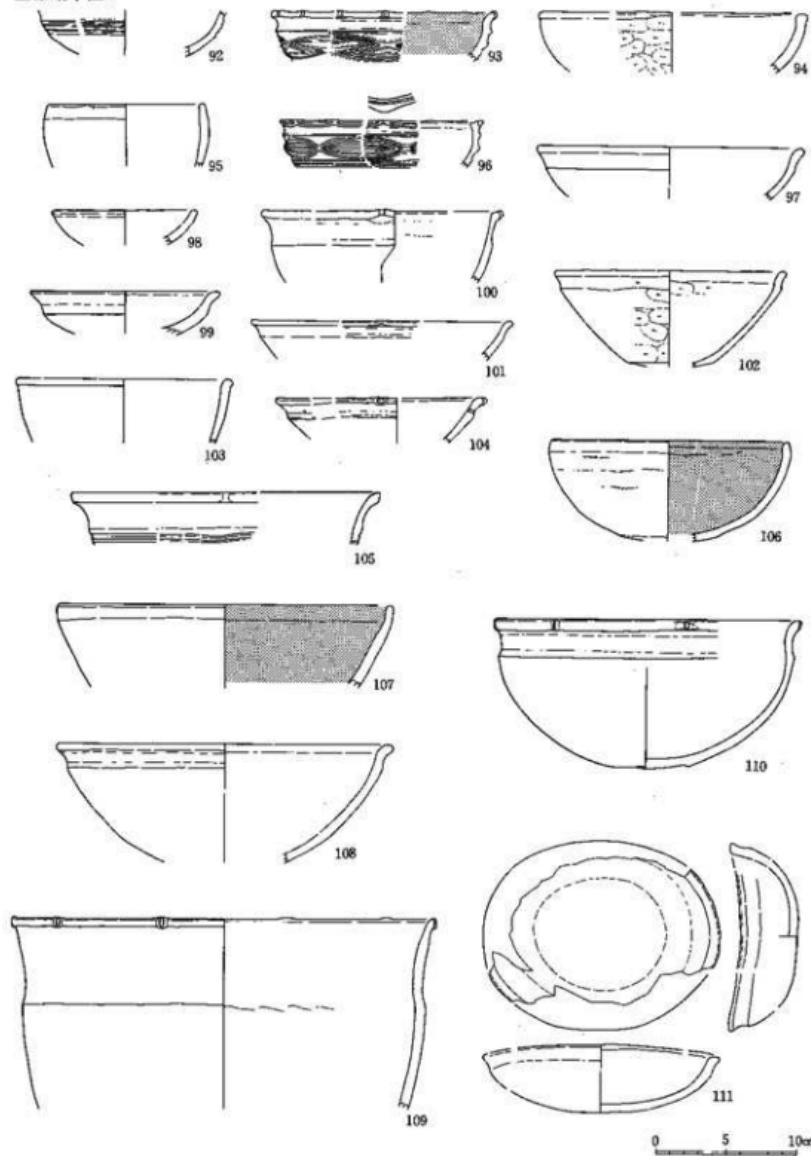
0 5 10cm

第22図 繩文時代土器(7)

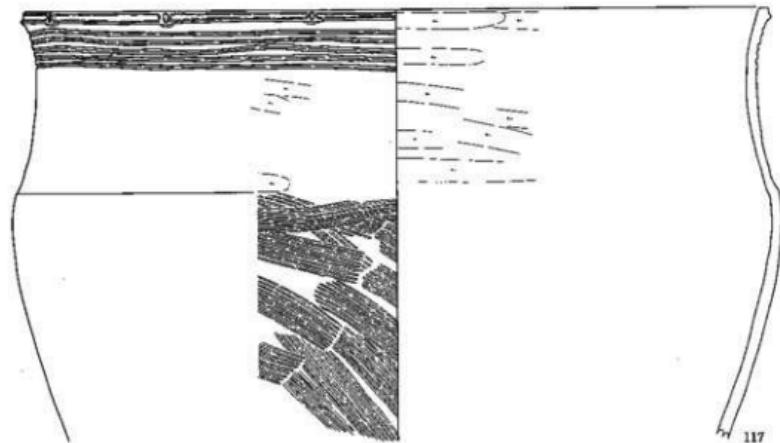
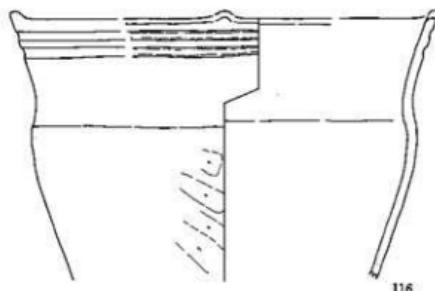
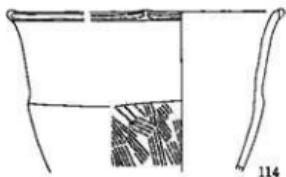
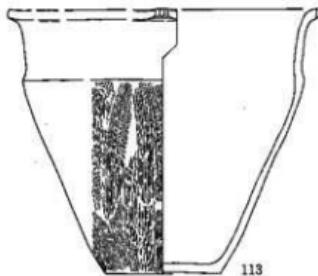
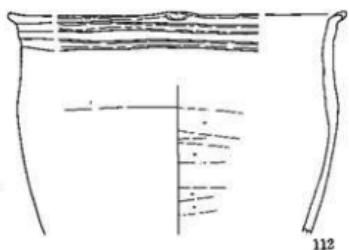


第23図 繩文時代土器(8)

土器集中区 7

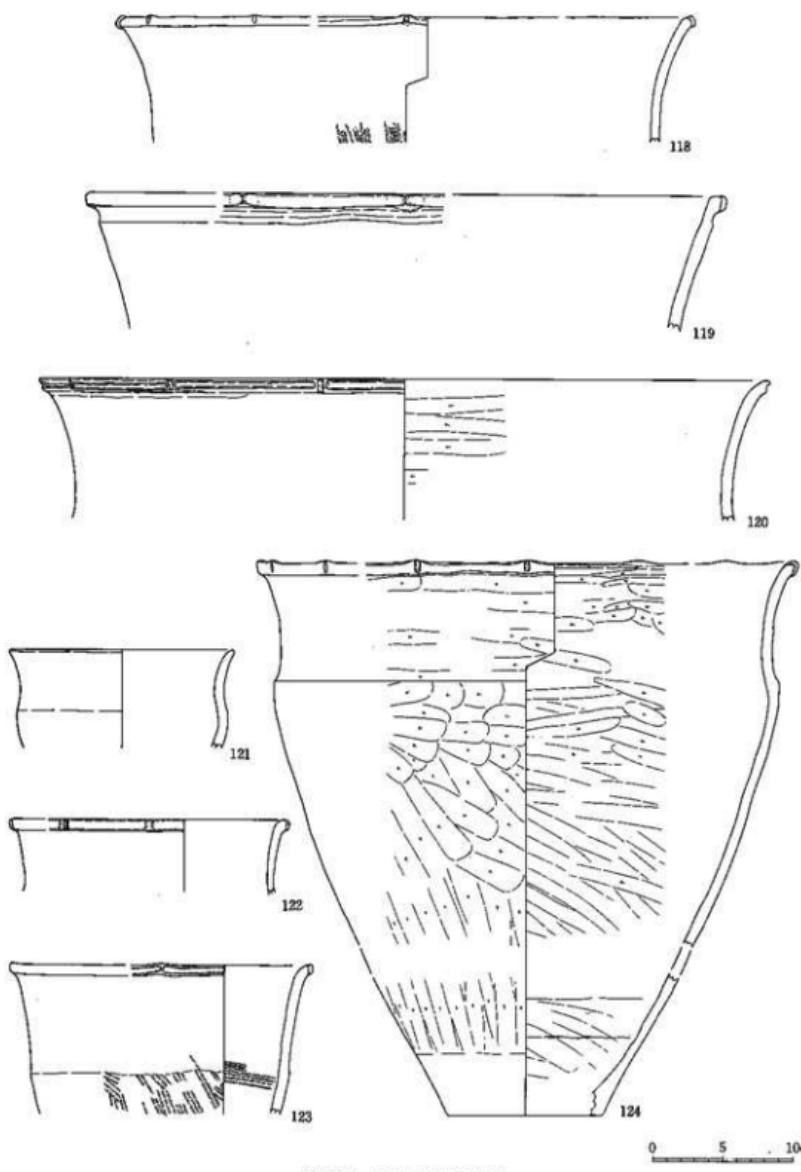


第24図 調文時代土器(9)

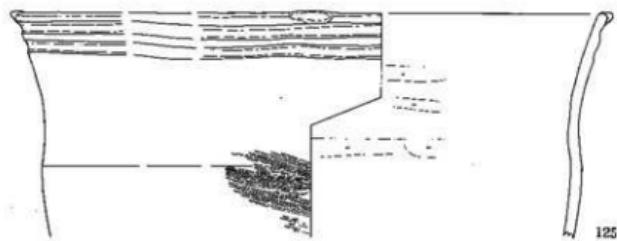


0 5 10cm

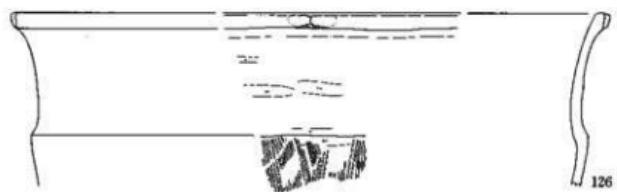
第25図 繩文時代土器10



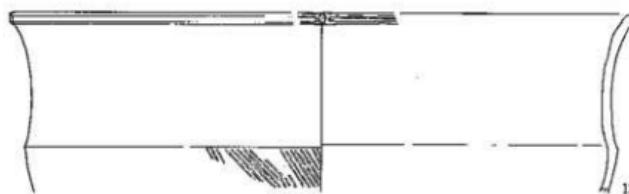
第26図 繩文時代土器(1)



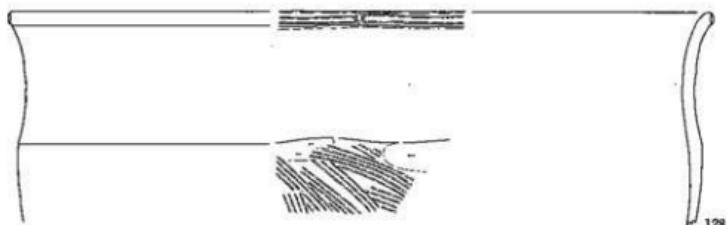
125



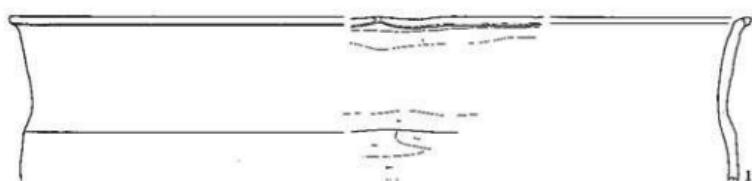
126



127



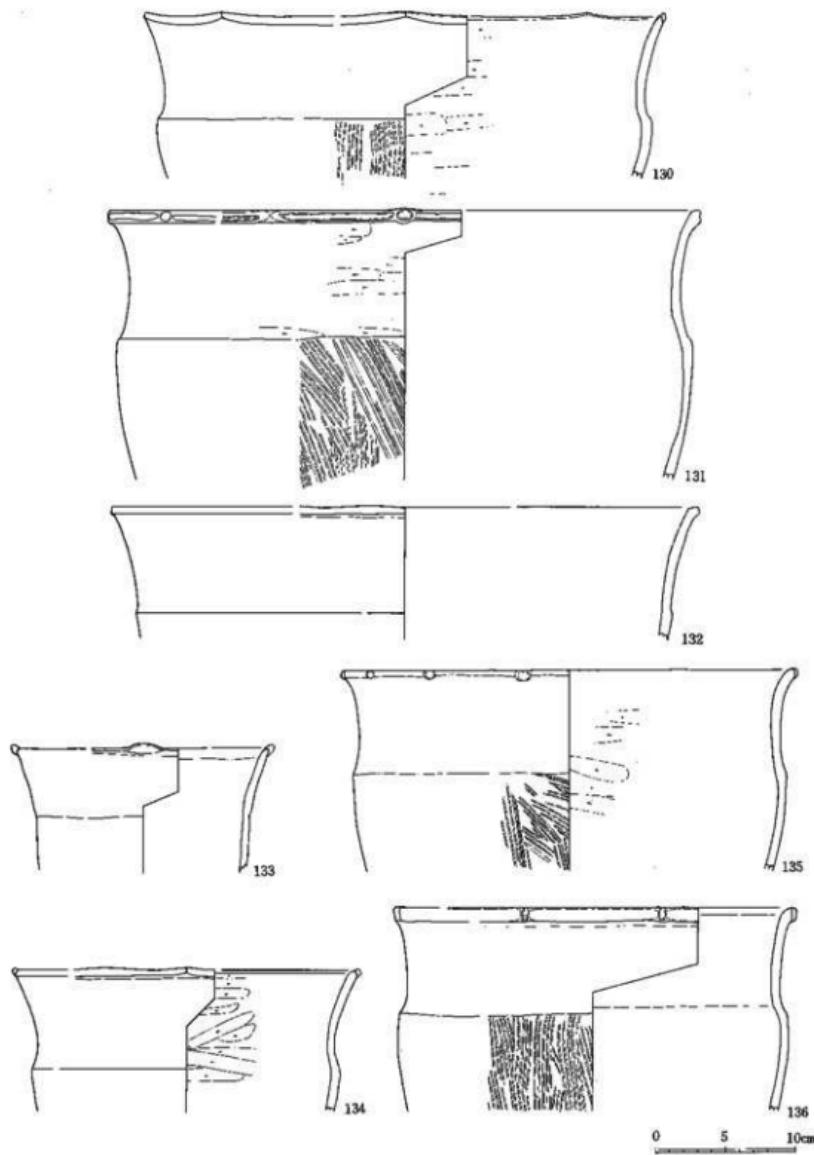
128



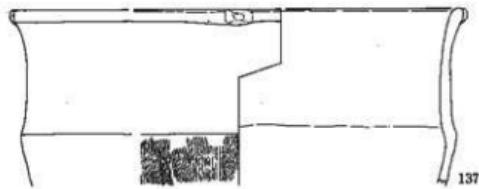
129

0 5 10cm

第27図 横文時代土器(2)



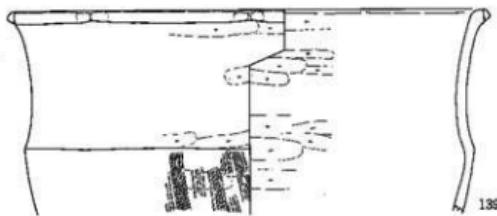
第28図 繩文時代土器(3)



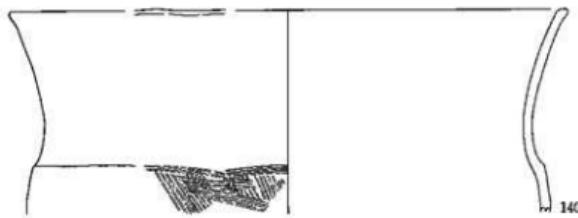
137



138



139



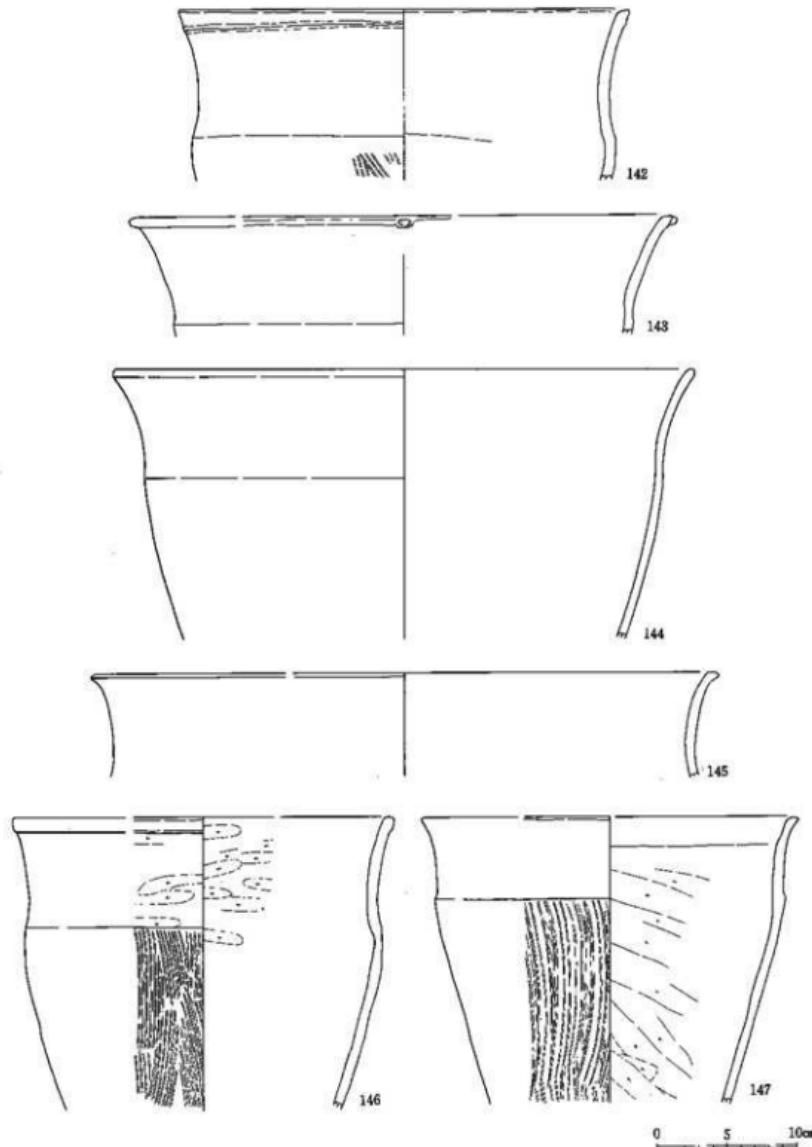
140



141

0 5 10cm

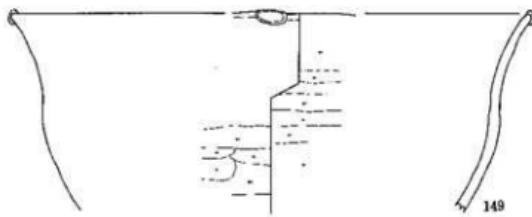
第29図 縄文時代土器14



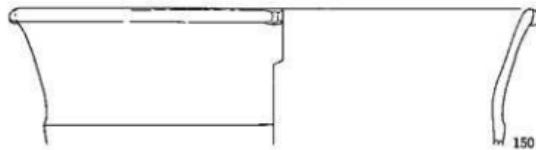
第30図 調文時代土器(5)



148



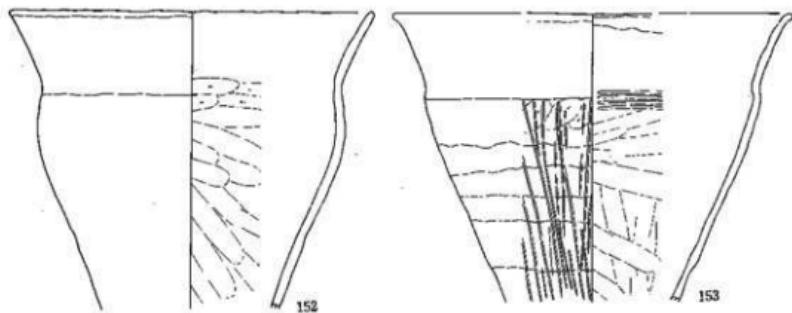
149



150



151

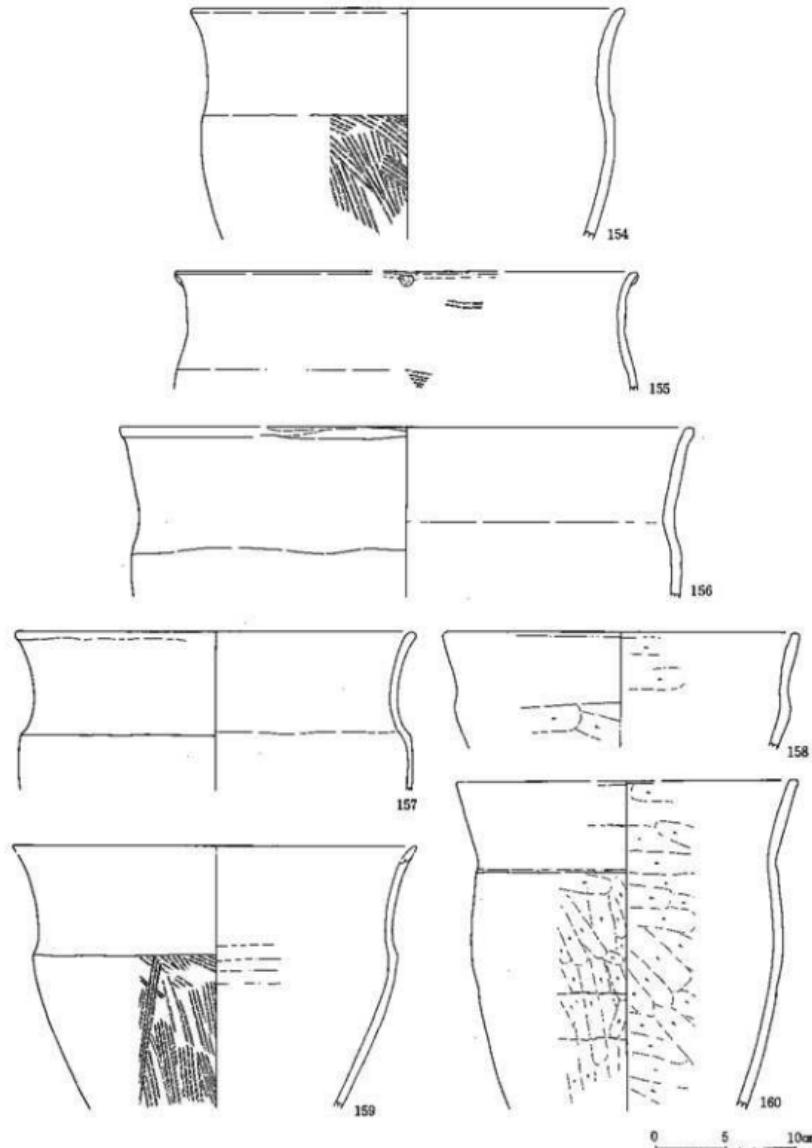


152

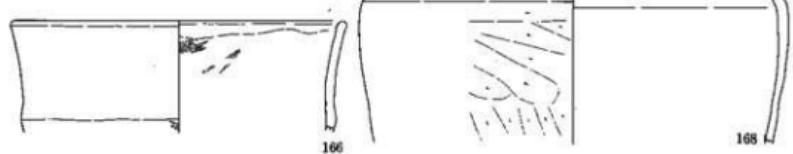
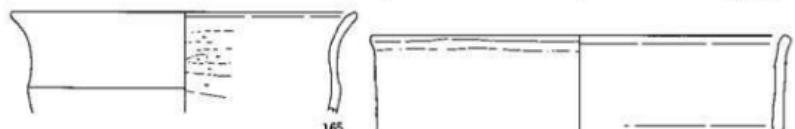
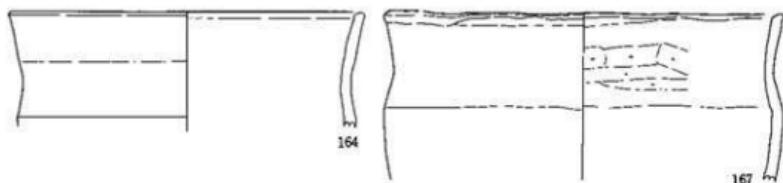
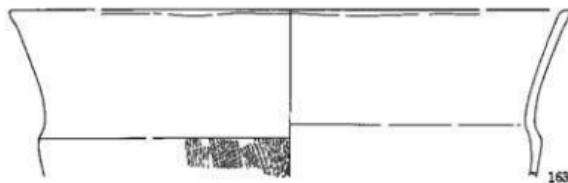
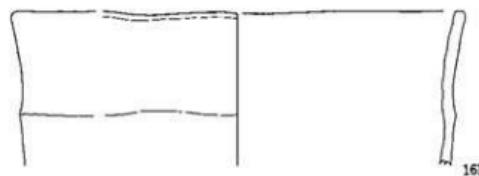
153

0 5 10cm

第31図 調文時代土器(10)

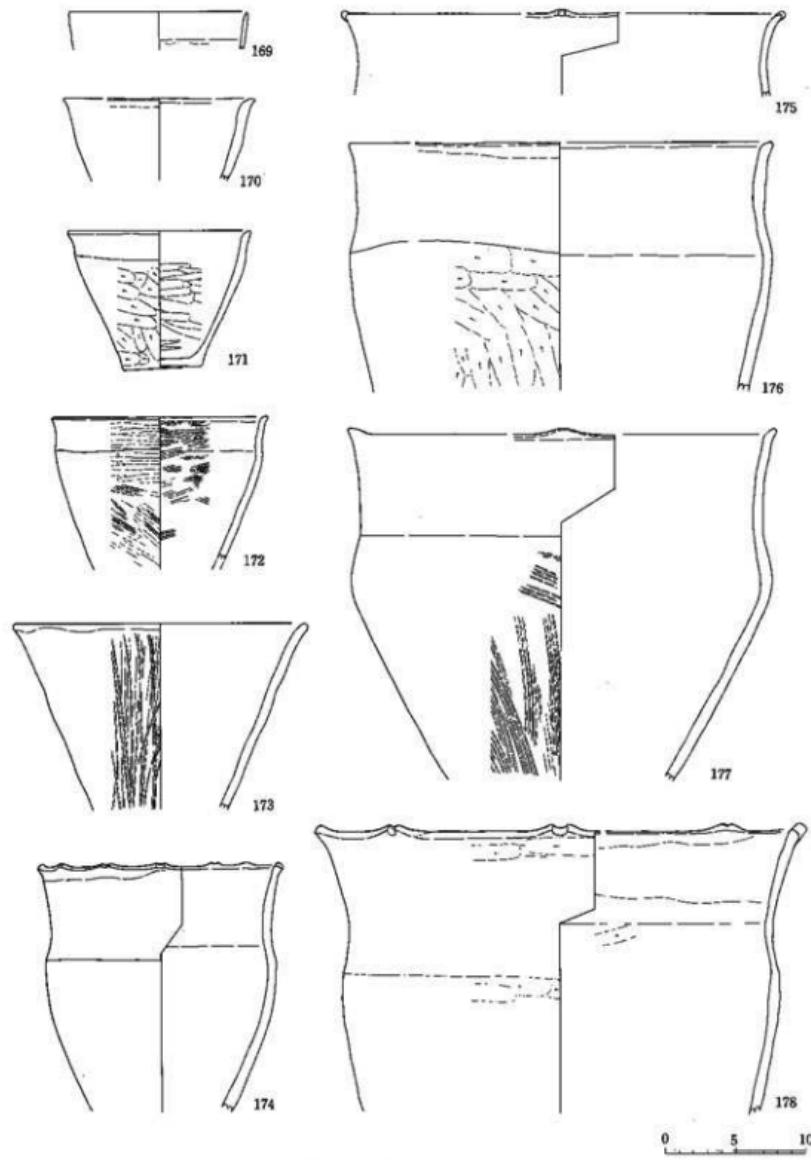


第32図 桐文時代土器(17)

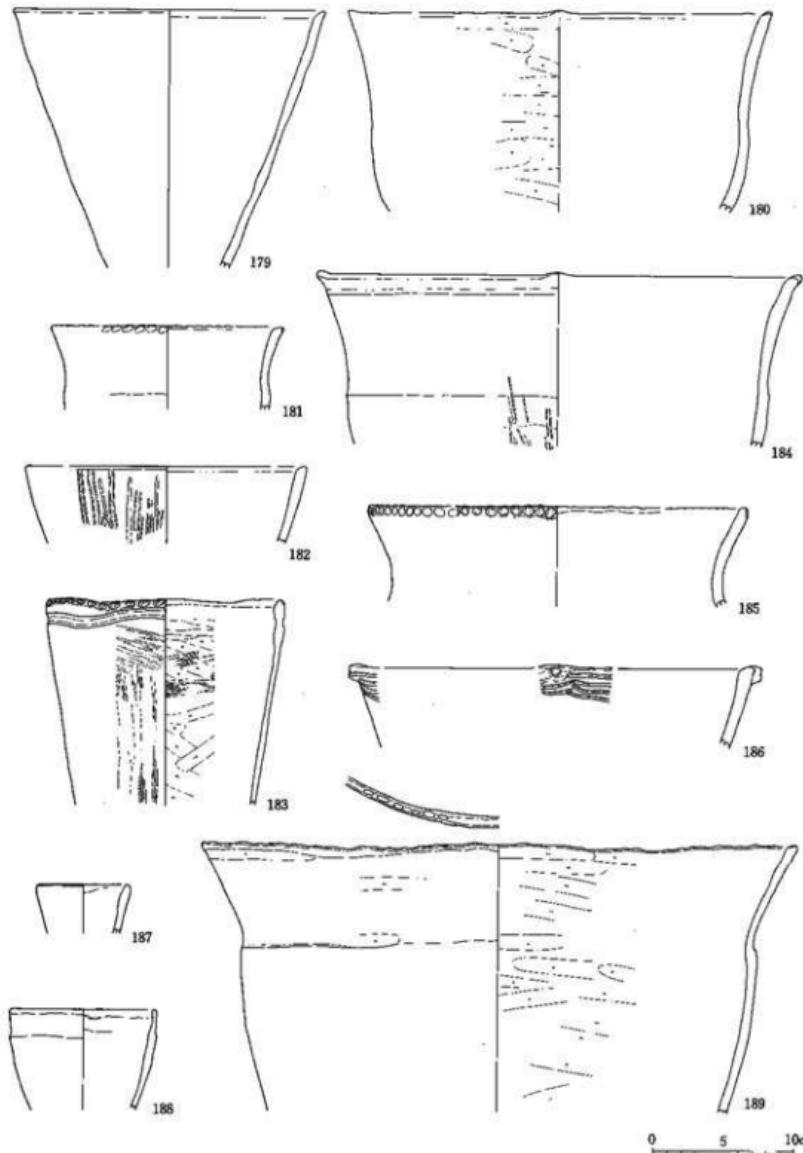


0 5 10cm

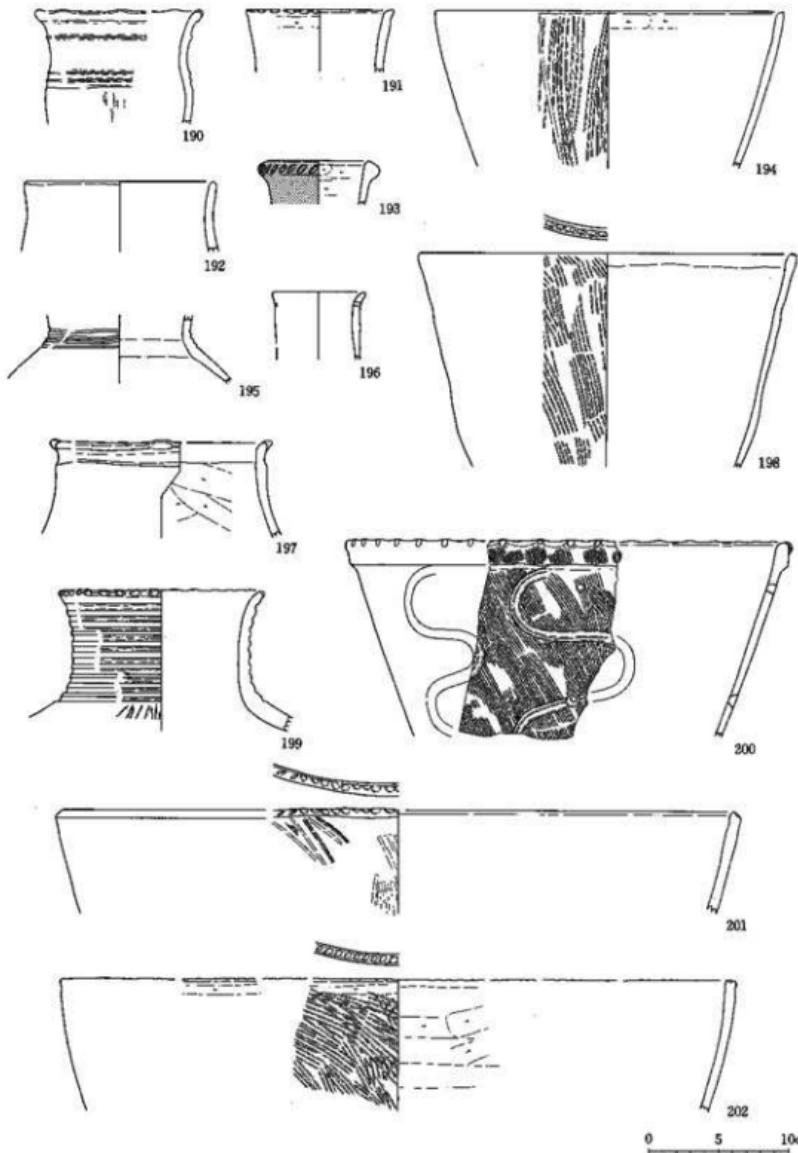
第33図 裝文時代土器(1)



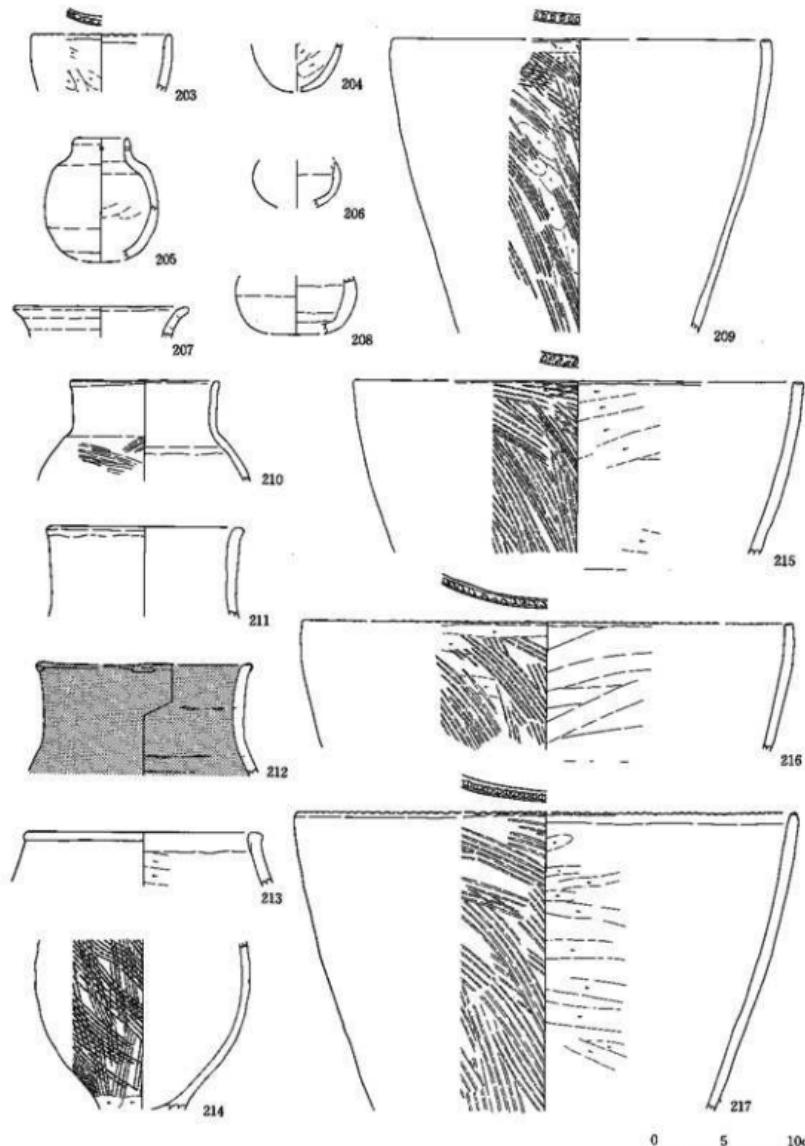
第34図 縄文時代土器(19)



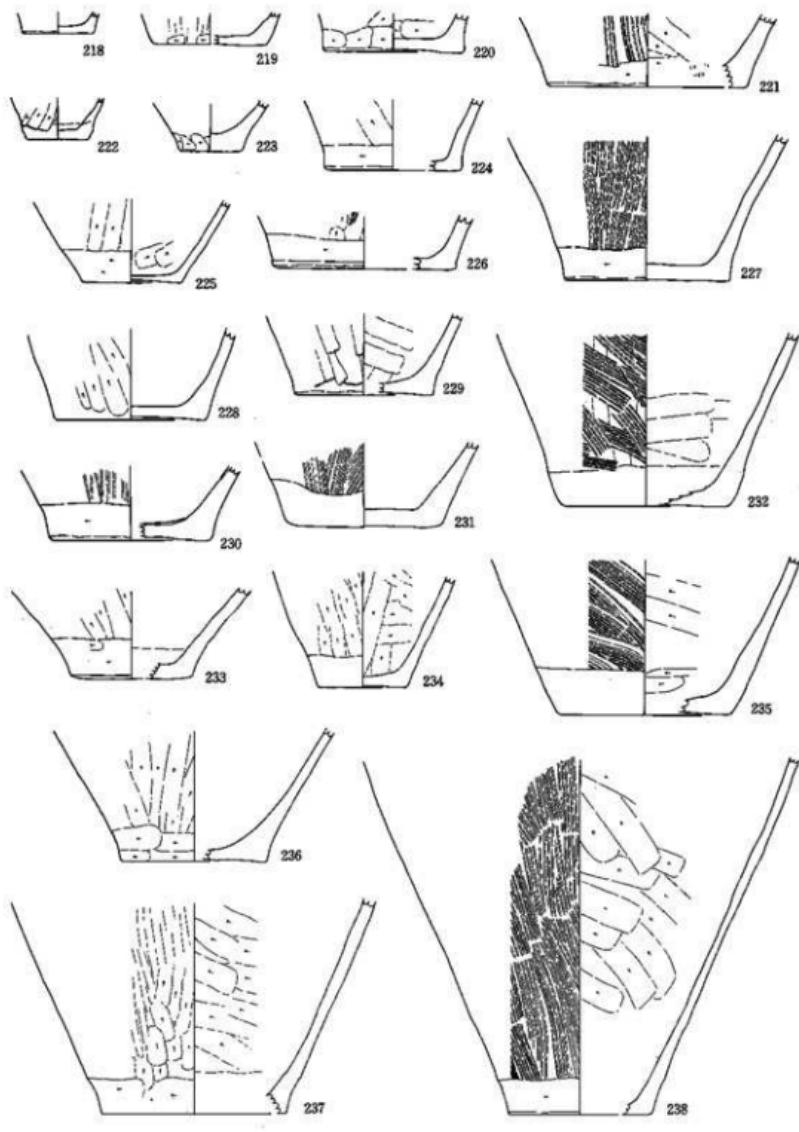
第35図 調文時代土器20



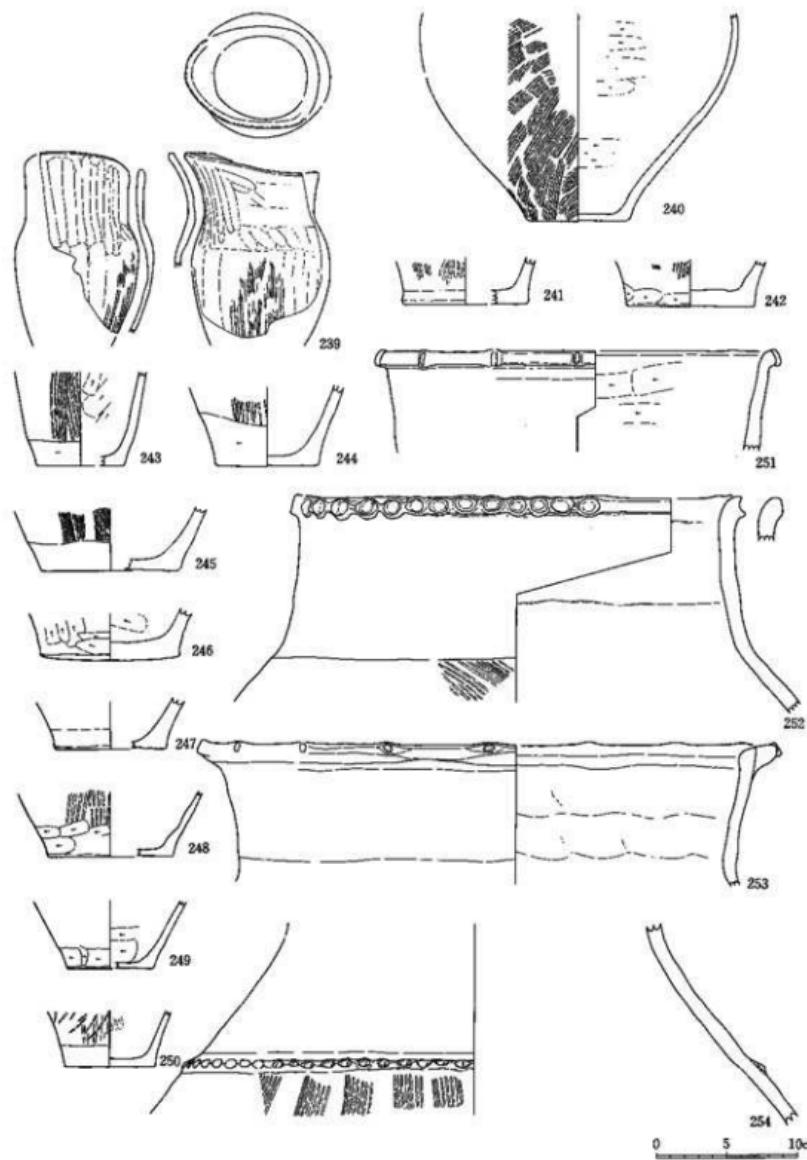
第36図 縄文時代土器20



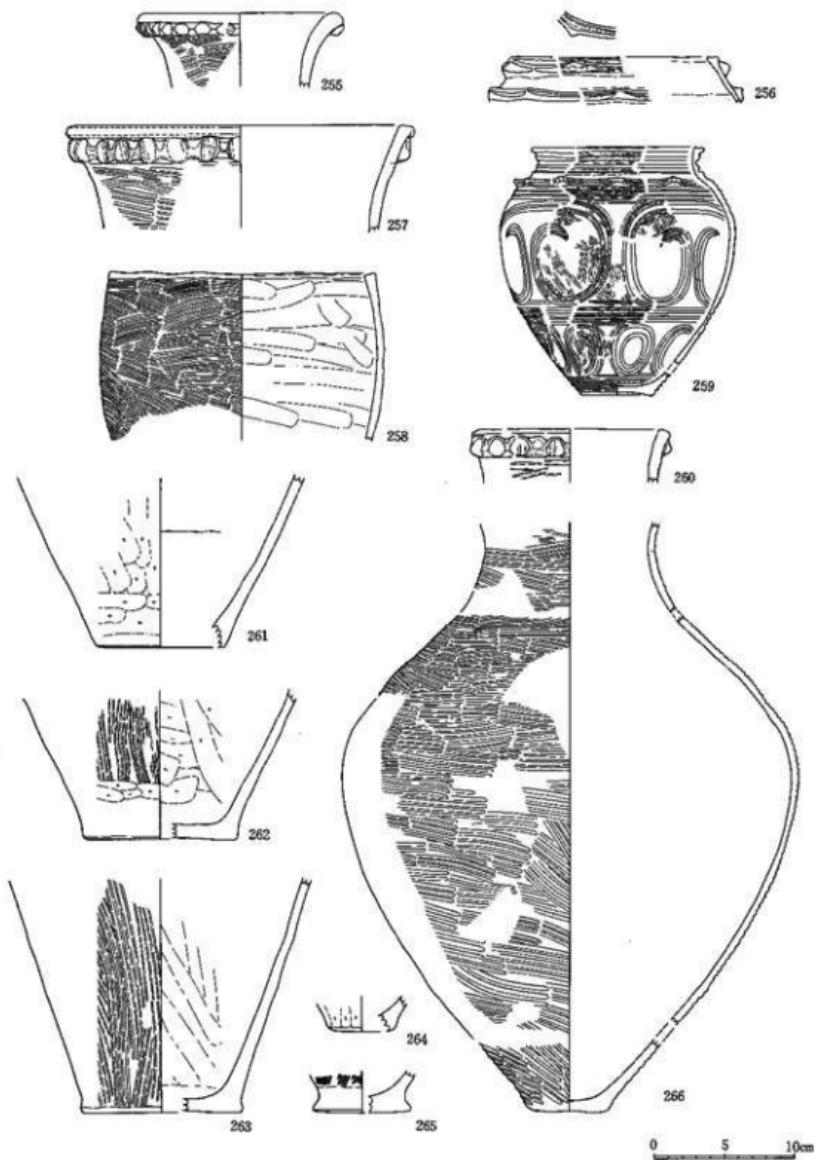
第37図 調文時代土器22



第38図 縄文時代土器(2)

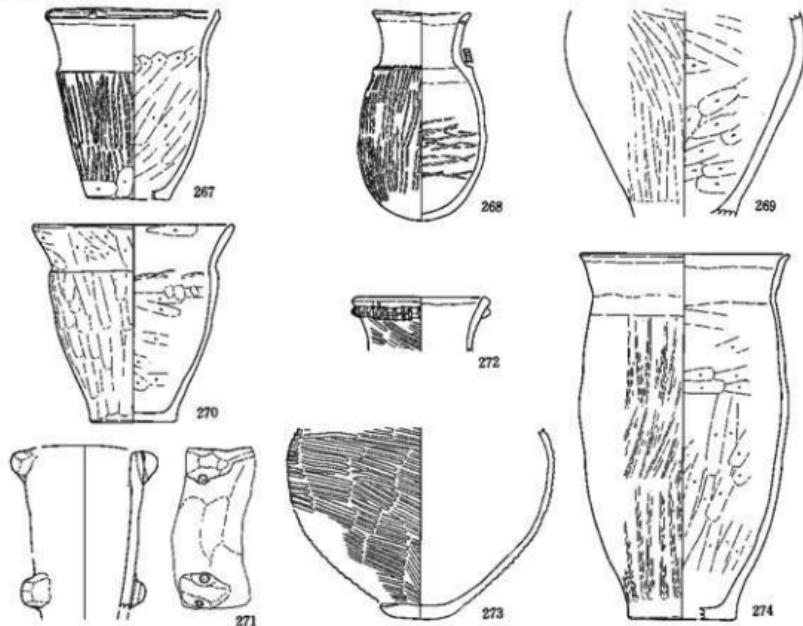


第39図 繩文時代土器24

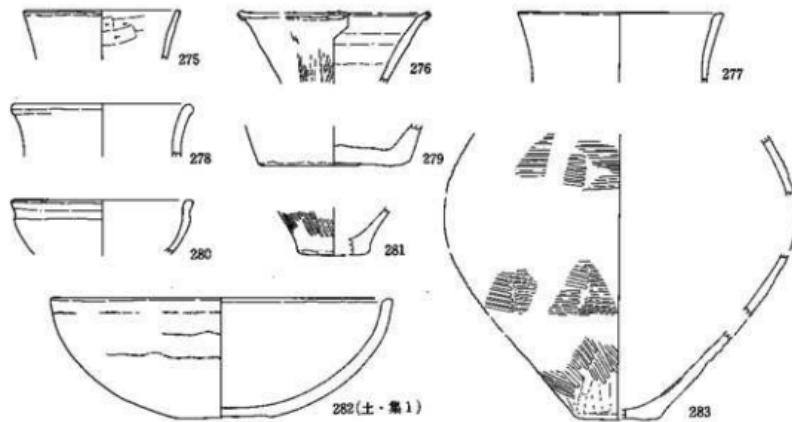


第40図 調文時代土器25

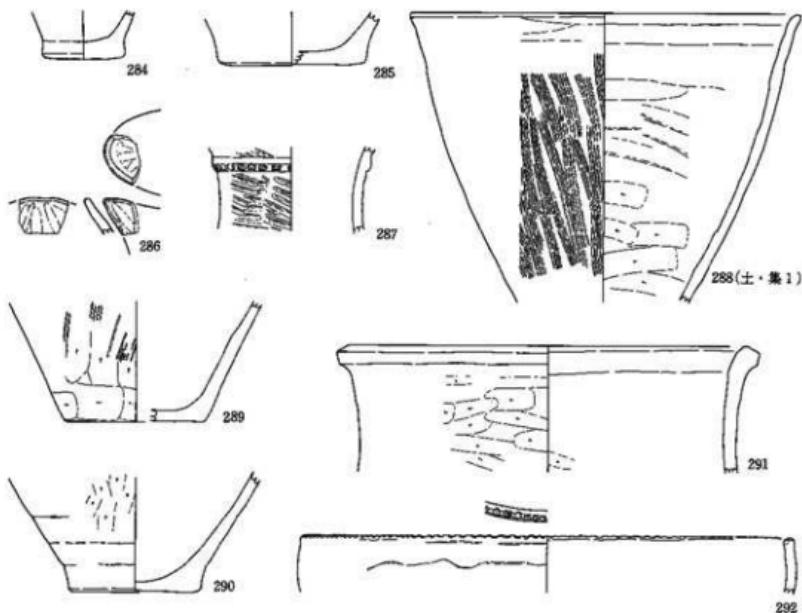
土器集中区 6



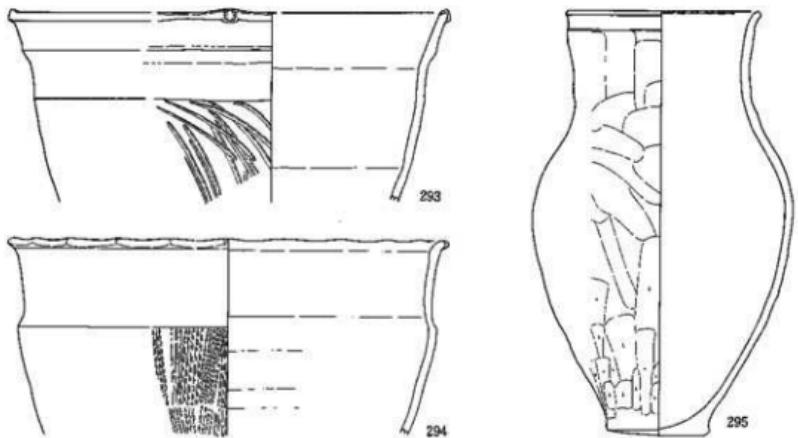
S90-W84区(土器集中区 1 合)



第41図 調文時代土器26

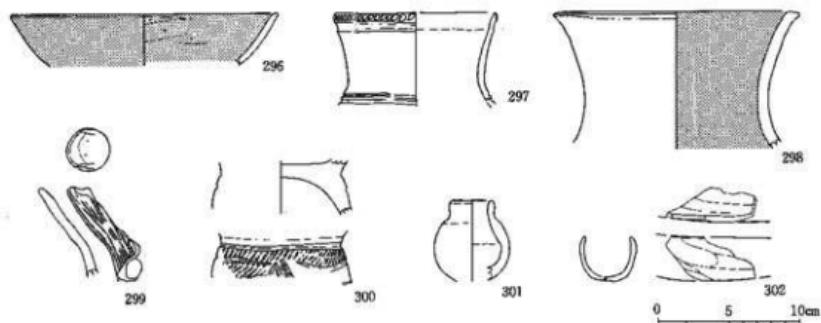


その他の遺構

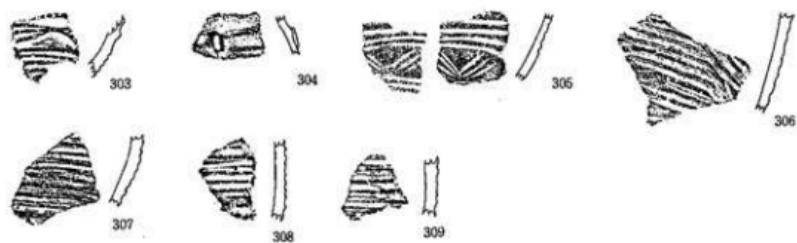


0 5 10cm

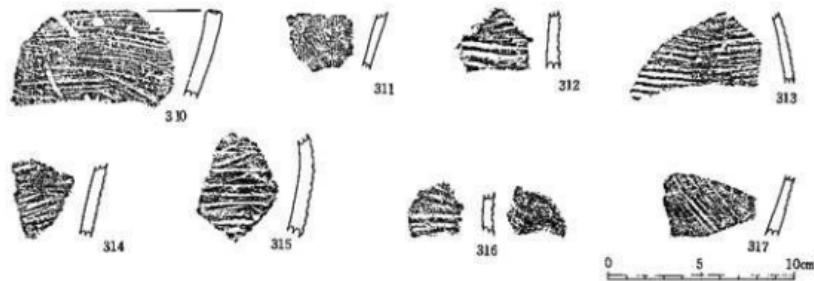
第42図 繩文時代土器(2)



土壤37

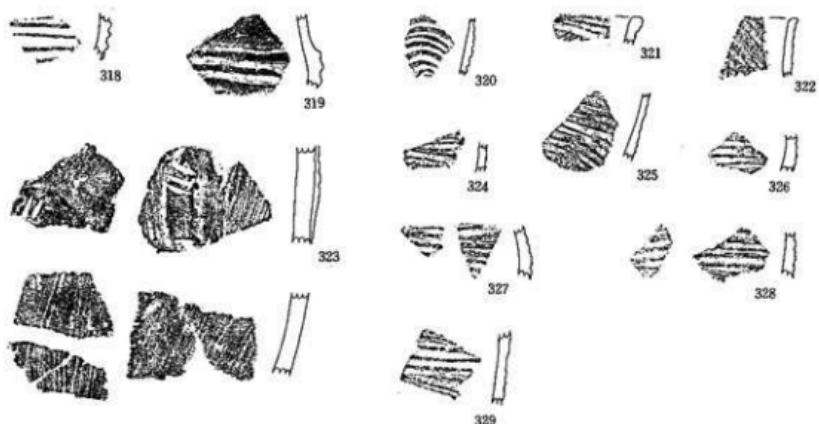


土壤56

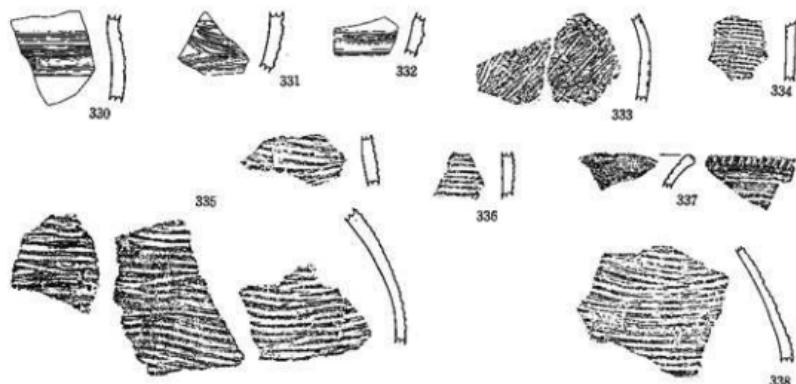


第43図 繩文時代土器20

燒土面



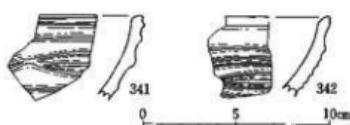
土器集中区 3



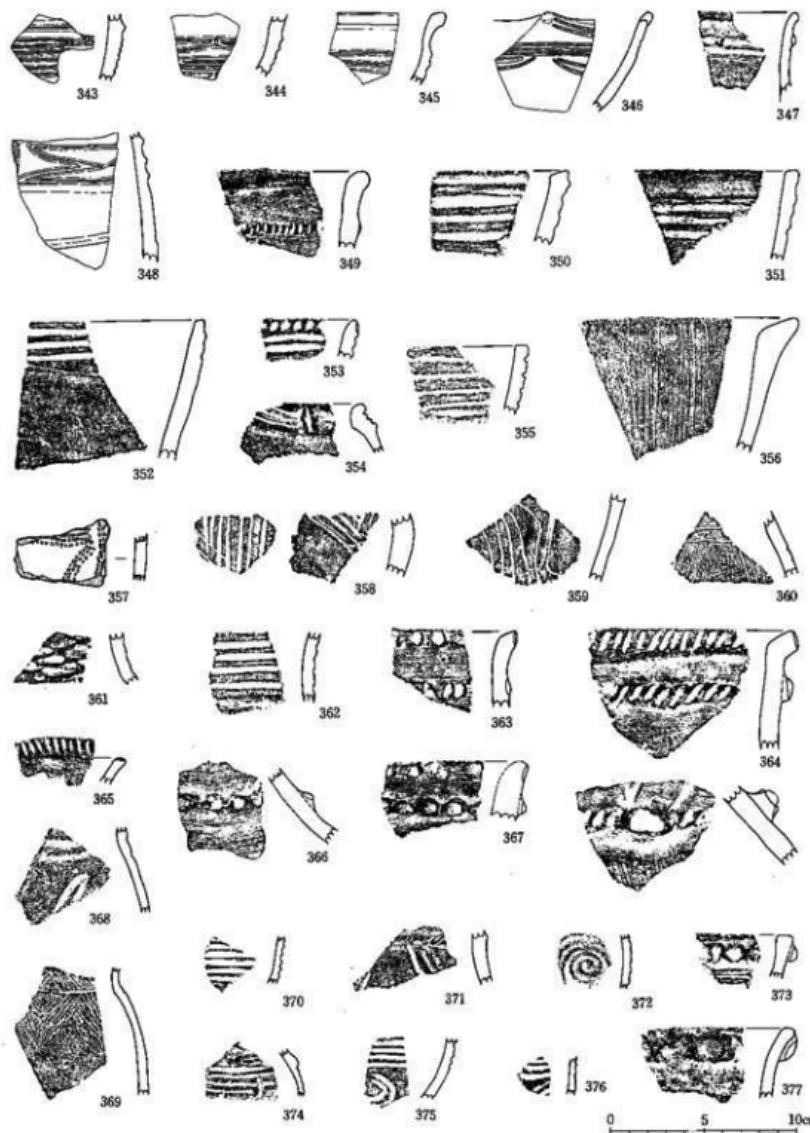
土器集中区 8



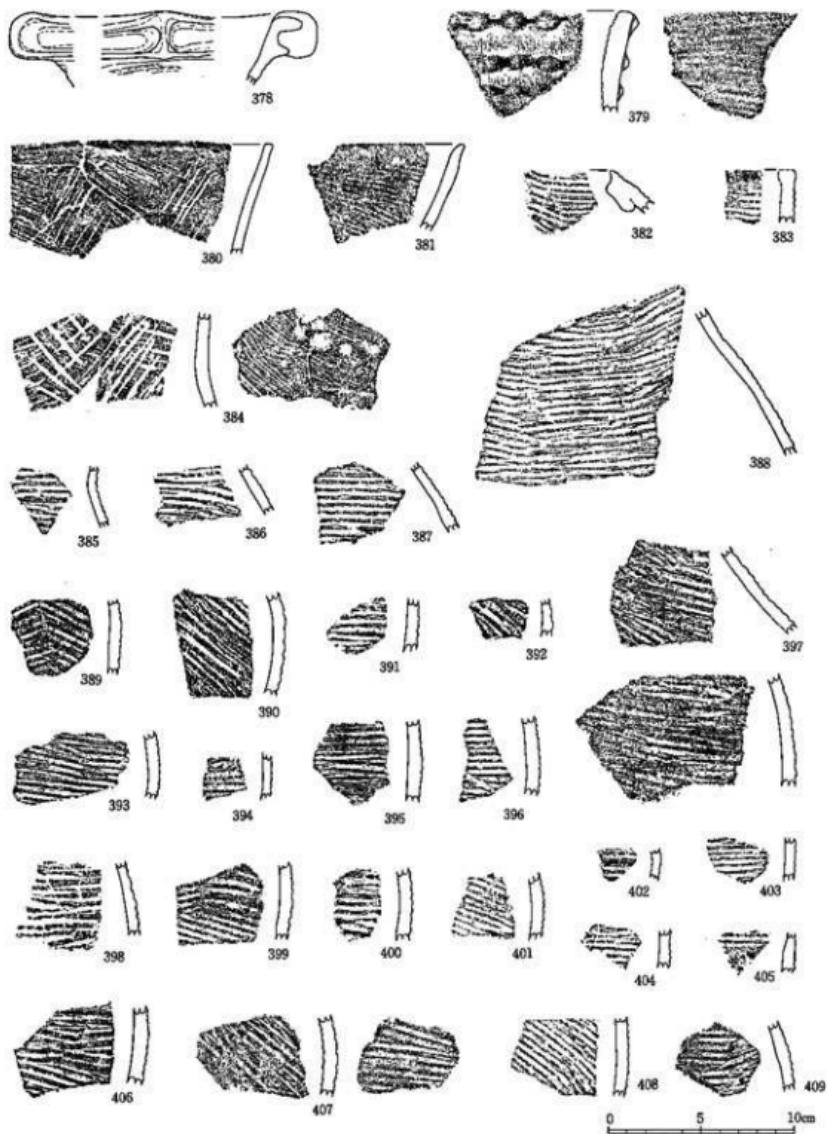
土器集中区 7



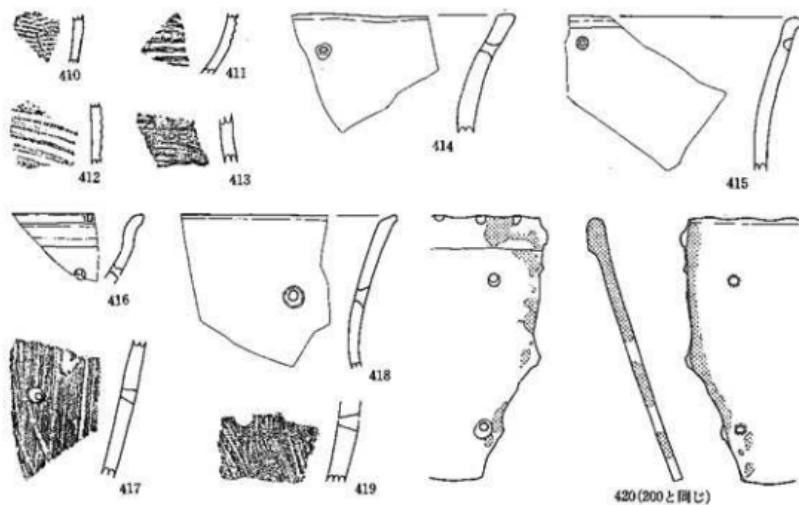
第44図 繩文時代土器29



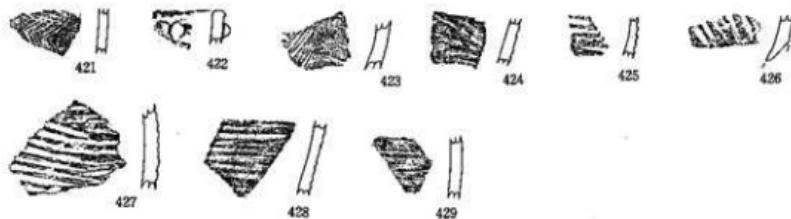
第45図 繩文時代土器30



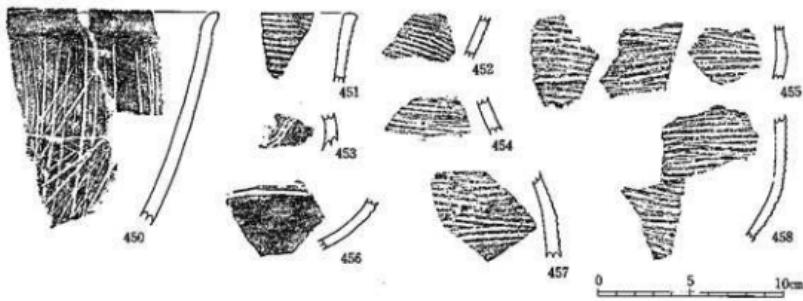
第46図 補文時代土器31



土器集中区 6

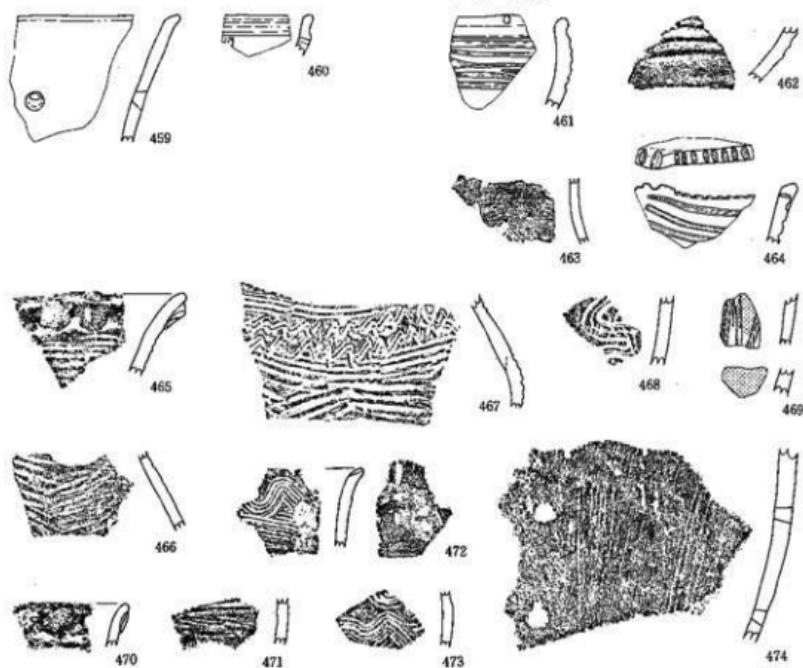


S90-W84区

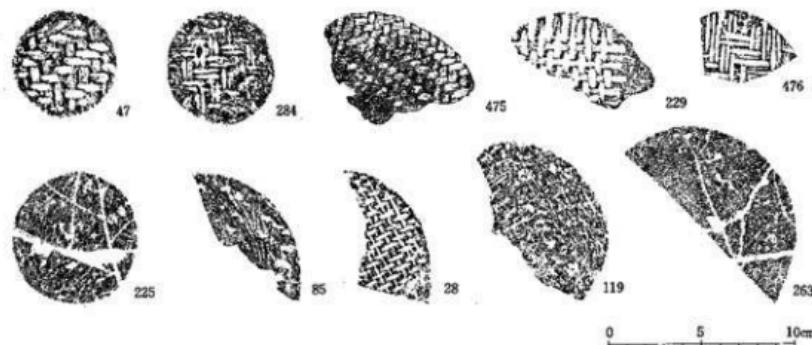


第47図 繩文時代土器32

その他の遺構



第1類土器底部拓影



第48図 繩文時代土器33

(2) 土製品（図49～56）

石行遺跡からは、71点が出土し、実測不可能なものを除き、67点を図化した。なお、これらの中には土器と土製品の区別がつかない物を一部含んでいる。

土偶（1～29）32点出土している。このうち、形態・文様の表現方法によって、頭部が2又は、3類、胸部が2類に分類できる。しかし、頭～胴部がわかる土偶は、発見されていないので、両者の関係を把握することはできなかった。

頭部1類（1～4）は、顔面が偏筋鉢形、側頭部が三角形を呈し、刺突によって、髪を表現しているものである。後頭部の横への張り出しが、結髪の表現と考えられる。1～3は、両側（耳）、後頭部、頭頂部に貫通孔をもち、紐通しにより、吊り下げられて用いられた可能性をもつ。なお、1の後頭部のみ、茎又は細竹などの中空の施文具の刺突が施されている。頭部2類（5～8）は、いわゆる有髪土偶で、目の下、鼻から頬にかけて3～5条の沈線を施しているものである。5・7は、顔面と頭部を別に作って貼りつけたもので、7には、赤色顔料の塗布がみられる。なお、9～11は、大きく横に張りだす耳をもつもので、耳の上下に貫通孔があるもの（9、11）である。顔面は、失なわれているが、2類の一部が該当する可能性をもっている。

胴部1類（12～17・18）は、肩～上腕部が2段に張り出しているもので、12は、赤色塗彩され、13以下は、張り出し部に刺突が施されている。18は、足の付根の部分に、刺突が施されている。胴部2類（19～21）は、やや幅広の胸部を持ち、片面に、1本の沈線が施されているものである。

22～27は、肩・腕・脚部の小片である。28は貼り付け痕のある顔の部分である。29も顔を表現しているものだが、裏面には貼り付け痕もなく円盤状の土製品であるが、一応土偶のなかで扱った。

頭部1・2類・胴部1類は、水遺跡⁽¹⁾のはかでも出土しており、本遺跡の時期に各地でみられるようである。なお、石行遺跡では、頭部と胴部の関係はつかめなかったが、胴部1類には、有髪土偶が伴う例があるようである⁽²⁾。こうした、土偶の違いは、目的による使い分け、使用法による違いなども考えられるが、今後の類例の増加をまちたい。

土製円盤（30～38）土器片の周囲を打削して、（不整）円形に仕上げているもの。剝離の多くは、土器の内面から6～8回行なわれている。30～34は、剝離後に剝離面を研磨している。特に、33はよく研磨が施され、断面が台形に面取りされている。土器片は、30が口縁部で、あとは、茎又は深鉢の体部が利用されている。なお30は、網状浮線文が施され、土器の96と、38は、貝殻条痕文が施され、土器の457と同一個体である。

有孔球状土製品⁽³⁾（39～45）8点出土し、7点を図化した。形態でみると、樽状（39・42・44・45）、球状（40・41・43）の2種がある。41～45は孔軸上で破損している。器面調整は、39に指頭圧痕が顕著にみられたほか、40・43は、ミガキ状の調整、その他は、ナデ調整が施される。なお、41の下部には、網代の圧痕が観察された。

その他の土製品（46～47）上記以外のものを「その他の土製品」として扱った。

46は、中空の円盤のもので、上方に孔をもち、片面には、線刻が施されている。47は、円盤に、1ヶ所孔があけられている。49~57は、棒状土製品である。50以外はすべて破損している。断面円形で、湾曲するものが多い。49・50は、貫通孔をもつもので、胎土・色調から同一個体と考えられる。53は、把手の可能性を持つものである。57は、土偶の一部の可能性をもつものである。58は、球状土製品で、外面を丁寧にナデている。59は土器の把手と考えられるもので、先端が2つに割れた施文具で3列に刺突を行っている。60は、土偶の可能性をもつもの。

61~63は、土偶・土版あるいは土器の可能性をもつもの。61・62は、1本の施文具で2例1単位の刺突を施して、文様を施しているもの。63は、刺突と沈線によって文様を構成している。64は、土版もしくは、蓋身具の一種と考えられるもの。表面には、刺突が施されている。裏面の上端は、土器のような形状を呈しているが、下端で粘土を折り返しており土器ではない。貫通孔が2ヶ所にみられる。

65は、筒形土製品である。口縁は斜めに傾斜し、下方の口縁付近に相対する位置に孔が空けられており、紐通しの穴と考えられる。外面は、ケズリのち口縁付近をナデしている。内面はナデによる調整である。

66・67は、土版である。66は上方を失っているが人字状に浅い沈線が施されている。67は、大形の土版で、断面が上方で長方形、下方で偏平円形を呈し、下方は、やや広がっていく。両面に沈線で施文している。1面は、蕨手文と2単位の弧線から文様を構成している。裏面は、多く剥落しているが、渦巻文が下方に配されている。

(註1) 永峯光一 「水道跡の調査とその研究」 『石器時代』 N° 9 1969. 6

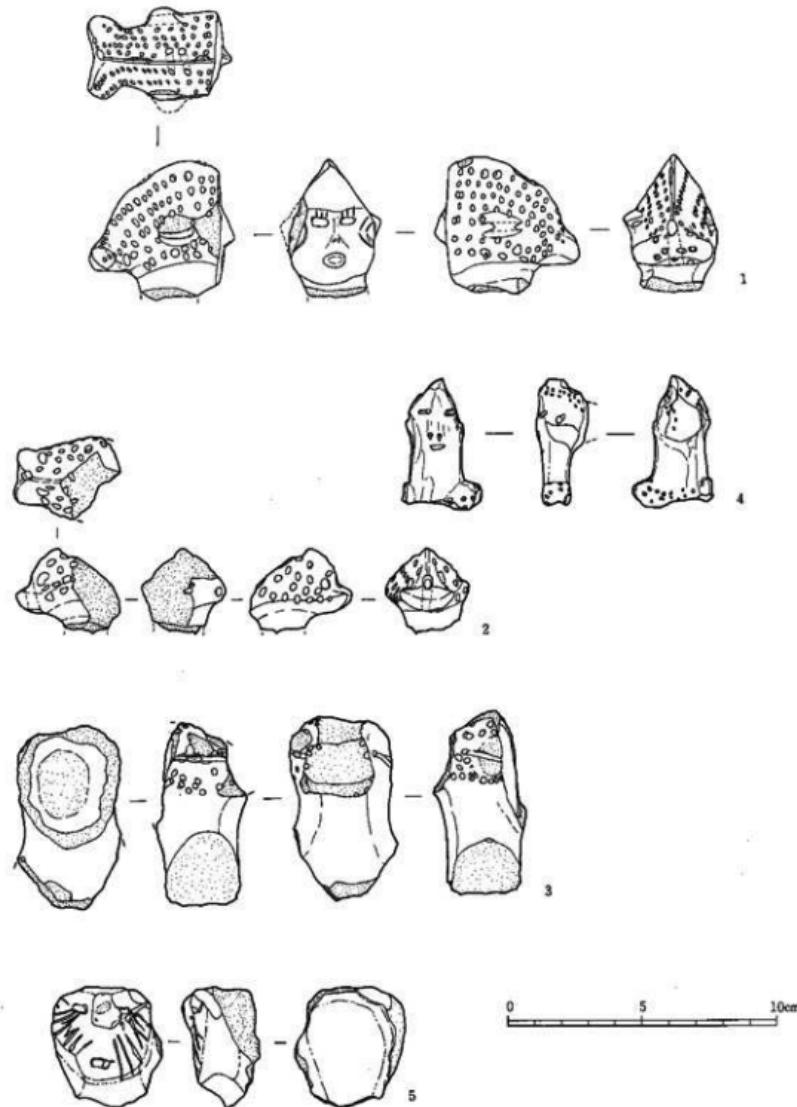
(2) 野口義賀 「土偶から埴輪へ」 P. 111 『古代史角擣』 3 講談社 1981. 12

(3) 小島俊彰 「有孔球状土製品」 『調文文化の研究』 9 嶺山閣 1983. 8

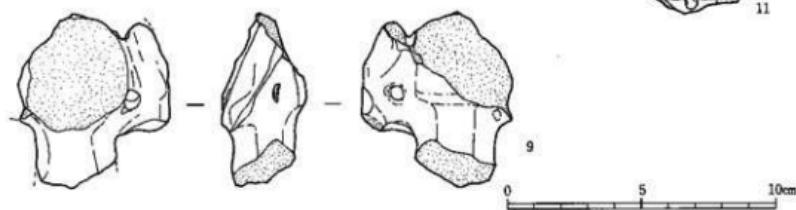
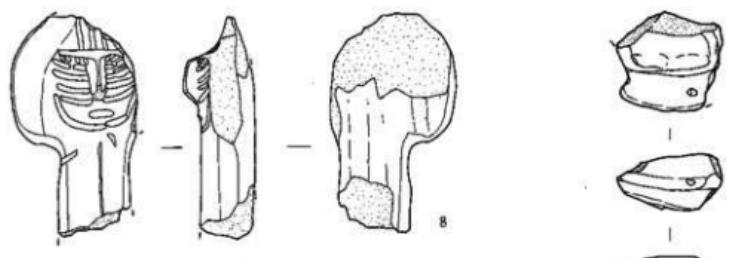
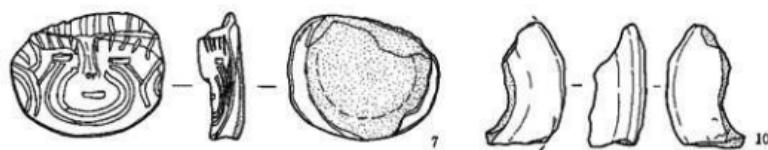
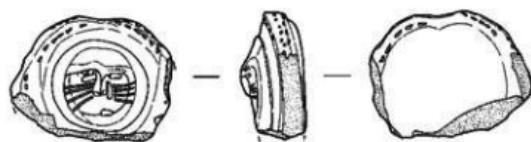
表2 土製品一覧表

目次	図版	器種	出 土	土 層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 さ (g)	備 考
1	1	土偶(頭)	S75 W81	II	(5.21)	(3.51)	5.31	(56.61)	
2	2	* (頭)	S90 W90	I・II層上	(3.15)	(3.11)	(3.76)	(19.09)	
3	3	* (頭)	S72 W72	I	(6.76)	(3.85)	(3.37)	(75.41)	顔面貼りつけ
4	4	* (頭)	土 横 23		(4.85)	(2.95)	(1.91)	(15.09)	
5	5	* (頭)	S87 W81	II・SW	(4.45)	(4.08)	(2.85)	(33.63)	顔面貼りつけ、鼻部貼りつけ
6	6	* (頭)	S54 W15		(4.68)	(5.95)	(2.38)	(51.00)	
7	7	* (頭)	S84 W90		(4.66)	5.59	(1.73)	(25.19)	顔面貼りつけ、赤色顔料塗彩
8	8	* (頭)	S78 W84	II	(8.18)	(4.62)	(2.68)	(57.75)	
9	9	* (頭)	S84 W93		(6.45)	(5.60)	(3.16)	(59.33)	顔面貼りつけ
10	10	* (耳)	S81 W93		(4.48)	(2.91)	2.09	(14.90)	
11	11	* (頭)	S84 W90	II (最下)	(3.62)	(3.82)	(2.08)	(16.66)	
12	12	* (頭)	溝7-N-1・東		(5.61)	(6.06)	(2.53)	(57.86)	赤色顔料塗彩
13	13	* (胸・頭)	土器集中区3		(6.19)	6.93	2.30	(68.17)	
14	14	* (頭・胸)	17 住	覆	(3.51)	(3.14)	(2.47)	(17.19)	
15	15	* (胸)	20 住	覆	(2.89)	(3.01)	(2.08)	(12.61)	赤色顔料塗彩
16	16	* (頭)	S75 W87	II 下	(3.18)	(3.43)	(2.48)	(22.48)	
17	17	* (胸)	土器集中区5		(2.02)	(4.65)	(2.18)	(22.54)	
18	18	* (胸)	S87 W93	II b	(7.47)	(4.13)	2.94	(73.28)	刺突文
19	19	* (胸)	S87 W81	II	(2.55)	(2.66)	1.49	(7.31)	刺突文
20	20	* (胸)	S84 W87	II 中	(3.28)	(4.15)	(1.91)	(27.74)	
21	21	* (胸)	S81 W81	II a	(6.64)	(5.65)	(2.91)	(96.79)	
22	22	* (胸)	S84 W90		(5.79)	(5.21)	2.80	(87.78)	
23	22	* (胸)	S81 W93	II	(4.07)	(3.13)	1.03	(11.45)	
24	23	* (胸)	S81 W89	II・中	(3.65)	(3.39)	(2.95)	(29.04)	
25	24	* (足)	S84 W96		(2.49)	(2.57)	(1.30)	(7.22)	
26	25	* (脚)	S66 W75		(5.60)	(3.75)	(2.83)	(52.35)	
27	26	* (脚)	S87 W78	II	(3.08)	(3.02)	(2.63)	(21.13)	
28	27	* (頭)	S78 W96	II	(2.44)	(3.41)	(2.80)	(18.99)	
29	28	* (頭)	S84 W93		(2.11)	(1.98)	(0.76)	(2.22)	顔面貼りつけ
30	29	* (頭)	S81 W96		(3.43)	(2.29)	(0.99)	(6.06)	
31	30	* (頭)	S87 W90	II b 下	(3.41)	2.92	2.31	(5.68)	
32	31	* (胸)	20 住	覆	(2.43)	2.46	2.55	(12.85)	
33	30	土製円盤	S81 W90		3.38	3.10	0.51	(5.69)	(外)浮縫繩伏文 (内)ミガキ 土器96と同個体
34	31	*	S81 W93		3.77	3.83	0.70	(3.89)	(外)細密条痕 (内)ナデ
35	32	*	S96 W105	I	2.62	2.57	0.78	(5.82)	(外)ミガキ (内) *

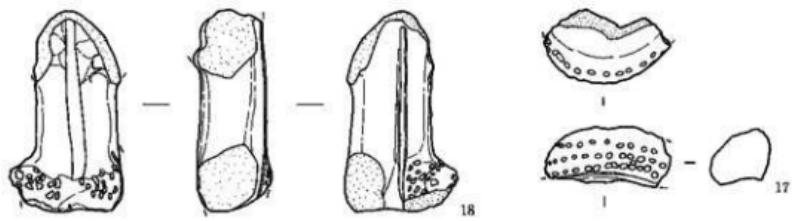
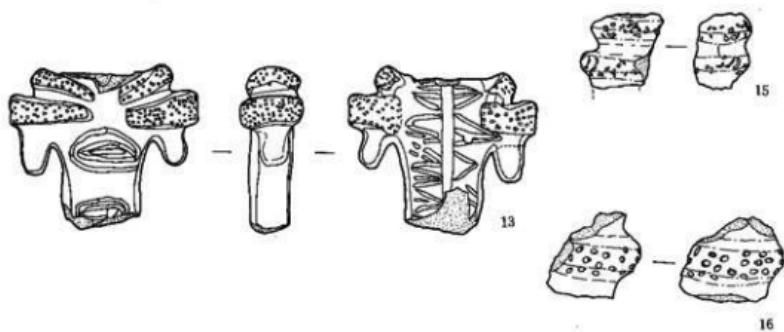
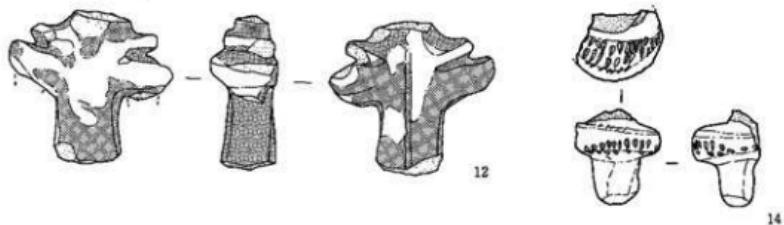
36	33	土製円盤	土 壤 37	覆・中	2.95	2.87	0.88	(7.92)	(外) ミガキ	(内) ナデ
37	34	♦	S81 W93		3.53	3.84	0.96	(12.95)	(外) ♦	(内) ♦
38	35	♦	S87 W96	II b	4.41	4.45	0.62	(16.67)	(外) ♦	(内) ♦
39	36	♦	S81 W90		4.68	4.10	0.90	(9.02)	(外) ♦	(内) ♦
40	37	♦	S84 W96		(5.09)	(5.10)	(0.94)	(29.51)	(外) 細密条痕	(内) ♦
41	38	♦	S81 W39		(5.50)	(5.49)	0.70	(23.73)	(外) 貫通条痕 土器457と同一個体	(内) *
42	39	有孔球状 土製品	S90 W96	II b	5.97	6.55	8.02	(376.21)		
43	40	♦	S90 W102	II	(6.35)	7.25	5.75	(245.96)		
44	41	♦	S75 W78	II 中	(5.73)	(5.54)	4.85	(109.98)		
45	42	♦	S81 W99	II 上	7.31	6.21	2.52	(127.22)		
46	43	♦	土 壤 29		5.87	5.59	3.74	(92.28)	赤色顔料塗影	
47	44	♦	S81 W99	II 中	4.26	4.49	3.12	(59.03)		
48	45	♦	20 住	覆	4.29	4.79	2.81	(47.41)		
49		♦	S63 W66	II	(4.89)	4.39	3.79	(50.85)		
50	46	不 明	不 明		(1.85)	(2.65)	1.39	(4.83)		
51	47	♦	S84 W93		(3.09)	(3.05)	(1.52)	(12.04)		
52	48	棒状土製品	S69 W72	I	(2.30)	(1.51)	(1.07)	(3.82)	49と同一個体	
53	49	♦	S84 W93		(4.00)	(1.44)	(1.57)	(8.52)		
54	50	♦	S90 W108	II 中	(2.97)	(0.86)	(0.79)	(1.95)		
55	51	♦	S90 W81	II	(3.44)	1.39	0.80	(4.19)		
56	52	♦	S78 W81	II 中・上	(4.65)	(1.75)	1.24	(8.37)		
57	53	♦	土 壤 38		(5.89)	1.22	1.57	(13.69)		
58	54	♦	S66 W69	I	(4.49)	(1.35)	(0.82)	(5.44)		
59	55	♦	S84 W90	II (最下)	(2.49)	(1.05)	0.89	(2.11)		
60	56	♦	S90 W78	I・II 上	(1.73)	(1.24)	(0.99)	(1.88)		
61	57	土偶?	S78 W90	II 上	(2.79)	(1.30)	(2.05)	(4.44)		
62	58	球状土製品	II 住		2.01	2.17	—	(8.15)		
63	59	把手?	S84 W90		(3.57)	1.17	1.05	(7.97)		
64	60	土偶?	S84 W93		(2.80)	(3.24)	(1.54)	(5.58)		
65	61	不 嘴	S78 W96	II	(3.80)	(4.57)	0.97	(16.84)		
66	62	♦	S78 W90		(3.98)	(3.02)	1.21	(10.70)		
67	63	♦	土 壤 58		(2.97)	(2.99)	1.04	(6.43)		
68	64	土版?	S90 W78	I・II 上	(3.83)	(2.63)	(0.78)	(8.1)		
69	65	不 明	S78 W84		(9.95)	(3.66)	(4.21)	(68.11)		
70	66	土 版	S84 W90		(6.31)	3.95	1.92	(53.97)		
71	67	♦	S84 W90		(9.97)	(5.38)	4.63	(180.90)		



第49図 土 製 品 (1)

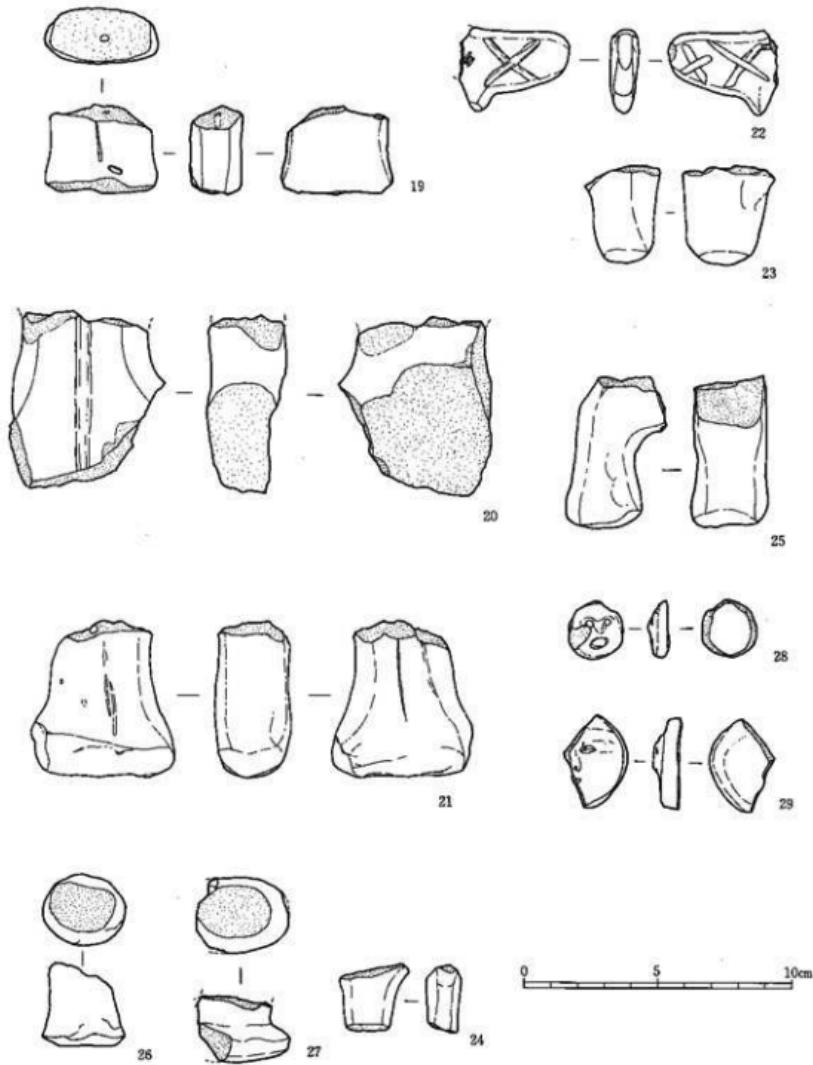


第50図 土 製 品 (2)



0 5 10cm

第51図 土 製 品 (3)



第52図 土 製 品 (4)



30



31



32



33



34



35



36



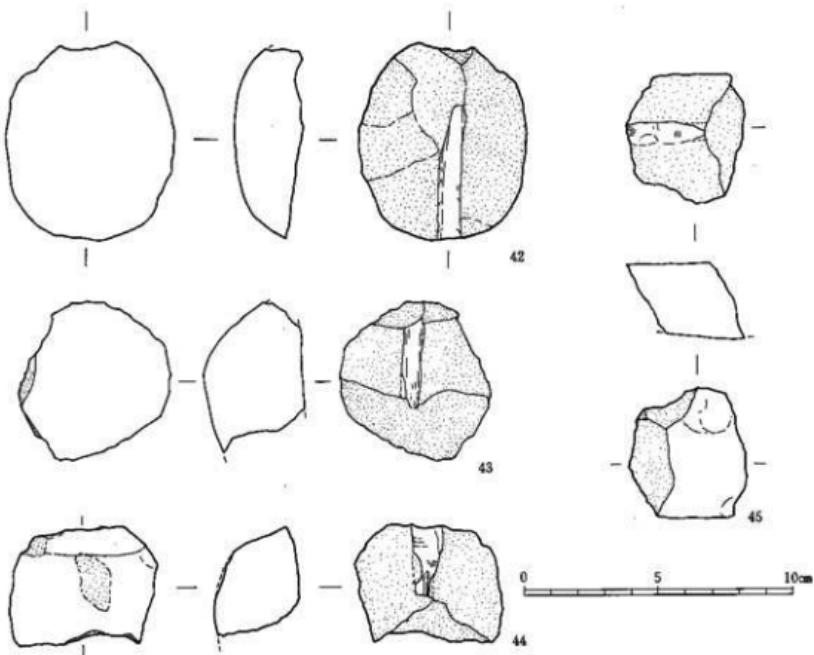
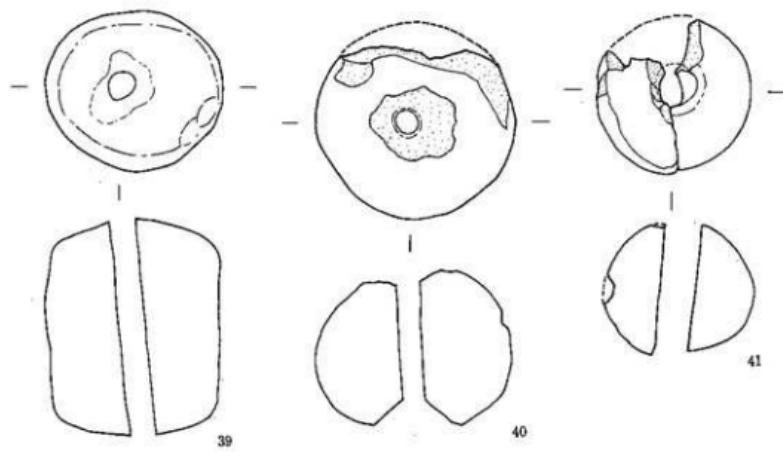
37



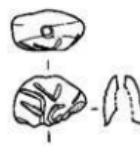
38



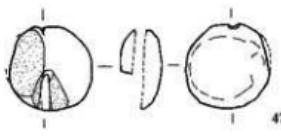
第53図 土 製 品 (5)



第54図 土 製 品 (6)



46



1

47



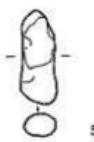
48



49



50



51



52



53



54



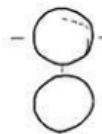
55



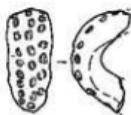
56



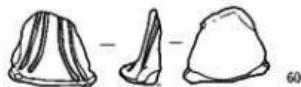
57



58



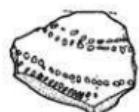
59



60



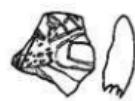
第55図 土 製 品 (7)



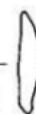
61



62



63



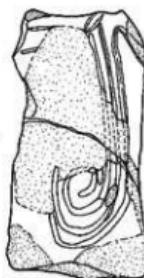
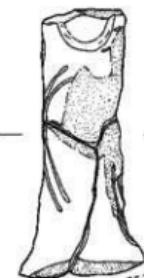
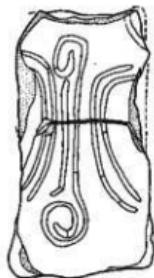
64



65



66



0 5 10cm

67

第56図 土 製 品 (8)

(3) 石器（図57～82）

石行遺跡の発掘では多数の石器が出土した。しかしながら、限られた整理時間のなかで、すべての資料を分析することはできなかった。今回の報告のなかでは、1) 石器の素材としての黒曜石・チャートの剥片、2) 2次加工を有する剥片、3) 使用痕をもつ剥片、4) 定形的な石器を扱っている。なお、本遺跡では、打製石斧、敲・磨・凹石などの素材や製作・破損に伴う剥片類も多く出土していると思われる。しかし、これらについては、今回扱うことができなかった。実測図については、定形的な石器のうち完形(に近いもの)、特徴的なものを中心に図化している。また、定形的な石器については、すべて石器一覧表のなかにデーターを提示している。本文中の石器の記述には、図番号を用いずに、器種別の通し番号を用いている。なお、石質の鑑定については太田守夫氏の御教示を受けた。

1) 黒曜石・チャートの剥片

石行遺跡においては、小形の定形的な石器の素材として黒曜石とチャートが石材選択されている。本遺跡では、黒曜石の剥片・破片が5,560点、8,617.19 g、チャートが128点、470.8 g 出土している。黒曜石は原石も数点出土しているが破片が多い。

2) 2次加工を有する剥片

黒曜石・チャートの剥片で2次加工をもつ剥片は111点、311.43 g 出土している。これらのなかには、定形的な石器の破損品の一部、未製品などを含んでいると思われる。

3) 使用痕をもつ剥片

黒曜石・チャートの剥片の縁辺部に連続する微細な剥離痕をもつものを「使用痕のある剥片」とし、1つの剥片にみられる使用痕の数、その形状から分類を行った（下表参照）。

1つの剥片にみられる使用痕は1

ヶ所のものが約85%を占めている。

素材である剥片そのものが小さく、複数の使用に適さないためと考えられる。使用痕の形状は、1・2ヶ所の使用痕をもつ剥片は、直—内弯—外弯の順で使用され、1片に3ヶ所の使用痕をもつものは、内弯—直—外弯の順となっている。次に、使用痕の剥離痕を刃こぼれ(片面)、刃つぶれ(両面)でみると、刃こぼれのものが圧倒的に多い。これらから、使用痕をもつ剥片は、連続する小剥

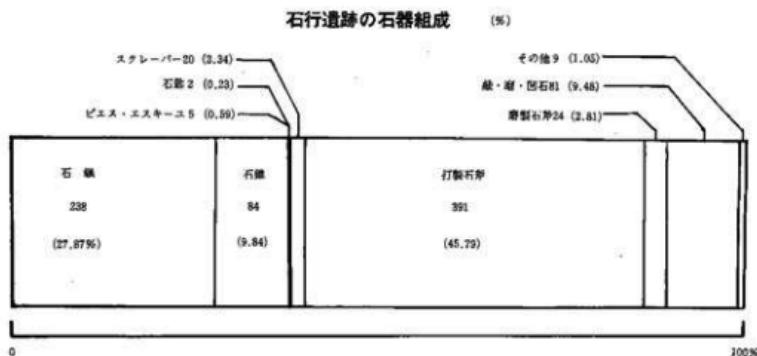
使用痕のある剥片一覧表

区分 使用 痕 数	内 弯		直		外 弯		剥片数	
	刃こぼれ	刃つぶれ	刃こぼれ	刃つぶれ	刃こぼれ	刃つぶれ		
1 数	395	47	883	130	157	55	1667	
	%	23.70	2.82	52.96	7.80	9.42		
2 数	159	30	203	54	86	18	275	
	%	28.91	5.45	36.91	9.82	15.64		
3 数	12	3	10	3	11	3	14	
	%	28.58	7.14	23.81	7.14	26.19		
合 計		566	80	1096	187	254	76	1956
		%	25.06	3.54	48.52	8.28	11.24	

難痕が直線的な刃部を呈するものが典型的なものといえるだろう。

4) 定形的な石器

1) ~ 3) を除いたものを定形的な石器として扱った。石器の組成・出土点数・比率は下記のグラフの通りである。



石行遺跡では、総数854点の定形的な石器が出土している。そのうち、石鏃と打製石斧が特に多く、二者で全体の7割以上を占めている。この石器の組成のあり方は、石行遺跡とほぼ同時期にあたる御社宮司遺跡の石器組成と非常によく似ている。

以下、器種別にみていくことにする。

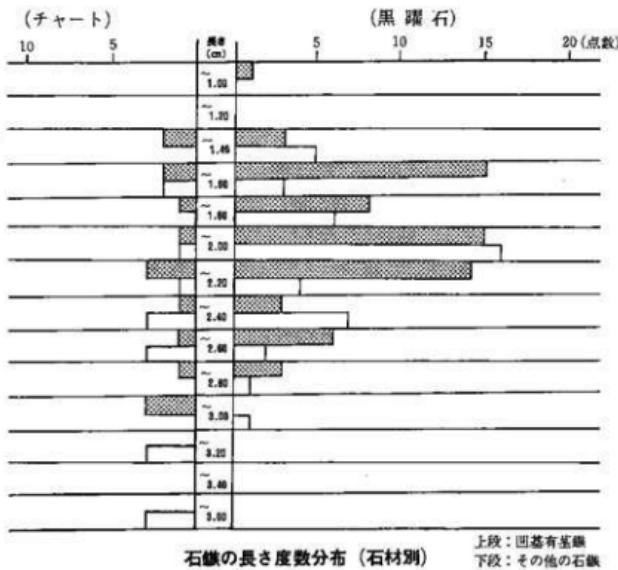
①石鏃 (図57~61)

238点出土し、107点を図化した。石鏃は基部により分類が可能である。基部が識別できる199点のうち、凹基有茎128点、同無茎25点、凸基有茎10点、同無茎3点、平基有茎9点、同無茎18点、円基8点である。凹基有茎が64%を占めている。こうしたあり方は、御社宮司遺跡などと同じである。

凹基有茎のなかには、一般的なものはかに、その時期にしばしばみられる側縁に段をもつタイプや飛行機鏃と呼ばれるタイプが混在している。形態的には非常にバラエティーに富んでいる。

凹基無茎は全体の12.5%を占めている。このなかには、いわゆる5角形鏃 (2・31) も含まれている。残りの凸基・平基・円基はいずれも少數であるが、そのなかでも平基無茎が多い。また、平基・円基のなかには、器厚の厚い大形品がいくつかみられる。

石鏃の石材としては、黒曜石・チャート・安山岩が使用されている。安山岩製2点、チャート製37点、残りは黒曜石製である。次に、黒曜石・チャートと石鏃の基部・大きさとの関係を調べたのが、次頁のグラフである。黒曜石を素材とする石鏃では、長さ2cm前後に集中しているが1.6cmにも1つのピークをもつ。一方、チャート製の石鏃は、凹基有茎でないもの (円基・平基など)



が多く、しかも大形品が多い。石鏃の製作にあたっては石材による規制があったことも考えられよう。なお、209は先端破損後に再調整を施しているもの。103は、先端がふたまたに分れている特殊な石鏃である。

②石錐（図61～63）

調整剝離によって先頭部を作り出している石器のうち、石鏃を除いたものを石錐として扱った。石錐は84点出土し、52点を図化した。

石錐の石材は、黒曜石製79、チャート製3、砂岩製1、安山岩製1点である。石鏃以上に、石材選択が行われている。

石錐はつまみの有無によって大きく2種類に分けられる。つまみを有するもの（1類）は、指で保持し突き錐又は回転錐として使用したものだろうし、つまみをもたないもの（2類）については指による保持のほかに、着柄による棒錐一握り錐が考えられるだろう。石行遺跡についても両者は混在する。つまみの有無が不明な13点を除くと、1類13点、2類56点である。

1類ではつまみが錐部からしだいに幅をひろげていくものが大半である（16・32・34など）。11はく字状につまみと錐部が屈曲している。錐部の調整剝離が念入りに行われているのに対して、つまみ部は素材の主要剝離面を大きく残し、調整は雑なものが多い。概して、1類の方が2類より大きい。錐部の断面は三角形・ひし形を呈するものが混在している。前者は片面加工（又は片面に調整

剝離が集中している)の石錐、後者は両面加工の石錐が多い。

2類は両面加工の棒状を呈するものが大半である。これらの中には磨耗痕を伴うものが26点ある(他に1類で錐部に磨耗痕を多すもの—70が1点出土)。磨耗痕は錐部先端と頭部の2ヶ所に集中している。その内訳は、錐部先端21点、頭部1点、2ヶ所にもつものの4点(2・3・56・83)である。錐部の磨耗痕は剝離面のなかにみられることではなく、剝離面の切り合いで生じた稜線上にみられる。しかも、最も突出している部分に顕著に磨耗がみられる点が共通している。これらのことから、この磨耗痕は石錐を回転させて使用していること一円運動の場合には先端と突出部が加工対象と接触することになる—によって形成されたものと考えられる。頭部の磨耗痕は、頭頂部にも顕著にみられる。また、錐部のような尖頭状を呈さないもの(1・36)にもみられる。磨耗の度合は錐部のそれよりは激しくない。頭部の磨耗痕は石錐の両端を錐として使用された結果とも考えられるが、棒錐として使用するときの着柄痕の可能性を考えたい。その場合、磨耗痕が頭頂部にもみられることから、差し込み式の着柄が考えられよう。

なお、本遺跡では石鏃を除く尖頭状を呈する石器を石錐としたため、突孔具でないものも混在している可能性がある。今後の分析課題である。

③石匙(図64)

2点出土している。1はやや片側につまみがよっている、刃部が外彎する横形の石匙。風化が激しいが、横長剝片を素材にしていると考えられる。主要剝離面側は、つまみと上辺のみが剝離を加えられている。そのため、刃部の調整は背面側に集中し、片刃を呈している。硬砂岩製。

2はほぼ中央につまみを有し、刃部が内彎する横形の石匙。刃部はつまみに対してわずかな傾斜をもつ。黒曜石製。

④ビエス・エスキュー(図64)

5点出土している。1・2・4は平面が方形、断面が筋錐形を呈するもの。1は上方からの加熱によって、上半が大きく厚さを減じている。4は、両面に90°直交する両極剝離をもつもの。腹面は4辺にわたって剝離がみられるのに対して、表面は上下方向の剝離のみである。3は截断により平面形は不明、断面は筋錐形を呈するもの。5はおそらく平面は方形を呈していたと考えられる。背面左側縁に2次加工を有している。1・3・5は截断面をもつ。すべて黒曜石製である。なお、本遺跡では石器の観察を行えなかったので、2次加工・フレークのなかにビエス・エスキューが混在していると思われる、実際の数はもっと多いと考えられる。

⑤スクレーパー(図65~66)

20点出土し、17点を固化した。石材は主に(硬)砂岩が用いられている。形態・大きさなどから2類に分類できる。

1類(1~5・8・9)は、平面が長方形を呈し、下端に直線的な刃部をもつ打製石包丁様の石器。素材は、3で縦長剝片が用いられている他は、横長剝片を使用し、剝片の末端を刃部としている。

る。2~4は自然面を残している。調整剝離は上下の側縁部に集中している。3・4の縦断面は筋錐形を呈し、上下端とも薄く仕上げている。1・2・5・8・9は、上側面の剝離は下側面の刃部調整に比べて荒く、おそらくは形を長方形に成形するための剝離であろう。また、1の上側面の剝離は弥生時代の打製石包丁の背つぶしの調整に類似している。左右側縁の調整は、剝離を1・2回施すだけである。

2類（7・11・12・14・16）はいわゆる横刃型石器と呼ばれるものである。いずれも、背面に自然面を残している。14は成形剝離が丁寧に行われ平面が3角形状に仕上げられている。刃部は階段状剝離により、厚さを減じている。16は刃部を欠いているが、14と同類のものであろう。

そのほかに、剝片の末端部を利用した刃部をもつものが数点出土している。

なお、18は上半を欠損しているが、周囲を方形に成形剝離し、側縁から幅3~5ミリを研磨しているものである。研磨は両面に施され、刃部のある下辺では稜がつくり出されている。厚さが余りないことや、他に類例をみないのでこの項で扱ったが、磨製石斧の可能性ももつものである。

⑥打製石斧（図67~73）

本遺跡の定形石器中、最も多く出土した。総数は400個を超えた。完形品は98点である。以下に資料が多いので、完形品を中心に、総括的に記述する。製作面からは、平面形、大きさ、自然面、石材について、使用面からは使用痕と破損についての若干の観察、分類を行った⁽¹⁾。個々の遺物の特徴については一覧表を参照されたい。

a 平面形

側縁形と刃縁形との組み合わせにより、以下のように分類した。側縁形、I：撥型、II：胴膨短冊型、III：平行短冊型、IV：分銅型、刃縁形、A：直刃、B：円刃、C：偏刃である⁽²⁾。

右表に全416点の平面形別個体数を示した。刃縁形では、刃縁形の明確な個体总数中、B型が167点(68%)を占める。側縁形ではI形が最も多く、IV型は非常に少ない。また、完形のみを見た場合、II、III型を短冊型として一括した場合、I型とはほぼ同数となる。

b 大きさ

完形品のみでは、長さ5.5cm~18.69cm、幅2.83cm~8.91cm、厚さ0.94cm~3.2cm、重さ14g~452gの範囲におさまる。しかし、破損品の中には、長さ20cm以上、幅9cm以上のものもあり、大きさにより、使用目的が異っていたと考えられる。大きさの把握可能な遺物のみから、以下のように4つのグループに分けることが出来る。

1：長さ9cm以下、幅3cm前後以下、厚さ1cm前後のもの

2：長さ9cm以上12cm未満のもの

打製石斧の平面形別個体数

	I	II	III	IV	不明	計
A	11	6	7	0	5	29
B	74	24	42	1	26	167
C	20	8	17	1	4	50
不明	44	5	13	0	103	165
計	149	43	79	2	138	411

3：長さ12 cm 以上15 cm 未満のもの

4：長さ15 cm 以上のもの

側縁形別に大きさを比較すると、長さに関しては各型ともそれほど違いはない。しかし、大型品はI型に比較的多い。III型にもNo. 10のような大型品はあるのだが、I型に比べて、III型は平均して、幅が小さい。また、最小のものもI型に属する。

またNo. 74のように、一度石斧中央付近で折れたものにわずかに調整を加え、再利用したと考えられるものもいくつかある。

c 自然面

完形品のみで自然面のあり方を観察した。少しでも自然面を残すものは全体のおよそ66%を占めている。側縁形別にまとめたものが右表であるが、自然面の有無は側縁形によってそれほど差があるものではない。自然面の残り方はNo. 61, No. 71のように背面一面に残っているもの、No. 16のように基端面にのみ残っているもの、側面にのみ残っているものなど、様々である。

次に、本遺跡では、反っている打製石斧はあまり無かったが、反りと自然面との関係について見てみると、No. 80のように外湾している自然面を持つもの、No. 90のように、内湾している自然面を持つものがある。

本遺跡の遺物を見た限りに於ては、自然面を利用する為に意図的に選び、残す場合もあるが、加工し易い石の部位を選び、加工した結果、意識するしないに関わらず自然面が残った、という場合が多いようである。また、両面に自然面を残すものもあり、一枚の平な丸石を材料に打製石斧を作成することもあったようである。

d 石材

右表は本遺跡打製石斧の原材料とした岩石の種類と、遺物製作に使用された個々の岩石種の遺物全体量に占める割合を表したものである。表中に示されている岩石はすべて、本遺跡付近で普通に手に入れられるものばかりである。2点蛇紋岩製のものがあるが、この石材は本遺跡近辺では産出しない。

e 使用痕

刃縁部が磨耗しているものがいくらか見られた。

また、刃部付近に線条痕を残すものもいくつかある。線条痕の方向には二種類ある。一つは刃部線と直交しているもの（No. 29, 41, 46, 56）他の一つは、刃縁に平行しているもの（No. 88, 230）である。前者はI, II, III型に比較的普通に見られる。後者はIV型に一つ、III型に一つ見られる。この方向に走る使用痕は、打製石斧を土掘具以外の用途に使用

打製石斧の側縁形別自然面数

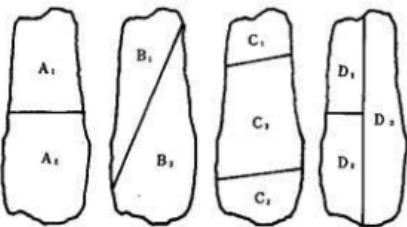
側縁形 自然面	I	II	III	IV	計
無	22	6	10	0	38
有	33	13	12	2	60
計	55	19	22	2	98

岩石名	全遺物中の割合
砂岩	31.1%
硬砂岩	28.2%
ホルンフェルス	22.6%
安山岩	3.4%
玢岩	3.4%
千枚岩	2.2%
石英閃緑岩	2.2%
その他	7.9%

した場合もあったことを示している。

f 破損

破損部位を右図のように類型化し、統計をとった。破損していないものは106点と、全体の25.8%のみである。部位別ではA₁（上半部）の破損が目立つ。またC₁ C₂（基部から胴部）の破損が次に多い。基端を含む部位と刃部を含む部位の破損量を比較すると、前者が192点、後者が88点と、前者は後者のほぼ2倍の量となる。小田の述べるよう⁽³⁾に基端部を含む部位は、器が破損した後、その柄と共に持ち去られ、刃部のみが使用された場所に残されると考えるならば、以上に述べたことは、本遺跡の性格を考える上で一つの重要な資料となるであろう。



打製石斧の破損部位

打製石斧破損部位別個体数

	なし	A ₁	A ₂	B ₁	B ₂	C ₁	C ₂	C ₁ C ₂	C ₂ C ₃	D ₁	D ₂	D ₃	D ₁ D ₂	D ₂ D ₃	その他	計		
個体数	107	73	40	2	0	26	24	29	48	23	2	0	0	0	1	0	37	411

⑦磨製石斧（図74～76）

24点出土し、23点を図化した。その内訳は、定角式磨製石斧2点、乳棒状石斧19点、その他1点、不明2点である。定角式の割合が非常に少ないので特徴である。なお、定角式磨製石斧は弥生時代中期前半までは残るようである。

定角式磨製石斧—1・7とも刃部のみが出土している。研磨は丁寧に施され、1は両刃で斜長岩製。7は片刃で、刃端部に使用の際に生じたと考えられる刃こぼれがみられる。閃緑岩製。

乳棒状磨製石斧—長い棒状の体部をもち、刃部が蛤刃状を呈するもの。頭部は細く、刃部に近づくにつれ幅広になる。断面は横円形である。刃部の形状は、幅がせまく平行する側縁をもつタイプ（11・24・17）と、幅広で側縁が平行かわずかに八字状に広がるタイプ（5・13・15・18・24）がある。特に、後者は弥生時代の太形蛤刃石斧と極似している。乳棒状磨製石斧の多くは体部にアバタ状の敲打痕を残している。石材としては閃緑岩が選択されている。なお、4は1度破損した石斧の両側に成形剝離を施し、体部に敲打を加えはじめた段階と考えられるもの。本遺跡の乳棒状石斧は頭部が細く棒状を呈する点で太形蛤刃石斧と断絶を持つが、閃緑岩系統の石材を選択する点で繼承性をもっているといえよう。

20は刃部を欠いているが、反りをもつノミ状の磨製石斧。敲打痕を残しているが両面ともに刃部のある下方はよく研磨され、敲打痕のみられない平坦な面を形成している。特に、片面は幅1~1.8cmで頭部近くまで面とりされている。

3・10は磨製石斧の可能性をもつもの。3は欠損部分がいわゆる折れではなく平坦になっている。両面に研磨痕が観察されることから一応磨製石斧として取りあげた。雲母片岩製。10も研磨痕がみられる刃部片である。石墨片岩製。

⑧敲・磨・凹石・石皿（図77~81）

82点出土しており、完形・残存部分の大きいものを中心に39点を図化した。実測図では、磨面を……（平面）、←→（断面）で、敲打痕は←→で表現している。これらの石器は凹石や一部の石皿を除いて、自然石を積極的に加工することなく、そのまま使用されることが多い。そのため、使用頻度が多ければ磨面・敲打痕（面）が形成され、石器として識別しやすいが、使用頻度の少ないものは石器と自然石の区別がむずかしい。したがって、実際の数量はもっと多いと考えられる。

敲石・磨石・凹石とされているものは、単独で敲打痕・磨面・凹部をもつものもあるが、複数の組み合わせをもつものも多い。そのため、器種として敲石・磨石・凹石と区別しないで、自然石に観察された敲打痕・磨面・凹部を一覧表で表した。

磨面は、敲打痕・凹部に比べて単独でみられることが多い。敲打痕は、単独でみられることもあるが、磨面・凹部との組み合わせでみられるものも多い。凹部は磨面・敲打痕との組み合せでみられるのが大半である。このうち、磨面と凹部は、平坦な面にみられ、敲打痕は、碟の上下端、側縁部に観察される。これらの石器は、平面形、断面形、使用痕の組み合せなどで分類が可能であり、今後の課題である。石材としては砂岩が大半であるが、石英閃緑岩も利用されている。7は乳棒状の磨製石斧の可能性をもつもの。15は、偏平な円盤を素材としたもので、両面中央に凹部をもち、さらに円盤の周囲から剝離を加えている。剝離面の1枚が凹部を切っている。環状石斧の未製品（の放棄されたもの）の可能性をもつものである。

石皿としては38・49が出土している。

⑨その他の石器（図82）

上記以外の定形的でない石器を一括して、「その他の石器」として扱った。9点出土している。1は、石鎚様の尖頭部を上下にもつもの。背面は自然面を有し、主要剝離面側から調整剝離を施して尖頭状に仕上げている。砂岩製。2は、破損した磨製石斧を再加工したスクレーバー状のもの。下方には磨製石斧の刃部だった研磨痕をわずかに残している。両側を調整剝離により直線状に体部を整えている。特に、右側縁は連続する小さな剝離が施され、刃部を形成している。この剝離は上方の破損面を一部切っており破損面は磨製石斧として使用された際のものと考えられよう。玢岩製。3は浅い弧状を呈するもの。両面にわたって細かな調整剝離を施して形を整えている。特に、片面は中央に稜が作りだされ、そのため断面は下辺がややふくらむ三角形を呈している。なお、縁辺の

全体にわたってつぶれがみられる。黒曜石製。4は、2次加工を有する縦長剣片である。背面はほぼ平行する2条の稜があり石刃状を呈している。腹面は上からの加熱による1枚の主要剣離面で、さらに両側に剣離が加えられている。特に、主要剣離面の右側辺に連続する剣離が施されている。この間には、さらに小さな剣離面がみられ、刃部としての調整剣離、もしくは使用痕として考えられよう。黒曜石製。

5～9は、円又は橢円形の自然礫の両面の中央に凹みを施しているもの。5点とも凹部のところで破損している。この凹部は敲打によってつくり出され、6・8・9は敲打の際による破損と考えられる。5・7は両面の凹部が中央で貫通しており、さらに凹部の敲打痕が研磨されている。さらに、5では貫通部分が円形になるよう面取りされている。このことから、凹部の形成は環状の石器を製作する工程の一部と考えられる。なお、これらは橢円形の礫も石材選択されていること、小ぶりのものがあること、貫通孔が小さいことなどから、環状石斧とは別のものと考えられ、環状石製品などと呼ばれるものである。5が花崗閃綠石、他は砂岩製。

註(1) 本遺跡は茅野市御社宮司遺跡とほぼ同時期にあたり、打製石斧の出土量も類似する。よって遺物の組成、分類にあたり、和田(1972)を参考にした。

(2) 平面形の分類基準は、和田(1972)に沿ったが、IV分類型について今報告では若干基準を変えた。石器長軸に対し、斜めもしくはそれに直交する形で着柄されたと考えられるなどの深いえぐりが基部中央付近にあらものを、IV型とした。

(3) 小田静夫 1976「縄文中期の打製石斧」『どるめん』10号

参考文献

永澤光一 「木道跡の歴史とその研究」 『石器時代』第9号 1969.6

和田博秋ほか「長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書—茅野市そわ5」昭和52・53年度— 1972.2

『縄文文化の研究』7 道具と技術 増山園 1963.5

表3 石器一覧表

石 鐵

No.	出 土	土 層	基 部	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
1	S90・W87	II	凹・有	1.61	1.57	0.34	0.55	黒曜石	基部先端欠	
2	S87・W90	II c	凹・無	3.28	1.8	0.38	1.8	チャート	先端欠	5角形様
3	S66・W72		凹・有	1.57	1.02	0.28	0.35	黒曜石	完	鋸
4	S90・W81	II・上	凹・有	1.48	1.15	0.24	0.25	黒曜石	片脚端欠	
5	S63・W66		凹・有	1.06	0.89	0.18	0.1	黒曜石	完	
6	IV区土塁3		平・有	2.31	1.51	0.42	1.15	黒曜石	×	
7	S69・W69	II	凹・有	1.69	1.09	0.27	0.35	黒曜石	×	
8	S63・W72		凹・有	2.01	1.41	0.34	0.65	黒曜石	×	
9	S83・W72		凹・有	1.98	1.32	0.32	0.55	黒曜石	片脚端欠	
10	S87・W90	I・下(II)	凹・有	2.07	1.37	0.33	0.55	黒曜石	完	有段
11	S87・W90	I・下(II)	凹・有	1.93	1.3	0.41	0.7	黒曜石	片脚欠	
12	S63・W72		凹・有	1.77	1.19	0.27	0.55	黒曜石	先端欠	未製品
13	S72・W69	I	円	1.5	1.41	0.47	0.75	チャート	完	
14	S87・W81	II	凸・有	2.71	1.17	0.41	1.15	黒曜石	×	石錐か?
15	S87・W81	II	(2.01)	1.47	0.3	0.5	黒曜石	基部欠	有段	
16	S87・W81	II	凹・有	1.29	1.05	0.32	0.35	チャート	先端・基部欠	
17	S90・W84	II	不明	2.34	1.77	0.47	1.53	黒曜石	—	未製品
18	S87・W81	II	不明	(1.11)	(0.69)	0.25	(0.1)	黒曜石	下部欠	
19	S66・W69	I	平・無	1.59	1.03	0.3	0.35	黒曜石	完	
20	S87・W72	I	凸・有	1.94	1.99	0.38	0.55	チャート	×	
21	IV区土塁		凹・有	2.13	1.17	0.28	0.35	黒曜石	×	
22	S93・W72	I	凹・有	1.99	1.37	0.36	0.65	黒曜石	×	
23	S87・W90	I・下(II)	不明	(1.94)	(0.95)	0.3	0.65	黒曜石	片脚・基部欠	
24	IV区土塁4		凹・有	2.19	1.5	0.46	1.05	黒曜石	完	
25	S84・W90	II・b	凹・有	(1.86)	1.22	0.3	(0.5)	黒曜石	基部欠	
26	S72・W69	I	凹・有	(1.73)	(1.17)	0.36	(0.55)	黒曜石	片脚・基部欠	
27	S66・W66	I・II・上	凹・有	1.84	1.41	0.35	0.65	黒曜石	完	
28	S66・W66	I・II・上	凹・有	1.43	(0.98)	0.37	(0.4)	黒曜石	片足欠	
29	S87・W84	II・上	平・無	(1.9)	1.59	0.58	(1.5)	黒曜石	先端・片脚欠	
30	S84・W90	II・b	×	1.91	1.4	0.52	1.1	黒曜石	完	
31	S84・W90	II・b	凹・無	1.74	1.36	0.28	0.55	黒曜石	×	5角形様
32	S66・W72		不明	(2.9)	(1.69)	0.32	(0.95)	チャート	先端片脚欠	未製品
33	S84・W90	II	凹・有	(1.44)	1.48	0.24	(0.4)	黒曜石	上半部欠	
34	S69・W69	I	凸・無	(1.94)	1.51	0.35	(1.05)	黒曜石	先端部欠	
35	IV区12号土塁内		平・無	2.02	1.23	0.28	0.5	黒曜石	完	
36	S90・W90	I・II・上	凹・有	2.15	1.22	0.27	0.4	黒曜石	×	有段
37	S90・W81	II	凹・有?	(1.93)	(1.4)	0.3	(0.6)	黒曜石	片脚(茎)欠	
38	S87・W72	I	凹・無	2.21	1.51	0.4	0.75	黒曜石	完	
39	S69・W66	I	凹・有	1.81	1.09	0.23	0.3	黒曜石	×	
40									欠番	
41	S90・W87	II・上	凹・有	(1.76)	1.45	0.35	(0.65)	黒曜石	基部先端欠	
42	S87・W57	I	凹・無	(1.87)	(1.7)	0.32	(0.55)	チャート	先端・片脚欠	
43	S63・W75		凹・有	1.35	(0.96)	0.24	(0.25)	黒曜石	片脚欠	有段
44	S63・W75		不明	(1.99)	(0.79)	0.34	(0.4)	黒曜石	先端・片脚欠	
45	S87・W90	II・b・c	凹・有	(1.6)	1.09	0.37	(0.55)	黒曜石	先端基部欠	

No	No	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
46		S87-W90	II・b c・上	凹・有	2.15	(1.53)	0.36	(0.75)	黒曜石	片脚茎部欠	
47	38	S87-W90	II・c・下	凹・無	1.69	1.15	0.36	0.5	黒曜石	完	
48		S87-W90	II・c	凹・有	1.44	(1.06)	0.28	(0.25)	黒曜石	片脚欠	
49		S87-W84	II・上	凹・有	1.6	(1.18)	0.3	(0.35)	チャート	片脚欠	
50		S87-W84	II・上	凹・有	1.85	(1.13)	0.33	(0.5)	黒曜石	片脚欠	
51		S87-W81	II	凹・有	(3.18)	(1.72)	0.48	(1.65)	黒曜石	片脚・茎部欠	
52	31	S69-W69	II	凹・有	1.94	1.27	0.29	0.4	黒曜石	完	
53	32	S69-W69	II	凹・有	(1.97)	1.52	0.36	(0.45)	黒曜石	先端欠	有段
54		S90-93-W84		凹・無	2.21	(1.55)	0.46	(1.0)	黒曜石	片脚欠	
55		S84-W90	II・上(II・下)	凹・有	(1.61)	1.07	0.24	(0.25)	黒曜石	茎部欠	
56		S84-W66	I	凹・無	2.42	1.14	0.23	0.45	チャート	片脚欠	
57		S84-W90	II・b	凹・有	(1.38)	1.21	0.27	(0.45)	黒曜石	茎部欠	
58		S84-W90	II・b	凹・有	(1.63)	0.94	0.27	(0.45)	黒曜石	茎部欠	
59		S84-W90	II・b	凹・有	(1.66)	1.15	0.29	(0.45)	黒曜石	先端欠	
60		S84-W90	II・b	不明	(1.6)	(1.68)	0.51	(1.1)	黒曜石	先端・下半部欠	
61		S90-W90	II・上		(2.06)	(1.44)	0.35	(0.8)	黒曜石	片脚欠	
62		S90-W90	II・上	凹・無	(1.97)	(1.59)	0.33	(0.85)	黒曜石	先端・片脚欠	
63	33	S72-W72	II	凹・無	2.28	1.63	0.45	1.0	黒曜石	完	
64	34	S84-W90	II	凹・有	1.56	1.32	0.37	0.6	黒曜石	*	
65	35	S66-W72		凹・有?	(2.1)	(1.62)	0.59	(1.5)	黒曜石	片脚(茎部)欠	飛行機標有段
66	36	S69-W69	I	凹・無	1.3	1.25	0.32	0.35	黒曜石	完	未製品
67	37	S69-W72	II	円	1.95	1.23	0.3	0.7	黒曜石	*	
68	38	S66-W72		凸・無	2.73	1.42	0.74	3.05	黒曜石	*	
69	39	S66-W69	II・上	平・無	1.86	1.75	0.6	1.8	黒曜石	*	
70		S90-W90	I・II・上	不明	2.95	(1.95)	0.65	(2.5)	黒曜石	片脚欠	未製品か?
71		S81-W96		凹・有	1.64	1.56	0.32	0.6	黒曜石	茎部欠	
72	40	S81-W72	II・中	凹・無	2.18	1.04	0.32	0.5	チャート	完	
73		S75-W72	II・中	凹・有	1.96	1.33	0.25	0.45	黒曜石	茎部欠	
74	41	S90-W102	II・中(II・b相当)	凹・有	2.64	1.53	0.38	0.95	黒曜石	完	
75		S87-W87	II・b相当	凹・有	(1.83)	(1.1)	0.31	(0.35)	黒曜石	先端・片脚・茎部欠	
76		S87-W87	II・b相当	凹・有	(1.03)	1.21	0.35	(0.3)	黒曜石	上半部欠	
77		S84-W90		凹・有	1.88	(1.1)	0.34	(0.4)	黒曜石	片脚欠	
78	42	S69-W63	II・中	凹・有	2.25	1.32	0.4	1.0	黒曜石	完	
79	43	S78-W93		凹・有	2.09	1.46	0.45	0.85	黒曜石	*	
80		S84-W108	II・上	凹・有	(1.55)	1.37	1.34	(0.3)	黒曜石	茎部欠	有段
81		S84-W96		凹・有	(1.38)	(1.25)	0.23	(0.3)	黒曜石	片脚・茎部欠	
82		S84-W93		凹・有	1.88	(1.31)	0.31	(0.55)	黒曜石	片脚・茎部欠	
83	44	S78-W69	II・中	平・有	1.33	1.18	0.22	0.2	黒曜石	完	
84		S84-W93		凹・有	(1.74)	1.18	0.38	(0.45)	黒曜石	茎部欠	
85	45	S72-W81	II・中	凹・有	2.55	1.13	0.33	0.5	黒曜石	完	
86		S84-W102	II・中(II・b)	凸・有	2.02	1.05	0.28	0.3	黒曜石	*	有段
87	46	S72-W66	II	凹・有	2.81	1.31	0.31	0.9	チャート	*	
88		S72-W66	II・中	凹・有	1.61	(1.33)	0.37	(0.45)	黒曜石	片側辺欠	
89	47	S66-W78	II	凹・無	(1.67)	1.98	0.57	(1.4)	チャート	上半部欠	特殊形
90		V区		凹・無	(1.58)	1.51	0.28	(0.4)	黒曜石	先端部欠	
91		S93-W105	II	凹・有	1.78	(1.2)	0.24	(0.35)	黒曜石	片脚欠	

No	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
92	S78・W75	II・中	凹・無	(2.9)	(1.33)	0.39	(0.9)	黒曜石	先端、片脚欠	
93 48	S78・W75	II・中	凹・無	2.21	1.69	0.4	1.65	チャート	完	
94	S72・W75	II・中	凹・無	(2.23)	(1.31)	0.35	(0.7)	黒曜石	先端、片脚欠	
95	S84・W96		凹・有	(1.84)	(1.26)	0.36	(0.55)	黒曜石	先端、片脚欠	
96	S81・W96		不明	(1.59)	(1.42)	0.34	(0.7)	黒曜石	下半部欠	
97	S75・W72	II・中	凹・有	(1.31)	1.45	0.27	(0.45)	黒曜石	先端、基部欠	
98 49	S84・W105	II・a相当	円	2.45	1.68	0.47	1.45	黒曜石	完	
99	S84W105	II・a相当	凹・有	(1.63)	(1.32)	0.33	(0.35)	黒曜石	基部、片脚欠	
100	S84W105	II・a相当	凹・有	1.5	(1.5)	0.3	(0.35)	黒曜石	片脚欠	
101	S84W99	II	凹・有	2.48	(1.11)	0.41	(0.6)	黒曜石	片脚欠	
102 50	S84W99	II	凹・有	(1.25)	1.4	0.34	(0.4)	黒曜石	先端、基部欠	有段
103 51	S72W72	II・中	凹・有	2.06	(1.25)	0.26	(0.4)	黒曜石	片脚欠	
104 52	S87W99	II・中(II・b)	凹・無	1.34	1.26	0.19	0.25	黒曜石	完	
105 53	S75W72	II・中	凹・無	1.84	1.61	0.33	0.7	黒曜石	タ	
106	S81W93		不明	(1.24)	(1.25)	0.28	(0.3)	黒曜石	下半部欠	
107	S93W90	II・中	凹・有	(2.47)	1.66	0.43	(1.0)	黒曜石	基部欠	
108 54	S84W93		凹・無	2.37	1.56	0.25	0.9	チャート	完	
109 55	S87W108	II・b相当	凹・有	2.44	1.43	0.39	1.05	黒曜石	タ	
110 56	21往		凹・有	2.75	1.39	0.42	1.25	チャート	タ	
111	S83W93		凹・有	1.68	(1.23)	0.28	0.35	黒曜石	片脚欠	
112 57	S83W93		凹・有	1.43	1.14	0.41	0.45	黒曜石	完	
113 58	S78W81	II・中	凸・有	1.72	1.19	0.31	0.4	黒曜石	タ	
114	S78W81	II・中	不明	(2.83)	(2.32)	(0.59)	2.7	黒曜石	下半部欠	未製品か?
115	S93W105	II・上	凹・有	(1.52)	(1.02)	0.14	(0.2)	黒曜石	先端、片脚欠	
116	S84W99	II・上	凹・有	(1.67)	1.07	0.31	(0.4)	黒曜石	先端欠	
117 59	S78W90		凸・無	2.16	(1.04)	0.49	1.0	黒曜石	片側凹欠	
118	S93W87	II・上	不明	(2.1)	(1.7)	0.49	1.3	黒曜石	(接觸)半分欠	
119										欠番
120	S78W96	II	凹・?	(1.86)	(1.52)	0.44	0.9	黒曜石	両脚欠	
121 60	S84W96		凸・有	2.6	0.93	0.5	0.85	黒曜石	完	
122 61	S90W108	II	凹・有	(4.14)	(1.35)	0.56	2.3	チャート	片脚、基部欠	
123 62	S78W93	II・上	凹・有	1.98	1.54	0.47	0.8	黒曜石	完	
124	S90W78	I、II・上	凹・有	1.96	(1.12)	0.26	(0.35)	黒曜石	片脚欠	
125	S78W90	II・上	凹・有	(2.31)	1.38	0.5	(1.05)	黒曜石	先端欠	
126	土壤32		凹・有	1.4	(1.01)	0.21	(0.2)	黒曜石	片脚欠	
127 63	S69W75	II・下	平・無	1.91	1.12	0.42	0.7	黒曜石	完	
128	S87W96	II b・上	凹・有	2.16	(1.36)	0.44	(1.0)	黒曜石	片脚欠	
129 64	S87W96	II b・上	凸・有	1.37	0.83	0.3	0.25	黒曜石	完	
130 65	S75W84		凹・有	(2.63)	(1.34)	0.31	(0.8)	黒曜石	片脚、基部欠	特殊形
131 66	S87W93	II・上	凹・有	1.54	1.29	0.27	0.4	黒曜石	完	
132	S81W87	II	平・有	(1.9)	1.25	0.4	(0.7)	黒曜石	片脚、基部欠	
133	S90W87	II	凹・有	2.23	(1.41)	0.44	(1.15)	チャート	片脚先欠	
134 67	S90W87	II	円	2.15	1.53	0.38	1.1	黒曜石	完	
135	S81W96	II・上	凹・無	(2.35)	(1.48)	0.38	(1.25)	黒曜石	先端、片脚欠	
136	S81W96	II・上	平・有	(2.05)	(1.7)	0.38	(1.0)	黒曜石	片脚、基部欠	
137	S87W87	II	凹・有	(1.88)	(1.33)	0.31	(0.75)	チャート	先端、片脚欠	

No	No	出 土	土 層	基 底	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
13	68	S78W90	II・上	凹・無	2.77	1.57	0.5	1.85	安山岩	完	
13	69	S81W90	II・上	円	1.65	1.32	0.38	0.65	黒曜石	〃	
13	70	S78W93	II・上	円	1.85	1.28	0.34	0.7	黒曜石	〃	
13	71	S84W90	II c	凹・無	1.99	1.59	0.35	0.8	黒曜石	〃	
13	72	S84W90	II c	凸・有	1.66	(1.06)	0.28	(0.3)	黒曜石	片剥、茎部欠	
13	72	S78W81	II・上	平・有	3.19	1.83	0.52	1.85	チャート	完	
13	73	S75W87	II・上	平・有	2.98	1.78	0.58	2.6	チャート	〃	
13	74	土壤37		凹・無	2.33	2.11	0.34	1.55	チャート	〃	
13	75	土壤37		凹・有	(0.83)	1.1	0.23	(0.2)	チャート	茎部上半欠	
13	76	土壤37		凹・有	1.9	(1.15)	0.28	(0.45)	黒曜石	片剥欠	
13	75	土壤37		平・有	1.43	0.85	0.27	0.25	黒曜石	完	
13	76	S75W84	II・上	凹・有	2.54	1.43	0.43	1.2	黒曜石	〃	
13	77	溝7(M-3)		平・無	(1.69)	1.4	0.44	(0.8)	黒曜石	先端欠	
13	78	S72W75	I・II・上	凹・有	(1.76)	1.38	0.31	(0.55)	黒曜石	片側欠	
13	77	17往		凹・有	1.52	0.88	0.22	0.2	黒曜石	完	
13	79	土壤集中区3		凹・有	(2.35)	(1.18)	0.37	(0.7)	黒曜石	片剥、茎部欠	
13	80	土壤集中区3		凹・有	2.09	1.11	0.31	0.65	チャート	完	
13	81	S87W93	II b・上	不明	(1.71)	(1.89)	0.49	(1.25)	黒曜石	下半分欠	
13	79	S90W93	II・上	凹・有	1.94	1.34	0.27	0.4	黒曜石	完	有段
13	80	S72W84	I	凹・有	2.61	1.58	0.4	1.3	黒曜石	〃	
13	81	S81W84	II a	凹・有	(1.57)	(1.1)	0.24	(0.3)	黒曜石	片剥先、茎部欠	
13	82	S93W105	II・上	凹・有	(1.82)	1.65	0.34	(0.6)	黒曜石	先端欠	
13	81	S78W90	II・上	凹・有	1.88	1.33	0.4	0.95	黒曜石	完	
13	82	S81W93		凹・無	1.91	1.37	0.38	0.5	黒曜石	〃	
13	83	S81W93		凹・有	(1.61)	1.19	0.41	(0.7)	黒曜石	先端欠	
13	84	土壤集中区3		凹・有	(1.65)	(1.22)	0.24	(0.25)	黒曜石	片剥先、茎部欠	
13	85	S87W87	II	不明	(2.36)	(1.42)	0.42	(1.05)	黒曜石	片剥(茎部)欠	
13	83	S90W87	II	凹・有	1.57	1.08	0.34	0.35	黒曜石	完	
13	84	S90W87	II	凹・有	20	1.38	0.4	0.8	黒曜石	〃	
13	85	19往		不明	(1.62)	(1.46)	0.24	(0.45)	黒曜石	下半部欠	未製品か?
13	86	19往		不明	(1.15)	(0.97)	0.22	(0.2)	黒曜石	下半部欠	
13	87	S96W96	II・上(IV・上)	凹・有	2.26	1.41	0.23	(0.4)	黒曜石	片剥欠	特殊形
13	88	溝7		凹・有	1.9	(1.32)	0.36	(0.5)	黒曜石	片剥欠	
13	89	溝7		凹・有	(1.35)	1.13	0.34	(0.3)	黒曜石	茎部欠	
13	90	S72W84	I	不明	(1.2)	1.34	0.26	(0.25)	黒曜石	下半部欠	
13	85	S72W75	II・中	凸・有	1.98	1.12	0.58	1.25	黒曜石	完	
13	84	S84W84	II・上	凹・有	(2.28)	1.52	0.48	(1.15)	黒曜石	茎部欠	
13	86	S90W96	II b・上	凹・有	1.45	1.15	0.33	0.35	黒曜石	完	
13	87	S84W84	I	平・無	2.25	1.7	0.41	1.55	黒曜石	〃	未製品か?
13	88	S84W84	I	円?	1.84	(1.37)	0.26	(0.5)	黒曜石	片剥欠	
13	89	S90W108		円	(2.46)	1.44	0.58	(1.75)	安山岩	先端欠	
13	90	S78W87		不明	(2.24)	(1.25)	0.44	(1.0)	黒曜石	片剥欠	未製品
13	87	S96W78	I・II・上	平・無	2.14	1.22	0.5	1.2	黒曜石	完	
13	88	S87W93	II b	不明	(1.3)	(1.05)	0.14	(0.15)	黒曜石	片剥欠	
13	89	S66W72		凹・有	1.98	1.57	0.46	1.0	黒曜石	完	
13	90	S84W90	II c	凹・有	2.05	1.36	0.32	0.75	黒曜石	〃	

No	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
90	S84W90	II c	凹・有	2.33	1.58	0.43	1.05	黒曜石	△	
91	S69W75	II	凹・有	1.39	1.32	0.31	0.4	チャート	△	
92	18往		平・有	(2.5)	1.72	0.31	(1.05)	黒曜石	先端欠	
93	S87W87	II	平・有	1.83	1.15	0.28	0.4	黒曜石	完	
94	S87W87	II	凹・有	(1.74)	(1.37)	0.27	(0.5)	チャート	先端、片脚欠	
95	S87W87	II	凹・有	1.47	(1.14)	0.28	(0.3)	黒曜石	片脚欠	
96	S93W93	II	凹・有	(1.69)	1.14	0.36	(0.5)	黒曜石	先端欠	
97	S78W96	II・中	凹・有	(1.63)	1.18	0.2	(0.25)	黒曜石	先端、基部欠	有段
98	S96W87	II	凹・有	2.11	1.41	0.44	1.05	黒曜石	完	
99	S96W87	II	凹・有	1.61	1.46	0.35	0.8	チャート	△	
100	S69W75	II・上	凹・有	(1.15)	(1.13)	0.28	(0.25)	黒曜石	上半部片脚欠	
101	S84W87	II・上	凹・有	1.86	1.31	0.29	0.5	チャート	完	
102	土器集中区		凹・有	1.88	(1.26)	0.2	(0.35)	黒曜石	片脚欠	
103	S87W84	II・上	凹・有	(1.83)	1.53	0.35	(0.7)	黒曜石	先端欠	
104	耕土内		凹・有	1.9	(1.05)	0.31	(0.45)	黒曜石	片脚欠	
105	S96W87	II	凹・有	(1.65)	1.5	0.33	(0.6)	黒曜石	先端欠	
106	土器集中区2		凸?	(3.51)	1.78	1.12	(6.4)	黒曜石	茎部or下支端欠	石槍か?
107	S87W87	II	凹・有	2.05	1.26	0.36	0.75	チャート	完	
108	S87W87	II	凹・有	1.51	1.24	0.24	0.4	チャート	△	
109	S87W87	II	凹・有	(2.06)	(1.45)	0.36	(0.65)	黒曜石	片脚、基部欠	有段
110	S87W87	II	凹・有	(1.64)	1.17	0.26	(0.4)	黒曜石	先端欠	
111	S66W69		凸・有	(2.02)	1.46	0.44	(0.95)	黒曜石	茎部欠	
112	S66W69		凹・有	1.51	0.97	0.3	0.2	黒曜石	完	
113	S96W87	II	凹・有	1.31	1.27	0.32	0.35	黒曜石	△	
114	土壤24		凹・角	(1.26)	1.54	0.34	(0.55)	黒曜石	先端欠	生地破損時に割れ
115	S96W105	I	凹・有	(1.8)	1.2	0.39	(0.65)	黒曜石	先端欠	
116	土壤34		凹・有	2.03	1.41	0.52	1.25	黒曜石	完	
117	S69W69		凹・有	1.3	1.04	0.28	0.25	黒曜石	△	
118	S75W63	I	平・角	1.79	1.51	0.39	0.75	黒曜石	先端欠	
119	S78W84	II・上	平・角	2.51	2.1	0.56	3.15	チャート	完	未製品か?
120	S78W90	II	平・無	1.57	1.21	0.36	0.75	チャート	△	未製品か?
121	S95W105	I・II・上	円	(2.79)	1.4	0.79	(2.95)	黒曜石	先端欠	
122	S96W81	II・上	平・無	3.47	1.58	0.85	4.25	黒曜石	完	石槍か?
123	S87W99	II・上	凸・?	(1.89)	0.89	0.32	(0.55)	黒曜石	下半部欠	
124	S81W96	II・上	不明	(1.42)	(1.74)	0.36	0.55	チャート	下半部欠	
125	S96W87	II	平・無	1.74	0.91	0.36	0.55	黒曜石	完	
126	土壤37		円	2.11	0.9	0.45	0.6	黒曜石	△	抉りこみ有り
127	S78W93	II	凸・角?	(1.87)	1.57	0.43	0.92	黒曜石	先端、片脚欠	
128	S78W69	II	不明	(3.68)	(1.95)	1.0	(6.55)	黒曜石	両脚欠	石槍か?
129	S81W87	II	不明	(2.2)	(1.02)	(0.23)	(0.45)	黒曜石	片脚欠	
130	S66W63	II・上(I)	平・無	(2.15)	(1.22)	(0.4)	(1.02)	黒曜石	片脚欠	
131	耕土		凸・有	1.76	0.92	0.42	0.65	黒曜石	完	
132	土壤23		凹・角	1.58	1.29	0.41	0.76	黒曜石	△	未製品
133	土壤18			2.48	1.34	0.32	0.97	黒曜石	△	未製品
134	S66W69	I		(2.38)	(1.91)	0.82	4.75	チャート	上半部欠	石槍か?

No	図 No	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
29		S90W84	II	凹・有	1.32	1.27	0.22	0.3	チャート	完	
30		S90W84	II	不明	(1.01)	(1.22)	(0.34)	(0.31)	チャート	下半部欠	
31		S87W90/S84W90		平・無	2.6	(1.88)	0.45	(1.78)	チャート	片脚欠	
32		土壤38		円	2.06	1.07	0.44	0.78	黒曜石	完	
33		S72W69	I	凹・有?	1.98	1.55	0.38	0.87	黒曜石	側面欠	
34		S90W84	II・上	不明	1.96	1.22	0.38	(0.84)	黒曜石	下半部欠	
35		土壤38		平・無?	1.7	(1.6)	0.4	(1.52)	黒曜石	片脚欠	
36		S96W87	II	不明	(2.03)	(1.75)	0.39	(1.23)	黒曜石	片脚欠	
37		S90W84	II	凸・有	2.18	(0.96)	0.35	(0.61)	チャート	片脚欠	
38		S95W84	II	凹・無	(1.74)	(1.35)	0.38	(0.53)	黒曜石	両脚先端欠	
39		S66W69	I	平・無	3.55	2.79	0.86	(9.45)	チャート	完	未製品か?

石 錐

No	図 No	出 土	土 層	長 さ (cm)	細部幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
1 1		S69W66	I	2.76		0.6	1.25	黒曜石	完	頭部磨耗
2 2		S69W66	II・上	3.01		1.16	3.1	黒曜石	✓	頭部、雄部共に磨耗
3 3		S72W72	I	2.58		0.58	1.55	黒曜石	✓	頭部、雌部共に磨耗
4		S87W90	II c + F	(2.0)		0.69	(0.9)	黒曜石	頭部欠	つまみ不規
5		S66W75	I	(1.69)		0.49	(0.5)	黒曜石	頭部欠	つまみ不規
6 4		S90W81	II・上	3.01		0.65	1.5	黒曜石	完	雄部磨耗
7		鷹7(M-31)		(2.44)		0.73	(2.15)	黒曜石	頭部欠	つまみ不規
8		S90W90	II・上	(1.18)		0.32	(0.3)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明、雄部磨耗
9 5		S87W108	II b	2.55		0.57	1.55	黒曜石	完	雄部磨耗
10 6		S84W93	II・上	2.49		0.4	0.85	黒曜石	✓	雄部磨耗
11 7		S93W57	II・上	3.03	0.62	0.85	2.15	黒曜石	✓	つまみ、巨曲
12 8		S72W72	II・中	2.62		0.75	1.55	黒曜石	✓	
13		鷹7		(1.26)		0.35	(0.3)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明、雄部磨耗
14		S84W102	II・中	2.5	0.46	0.48	1.15	黒曜石	完	つまみ
15		S81W92		(1.54)		0.53	(0.5)	黒曜石	頭部欠	つまみ不規
16 9		S72W72	II・下	4.3	0.83	0.6	4.35	砂岩	完	つまみ
17 10		S90W108	II・中	2.24		0.63	1.15	黒曜石	✓	雄部磨耗
18 11		S84W96		3.19	0.67	0.37	0.95	黒曜石	✓	つまみ
19		S81W90	II b	(1.99)		0.44	(0.55)	黒曜石	頭部欠	
20		S87W78	II	(1.86)		0.7	(1.35)	黒曜石	頭部欠	
21		鷹7		3.33		0.66	1.55	黒曜石	完	
22 12		S78W84		3.22		0.72	2.15	黒曜石	✓	
23 13		S78W81	II・中	4.16	0.68	1.2	2.6	黒曜石	✓	
24 14		S84W81		3.4		0.55	2.1	チャート	✓	
25 15		S90W102	II・中	3.87		0.82	4.2	黒曜石	✓	
26 16		S75W75	II・中	2.47		0.66	1.35	黒曜石	✓	雄部磨耗
27		S84W93		(2.31)		0.58	(1.0)	黒曜石	頭部欠	つまみ不規
28		S84W96		(1.91)		0.61	(0.75)	黒曜石	頭部欠	つまみ不規
29 17		S84W90		2.96		0.64	1.85	黒曜石	完	
30		S72W66	II・中	(1.84)		0.48	(0.8)	黒曜石	頭部欠	つまみ不規
31 18		S84W93		3.89		0.64	1.9	黒曜石	完	

No.	No.	出 土	土 層	長さ (cm)	緯部幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
32	19	S75W72	II・中	3.61	0.94	0.91	2.5	黒曜石	△	つまみ
33		S75W75	II・中	(3.17)	(0.66)	0.84	(2.9)	黒曜石	縦部欠	つまみ
34	20	S90W102	II・中	(3.24)	(0.76)	0.74	(2.7)	黒曜石	縦部欠	つまみ
35	21	S72W75	II・中	2.21		0.64	1.0	黒曜石	完	
36	22	S72W75	II・中	1.92		0.59	0.95	黒曜石	△	縦部磨耗
37	23	S72W75	II・中	1.89		0.44	0.75	黒曜石	△	
38	24	S78W96	II	2.07		0.43	0.6	黒曜石	△	縦部磨耗
39	25	S78W93		3.8		0.5	2.2	黒曜石	△	縦部磨耗
40	26	S75W87	II・上	2.97		0.55	1.6	黒曜石	△	
41	27	S75W84	II・上	2.29		0.52	1.1	チャート	△	
42	28	S90W87	II	3.33		0.53	2.15	黒曜石	△	
43										欠番
44		S81W90	II・上	2.32	0.66	0.45	1.25	黒曜石	完	つまみ
45		S84W78		(2.31)		0.65	(1.4)	黒曜石	縦部欠	
46	29	S69W69	II・III	2.41		0.61	1.05	黒曜石	完	縦部磨耗
47	30	土壤集中区3		2.96		0.54	2.3	チャート	△	未製品か?
48	31	S69W72		2.55		0.65	1.6	黒曜石	△	
49	32	S69W72		3.94		0.58	2.0	黒曜石	△	縦部磨耗
50	33	土壤23		2.24		0.62	1.3	黒曜石	△	縦部磨耗
51	34	S69W72		2.41		0.83	1.9	黒曜石	△	
52	35	S81W84	II a	2.79		0.54	1.5	黒曜石	△	
53	36	S87W96	II・上	(3.26)		0.65	(2.5)	黒曜石	縦部欠	
54	37	S90W96	I・II・上	(2.67)		0.8	(1.9)	黒曜石	縦部欠	
55	38	S78W90	II・上	(2.9)		0.53	(1.5)	黒曜石	縦部欠	
56	39	S81W84	II a	3.02		0.71	2.3	黒曜石	完	縦部、縦部ともに磨耗
57	40	S75W90	II・上	2.76		0.6	1.2	黒曜石	△	
58	41	土壤28		(2.73)		0.67	(1.3)	黒曜石	縦部欠	
59		S87W93		(2.18)		0.38	(0.75)	黒曜石	縦部欠	
60	42	土壤37		2.73		0.44	1.0	黒曜石	完	石標か?
61	43	S84W84	II・上	2.54		0.49	0.75	黒曜石	△	
62	44	S84W96	II a・上	(2.41)		0.63	(1.4)	黒曜石	縦部欠	
63		S87W87	II	(2.5)	(0.69)	0.48	(1.25)	黒曜石	縦部、縦部欠	つまみ
64	45	S78W93		1.71		0.53	0.6	黒曜石	完	
65		S81W96		(1.59)		0.56	(0.63)	黒曜石	縦部欠	つまみ不明
66	46	S69W66	II・上	2.53		0.53	1.19	黒曜石	完	
67		S81W84	II a	(1.95)		0.53	(1.25)	黒曜石	縦部欠	つまみ不明
68		S72W72	I	(1.42)		0.52	(0.5)	黒曜石	縦部先端欠	つまみ不明
69	47	S78W78	I・II	(1.92)		0.41	(0.59)	黒曜石	縦部欠	縦部磨耗
70	48	S69W75	II・上	(2.07)	(0.59)	0.61	(0.68)	黒曜石	縦部先端欠	縦部磨耗、つまみ
71	49	S69W75	I・下、II・上	2.61		0.55	1.38	黒曜石	完	
72		S69W75	I・下、II・上	2.09		0.74	1.97	黒曜石	△	つまみ不明。縦部磨耗
73	50	S87W81	II	2.61	1.07	0.68	1.6	黒曜石	△	つまみ
74	51	S90W96	II a	2.75		0.58	1.69	黒曜石	△	縦部磨耗
75		S90W99	I・II・上	1.32		0.39	0.25	黒曜石	△	
76		S87W90	II b・F	(3.09)		0.62	(2.27)	黒曜石	縦部欠	
77		S90W84		2.15		0.82	2.04	黒曜石	完	縦部磨耗

No	国 Na	出 土	土 層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
78		S90W84	II	1.87		0.62	1.01	黒耀石	✓	無形磨滅
79		S84W90	II b	(2.29)		0.51	(1.22)	黒耀石	頭部欠	頭部磨滅
80		S63W69		(1.85)		0.5	(0.96)	黒耀石	頭部欠	頭部磨滅
81	52	S93W81	II・上	2.38	0.56	0.49	1.57	黒耀石	完	つまみ
82		S95W105	I	2.54	0.71	0.78	2.18	安山岩	✓	つまみ、石継か?
83		S87W90	II a	1.23		0.53	0.5	黒耀石	✓	無形、頭部磨滅
84		S87W90	II a	1.34		0.31	0.24	黒耀石	✓	無形磨滅
85		S72W75	II	2.33		0.42	0.95	黒耀石	✓	

石 鑿

No	国 Na	出 土	土 層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
1	1	S93W102	II	3.48	(6.65)	0.83	15.60	硬砂岩	側端欠	
2	2	S67W81	II	1.49	2.85	0.42	1.20	黒耀石	完	

ピエス・エスキュー

No	国 Na	出 土	土 層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
1	1	11号住		2.34	(1.98)	0.72	3.7	黒耀石	側端部欠	
2	2	S75W84	II	2.00	2.00	0.63	3.0	黒耀石	完	
3	3	S84W96		2.44	2.02	0.65	2.2	黒耀石	✓	
4	4	土壤52		2.29	2.21	0.63	2.9	黒耀石	✓	
5	5	土壤13		2.79	(1.60)	0.91	3.2	黒耀石	半身部欠	

スクレーパー

No	国 Na	出 土	土 層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
1	1	13住南側		4.48	10.04	1.70	86	硬砂岩	完	自然面 横長削片
2	2	S63W9		5.75	9.11	1.31	90	硬砂岩	✓	自然面 横長削片
3	3	S81W81	II・上	4.02	8.23	0.69	30	砂岩	側端部欠	自然面 横長削片
4	4	溝5に切られる土壤		5.32	0.78	1.23	82	砂岩	完	自然面 横長削片
5	5	S81W93		3.96	(5.31)	0.94	30	ホルンブリムス(砂岩)	汚欠	自然面 横長削片
6		不明		5.07	6.81	1.12	45	細粒砂岩		自然面 横長削片
7	6	E3S45N E		8.58	10.89	1.25	160	チャート	完	自然面 横長削片
8	7	S75W84	II・中	6.04	(7.33)	1.00	54	砂岩	汚欠	自然面(側端部)横長削片
9	8	S95W102	I	6.66	(8.40)	1.10	75	砂岩	側端部欠	
10		不明		4.25	(6.20)	1.12	29	砂岩	汚欠	磨耗
11	9	13住南側被出面		6.94	10.51	2.10	140	硬砂岩	完	
12	10	S78W90	II・上	6.44	6.93	1.18	50	砂岩	✓	
13	11	S72W81	II・中	7.28	8.23	1.41	86	砂岩	側端部欠	
14	12	溝1		9.56	10.92	3.16	314	砂岩	完	自然面
15	13	S78W81	II・中	(4.84)	4.84	1.00	26	砂岩	側端部欠	
16	14	S72W81	II・中	8.34	10.93	2.06	186	硬砂岩	完	自然面(両面)
17	15	S81W84	II・中	6.64	6.36	0.73	42	砂岩	汚欠	
18		土壤53		4.21	7.47	1.66	45	石英閃緑岩		磨耗石斧か?
19	16	11住		7.58	6.78	0.53	53	千枚岩	完	
20	17	S84W84	II a	6.24	7.39	1.22	79.49	砂岩	汚欠	自然面打製石斧か?

打製石斧

No.	出 土	土 厚	大きさ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	形態	石 質	使用範	自然面	破損部 位	備 考
1 50	S84W78NE	II + 中	12.13	5.12	2.14	165	II-B	硬砂岩		下から5%	—	—
2	S72W78NE	II 上	11.25	4.26	1.9	116	II-A	砂岩			—	—
3 39	S84W96S		12.14	3.89	1.66	110	II-A	*			—	—
4 54	S84W96S		11.07	5.19	2.33	144	II-B	ホルソフュルス(砂岩)		基壇面	—	—
5 46	S84W95SW	II 中	14.12	5.57	2.07	19.4	II-B	硬砂岩			—	—
6	S87W81SW	II	9.25	4.53	1.56	79	I-A	*		基壇付近	—	—
7	S81W63S E	I + II(上)	16.93	6.69	2.14	217	III-B	*		万那村近	—	—
8	V区半掩埋面		7.42	5.49	1.44	76	III-B	砂岩			—	—
9	S69E90E		7.71	6.58	2.54	140	I-B	ホルソフュルス(砂岩)			—	—
10 45	+側I7		18.69	4.88	2.33	325	III-B	千枚岩			風化	—
11	S78W93S E	II 上	11.78	3.64	1.5	73	II-A	ホルソフュルス(砂岩)	万那磨耗	上半光	—	—
12	表+裏凹面		11.54	3.32	1.14	69	II-B	砂岩		%	—	—
13	S90W95NW	II 上	12.82	6.24	1.66	194	II-B	ホルソフュルス(砂岩)		弱面	—	風化
14 51	S81W96N E	II 上	11.67	4.76	1.91	145	II-B	硬砂岩	壁面、万那磨耗	全面	—	—
15 52	S88W93S-E-NW		12.95	5.81	2.78	278	III-B	砂岩			—	風化
16 53	S87W81E	II	18.31	4.54	1.75	135	III-B	*	万那、片側面-底磨耗	基壇面	—	—
17 44	S84W96S		12.12	4.83	1.14	94	II-B	砂岩	万那片側面磨耗		—	—
18	S84W96S		18.43	6.51	3.2	520	III-B	硬砂岩			—	—
19	S86W89SSW	I	6.64	4.98	1.72	66	III-B	*			—	—
20	土標無付近3周辺		6.79	4.34	1.69	62	III-B	頁岩	万那両面磨耗	弱面	—	—
21 56	S78W93S W	II 上	11.02	5.38	1.53	132	III-C	砂岩			ねじれ	—
22 32	S75W91S E	II 上	10.29	5.6	1.73	165	I-C	ホルソフュルス(砂岩)	万那磨耗	両面	—	—
23 57	S81W96N E	II 上	11.84	5.14	2.05	144	II-C	硬砂岩		基壇付近、万那村近	—	—
24 47	S93W83S E		12.89	5.11	1.9	185	II-C	砂岩	万那磨耗	下から5%	—	—
25	S90W82S SW	II 上	10.85	4.45	1.75	109	II-C	ホルソフュルス(砂岩)	万那磨耗	基壇面	—	—
26 55	S78W96S		8.78	4.33	1.22	67	III-C	砂岩			—	風化
27	S72W91S W	II 中	14.64	3.29	1.92	183	II-C	硬砂岩			—	—
28 16	S87W96S W	II	16.30	7.42	2.66	452	I-B	ホルソフュルス(砂岩)		基壇-両面	—	—
29 4	S87W81S	II	13.59	5.94	2.05	186	I-B	石英閃緑岩	万那磨耗	片側	—	—
30 5	土標86下端		13.68	5.71	2.07	144	I-B	硬砂岩	万那両面磨耗	下から5%	ねじれ	—
31 28	S87W96N E	II < - 下	11.12	4.60	1.72	105	I-B	砂岩	万那磨耗	—	—	—
32	S81W96S		12.68	5.33	1.72	151	II-B	緑色火成岩		全面	—	—
33 13	S72W72S W	II 上	12.0	5.15	1.5	110	I-B	砂岩		上%	—	—
34 70	S88W72S半掩埋上面		11.04	5.56	1.72	142	II-A	硬砂岩		基壇-両面	—	—
35 2	S87W81N E	II	12.62	6.09	1.13	189	I-A	ホルソフュルス(頁岩)		基壇付近	—	—
36	S87W81S W	II	14.90	4.76	2.26	158	I-B	硬砂岩		基壇側面付近	—	ねじれ
37 18	S87W82S E	II 上	14.57	5.37	2.25	226	I-B	ホルソフュルス(砂岩)		—	風化	—
38 42	S87W81S W	II	12.51	4.65	2.22	145	II-B	硬砂岩		弱面-両面	—	—
39 41	S84W82S		12.38	4.48	1.15	95	II-A	千枚岩	側面磨耗	%	—	—
40 11	S81W78S		14.1	5.96	2.45	200	I-B	硬砂岩		万那	—	—
41 7	S63W72NW	I	13.21	5.81	2.25	195	I-B	砂岩		基壇-両面	—	—
42	S93W87NW	II 上	10.92	5.14	1.58	119	I-B	灰岩		万那村近	—	風化
43 31	S72W75S E	II 中	10.80	4.96	1.69	126	I-B	砂岩		万那%	—	—
44 6	S78W96S E	II 上	13.34	6.24	1.32	156	I-B	硬砂岩			—	—
45 29	土標37		13.15	5.76	2.31	164	I-B	*		基壇、万那%	—	—
46 38	S90W84NW	II 上	12.82	5.37	3.17	225	II-C	*		下半光	—	—
47	不明		12.11	6.1	1.64	176	I-C	*		萬那村近	—	—
48 34	+側38		13.19	5.92	1.23	119	I-C	ホルソフュルス(砂岩)		基壇-両面	—	—

No.	出 土	土 層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	形態	石 質	使用度	自 然 面	破損部 位	備考
49	S81W10SW	Ⅱ上	12.21	5.46	2.11	133	I-C	カルシフュルス(砂岩)	万葉磨拭			-
50	S50W9S E	Ⅱ上	12.67	8.72	1.85	192	I-C	砂岩		%		-
51	赤鐵		11.56	6.20	3.12	319	I-B	カルシフュルス(砂岩)				-
52	S81W9E④		12.26	5.19	1.64	125	I-C	カルシフュルス(砂岩)		全面		-
53	S72W7NE E	Ⅱ中	10.91	6.11	2.12	187	IV-C	砂岩		上半%		-
54	S80W8NE E	Ⅲ	10.68	5.56	1.67	144	I-C	砂岩		基部~万葉		-
55	S70W6NE E	Ⅱ中	12.63	5.63	2.30	173	I-B	尖山岩				-
56	S93W10SE E	Ⅱ上	10.65	3.97	1.26	64	I-B	砂岩	刃削磨拭			-
57	S72W72NE E	I	9.52	3.95	0.97	59	I-B	カルシフュルス(頁岩)	基部~万葉	全面		-
58	S84W10SNW	Ⅲ a	7.97	3.21	1.27	38	II-B	カルシフュルス(砂岩)		側面~刃削%		-
59	S66W7S E	I下~Ⅱ上	8.47	2.83	1.07	29	I-B	カルシフュルス(砂岩)	万葉磨拭			-
60	S66W6N E	I	9.12	4.34	1.74	95	I-B	砂岩		基部~万葉		-
61	S46W72換土用西季		10.48	4.44	1.25	68	II-B	カルシフュルス(砂岩)				-
62	S75W8N E	I	8.31	4.89	2.17	105	II-B	砂岩				-
63	S46W72換土用西季		8.49	3.82	1.05	30	I-A	砂岩		基部~万		-
64	S84W9E④		6.83	3.95	0.99	32	I-B	砂岩				-
65	S84W6SW	Ⅱ上	9.27	4.56	1.25	60.1	I-C	砂岩	万葉磨拭			-
66	S70W75NW	Ⅱ中	9.2	4.14	0.94	41	II-B	*				-
67	S87W9S E	Ⅱ c	9.63	4.69	1.23	73	II-B	*				-
68	S46W8E④		10.47	4.89	1.61	96	I-B	砂岩	刃削、側面磨拭	側面部		-
69	S46W8E④		9.59	4.71	1.56	88	I-B	*	万葉磨拭			-
70	S46W8E④		10.59	5.05	2.62	177	I-B	*		側面		-
71	S84W10NW	Ⅱ上	11.65	7.62	1.04	235	I-B	砂岩		全面		-
72	S80W9S E	Ⅱ上	7.79	6.15	1.56	109	I-B	カルシフュルス(砂岩)		*		-
73	S81W7NW	I - II	9.58	7.13	2.46	173	I-B	砂岩				-
74	S90W9N E	Ⅱ中	7.58	5.49	1.85	106	I-B	カルシフュルス(砂岩)		側面		-
75	土壤⑦		8.43	6.46	1.81	99	I-B	砂岩	側面	万葉片側面		-
76	S80W9E④		11.16	6.74	1.33	364	I-B	砂岩		全面		-
77	V82換土		11.87	4.71	1.25	88	II-B	カルシフュルス(砂岩)		全面		-
78	S72W72S E	Ⅱ中	7.86	7.33	1.69	109	I-B	砂岩		側面		-
79	S90W72S E	I	10.73	8.91	3.2	248	I-B	砂岩				-
80	S63W8SW		12.71	8.01	2.50	256	I-B	砂岩		基部~万葉		-
81	土壤⑦		9.04	5.44	2.42	199	I-B	カルシフュルス(砂岩)		*		-
82	S87W9S E	Ⅱ b -	10.09	6.17	1.55	115	I-B	砂岩				-
83	S72W75S E	Ⅱ中	97.1	5.24	1.48	99	I-B	石英閃綠岩				-
84	S54W15S E		14.29	7.41	3.10	326	I-C	砂岩		背面		-
85	S80W8N E	Ⅲ	15.10	6.31	2.36	256	I-C	*				-
86	S63W8N E	Ⅱ中	12.66	5.37	2.45	217	I-A	カルシフュルス(砂岩)				-
87	S70W9E④		15.1	6.16	2.56	255	I-B	砂岩		背面		-
88	S72W72NW	Ⅱ中	12.15	5.21	1.6	122	IV-B	褐色火成岩	鍛打面	基部~万葉		-
89	S81W7E④	(8.68)	6.45	1.95	(140)	III-B	砂岩		万葉磨拭	側面万葉	A ₁	
90	S76W9E④	(7.12)	5.37	1.06	(61)	*			万葉磨拭、底多孔	C ₁ C ₂		
91	S70W9E④		13.76	(5.22)	1.74	(146)	I	褐色難燃岩	万葉、側面磨拭	C ₁		
92	S81W9E④	(8.95)	(6.21)	(2.55)	(186)	III	砂岩			A ₂		
93	S63W8N E	(4.84)	(4.68)	(1.26)	(36)	III-C	千枚岩(頁岩)			A ₃		
94	S80W8E④	(7.73)	5.16	1.51	(74)	砂岩			基部、側面	B ₁		
95	S81W9E④	(7.15)	6.52	1.85	(145)	I	*			C ₂		
96	S84W9E④	(7.44)	6.45	1.76	(146)	カルシフュルス(砂岩)				C ₁ C ₂		
97	S76W9E④	(8.68)	6.82	3.01	(329)	III-B	砂岩		万葉磨拭	A ₁		

No	No	出上	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (t)	形態	石質	使用度	自然面	被覆部 位	備考	
36		S4WW90E		(4.62)	5.41	1.87	(46)		砂岩					
39													欠番	
38		S4WW90S		(6.26)	5.42	1.35	(56)		砂岩					
39		S4WW90S		(7.48)	(4.86)	1.62	(58)		火山岩		基部			
40		S7WW90S		(9.36)	(5.37)	(2.43)	(56.7)	II	*		基部	A ₁		
41		S4WW90S		8.1	(4.82)	0.87	(36)		砂岩					
42		S7WW90S		(8.99)	6.68	2.82	(216)	III	*		両面	A ₁		
43		S4WW90S		(6.44)	4.38	1.2	(44)		砂岩					
44		S8WW90S		(8.65)	5.09	2.35	(225)	III	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂		
45		S8WW90S		(12.05)	6.99	2.6	(266)	III	*		基部	C ₂	風化	
46		S4WW90S		(6.15)	4.49	1.42	(45)	B	*			C ₁ C ₂		
47		S4WW90S		(5.95)	5.86	1.68	(38)	II	基性火成岩					
48	68	S8WW90S		11.18	4.69	2.03	169		ホルンフェルス(砂岩)			—	未調査	
49	69	S7WW90NW	II-L	(11.36)	(8.26)	(4.07)	(566)	I	礫砂岩		両面	C ₁ C ₂	260と整合	
50		S8WW90S		(11.26)	7.47	1.9	(163)		千枚岩					
51		S4WW90S		(6.85)	(3.8)	(1.67)	(45)	B	礫砂岩			C ₁ C ₂		
52	48	S4WW90S		(7.9)	(4.74)	(2.16)	(82)		ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂		
53		S4WW90S		(6.17)	(2.43)	0.86	(13)	III	砂岩			A ₁		
54		S5WW90SSW		(9.21)	(5.89)	1.21	(72)		多面岩					
55		S7WW92NW	I	(8.7)	7.33	2.28	(155)	II-B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁		
56		S5WW90NW		(8.95)	(4.93)	(1.70)	(86)	II-B	*			A ₁		
57	66	S6WW90SSW	I	(7.73)	5.74	2.05	(119)	III-B	*			A ₁		
58	66	S6WW90SE	II-L	(8.23)	4.74	1.94	(105)	III-B	*			A ₁		
59	40	VES90-L		12.81	4.4	1.59	13	II-B	砂岩			—		
60		S5WW90SSW		(7.33)	(3.92)	0.68	(36)	I-C	頁岩			C ₁		
61		10号生		(8.80)	7.26	1.73	(136)	I	砂岩			C ₁ C ₂		
62		S7WW90SSW	I+II-L	(6.71)	(4.57)	(1.1)	(43)	III-C	*			A ₁		
63		S7WW91NE	II中	(9.1)	6.91	2.85	(215)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			A ₁		
64		S1WW91SW	I	(6.16)	(7.16)	(1.7)	(46)	I	礫砂岩			C ₁ C ₂		
65		18生NW		(5.87)	(7.4)	(0.90)	(56)	B	*			C ₁ C ₂		
66		S8WW92NE	I+II-L	(9.32)	(7.15)	(2.34)	(175)		*			C ₁ C ₂		
67		S6WW90NE	I	(5.99)	(4.88)	(2.27)	(82)		*					
68		S7WW90SW	II上	(5.74)	(6.39)	(1.7)	(63)	B	*			外部、側斜部	C ₁ C ₂	
69		S7WW94NW	II上	(8.12)	(3.16)	(0.96)	(28)		砂岩			C ₂		
70		S7WW91NW	II中	(6.21)	6.92	1.62	(76)		火山岩					
71		S9WW92NW	I+II-L	(13.2)	9.04	2.07	(286)	I-C	火山岩			C ₁		
72		19生		(6.18)	(4.43)	(1.40)	(37)		砂岩					
73		S9WW90NE		(8.46)	6.37	1.35	(81)	I-C	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁		
74	3	S7WW90SE	II上	(13.36)	5.96	1.42	(143)	I-A	*	(+)		外部、側斜部	C ₁	
75		S7WW92NE	II中	(6.74)	5.43	1.59	(91)	I-C	*	(+)		外部、側斜部	A ₁	
76	71	S7WW91SW	II中	(12.6)	(5.94)	1.8	(126)	I	礫砂岩			外部、基部	C ₁	
77		S8WW90SE	II中	8.45	3.28	1.21	35	I-B	*			片側面	—	
78		S9WW90SW	I	(5.95)	4.45	1.15	(35)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			外部、側斜部	A ₁	
79		S7WW92SE	I	(5.07)	(6.06)	(1.12)	(44)	B	*			C ₁ C ₂		
80		S7WW92SE	II	(6.23)	(6.1)	(1.76)	(76)	B	礫砂岩			外傾斜面。断続	万能	C ₁ C ₂
81		S9WW92SE	II	(4.88)	(6.03)	(1.16)	(38)		砂岩					
82		S7WW92NW	I	(8.5)	7.57	1.42	(112)	III-B	砾岩火成岩			外傾斜面	A ₁	
83	69	S7WW90SE	II上	(13.02)	(5.15)	2.14	(383)	I	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁		
84		S7WW91SW	II中	(9.81)	5.62	1.77	(166)	I-B	*	(+)			C ₁	

No	No	出 土	土 庫	高さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	変さ (M)	形態	石 質	使用窓	自然面	破損部 位	備 考
17		S78W56NW	II中	(5.66)	(4.1)	(1.19)	(30)		砂岩				風化
18		S69W63N E	II上(1)	(7.92)	6.67	1.96	(130)	I-B	ホルンフェルス(頁岩)		A ₁		
19		S81W60NW	II上	11.05	4.71	1.35	76	II-B	ホルンフェルス(砂岩)				-
20		S78W64S E	II上	11.97	6.04	1.64	136	III-B	硬砂岩				-
21		S79W64S E	II中	(11.40)	(5.42)	(1.60)	(190)		砂岩	万能、側面削除		D ₁	
22		V区換土内		(7.45)	(5.71)	2.45	(147)		ホルンフェルス(砂岩)				
23		S72W84S W	I	(8.77)	(6.25)	2.83	(190)	I	褐色大山岩			A ₂	
24		S75W81NW	II中	(7.92)	8.88	1.46	(140)	I-B	硬砂岩	万能削除	A ₁		
25		S90W72NW	I + II(上)	(7.59)	4.85	1.52	(96)	I-B	*			A ₁	
26		S76W90S E	II上端	(8.08)	5.19	2.06	(90)		*			C ₁ C ₂	
27		S75W78S W	II中	(6.62)	4.09	(1.02)	(38)	III-B	ホルンフェルス(砂岩)	万能削除	A ₁		
28		S69W78S W	II上	(3.95)	(7.77)	(1.46)	(32)		硬砂岩				
29		V区換土		(9.2)	5.59	2.32	(140)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)		A ₁		
30		S75W78S W	II中	11.98	5.18	1.94	127	III-C	砂岩		画面	-	
31		S81W81N E	II中	(9.42)	(6.45)	(0.84)	(74)	I	硬砂岩		片側面	C ₂	
32		S78W72N E	II中	(8.84)	7.79	(1.97)	(185)		*			C ₁ C ₂	
33		不明		(4.51)	5.95	(1.99)	(72)		*			C ₁ C ₂	
34		V区S E	I	11.76	5.16	1.35	103	III-C	*			-	
35		S78W93S E	II上	(8.64)	6.1	1.04	(72)		*				
36		S90W72NW	I	(3.28)	(5.23)	(1.82)	(100)	II-C	變山岩		A ₁	風化	
37		S76W80N E	II上	(5.66)	(7.62)	(1.87)	(300)		硬砂岩				
38		S90W66N E	I	19.83	4.95	1.72	111	III	*		A ₂		
39		S72W78S W	II上	(6.76)	(5.14)	1.38	(61)	I-B	*		A ₁		
40		S72W81N E	II中	(3.38)	5.91	2.63	(165)	I	ホルンフェルス(砂岩)		A ₂		
41		S72W81S W	II中	(6.38)	(5.17)	(1.22)	(45)		硬砂岩				
42		S78W84S E	II中	(7.72)	(4.79)	(2.0)	(93)	II	ホルンフェルス(砂岩)		C ₂		
43		S81W78N W	I + II	11.94	5.46	1.23	97		*	(*)	側面部	-	尖製品
44		S84W60S W	II上	19.65	5.56	1.39	96		硬砂岩		側面部	-	尖製品
45	43	S75W72S E		(33.82)	7.33	(2.23)	(250)		母岩				
46		S81W78S W	I + II	(5.57)	(7.86)	(1.96)	(80)	C	硬砂岩		C ₁ C ₂		
47		S78W90NW	II上	(8.33)	(6.39)	(1.35)	(45)	B	*			C ₁ C ₂	
48													欠番
49		S75W72S W	II中	(5.22)	(5.63)	0.63	(24)	I-B	硬砂岩				
50		S75W97N E	I	(9.25)	(4.50)	1.71	(95)		蛇紋岩			C ₁ C ₂	
51		S75W95S E	II上	(9.3)	9.48	(2.84)	(34)	I-B	硬砂岩	万能削除	A ₁		
52		S72W84S E	I	(11.90)	(6.74)	(1.81)	(187)		*			B ₁	
53		S78W78	I - II	(8.90)	(6.45)	2.35	(96)		頁岩				
54		S72W75S E	II中	(6.36)	3.39	0.92	(27)	I-B	變山岩	万能削除	C ₁		
55		S69W78S E	II上	(3.63)	(5.45)	(1.55)	(47)	A	硬砂岩			C ₁ C ₂	
56		S69W80S E	II	(7.15)	(5.45)	2.05	(160)	I	變山岩			A ₂	風化
57		S72W72S W	I	(5.33)	(5.25)	(1.62)	(44)	B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
58		S72W96S E	II中	10.7	5.42	1.8	117	II-C	*	(*)			
59		S72W72S W	I	(5.98)	6.9	(1.95)	(105)	B	硬砂岩			A ₁	風化
60		不明		(9.6)	4.68	1.32	(77)	III-B	*	縞条風		C ₁	
61		S69W78S E	II上	(8.79)	5.39	1.55	(95)	I-B	*			C ₁	
62		S66W72換土面西手		(7.59)	6.01	2.06	(160)	B	*			A ₁	
63		S63W72NW	I	(8.8)	4.32	1.35	(64)		砂岩				
64		S54W6 NW		(9.21)	6.22	(1.85)	(107)		ホルンフェルス(頁岩)				
65		S84W68SW	II中	(7.77)	5.64	(1.97)	(75)	I-B	砂岩			A ₁	

No.	No.	出 土	土 壤	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	形態	石 質	使用例	自然面	被覆部 位	備考	
18		S69W72南半生糞上層		(6.34)	4.19	1.56	(50)	I-A	礫砂岩			A ₁		
19		S75W78S E	II中	(7.51)	4.97	1.76	(75)	I-B	*			A ₁		
20		S81W68S E	II中	(8.49)	(5.88)	2.57	(156)	I	*			A ₂		
21		S73W87S E	II上	(9.41)	(6.94)	(3.43)	(265)	I-B	砂岩			A ₁		
22		S72W72S W	II中	(11.32)	5.38	(1.63)	(120)	I-B	砂岩			C ₁		
23		S78W69N E	I	10.83	7.34	2.63	274	III-B	礫砂岩			—		
24		S75W87N E	I	(9.30)	4.46	1.73	(102)	III-C	*			C ₁		
25		S78W69N W	II上	(9.51)	(6.62)	(3.15)	(243)	I	ホルソフュルス(砂岩)			C ₁ , C ₂		
26		S66W69S E-SW	I	(5.85)	(5.36)	(1.03)	(52)	I-C	砂岩			A ₁		
27		S80W72NW	I	(7.21)	(5.7)	2.25	(132)		炭山地	周面				
28		S78W69N E	II上	(7.21)	(5.95)	2.1	(90)	I	ホルソフュルス(砂岩)			A ₂		
29		S69W72NW	I	(6.97)	4.3	1.94	(68)	I	礫砂岩			A ₂		
30		S80W69NW	II	(7.10)	(5.97)	(1.76)	(65)	B	頁岩			C ₁ , C ₂		
31		S69W75S W	1(CF)-II(C上)	(5.12)	(3.53)	(1.1)	(35)		砂岩			C ₂ , C ₃		
32		S81W68S W		(7.85)	(3.43)	(1.7)	(25)	B	*			C ₁ , C ₂		
33		S63W68N E	II中	(5.85)	(4.96)	(1.6)	(56)		*			C ₂ , C ₃		
34		S72W72S W	I+II上	(9.14)	(6.19)	(1.62)	(107)		礫砂岩			C ₁ , C ₂		
35		S72W78S E	II中	(7.22)	6.4	1.4	(79)	III-B	砂岩			A ₁		
36		S81W81N E	II中	8.65	3.35	0.82	32	I-B	ホルソフュルス(砂岩)	基部-万葉	—			
37		S72W72S E	II中	(9.10)	(3.3)	1.11	(42)	I-A	砂岩	片側面一部磨耗		C ₁		
38		S78W61S W	II上	(7.74)	(6.80)	(1.46)	(50)	II-B	*			A ₁		
39		S78W69N E	II上	(6.62)	(3.12)	(0.86)	(20)	II-B	石英閃綠岩			C ₁		
40		S14E-(L-E)内		(5.11)	(5.31)	(0.79)	(33)	C	砂岩	側面一部	C ₁ , C ₂			
41		S66W55S E		(6.83)	5.51	(1.9)	(173)	C	*			A ₁		
42		S80W66S E	I	(5.21)	(0.45)	(0.87)	(46)	I	*			C ₁ , C ₂		
43		S78W64N E	II上	(6.21)	(4.89)	(1.59)	(51)		*			C ₂ , C ₃		
44		S69W60N W	II上	(5.83)	(4.3)	(1.01)	(27)		*			C ₁ , C ₂		
45		S75W72N E	II中	(14.01)	8.12	2.16	(337)	I-A	ホルソフュルス(頁岩)			C ₁		
46		S72W61N E	II中	(11.26)	(5.98)	2.08	(130)	B	*	(砂岩)		C ₁		
47		S78W64NW	II中	(10.82)	7.68	(2.05)	(176)		砂岩					
48		S90W72S E	I	(4.84)	(5.12)	(1.43)	(45)	I-B	*			基部端	C ₁ , C ₂	
49		S51W1S NW		(9.34)	(7.84)	(2.97)	(345)		*			C ₂ , C ₃		
50		S78W69S E	II上	(7.46)	5.41	1.89	(106)	III-B	ホルソフュルス(砂岩)			A ₁		
51		S75W60S E	II上	(5.59)	(5.46)	(2.7)	(77)		砂岩			C ₁ , C ₂		
52		V区裸土内		(9.98)	4.01	(1.46)	(76)	III-B	*	鐵永灰	河面	C ₁		
53												欠番		
54		S78W42S E	I	(6.36)	(4.6)	1.25	(52)		砂岩					
55		S78W61S E	土塗下	(7.08)	5.16	(0.97)	(45)	III-B	ホルソフュルス(砂岩)			A ₁		
56		S78W61NW	II上	(8.26)	(3.22)	(1.0)	(38)		砂岩			D ₁ , D ₂		
57		S78W61N E	II上	(4.07)	(4.21)	(0.89)	(26)	C	砂岩			A ₁		
58		S78W69S E	II上	(4.42)	(4.14)	(1.14)	(24)		*					
59	57	10号柱		(6.91)	(5.76)	(1.29)	(73)		*					
60		S69W72N E	I	(4.46)	(5.97)	(1.54)	(35)		礫砂岩					
61		S78W61S W	II上	(8.4)	(3.6)	(1.6)	(35)		礫砂岩					
62		14柱		(5.51)	(4.85)	(0.85)	(14)	A	*			C ₁ , C ₂		
63		S69W72S E	II上	(3.41)	(8.47)	(0.95)	(38)		頁岩					
64		S69W72裸土面東半		(6.24)	(5.45)	(1.98)	(72)		ホルソフュルス(砂岩)			C ₁ , C ₂		
65		S75W75N W	II中	(6.9)	(5.6)	(1.46)	(75)	III-B	*	(*)		A ₁		
66		S69W68N E	I	(7.36)	(2.9)	(0.9)	(31)	I-B	*	(*)		C ₁		

No	No	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	形態	石質	使用風	自然面	破損部 位	備考	
35		S72W72SW	II中	(3.72)	(5.01)	(2.51)	(140)	I	* (*)			A ₂		
36		S75W81SW	II中	(6.64)	(5.02)	(6.64)	(71)		變砂岩			C ₂		
37		上型集中3		(5.67)	(5.82)	(1.13)	(52)	I	千枚岩(真岩)			A ₂		
38		S75W90S E	II上	(3.29)	(4.09)	(0.76)	(24)		*	(*)				
39		S66W72NW	I	(6.06)	(4.79)	(1.46)	(101)	III	ホルンフェルス(真岩)			A ₂		
40		S75W72SW	II上	(4.65)	(5.37)	(1.67)	(57)	B	砂岩			C ₁ , C ₂		
41		S75W66NW	II中	(10.45)	(5.57)	(2.36)	(20)	I	石灰閃綠岩			C ₂		
42		S84W70S		(6.89)	(3.59)	(1.16)	(34)	II	砂岩			C ₂		
43		S84W70S		(9.45)	(5.22)	(2.26)	(165)		砂岩					
44		S84W70S		(5.96)	(6.64)	(1.41)	(90)	I	*			C ₂		
45		VII±25		(4.79)	(4.45)	(0.92)	(34)		*					
46		S84W1LSW	II上	(7.46)	(5.11)	(1.51)	(71)	III-C	變砂岩			A ₂		
47		S84W1LS E	II上	(7.39)	(5.09)	(1.16)	(39)		*			著帯一部		
48		S84W90N E		(7.61)	(5.61)	(1.42)	(102)	I-A	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂		
49		S84W100N E	E a	(6.75)	4.37	1.22	(37.5)	III-A	頁岩			A ₂		
50		S84W90NW	II b	(6.45)	(5.43)	(1.75)	(61)		變砂岩			C ₁ , C ₂		
51		S84W94NW	II上	(7.57)	(5.76)	(0.91)	(77)		砂岩					
52		S84W70S E	II中	(7.52)	(8.46)	(3.23)	(281)	I	*			C ₁ , C ₂		
53		S84W70S E	II中	(7.35)	(5.18)	(2.25)	(95)		ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ , C ₂		
54		S87W90N E	I 中	(9.71)	(5.93)	(2.96)	(180)	III-C	*	(*)		A ₂		
55		S87W90N E	II下	(7.66)	(6.27)	(2.33)	(106)		變砂岩					
56		S87W81NW	II	(11.96)	5.81	1.14	(32)	I-B	砂岩			C ₂		
57		S89W78 S E	I + II上	(7.23)	(4.78)	(1.67)	(74)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂		
58	69	S84W70S E	II上	(8.82)	(9.28)	(4.07)	(562)		砂岩			IIと整合		
59		S87W70NW	II b	(9.96)	(6.56)	(2.25)	(184)	I	石灰閃綠岩			C ₂		
60		S84W84N E	I	(7.45)	(2.86)	(1.09)	(37)	III-B	砂岩			C ₂		
61		S88W85 S E	II	(9.08)	(6.70)	(3.46)	(238)		ホルンフェルス(真岩)			C ₁ , C ₂		
62		S89W95SW	II上	(9.94)	(6.82)	(1.76)	(146)	I	*	(砂岩)		A ₂		
63		S87W96NE	II上	(5.83)	(6.50)	(2.19)	(187)	B	千枚岩(真岩)			C ₁ , C ₂		
64		S81W96N E	II上	(9.06)	(5.18)	(2.14)	(90)	I	變砂岩			A ₂		
65		S84W66N E	II中	(3.01)	(5.11)	(1.26)	(25)		*			C ₁ , C ₂		
66		S84W81		(8.16)	(5.22)	(1.96)	(125)	I-B	*			C ₂		
67		S89W72共ナ		(7.71)	(8.64)	(3.31)	(360)	A	砂岩			C ₁ , C ₂		
68		S72W89E	I	(4.93)	(5.23)	(1.16)	(22)	C	頁岩			C ₁ , C ₂		
69		S81W90NW	II上	(9.90)	(6.42)	(3.22)	(280)	II-B	砂岩			A ₂		
70		S78W84S E	II上	(4.13)	(4.90)	(1.13)	(47)		*			C ₁ , C ₂		
71		不明		(7.97)	(4.67)	(2.65)	(71)		*			C ₁ , C ₂		
72		S97W93	II a	(11.96)	(5.12)	2.23	(196)	I	*			C ₂		
73		S90W93	II a	(7.26)	5.41	1.41	(80)	I-B	*			A ₂		
74		S90W93	II a	(12.47)	8.59	0.82	(254)	I-B	*			A ₂		
75		S96W102N E	II中	(7.46)	(4.18)	(1.16)	(36)	III-A	*			C ₁ , C ₂		
76		S90W96	II a	(8.25)	(4.32)	(1.41)	(56)	II	*			A ₂		
77		S90W96	II a	(11.95)	8.35	(1.52)	(190)	I-B	*			A ₂		
78		S90W81S E	II	(5.64)	(4.84)	(2.25)	(95)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂		
79		S87W93N E	II b 上	14.46	(4.85)	(1.72)	(146)		砂岩	刃削面		C ₁ , C ₂		
80		S90W702SW	II上	(3.65)	3.54	1.32	(37)	III	變砂岩灰岩			C ₂		
81		S90W95S E	II上	(8.78)	(4.72)	(1.46)	(71)	I	變砂岩			A ₂		
82		S99W102S E	II上	(6.02)	(4.95)	(1.36)	(41)	C	變砂岩			C ₁ , C ₂		
83		S99W102N E	II	(12.00)	(5.58)	(1.66)	(146)	I	ホルンフェルス(砂岩)		刃削-基盤	C ₂		

No.	No.	出 土	土 壤	良さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 さ (g)	形 狀	石 質	使 用 量	自 然 施	被 損 部 位	備 考	
26		S90W95NW	II上	(5.15)	(3.41)	(1.45)	(45)	III-B	硬砂岩			A ₁		
26		S87W95E	I下	(8.12)	(4.46)	(1.45)	(94)	III	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂		
26		S47W78E	II上	(7.75)	(6.03)	(1.45)	(76)	I-B	硬砂岩			万都付近	A ₁	
26		S87W90NW	I	(7.96)	5.03	1.96	(165)	III-A	*	万都側面	万都	A ₁		
26		S90W93S E	II上	(6.61)	(6.82)	(1.60)	(95)		*			C ₁ , C ₂		
26		S90W93S E	II上	(7.09)	(3.93)	(1.74)	(75)	III-B	*			A ₂		
26		S90W96S	II中	(6.36)	(4.68)	(1.95)	(84)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)		基盤	A ₂		
26		S90W96S	II上	(4.60)	(5.01)	(1.10)	(36)		砂岩					
26		S87W93S W	II	(10.25)	4.89	1.70	(115)	II	ホルンフェルス(砂岩)		万都~基盤	C ₂		
26		S45W102S E	II	(4.65)	(3.42)	(1.19)	(34)		硬砂岩					
26		S41W84NE	II中	5.51	3.15	1.98	26	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			—		
26		S41W84NE	II中	(7.01)	(3.68)	(1.93)	(38)	I-C	*	(+)	胸部	C ₁		
26		S41W93NW	II上	(3.98)	(5.19)	(1.26)	(32)	B	硬砂岩			C ₁ , C ₂		
26		S56W78SE	I	(3.20)	(4.23)	(1.04)	(19)		*					
26		S41W87NW	II中	(4.91)	(4.98)	(1.34)	(66)	ホルンフェルス(砂岩)						
26		S76W81SW	II中	(7.79)	(5.73)	(1.30)	(93)		*	(+)	基盤			
26		S41W87SW	II	(5.33)	(5.35)	(1.88)	(54)		硬砂岩					
26		S44W87NW	I	(5.60)	(4.83)	(0.83)	(35)		砂岩			C ₁ , C ₂		
26		S30W88NW	II	(4.80)	(5.38)	(1.80)	(62)	I-A	安山岩			C ₁ , C ₂		
26		S72W72E	II	(5.61)	(4.89)	(2.01)	(79)		砂岩			C ₁ , C ₂		
26		S72W72E	II	(7.01)	(3.85)	(0.66)	(20)	III-B	*		万都~胸面	C ₁		
26		S46W95E	E	(8.22)	(4.48)	(1.54)	(66)	I	ホルンフェルス(砂岩)		基盤	C ₂		
26		S30W93E	II中	(8.06)	(4.91)	(1.82)	(105)	III	砂岩			A ₃		
26		S76W93SW	II上	(8.50)	(5.58)	(1.46)	(164)	II-B	石英閃長岩		胸面	A ₁		
26		S76W93SW	II上	(8.77)	(7.56)	(2.03)	(229)	II-B	砂岩		胸面	A ₁		
26		S76W93SW	II上	(8.02)	(5.86)	2.25	(180)	I	*			C ₁ , C ₂		
26		S49W78NE	II上	(3.72)	(3.14)	3.06	(5.35)		*			両面		
26		S40W93NE		16.19	8.15	4.73	(765)	II-A	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁		
26		S46W65SW	II中	(7.27)	(6.79)	(3.75)	(1.12)		砂岩					
26	48	S72W80SE	I	(7.14)	(3.28)	(1.11)	(34)	III-B	ホルンフェルス(砂岩)	巻承板		C ₁		
26		S72W83NW	I	(6.86)	(5.74)	(2.25)	(101)		硬砂岩					
26		S69W60SW	II中	(8.00)	(4.92)	(0.95)	(55)	I-C	ホルンフェルス(砂岩)		万都	C ₁		
26		S75W81NW	I・II上	9.91	6.68	2.18	206	I-B	砂岩			—		
26		S87W92SW	II中	(4.46)	(4.50)	(0.94)	(21)	B	硬砂岩			C ₁ , C ₂		
26		S44W87NE	I	9.84	3.26	1.25	92		砂岩			— 隅方?		
26		S40W84SE	II	(8.37)	(5.64)	(1.46)	(85)		*					
26		S40W87NE	II中	(8.24)	(4.84)	(1.51)	(65)		安山岩			C ₁ , C ₂		
26		S47W80SE	II上	(7.14)	(5.04)	(0.73)	(33)	I	砂岩			A ₃		
26		S49W87SE	II	(4.37)	(4.84)	(1.51)	(37)	B	ホルンフェルス(砂岩)	万都側面		C ₁ , C ₂		
26		S49W87NE	II	(7.53)	(5.39)	(3.89)	(85)	A	砂岩			A ₃		
26		S46W87NW	II下	(5.85)	(4.56)	(2.27)	(56)	B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ , C ₂		
26		S47W93NW	II中	(6.13)	(6.30)	(1.95)	(164)	III-B	砂岩			C ₁ , C ₂		
26		S47W92SE	II上	(6.69)	(4.19)	(1.65)	(63)	III	*			A ₃		
26		S46W87NE		(44.39)	(8.65)	(3.30)	(285)	I	*		基盤~胸面	C ₁		
26		S72W72NE	II下	6.84	(2.96)	(0.72)	(15)		硬砂岩			D ₁		
26		S72W88NE	I	(4.17)	(4.87)	(0.78)	(25)	ホルンフェルス(砂岩)						
26		S45W12NE		(3.48)	(5.87)	(2.84)	(193)	I	砂岩		基盤~胸面	A ₁		
26												欠番		
26		土壤		(5.08)	(5.75)	(1.42)	(45)		頁岩					

No	出 土	土 壤	高さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重さ (t)	形態	石 質	使用感	自 然 番	破損部 位	備 考
36	S84W9E7		(5.20)	(6.32)	(1.65)	(82)	I	砂岩		A ₂		
36	S76W9E7		(5.67)	(4.49)	(1.61)	(45)	I	ホルンフェルス(砂岩)		A ₂		
36	S76W9E8		(5.54)	(5.74)	(1.22)	(54)	I-C	安山岩		A ₁		
36	S84W9E8		(7.87)	(7.35)	(1.65)	(116)	I-A	砂岩		A ₁		
36	S76W9E9		9.27	(2.49)	(1.36)	(27)	III-B	安山岩		B ₁		
36	S84W9E9		(7.12)	(5.24)	(1.45)	(55)	III-B	砂岩		A ₁		
26	26往		(6.46)	(4.15)	(1.52)	(46)	I	*		A ₂		
26	土壤18		(3.30)	(4.29)	(0.96)	(18)		*				
26	土壤38		(3.58)	(5.31)	(1.67)	(45)		安山岩		C ₁ , C ₂		
27	耕土内V段		(22.65)	6.62	2.19	(265)	チャート		両側			
27	土壤50		(5.62)	(8.61)	(2.65)	(154)	III-B	砂岩		A ₁		
27	IV区塊4		(9.10)	5.66	1.04	(59)	I-C	千枚岩(灰岩)		C ₁		
27	III区塊2		(9.91)	5.94	0.96	(92)	III-C	ホルンフェルス(砂岩)		C ₁		
27	V区塊1		(9.24)	5.65	1.52	(75)	I-B	硬砂岩	河原付近	A ₁		
27	V区塊1(NB)		(6.66)	(3.63)	(1.94)	(32)	III	ホルンフェルス(砂岩)	高野光塚	A ₂		
27	土壤23		(5.56)	(3.37)	(1.92)	(35)	B	チャート	側斜部	C ₁ , C ₂		
27	土壤23		(4.95)	(4.26)	(1.52)	(34)		ホルンフェルス(砂岩)				
27	土壤36		(9.32)	(5.91)	(2.19)	(144)	III-B	*	(*)	両側面	C ₁ , C ₂	
27	土壤32		(7.41)	(3.61)	(1.60)	(68)	III	硬砂岩	基面付近	C ₂		
27	土壤37		(6.80)	(4.27)	(1.72)	(62)	II	*	両側	C ₁ , C ₂		
27	基14		(9.66)	(4.66)	(1.72)	(75)	I-C	*		C ₁		
27	土壤29		(5.10)	(5.31)	(2.15)	(164)	III-A	*		B ₁		
27	土壤49		(7.42)	(4.91)	(1.72)	(96)	III	砂岩				
27	土壤27		(6.11)	(3.65)	(0.46)	(16)		緑色大山岩	基部	A ₂		
27	土壤37		(6.67)	(5.12)	(2.10)	(76)	II-B	砂岩		A ₁		
27	土壤37		(4.64)	(5.32)	(1.46)	(44)	*			C ₁ , C ₂		
27	土壤27		(8.42)	(7.04)	(2.97)	(165)	B	硬砂岩				
27	耕土		(10.10)	(5.71)	(2.45)	(148)	I-B	*	片側面	C ₁		
27	耕土		(9.75)	(5.96)	(2.47)	(98)	I	ホルンフェルス(砂岩)	側斜	C ₂		
27	耕土		(10.30)	(7.24)	(1.82)	(199)	I-B	砂岩	河原—基部	C ₁		
27	S87W9N E	II c F	(3.26)	(5.27)	(1.65)	(26)		石灰閃緑岩				
27	S87W9N E	II c F	(9.95)	(5.53)	(1.82)	(119)	I-B	*		A ₂		
27	S87W9NSW	II上	(7.40)	(5.27)	(1.79)	(84)	II	砂岩		A ₁		
27	S87W9NNE	II上	(5.01)	(9.06)	(1.15)	(66)	B	硬砂岩		C ₁ , C ₂		
27	S89W92NW	II上	(5.23)	(9.09)	(1.85)	(121)		砂岩	片側面			
27	S75W72SW	II中	(8.55)	(4.51)	(1.60)	(84)	*		両側			
27	S75W72NE	II中	(5.27)	(5.76)	(1.41)	(42)	A	頁岩		A ₁		
26	26往NW		(10.35)	(3.61)	(1.15)	(78)		砂岩		B ₁		
27	S57W9NW	II上	(7.10)	(4.99)	(1.94)	(45)	B	ホルンフェルス(砂岩)		C ₁ , C ₂		
27	S69W9NE	I	(5.10)	(4.83)	(1.84)	(66)	II-C	*	(*)	A ₁		
27	VR土壤集中区3		(5.32)	(4.82)	(2.60)	(55)	III-B	*	(*)	A ₂		
27	S87W84SW	II上	(9.43)	(4.93)	(1.36)	(86)	III-C	千枚岩		C ₁		
27	S76W99SE	II上	(5.05)	(3.94)	(1.34)	(34)	III-A	硬砂岩		C ₁ , C ₂		
27	S87W99NW	II中	(5.23)	(6.65)	(1.54)	(46)	B	砂岩		C ₁ , C ₂		
27	S69W72NW	II下	(5.51)	(6.31)	(2.47)	(84)	*					
27	S93W85SE	II上	(4.62)	(6.85)	(2.23)	(45)	II-B	*		C ₁ , C ₂		
27	S92W72NE	II上	(3.26)	(4.03)	(0.77)	(15)	B	*		C ₁ , C ₂		
27	S87W98SE	II上	(5.25)	(3.98)	(0.96)	(13)	B	ホルンフェルス(砂岩)		C ₁ , C ₂		
27	S96W95NE	I	(5.82)	(4.01)	(1.92)	(65)	III-B	砂岩	下半部	C ₁ , C ₂		

No	No	出 土	土 層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	形態	石 質	使用風	自然面	被接部 位	備 考
33	S30W96 S E	II上	(25.80)	(5.57)	(2.06)	(128)	I	破片岩		万葉-基部	C ₂		
34	S37W99 SW	II上	(31.25)	(6.46)	(2.81)	(226)	I	砂岩		基部付近	C ₂		
35	S37W99 NW		(30.90)	(5.86)	(2.36)	(174)	I	硬砂岩		側面-側	C ₂		
36	S37W96 S E	II 上	(9.25)	(5.33)	(1.49)	(96)		砂岩					
37	S30W94 NW	II	(8.0)	(3.13)	(0.92)	(98)		*			D ₁ D ₂		
38	S36W93 Y E	II上	(30.00)	(3.9)	(0.77)	(211)		*					
39	S37W57 NE	I	12.23	4.45	1.05	57	II-C	褐色火山岩				—	スレーブ バーか?
40	S37W96 S E	I	(6.10)	(5.71)	(2.21)	(65)	II-B	ホルソフ・ムス(砂岩)			C ₁ C ₂		
41	S30W94 S E	II	(7.41)	(4.12)	(1.65)	(63)	III	砂岩			C ₁ C ₂		
42	S37W96 SW	II上	(5.37)	(7.18)	(2.68)	(125)		*			C ₂		
43	S37W99 SW	II上	(6.56)	(4.78)	(1.63)	(45)	III-B	砂岩			C ₁ C ₂		
44	S30W97 NE	II	(4.48)	(3.15)	(1.11)	(34)		砂岩			C ₁ C ₂		
45	S34W12 S E		(8.45)	(5.03)	(2.16)	(79)	I	*			C ₂ C ₃		
46	S37W12N E	II中	(4.26)	(5.34)	(1.17)	(39)	II-B	ホルソフ・ムス(砂岩)			C ₁ C ₂		
47	S37W99 SW	II上	(6.85)	(4.38)	(1.67)	(64)	I-C	砂岩			A ₁		
48	S36W96 SW	I	(6.41)	(4.32)	(1.82)	(76)	III-B	*			A ₁	風化	
49	S37W99 NW	II b 相当	(9.47)	(6.25)	(1.61)	(119)	II-C	*			A ₁		
50	S37W96 (M) NE	I	(10.26)	(9.66)	(2.02)	(290)	I-B	*			断面	A ₁	
51	S37W99 NW	II中	(6.14)	(4.92)	(1.83)	(68)	II-B	火山岩			A ₁		
52	S37W99 NW	II中	(3.92)	(5.61)	(1.51)	(90)	III-C	千枚岩(頁岩)			A ₁		
53	S37W16 SW	II上	(6.36)	(4.64)	(1.04)	(40)	I	硬砂岩			A ₂		
54	S30W96	II b	(7.61)	(4.46)	(1.83)	(76)	I	砂岩			A ₂		
55	S37W93 SW	II b 上	(9.39)	(5.99)	(1.72)	(119)	III-A	*			万葉-側部	A ₁	
56	S37W94 NE	II上	(7.46)	(5.98)	(1.17)	(118)	II-B	ホルソフ・ムス(砂岩)			基部付近	C ₁ C ₂	
57	S33W105 NE	II上	(9.46)	(5.24)	(2.92)	(159)	III	石英閃长岩			A ₂		

磨製石斧

No	No	出 土	土 層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	石 質	欠損状況	備 考	
1	1	S36W93	II	(4.35)	(2.37)	(1.6)	(12)	斑長岩	刃部の一部欠		
2	2	S36W81	I	(11.54)	(4.21)	(2.05)	(160)	石墨片岩	頭~側部の一部欠		
3	3	S72W78	II・上	(2.41)	(4.85)	(0.99)	(17)	闊母片岩	頭~側部欠		
4	4	S30W90	I・II・上	(12.07)	(4.1)	(2.03)	(156)	綠泥片岩	頭部の一部刃部欠	未製品か?	
5	5	S34W93		(0.97)	(5.53)	(3.96)	(315)	閃綠岩	頭~刃部欠		
6	6	S34W84	I	(10.7)	(4.14)	(2.81)	(210)	閃綠岩	頭~側部たてに半欠		
7	7	18件		(2.8)	(4.29)	(0.95)	(16)	閃綠岩	頭~側部欠		
8	8	S36W78	II・上	(5.52)	(3.8)	(1.06)	(34)	閃綠岩	一部残		
9	9	S34W90	II・上、 I・下	(5.67)	(3.77)	(0.77)	(21)	閃綠岩	一部残		
10	10	S31W96		(3.61)	(4.93)	(1.02)	(13)	石墨片岩	頭~側部欠		
11	11	S72W78	II・中	(7.29)	(4.28)	(2.44)	(111)	閃綠岩	下半欠		
12	12	S33W78	II・上	(13.92)	(5.01)	(3.19)	(386)	閃綠岩	刃部~側片欠		
13	13	S37W96	II・b・上	(8.06)	(4.29)	(3.43)	(182)	閃綠岩	万葉たてに半欠		
14	14	S75W81	I・II・上	(5.81)	(4.36)	(1.73)	(51)	閃綠岩	万葉残		
15	15	S37W81	II・上	(8.93)	(5.55)	(3.79)	(282)	閃綠岩	上半欠		
16	16	S31W87	II	(11.86)	(4.87)	(2.59)	(233)	閃綠岩	刃部の一部欠		
17	17	S36W99	I	(8.38)	(4.12)	(2.23)	(116)	閃綠岩	頭部の一部欠		
18	18	S37W96	II	(9.18)	(5.78)	(2.86)	(255)	閃綠岩	頭~側部欠		

No	No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	石質	欠損状況	備考
19	19	S78W81	II・上	(12.38)	(5.07)	(2.54)	(154)	砂岩	縫に半欠	
20	20	S84W93		(11.1)	(2.85)	(1.93)	(110)	玄武岩質 安山岩	劣部欠	
21	21	V区	II・下	(12.01)	(4.13)	(3.2)	(255)	閃綠岩	劣部欠	
22	22	土壤13		(12.50)	(5.14)	(3.59)	(382)	閃綠岩	劣部欠	
23		S75W72		(2.91)	(2.41)	(0.33)	(2)		一部残	
24	23	S66W66	I・II・上	(9.66)	(5.49)	(3.39)	(263)	砂岩	頭・劣部欠	

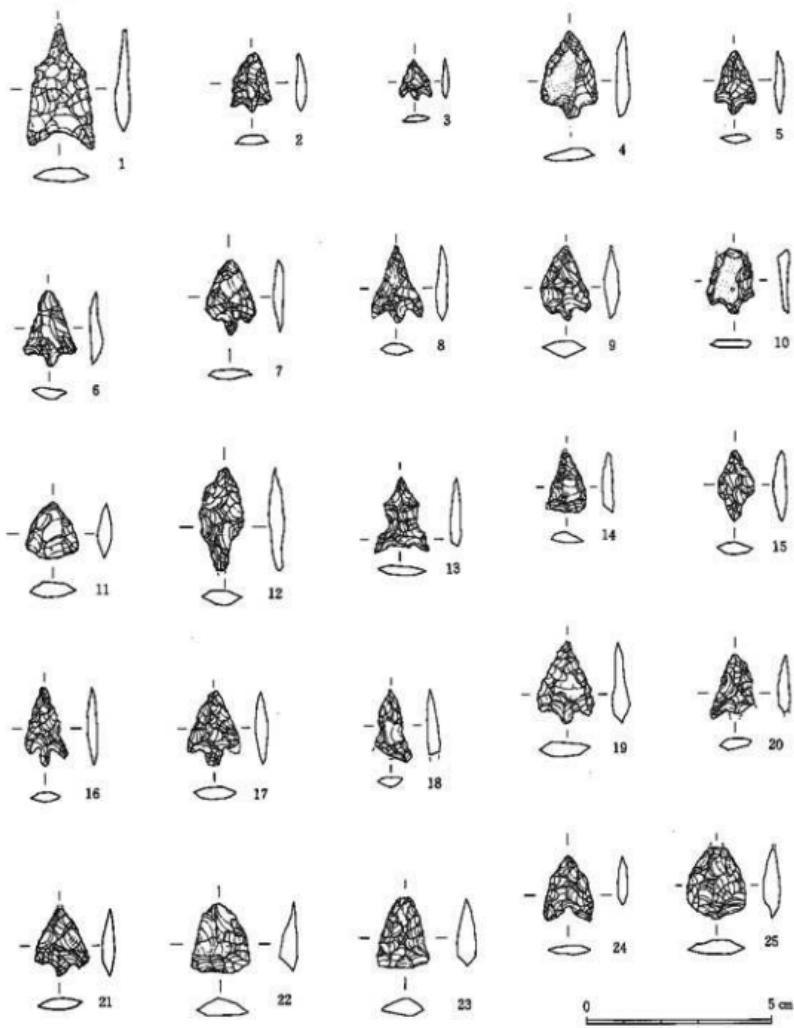
敲・磨・凹石・石皿

No	No.	出土	土層	凹部	敲打痕	磨面	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	石質	欠損状況	備考
1		S78W96		○	○		(11.74)	(3.93)	(2.79)	(150)	砂岩	劣欠	
2		S81W93		○			(8.74)	(5.13)	(2.1)	(100)	砂岩	%~%欠	
3		S81W93		○(×2)	○		(8.75)	(4.83)	(2.8)	(105)	砂岩	劣欠	
4		S87W81			○(×2)		(8.06)	(5.64)	(1.75)	(110)	砂岩	一部残	
5		20件		○(×2)	○	○	7.31	5.06	1.56	86	砂岩	完	
6		S87W78				○	(6.91)	(3.85)	(1.57)	(50)	砂岩	一部残	
7		S69W78	Ⅲ上			○(×2)	(7.54)	(4.49)	(1.97)	(96)	閃綠岩	一部残	調査石群?
8		S81W93				○	(6.07)	(2.48)	(1.57)	(28)	石英閃綠岩	一部残	
9		S81W93				○	(8.12)	(5.56)	(1.44)	(78)	砂岩	一部残	
10		S81W93				○	(9.81)	(4.63)	(5.56)	(259)	石英閃綠岩	%欠	
11		S81W93				○	測定不可	(10.37)	(3.67)	(75)	砂岩	劣欠	
12		S84W78				○	(4.56)	(4.38)	(0.95)	(23)	石英閃綠岩	一部残	
13		S81W96		○			(5.55)	(5.14)	(1.64)	(62)	石英閃綠岩	劣欠	
14		S81W96		○	○		(6.17)	(5.27)	(2.66)	(114)	砂岩	劣欠	
15		S78W87				○	5.8	4.04	1.66	47	砂質頁岩	完	
16		S78W87				○	(4.31)	(2.72)	(0.9)	(11)	砂岩	一部残	
17		S78W87		○	○		(6.67)	(3.79)	(2.86)	(102)	石英閃綠岩	劣欠	
18		S78W87				○	(5.0)	(4.1)	(1.14)	(26)	砂岩	一部残	
19		S84W96		○	○		(6.48)	(4.78)	(1.8)	(97)	石英閃綠岩	劣欠	
20		S84W96				○	(7.16)	(4.18)	(2.11)	(50)	砂岩	一部残	
21		S78W87				○	(5.79)	(5.45)	(1.96)	(57)	硬砂岩	一部残	
22		S78W87				○	(9.31)	(4.83)	(4.02)	(254)	砂岩	劣欠	
23		S78W87				○	(9.29)	(7.74)	3.35	(368)	不辨	劣欠	
24		S81W93				○	(6.88)	(4.59)	(2.93)	(100)	砂岩	劣欠	
25		S78W99		○		○	(8.55)	(4.51)	(1.33)	(50)	砂岩	一部残	
26		S78W93				○	(5.79)	(5.45)	(1.96)	(57)	硬砂岩	一部残	
27		S78W99				○	(9.31)	(4.83)	(4.02)	(254)	砂岩	劣欠	
28		S78W99				○	(8.15)	(7.6)	(3.14)	(290)	砂岩	一部残	
29		S78W99				○	(9.56)	(8.13)	(2.9)	(274)	積灰岩	一部残	
30		S81W90		○		○	(7.53)	(5.13)	(2.82)	(92)	砂岩	一部残	
31		S81W90				○	(10.53)	(5.12)	(1.9)	(90)	砂岩	一部残	
32		S81W90				○	(5.13)	(3.45)	(1.39)	(42)	砂岩	一部残	
33		S81W90		○		○	(6.6)	(5.67)	(2.35)	(75)	石英質砂岩	一部残	
34		S81W90		○		○	(6.76)	(4.77)	(1.11)	(32)	砂岩	一部残	
35		S84W90		○	○	○	(7.59)	(5.34)	(3.96)	(226)	調質砂岩	%欠	
36		S81W90		○(×2)	○	○	9.54	4.68	4.58	316	砂岩	完	
37		S81W93				○	(11.49)	(6.23)	2.03	(160)	砂岩	%~%欠	
38		S84W90				○	(9.13)	(9.27)	(2.55)	(362)	砂岩	%~%欠	石風
39		S81W93				○	7.48	7.64	6.98	484	砂岩	完	

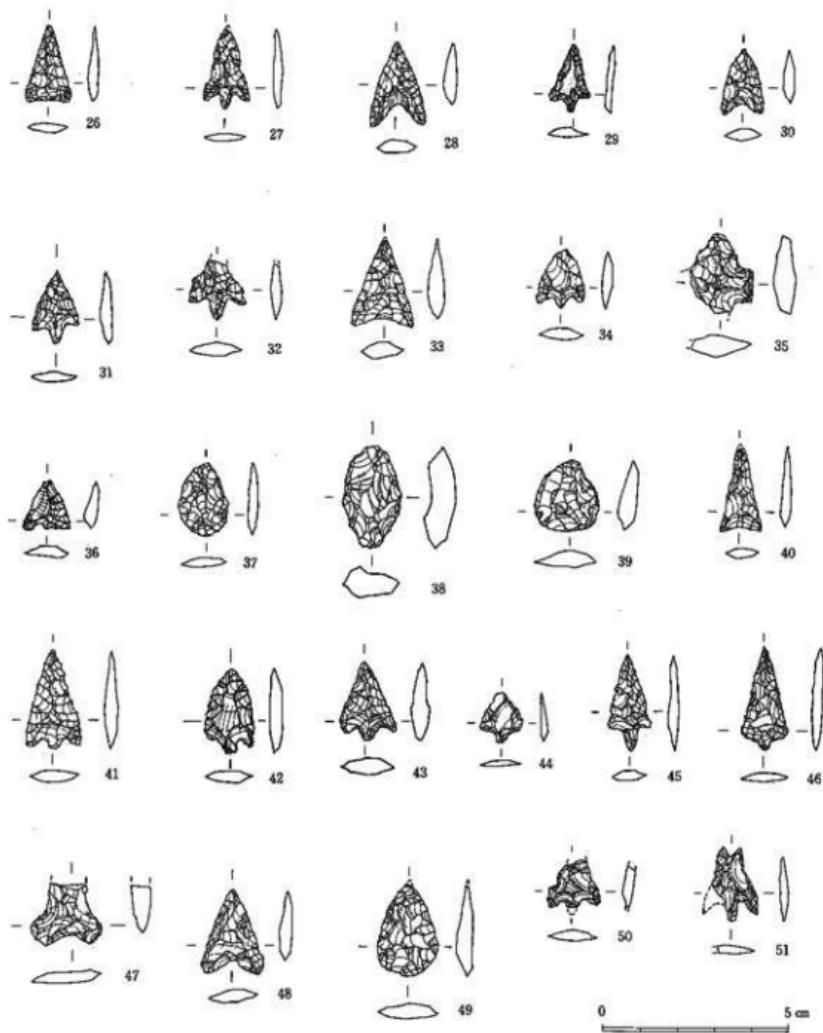
No	測 定 No.	出 土	上 層	下 部	敲打面	磨 面	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
40		S78W95				○	(9.0)	(3.11)	(3.28)	(362)	砂岩	馬歎	
41		上層37		O($\times 2$) (肉面)		○	7.22	2.68	0.63	16	砂岩	完	
42	1	S96W87		O($\times 2$)			(7.75)	(7.26)	(3.13)	(475)	石英閃綠岩	馬歎	
43	2	S72W78	II上	○			(12.83)	(9.68)	(2.92)	(461)	砂岩	馬歎	
44	3	S81W84	II中	○			(5.53)	(5.14)	(1.77)	(78)	砂岩	馬歎	
45	4	S76W90	II上	O($\times 2$) (肉面)	○		5.53	4.17	2.66	87	砂岩	完	
46	5	14住		O($\times 2$)	○		15.36	6.91	6.43	798	砂岩	完	
47	6	S81W87	II		○		13.98	4.96	2.85	373	砂岩	完	
48	7	S78W78	II上	○		○	(8.47)	(6.04)	(4.74)	(342)	砂岩	馬歎	
49	8	S81W90		O($\times 2$) (肉面)			8.53	8.23	3.05	286	安山岩	完	石盐水?
50	9	溝7	II上	O($\times 2$)			7.72	6.62	6.46	238	石英閃綠岩	馬歎	
51	10	S78W96	II	○	○		(12.64)	(8.16)	(4.67)	(474)	砂岩	馬歎	
52	11	S87W88	II b	○			(11.45)	(11.25)	(2.19)	(376)	安山岩	馬歎	
53	12	土壤37		○			(6.14)	(4.63)	(2.02)	(86)	砂岩	馬歎	
54	13	S78W84	II上			○	(7.90)	(5.37)	(3.44)	(166)	砂岩	馬歎	
55	14	S84W96		O($\times 2$)	○		18.00	8.12	6.29	615	砂岩	完	
56	15	S90W86		O($\times 2$)			18.00	16.50	3.62	1200	砂岩	完	
57	16	S76W93		O($\times 2$)	○		(16.87)	(7.25)	(6.88)	(733)	砂岩	馬歎	
58	17	S90W96	I・II上	O($\times 2$)	○		(9.40)	(5.80)	(3.69)	(322)	石英閃綠岩	馬歎	
59	18	S93W78		O($\times 3$) (肉面)			(8.98)	(4.40)	3.89	(215)	砂岩	馬歎	
60	19	S75W99	II上			○	11.40	3.75	2.46	154	砂岩	完	
61	20	S69W75	II上	○			(10.78)	(9.80)	(4.36)	(590)	砂岩	馬歎	
62	21	S76W81	II上				(9.46)	(5.56)	(2.70)	(182)	砂岩	馬歎	
63	22	S78W78	II上	○	○		(9.56)	(5.54)	(3.42)	(256)	砂岩	馬歎	
64	23	S72W78	II中	O($\times 2$) (肉面)			(6.77)	(6.36)	(1.77)	(156)	砂岩	馬歎	
65	24	S72W72	II中	○			(20.05)	(6.75)	(2.54)	(121)	砂岩	馬歎	
66	25	S81W87	II	○			(6.95)	(6.77)	(2.90)	(154)	砂岩	馬歎	
67	26	S84W99	II上	○	○		(5.81)	(4.78)	(4.38)	(176)	砂岩	馬歎	
68	27	S78W96	I	○			(11.30)	(7.21)	(6.53)	(756)	安山岩	馬歎	
69	28	S76W78	I・II	○			(7.89)	(3.99)	(2.61)	(130)	砂岩	馬歎	
70	29	S81W90	II上			○	(8.83)	(5.05)	(2.44)	(142)	砂岩	馬歎	
71	30	S90W84	II上			○	(7.74)	(6.26)	(2.90)	(201)	砂岩	馬歎	
72	31	S78W96				○	(10.85)	(5.48)	(5.09)	(684)	砂岩	馬歎	
73	32	3住		○			(11.53)	(11.49)	(2.61)	(576)	砂岩	馬歎	變熱
74	33	S72W78	II上			○	(10.35)	(4.26)	(4.23)	(256)	砂岩	馬歎	
75	34	5住		○			(7.60)	(7.08)	(3.89)	(275)	砂岩	馬歎	
76	35	S87W81	II	○	○		7.66	7.42	2.64	229	砂岩	完	
77	36	S81W87	II			○	(10.37)	(6.86)	(2.77)	(225)	砂岩	馬歎	
78	37	溝5		○			(14.35)	(5.22)	(5.00)	(595)	砂岩	馬歎	
79	38	S69W72	II上	○			(11.19)	(6.05)	(4.72)	(549)	砂岩	馬歎	
80	39	S90W84	II上			○	(5.82)	(4.99)	(3.36)	(132)	閃綠岩	馬歎	變熱石斧?
81		S69W69	II中			○	(9.12)	5.14	(4.69)	(311)	石英閃綠岩	馬歎	
82		5住		○			(14.35)	(5.22)	(5.00)	(595)	砂岩	馬歎	

その他の石器

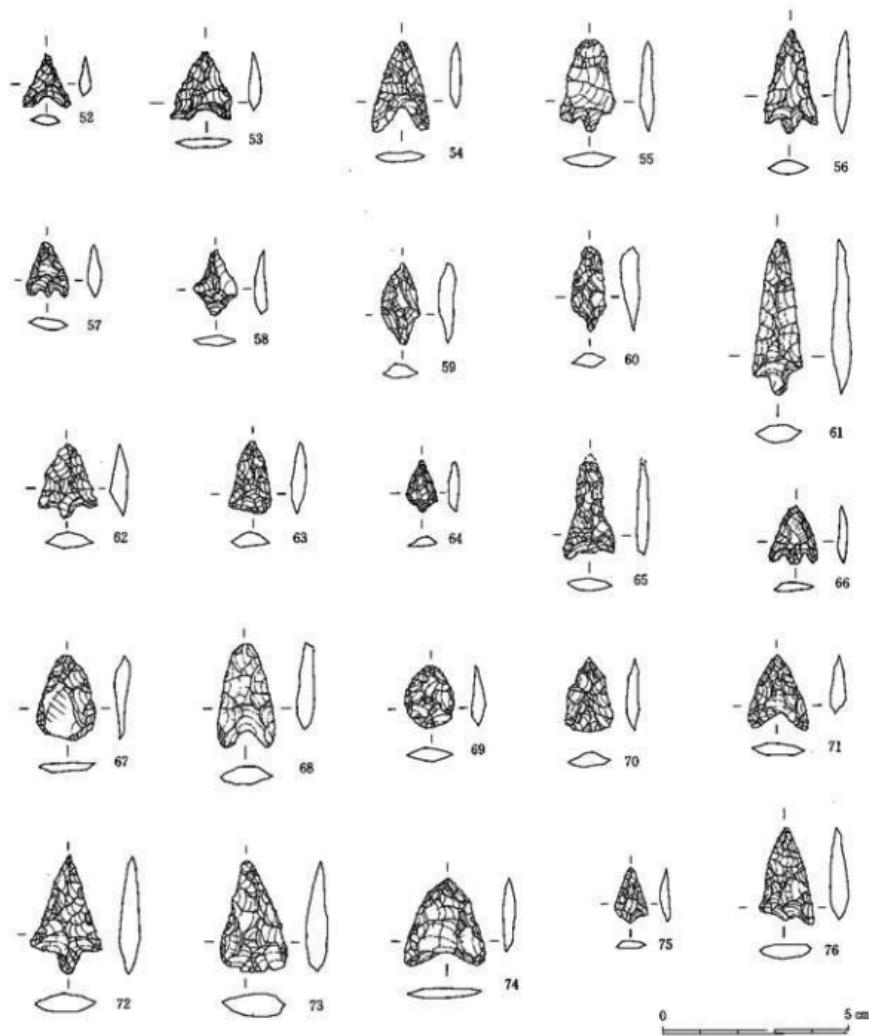
No	器種	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1		S78W72	II層中	3.98	1.38	0.51	3.35	砂岩	先端部欠	
2		S87W99	II層上N.E.	3.93	2.40	0.81	3.30	砂岩	先端部欠	磨製石斧の軸用
3		S78W96	II層中	1.34	2.61	0.50	1.20	黒縞石	完	縁辺部つぶれ
4	石刃状剝片	S84W105	II層(造標中)	11.44	3.87	1.21	45.50	黒縞石	#	細長剝片
5	圓状石器	S78W84	II層	8.90	(5.79)	2.03	(164.80)	花崗閃緑岩	約先欠	
6	#	S81W93		5.14	(6.10)	1.36	(45.30)	砂岩	#	
7	#	S84W90		5.37	(3.53)	1.88	(44.80)	砂岩	#	
8	#	土標13	フタ土	3.20	(3.34)	0.83	(10.60)	砂岩	#	
9	#	捨土内		2.98	(4.71)	0.90	(14.85)	砂岩	#	



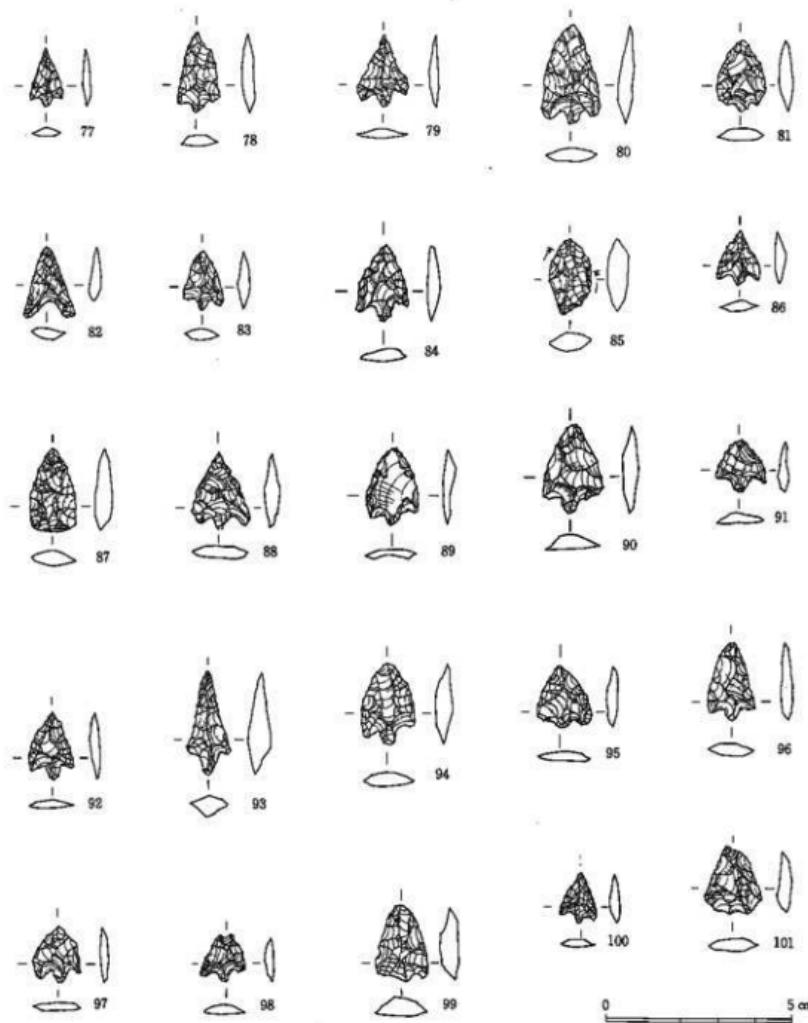
第57図 石器(1) (石器1~25)



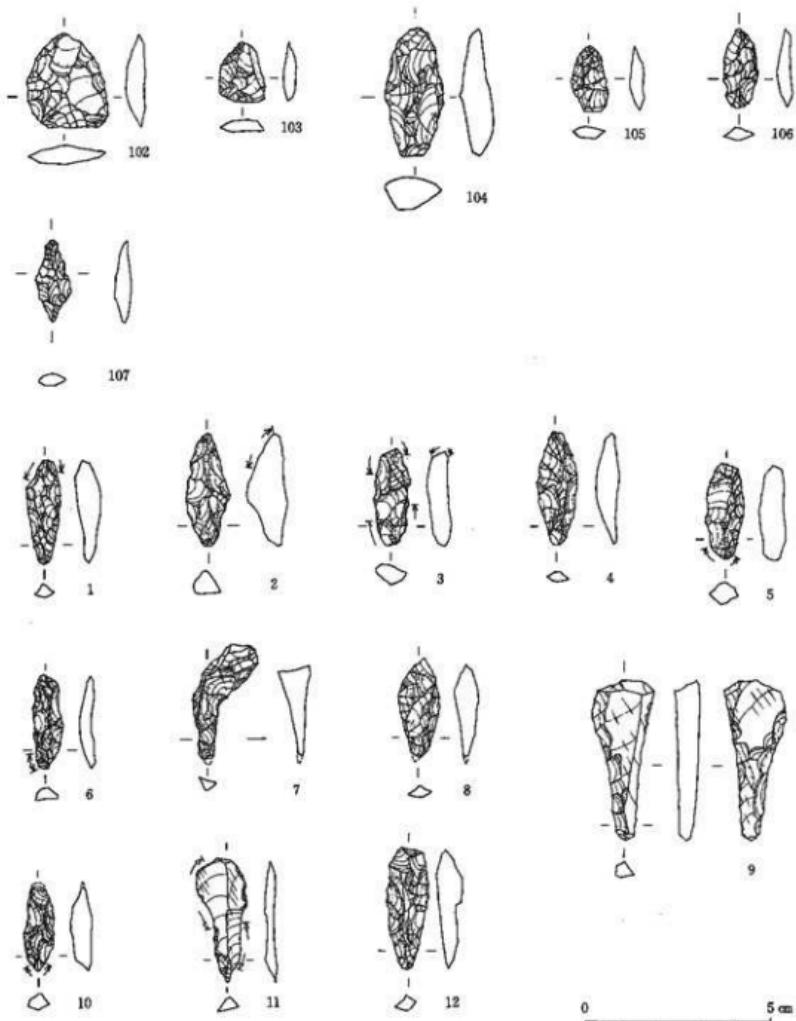
第58図 石器(2) (石器26~51)



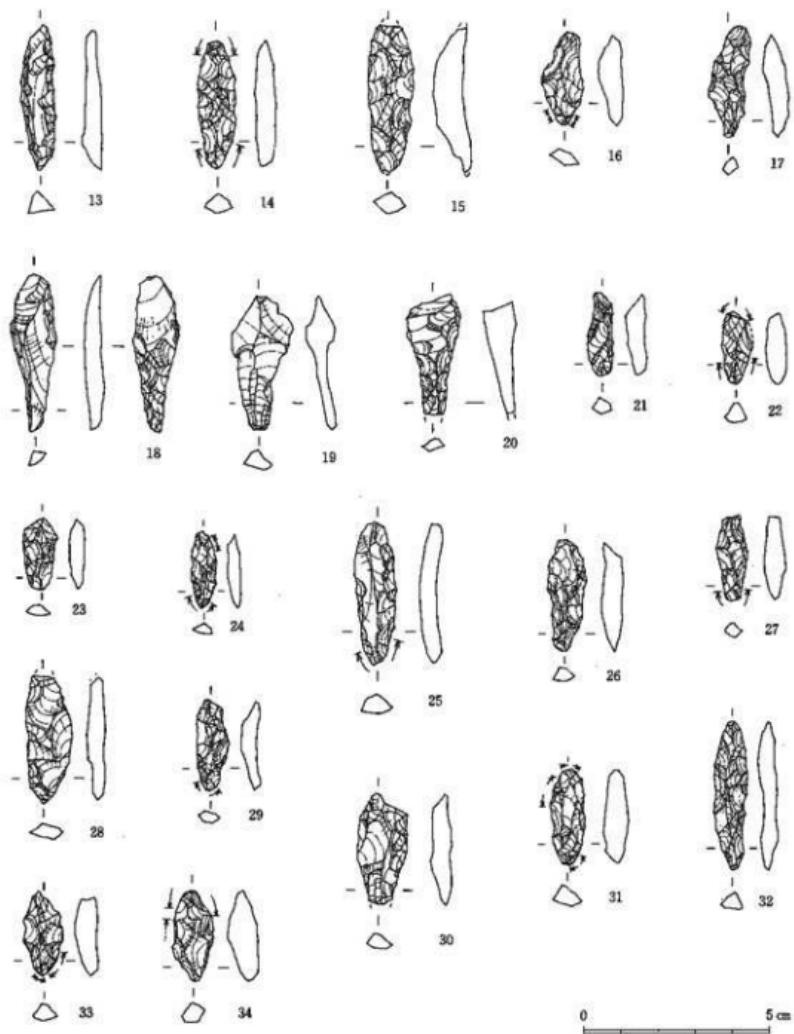
第59図 石器(3) (石器52~76)



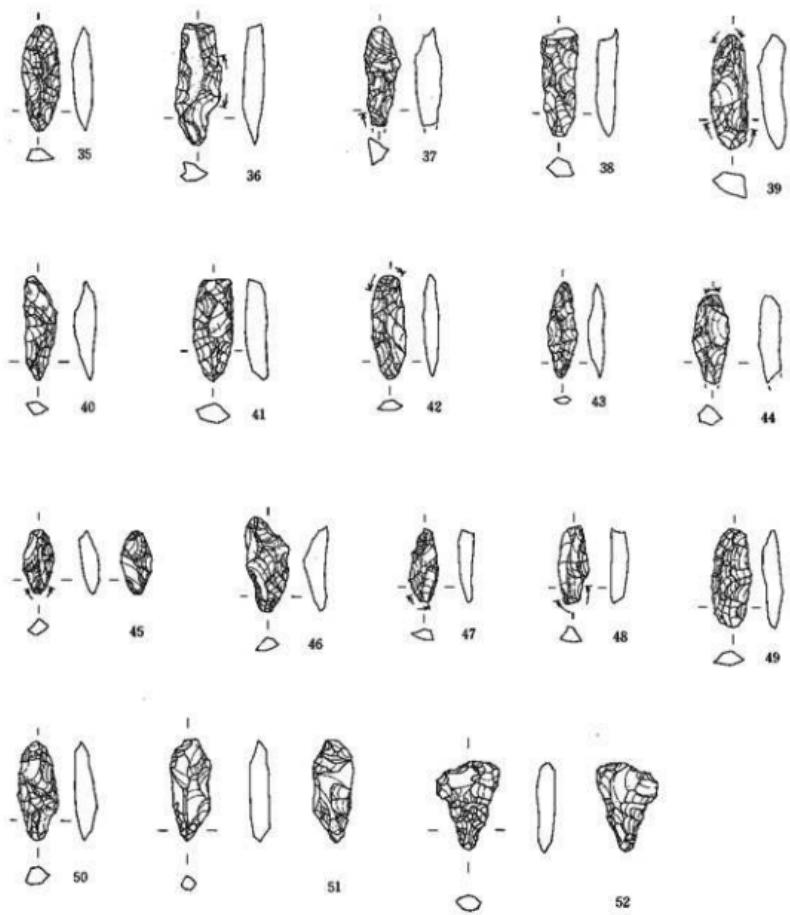
第60図 石器(4) (石器77~101)



第61図 石器(5)(石器102~107)

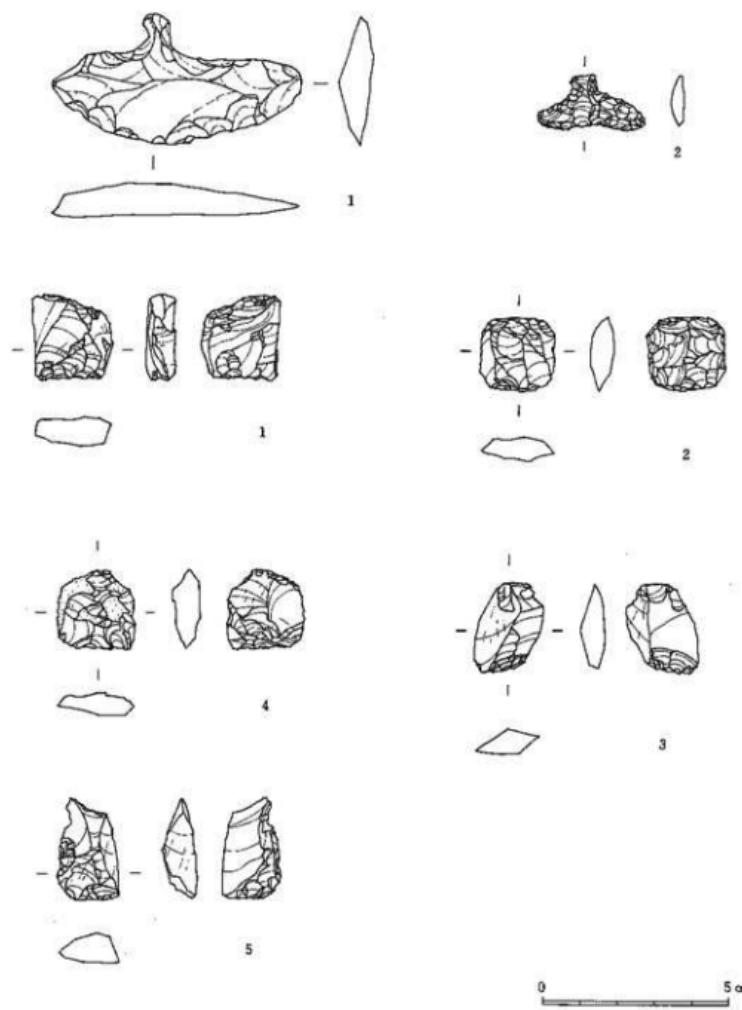


第62図 石器(6) (石錐13~34)

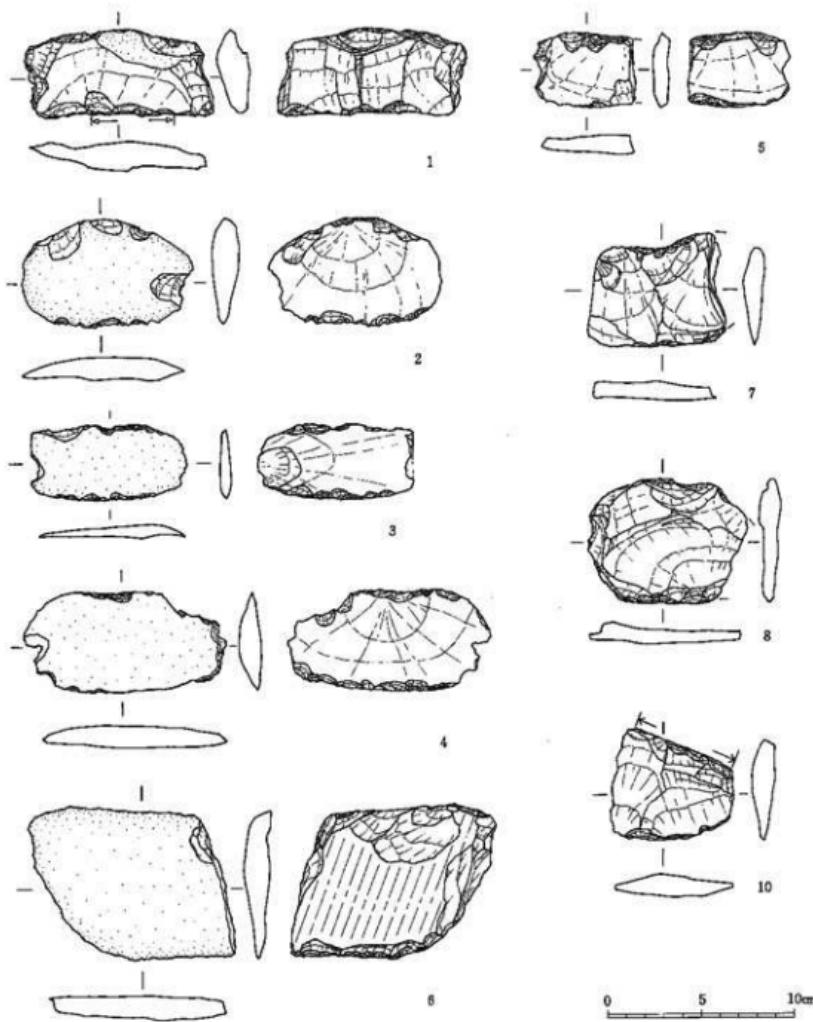


0 5 cm

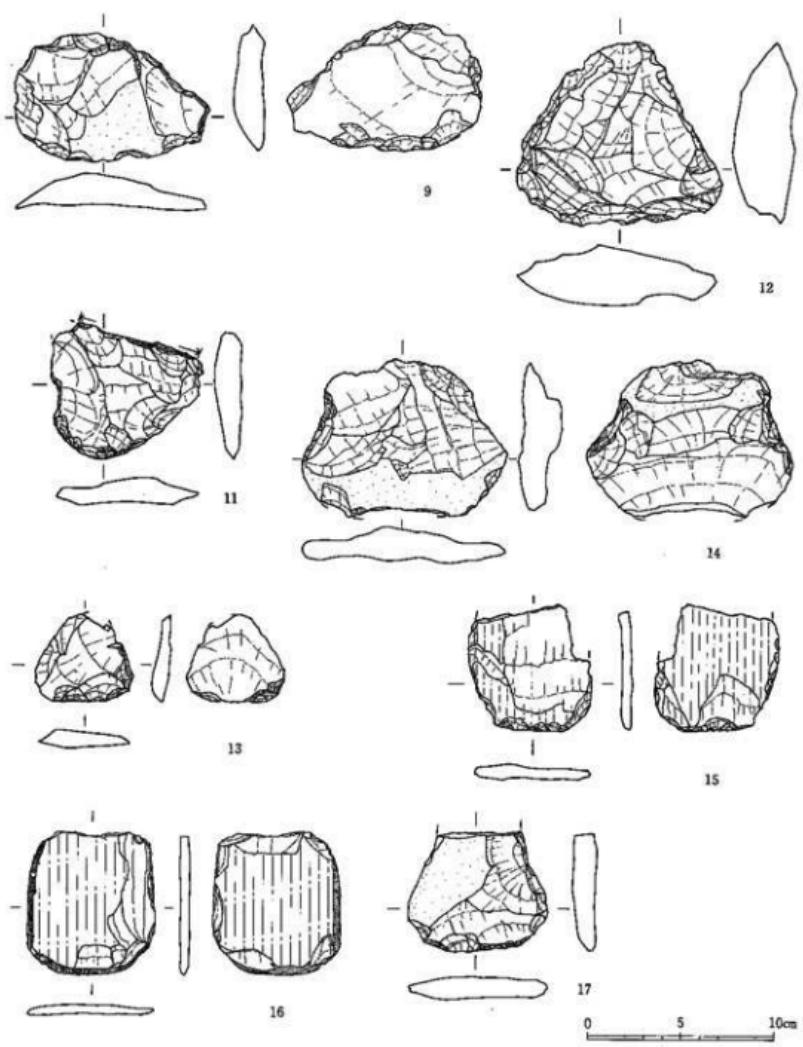
第63図 石器(7) (石器35~52)



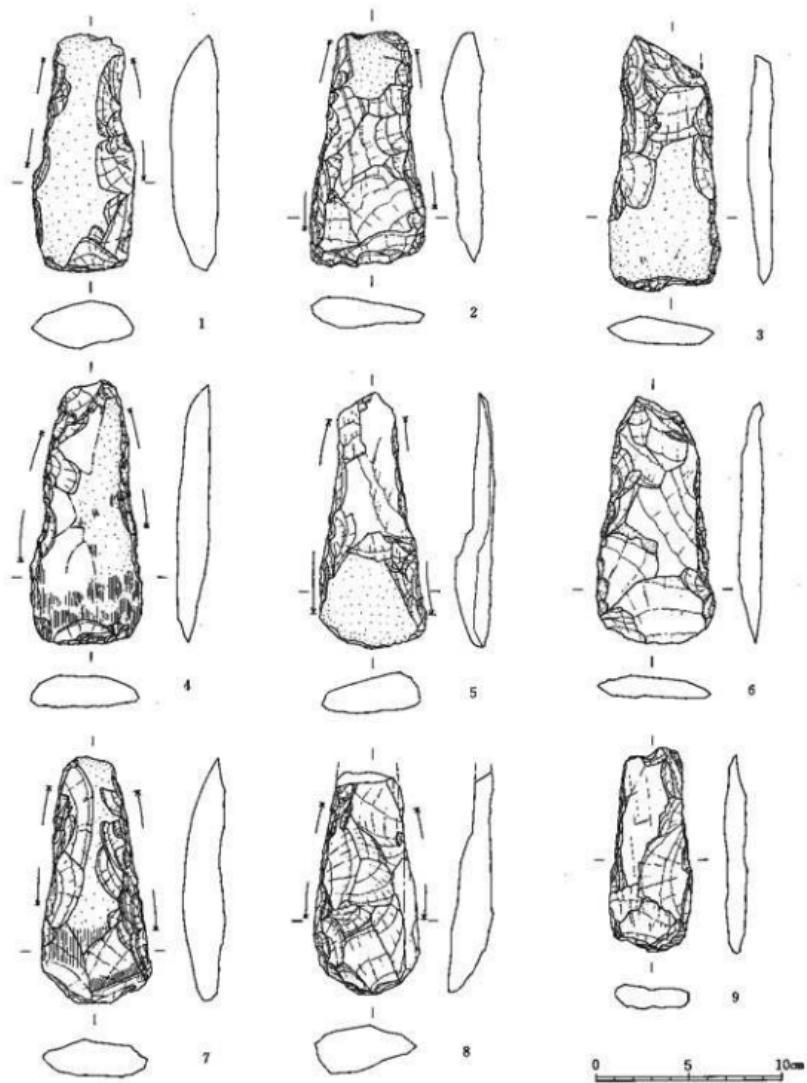
第64図 石器(8) (石匙1・2, ピエス・エスキュー1~5)



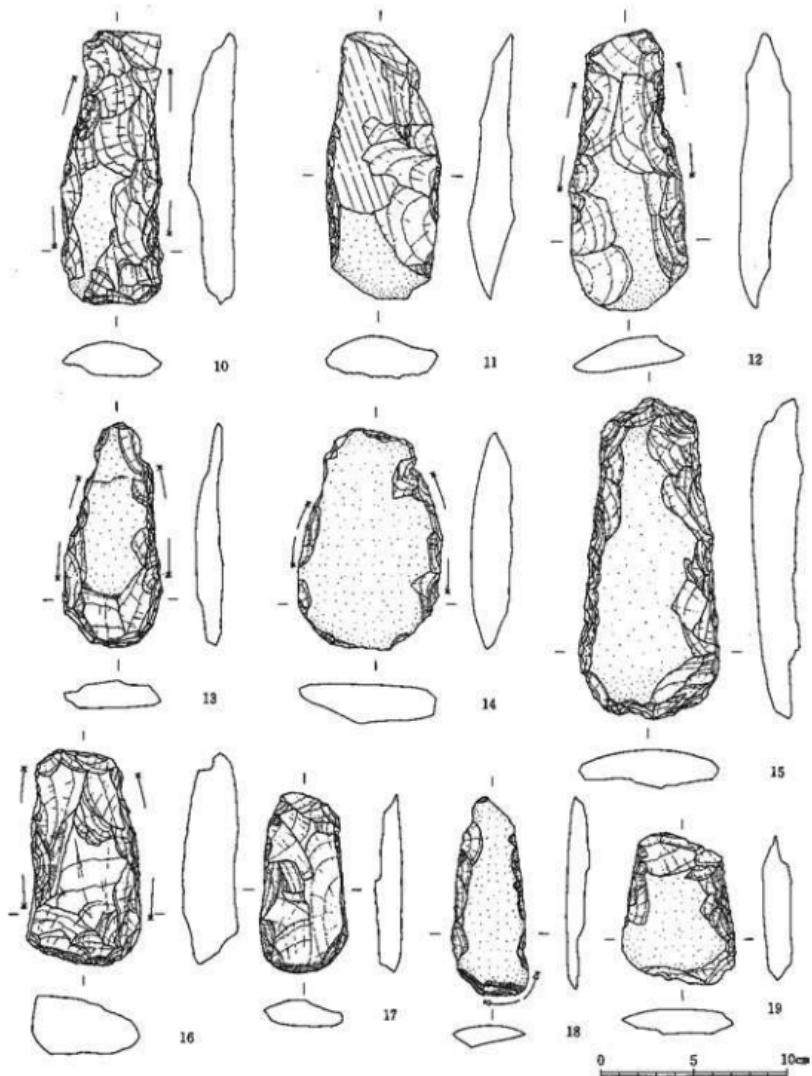
第65図 石器(9) (スクレーバー 1~8 + 10)



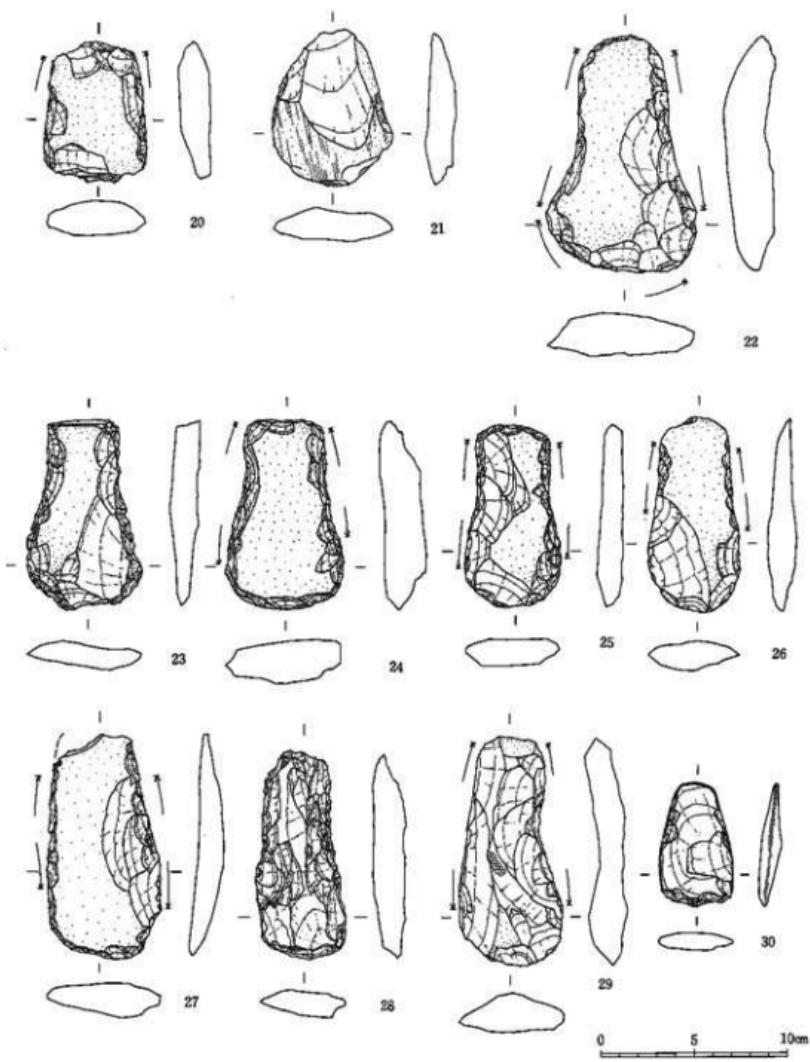
第66図 石器(10) (スクレーパー 9・11~17)



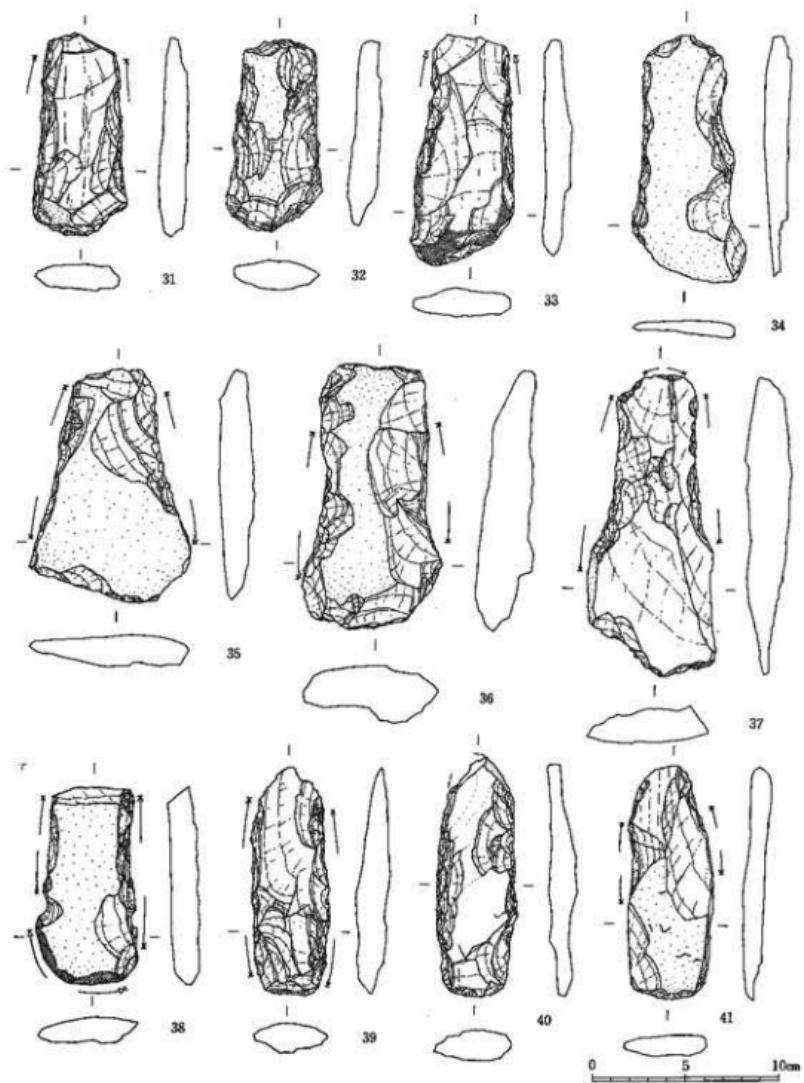
第67図 石 器 (1)



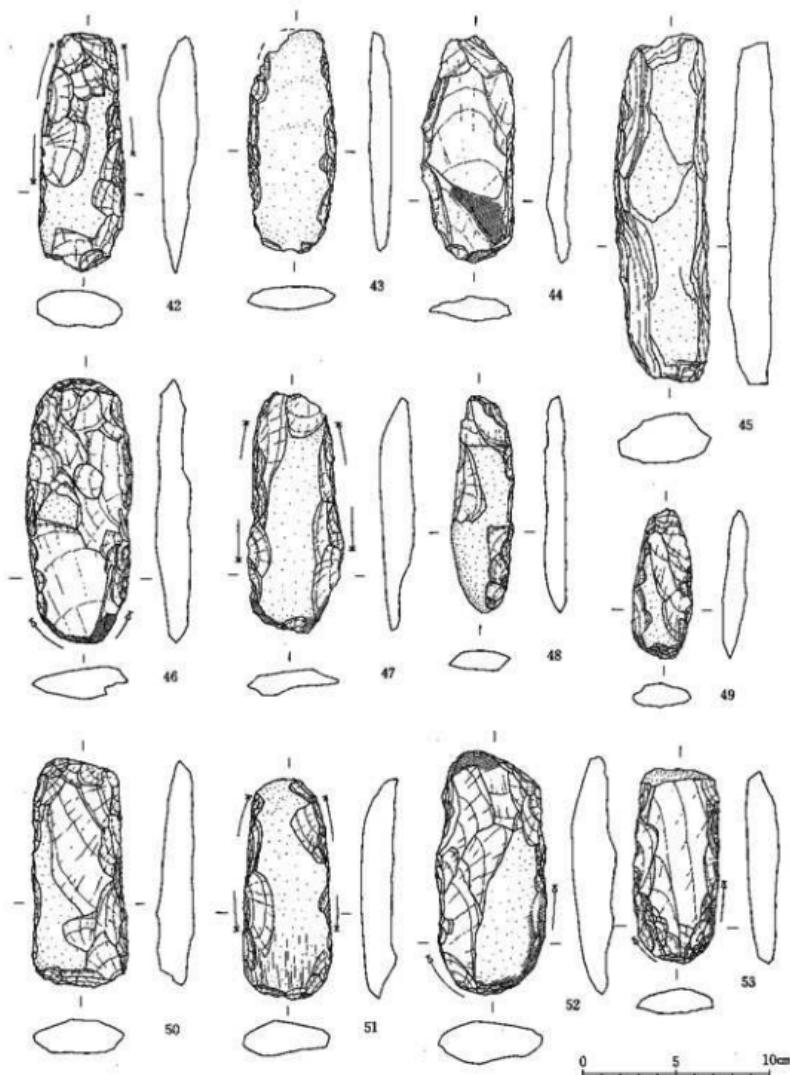
第68図 石器 02



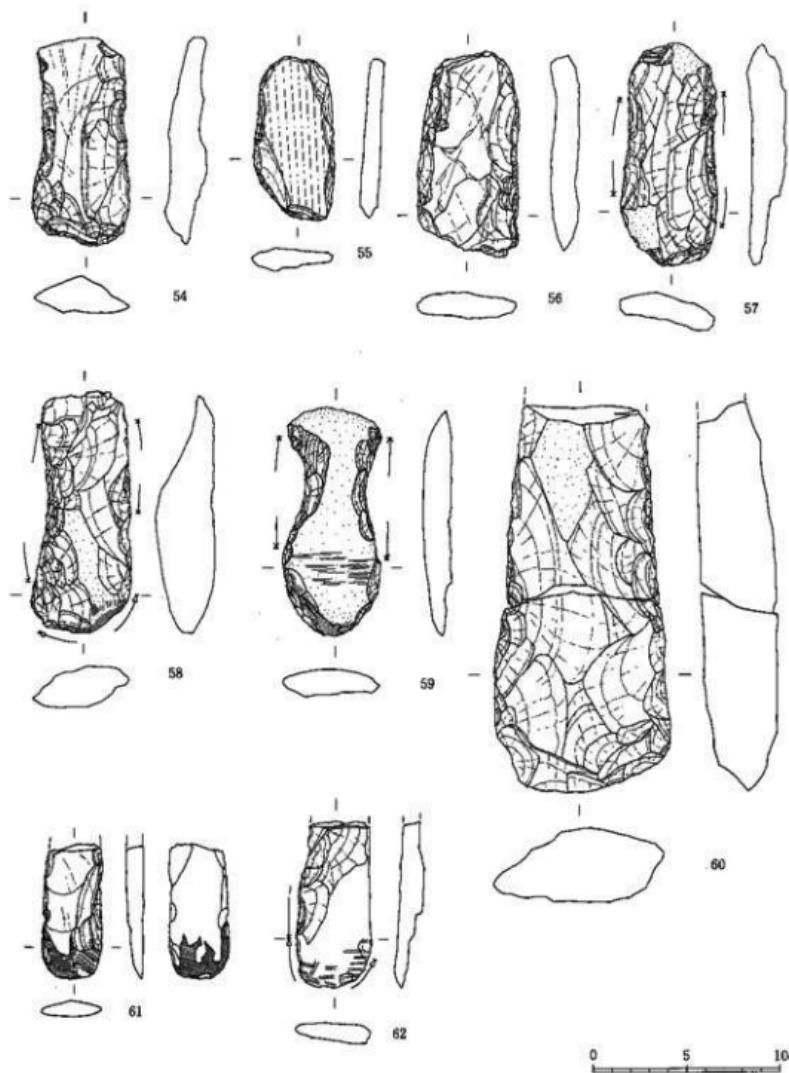
第69図 石器 (1)



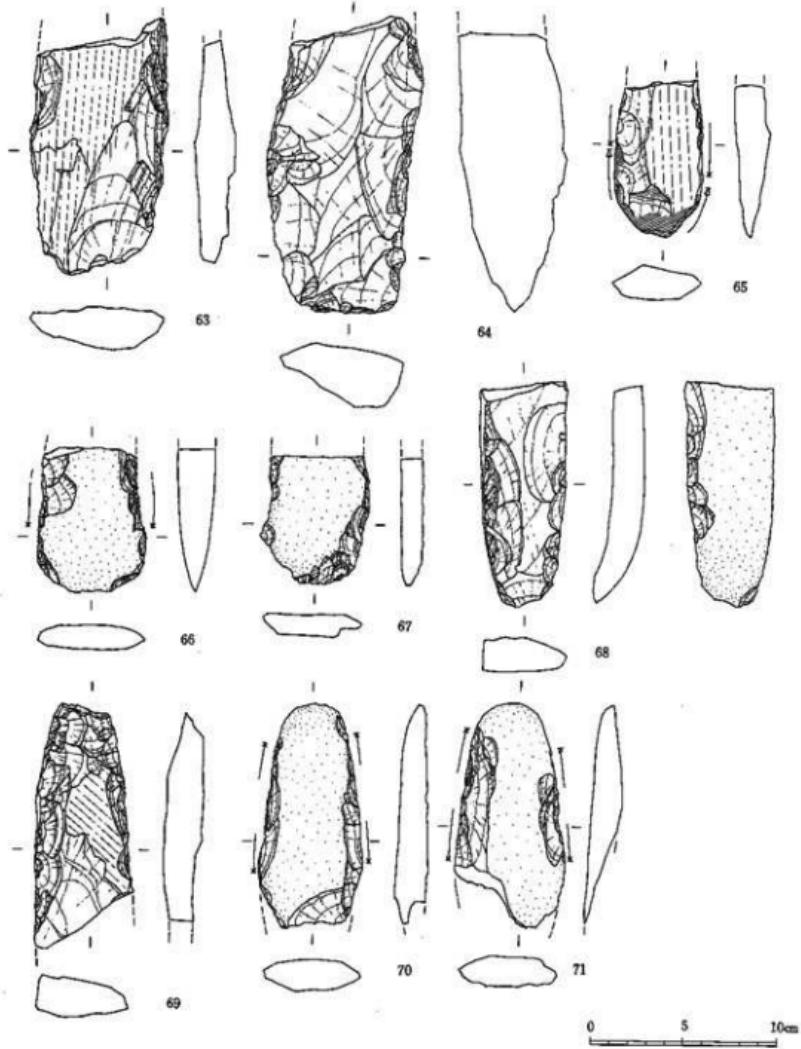
第70図 石 器 (1)



第71図 石 器 (1)



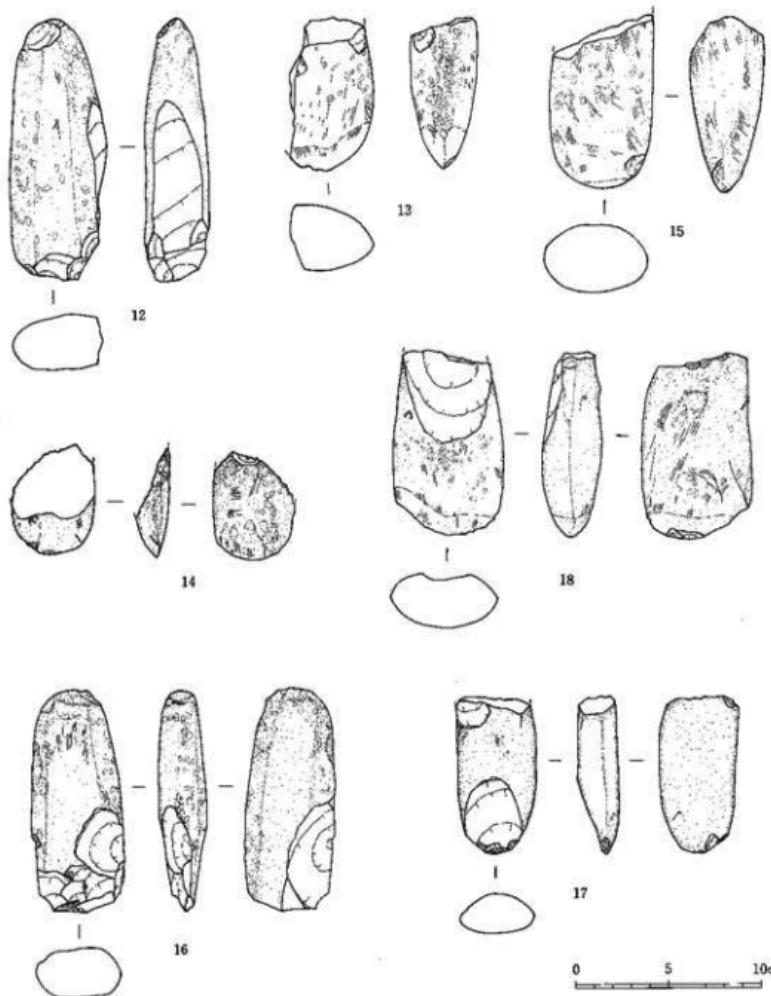
第72図 石 器 (16)



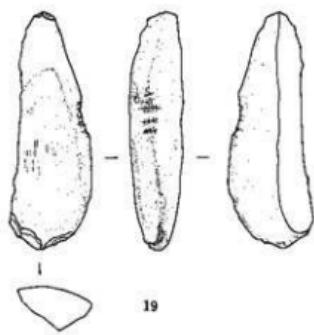
第73図 石 器 (17)



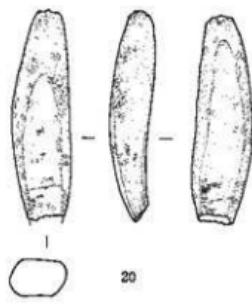
第74図 石器(11)(磨製石斧1~11)



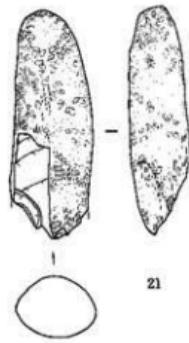
第75図 石器19(磨製石斧12~18)



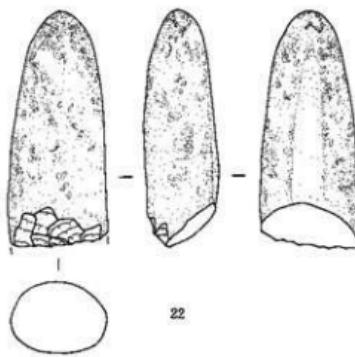
19



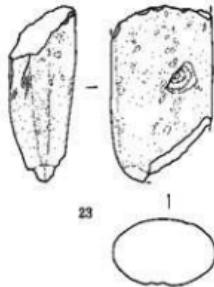
20



21



22



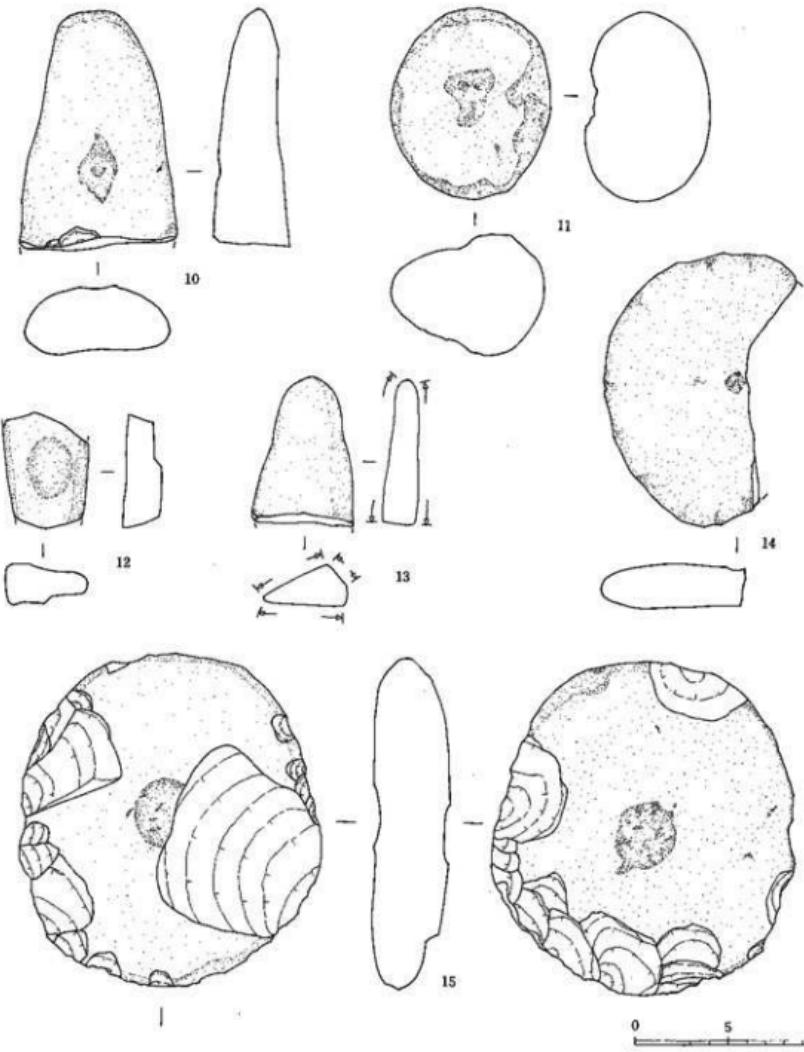
23

0 5 10cm

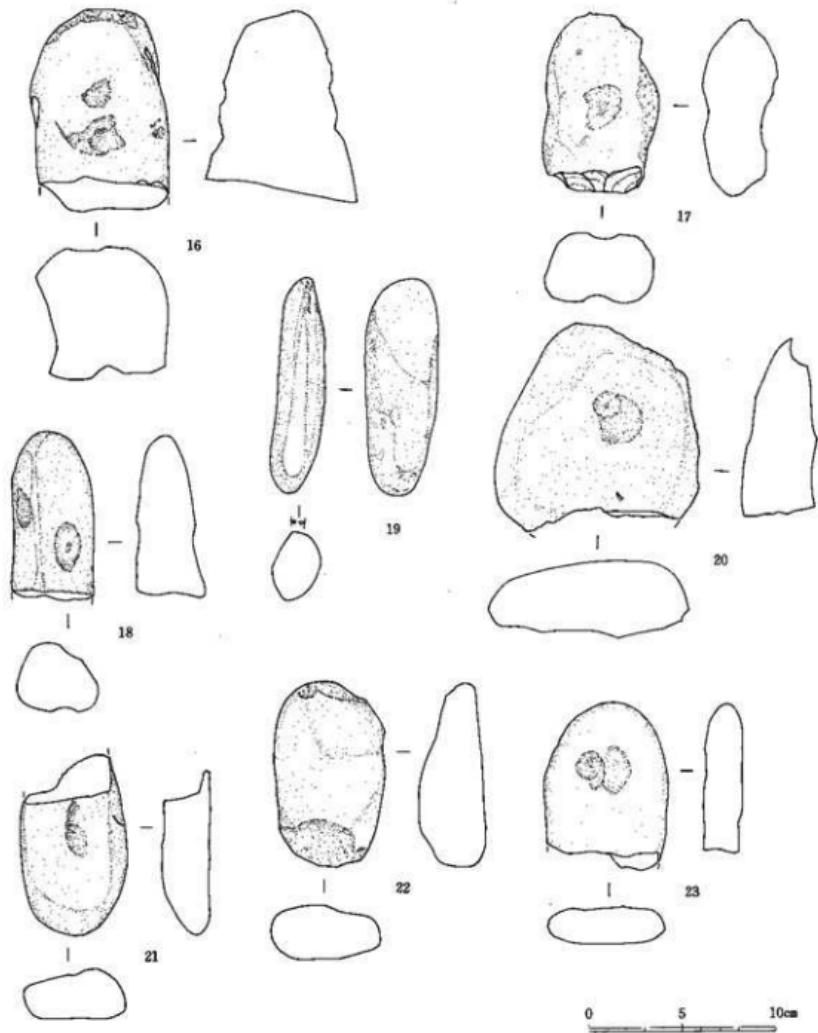
第76図 石器20 (磨製石斧 19~23)



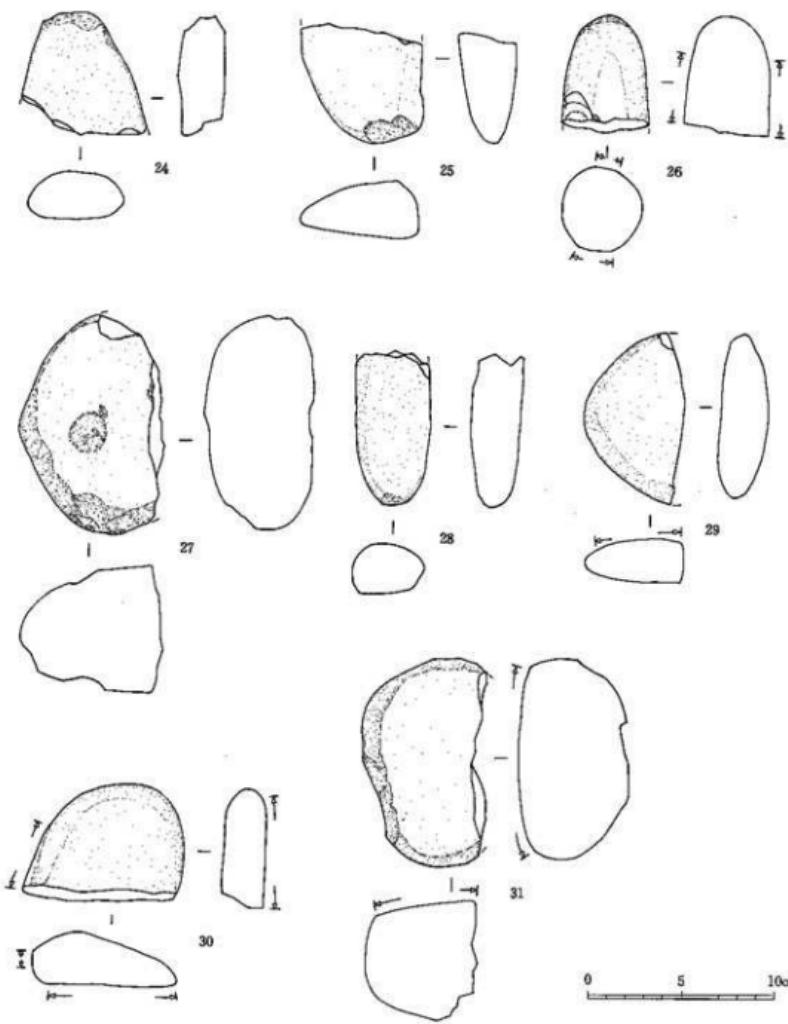
第77図 石器21(歛・磨・凹石 1~9)



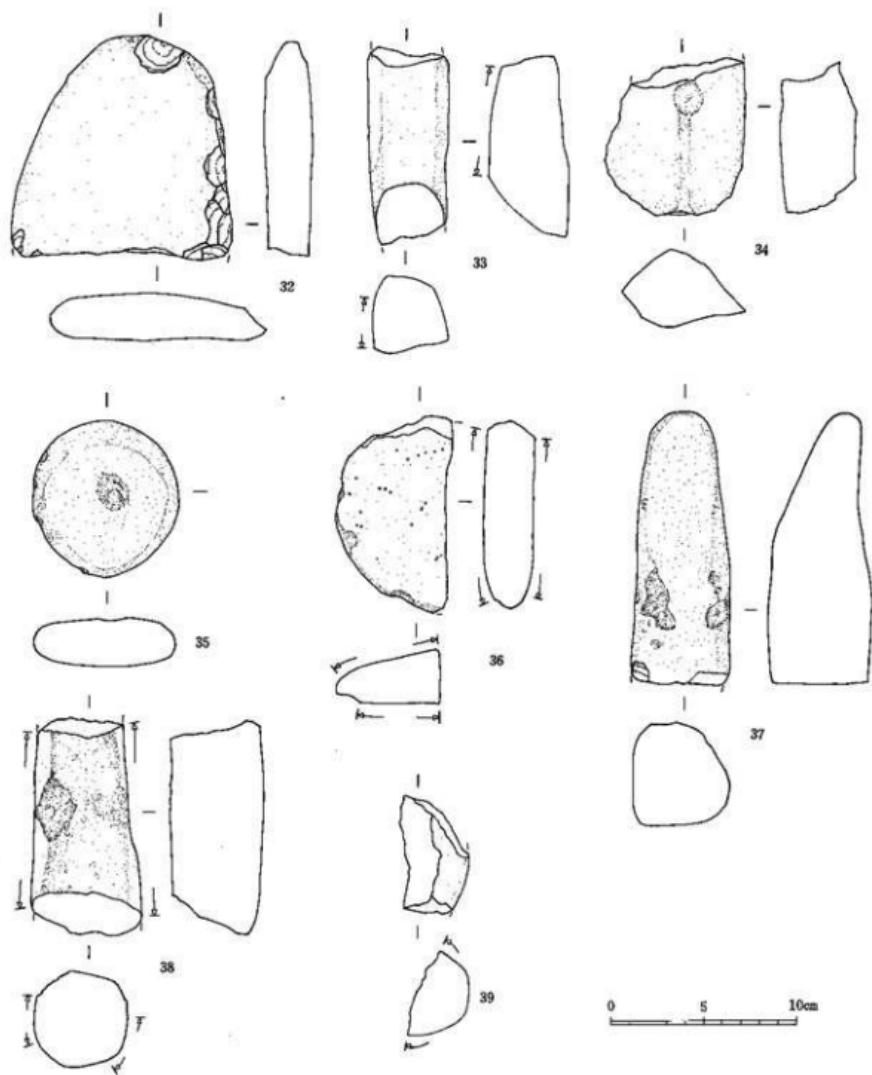
第78図 石器22(敲・磨・凹石10~15)



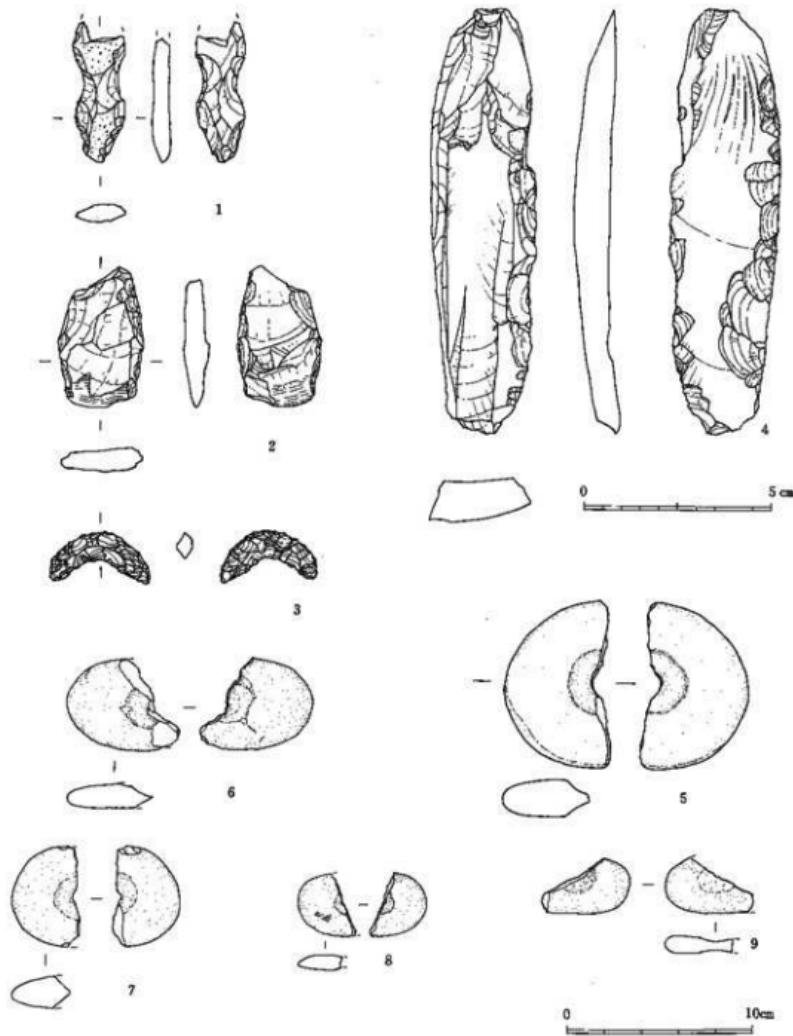
第79図 石器23(敲・磨・圓石16~23)



第80図 石器24(敲・磨・凹石24~31)



第81図 石器25(敲・磨・凹石32-39)



第82図 石器26(その他の1~9)

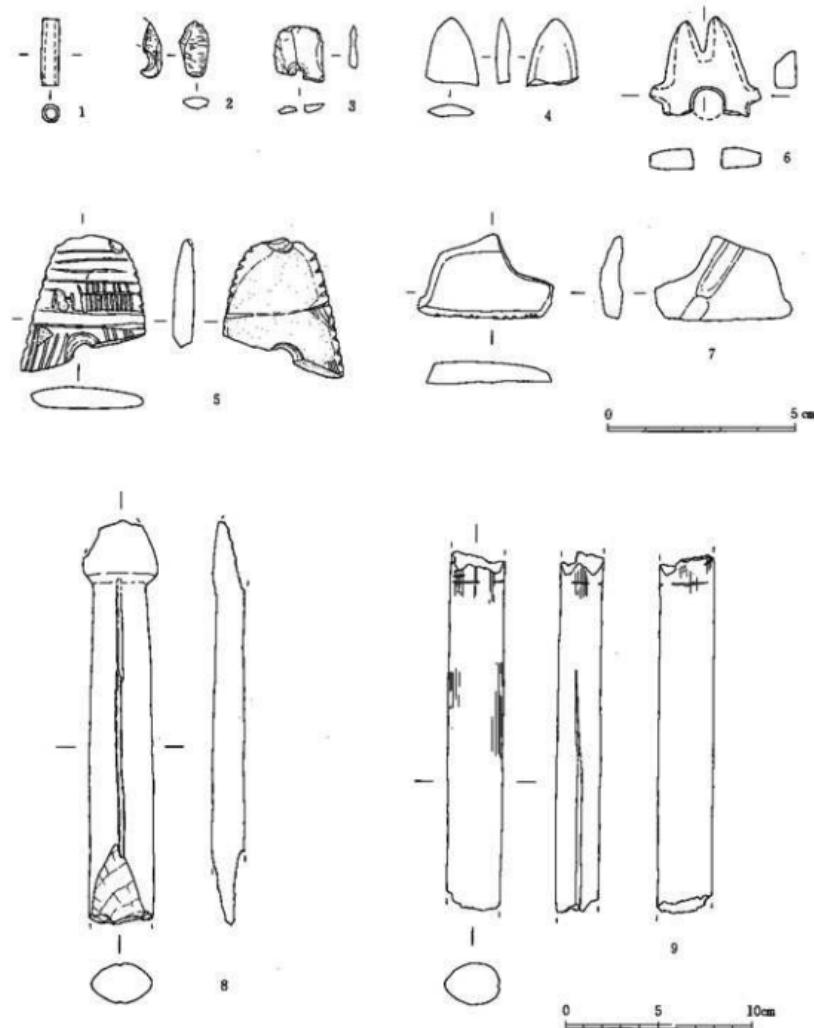
(4) 石製品(図83)

10点出土し、9点を図化した。1は凝灰岩製の管玉。表面はよく研磨されている。上・下端とも端部から穿孔部にかけて凹んでいる点が特徴的である。淡緑灰色を呈する軟質の凝灰岩製である。縄文時代には管玉はあまりみられないこと、弥生～古墳時代にかけて緑色凝灰岩製の管玉が多くみられることから、時期が下がる可能性をもつものである。2は装身具の一種と考えられるもの。器形はC字状を呈していたと考えられる。研磨は非常にあらく、成形剝離時の稜線を残している。めのう製。3は有孔の石製品。孔は両面からの回転穿孔である。周縁には成形と考えられる調整剝離が施されている。砂岩製。4は剣状の先端をもつ石器。研磨がよく施され、鋸い刃部を呈している。横断面は低いカマボコ状を呈する。裏面は周縁にそって鈍い棱がみられる。千枚岩製。5は装身具又は呪具と考えられるもの。孔の部分で破損しており全体形はわからない。孔は両面からの回転穿孔である。扁平な縁を素材とし、側縁部には浅い刻み目を施し、体部両面には線刻を施している。線刻はタテ・ヨコ方向を組み合わせたモチーフである。裏面の線刻文様は器面の剝落によりよくわからなかった。砂岩製。6も有孔の石製品である。孔はおそらく片面からの回転穿孔であろう。上方にはV字状の切り目が施され、両側には突出部をもつ。裏面は平坦である。全体形は推定できなかった。泥質砂岩製。7は刻み目をもつもの。表面の下端部、右側に凹状を呈する彫りの一部に細かな刻み目が施されている。裏面は斜めに浅い凹状の溝が施されている。砂岩製。8は石剣。一部を欠いているが亀頭状の頭をもち、頭部から下は断面鎌形の棒状の体部が伸びている。体部の両面には中央に沈線が施されている。縁れん片岩製。9は石刀。断面が偏鎌形を呈する棒状のもので反りはない。頭は折れて失われているが、頭部寄りのところには横走する沈線が施されている。

表4 石製品一覧表

No.	器種	出土	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	管玉	S69 W78	II層上	1.79	0.47	0.47	0.45	凝灰岩	完	
2	装身具	S75 W75	II層下	(1.52)	(0.71)	(0.57)	(0.65)	めのう	1/2欠	
3	剣形石製品	S84 W96		(2.88)	(2.63)	(0.55)	(4.70)	砂岩	々	
4	石剣	S81 W93		(3.60)	(2.76)	(0.72)	(1.65)	千枚岩	先端残	
5	装身具?	S81 W93	II	(3.61)	(3.21)	(0.54)	(8.10)	砂岩	1/2欠	
6	々	土壙13	覆	(2.76)	(2.98)	0.61	(4.40)	泥質砂岩		
7	不明	土壙27		2.27	3.50	0.60	5.20	砂岩	ほぼ完	
8	石剣	S84 W90	III	(21.50)	(3.29)	(1.99)	(247)	縁れん片岩	先端・下端欠	
9	石刀	S66 W66	II	(19.20)	(2.86)	(2.23)	(235)	?	下端欠	
10	石刀?	S84 W90	II層上部	(10.52)	(3.01)	(1.81)	(96.10)	玲岩	下半欠	

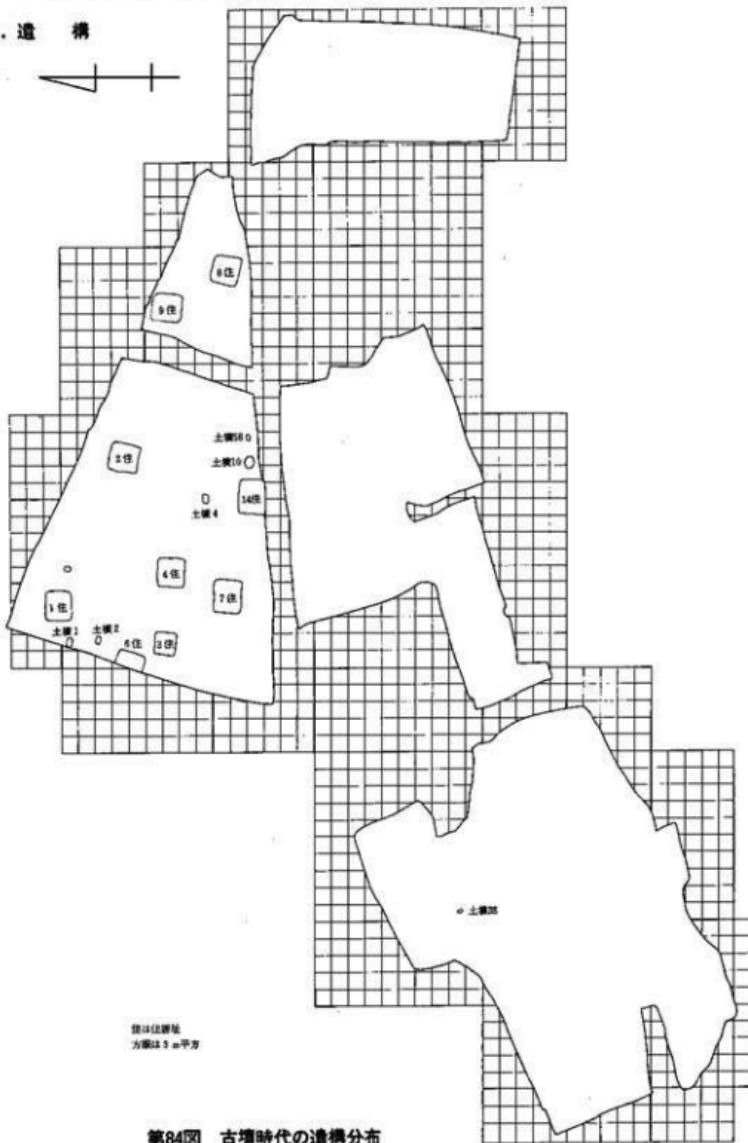
また、刃のない背部の下半には1条の沈線が施されている。石質は不明。10は図示していないが、石刀の可能性をもつもの。先端の一部、下半を大きく失っているが、横断面が偏筋鍔形、外反りの棒状のもの。研磨痕が一部に推察される。



第83図 石 製 品

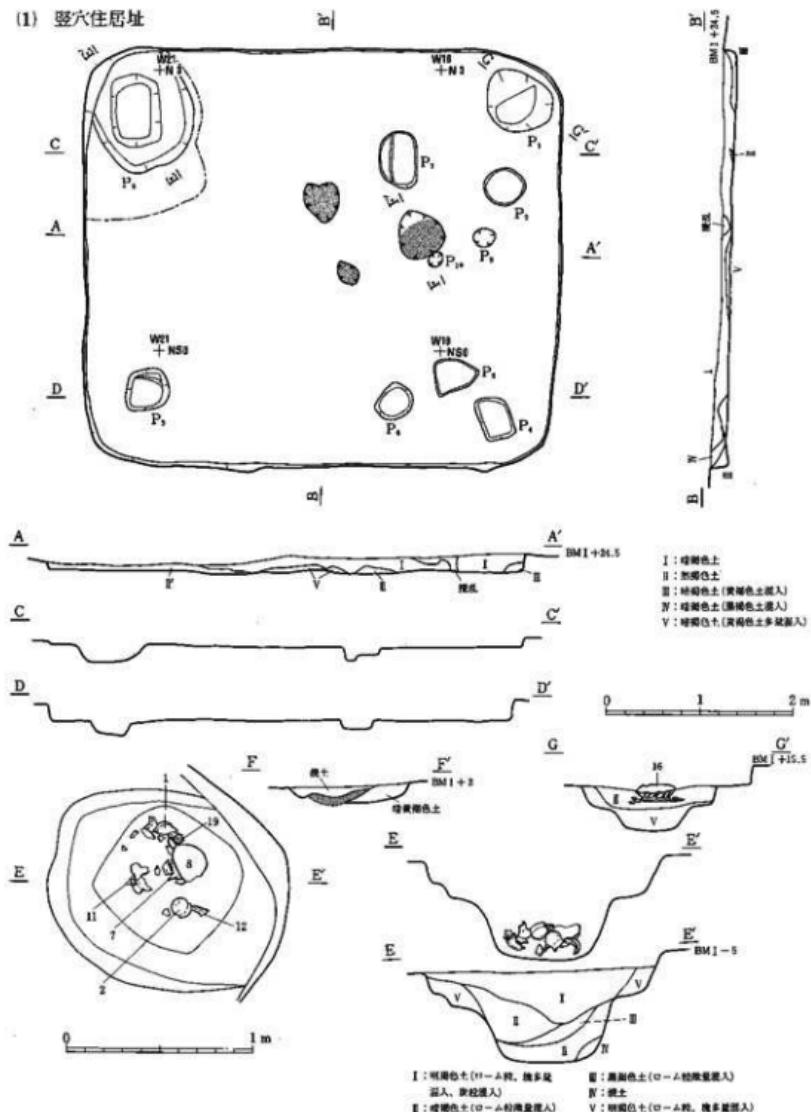
3 古墳時代の遺構と遺物

1. 遺構



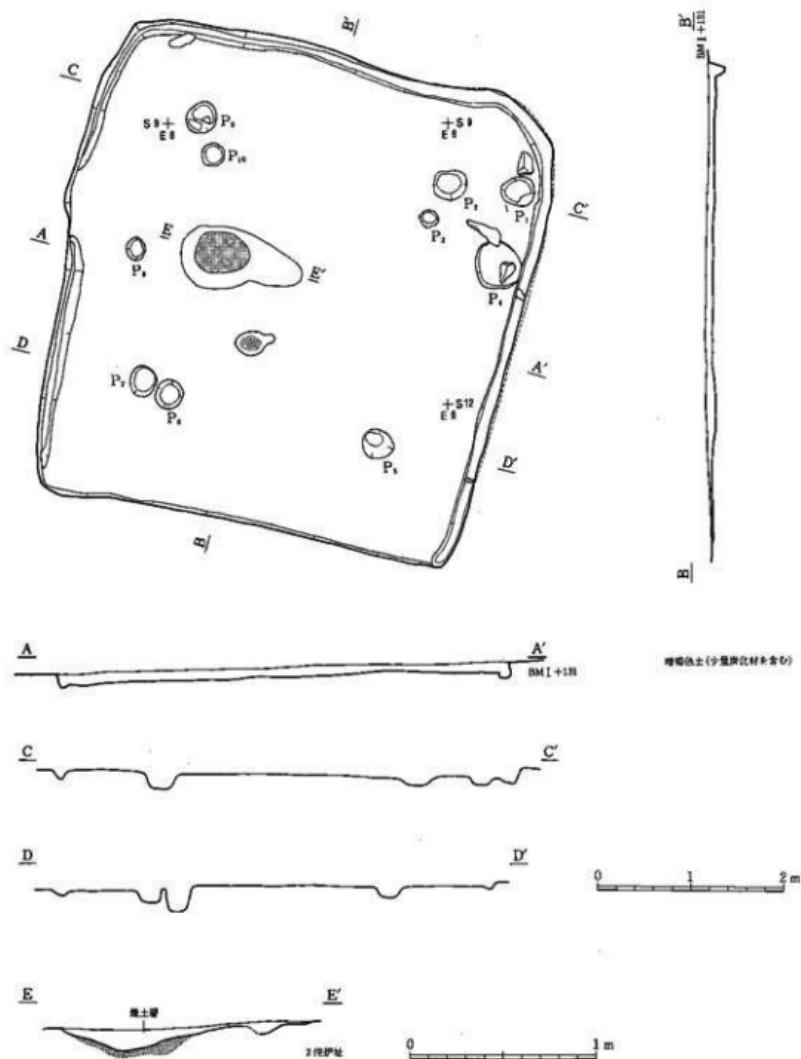
第84図 古墳時代の遺構分布

(1) 竪穴住居址



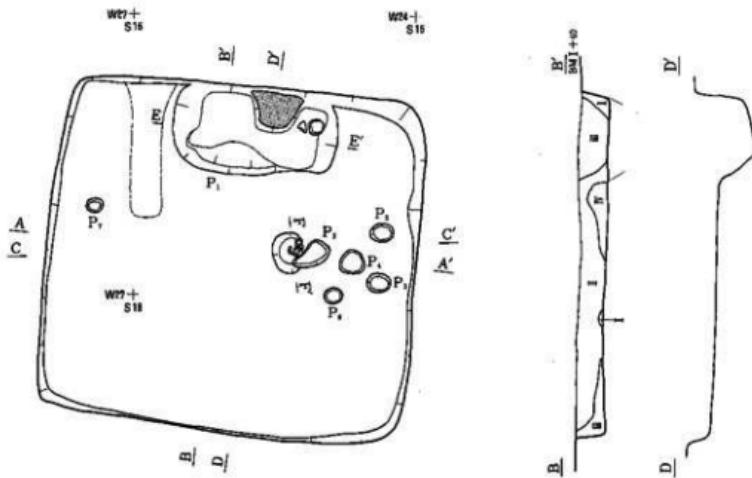
状況壁上部削平 床地山直床軟弱 床面積21.7m² 貯藏穴北西隅 P₃・周囲に周堤状の堅い土 出土遺物 P₁・P₂ (1・2・7・8・11・12・19) 一括遺物、他は覆土中から小片となり出土 (~18) 鉄鏃 1(1)、刀子 1(2) 時期古墳時代前期

第85図 第1号住居址

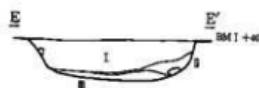


状況壁上部削平擾乱、覆土は耕作の影響をうける。床地山直床軟弱、直上から浜化材少量、柱穴配置より拡張の可能性、探査も柱？
 (P₅) 出土物耕作のため破壊小片となって多数 (20~36)、瓦石(6) 床面積22.3m² 時期古墳時代前期

第86図 第2号住居址



I : 黒山色土
II : 黄色土
III : 明褐色土
IV : 暗黄褐色土



I : 黒色土(黄褐色土塊混入)
II : 明褐色土(炭化物、燒土少量混入)
III : 暗黃色土(燒土塊混入)

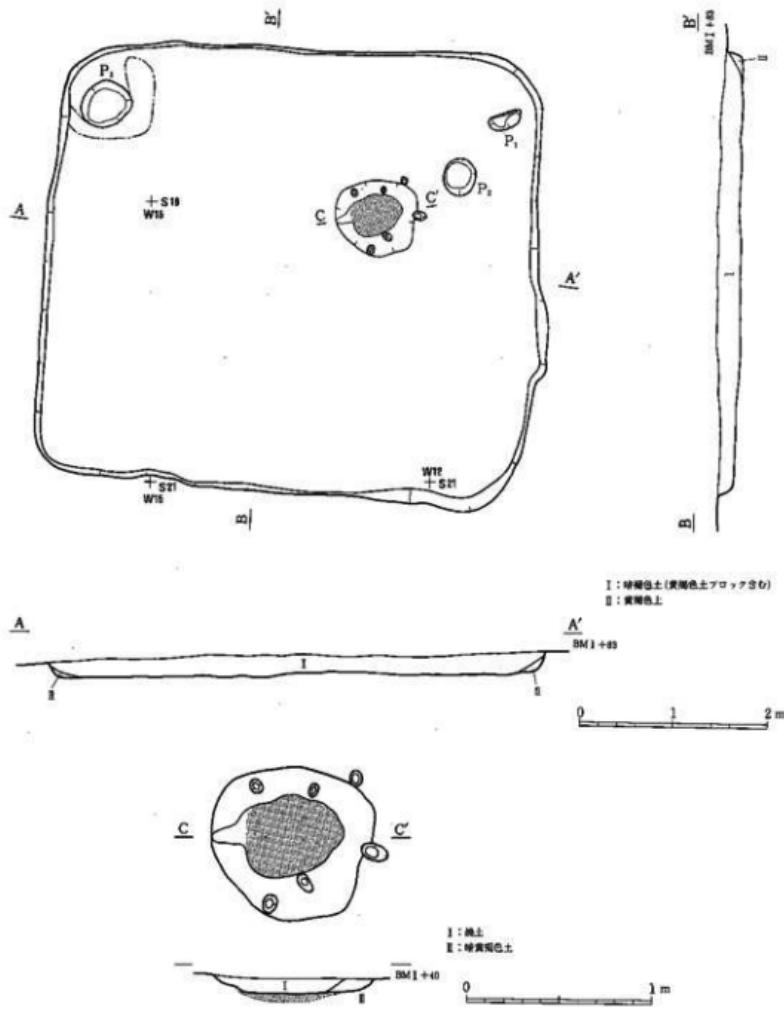
0 1 2 m



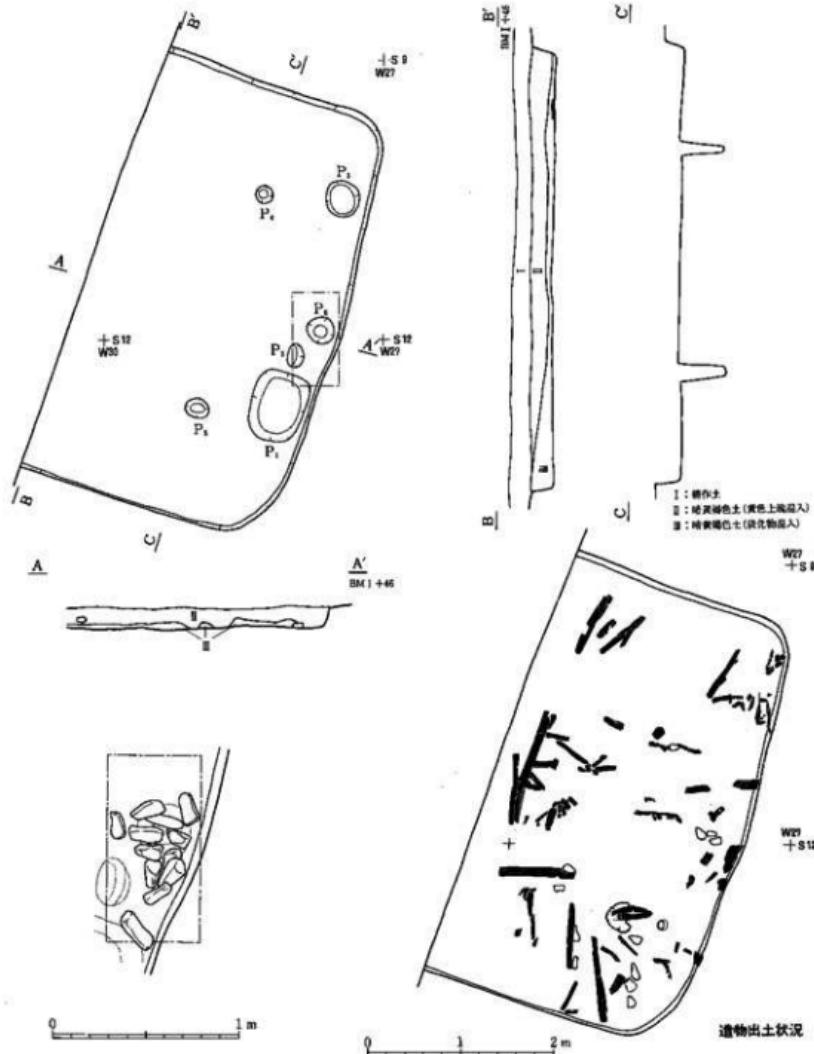
0 1 m

状況壁良好残存 床地山直床 窯窓穴 P₁内部に炭化物・焼土の面 P₁南外に周堤状の堅く高い床 柱穴不明 出土遺物覆土中。床上から少量散見(37~40) 床面積13.3m² 時期古墳時代前期

第87図 第3号住居址

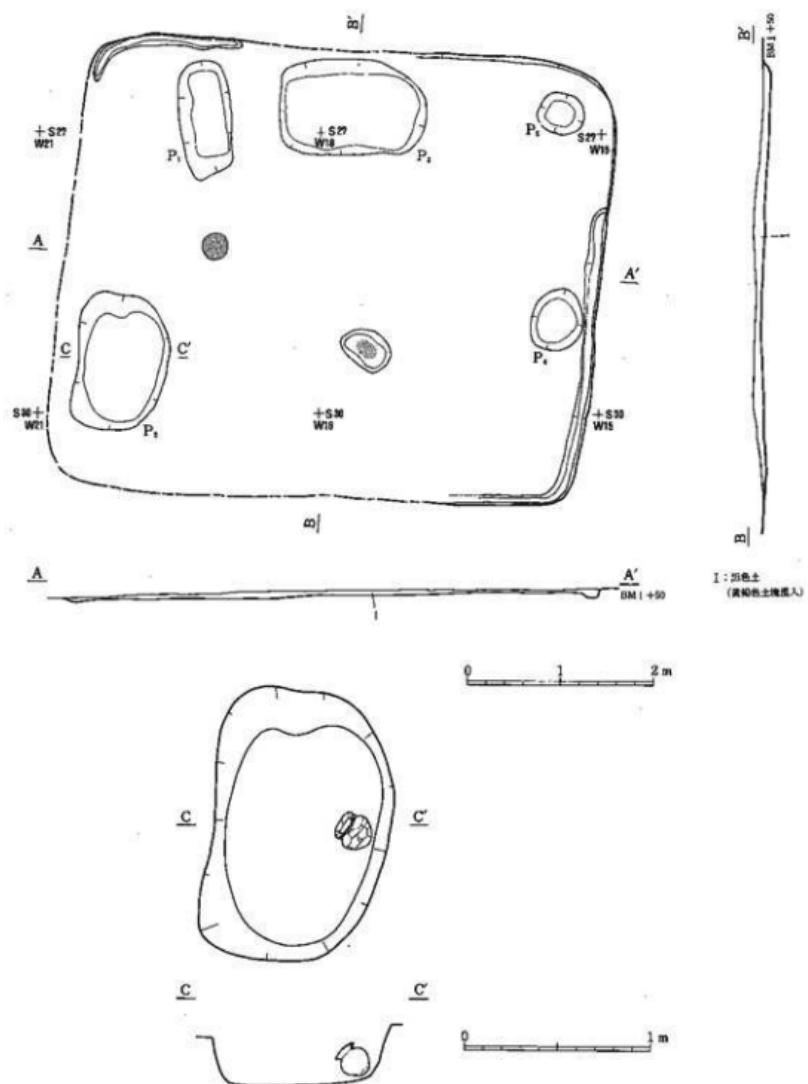


状況盤上部削平 床地山直床、中央部に2ヶ所良好堅致な部分、床上に少量炭化材 突窓穴 P_2 周堤状に堅く高い床 床面積23.4m² 出土遺物覆土・床上から小片多数出土(41~55) 器種鉢・器台・壺・甌・平底甌・丸底甌・台付甌 時期古墳時代前期



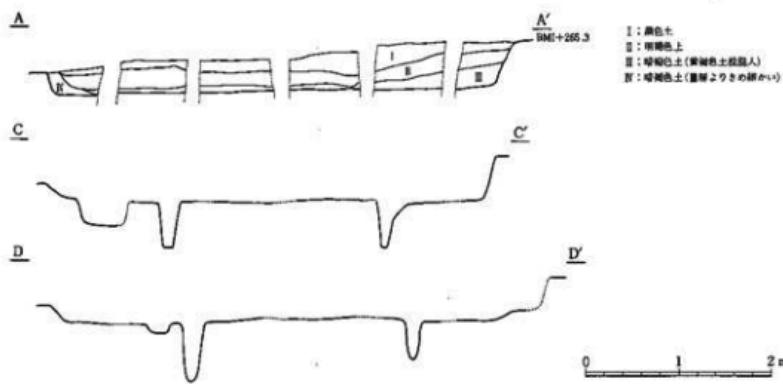
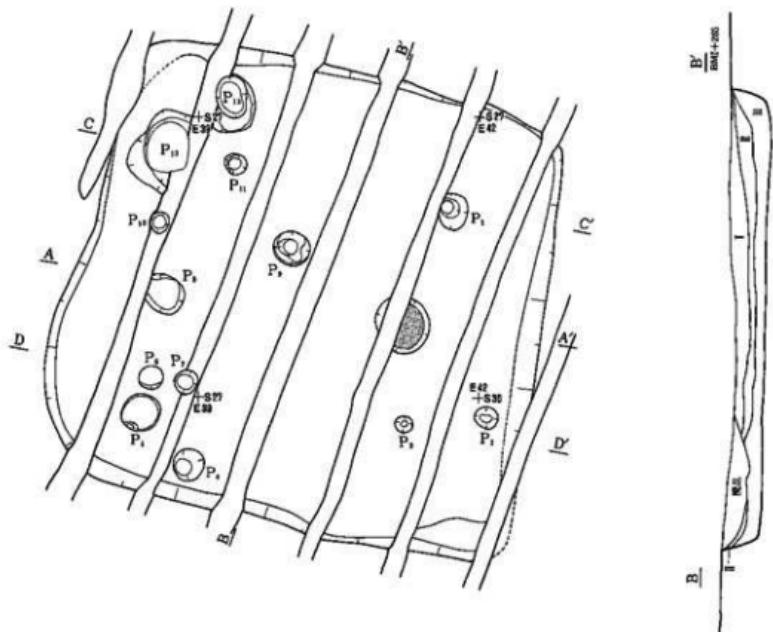
状況壁上部削平されるが掘り込み深く下部は良好、床地山直床、炭化材多数出土。貯蔵穴P₁内よりホゾ穴のある炭化材出土。遺物炭化材中より完形品2件(56~59)器種 梳・壺・振壺・S字壺、礫石鏡12ヶ 調査部分床面積12.8m² 時期古墳時代中期

第89図 第6号住居址



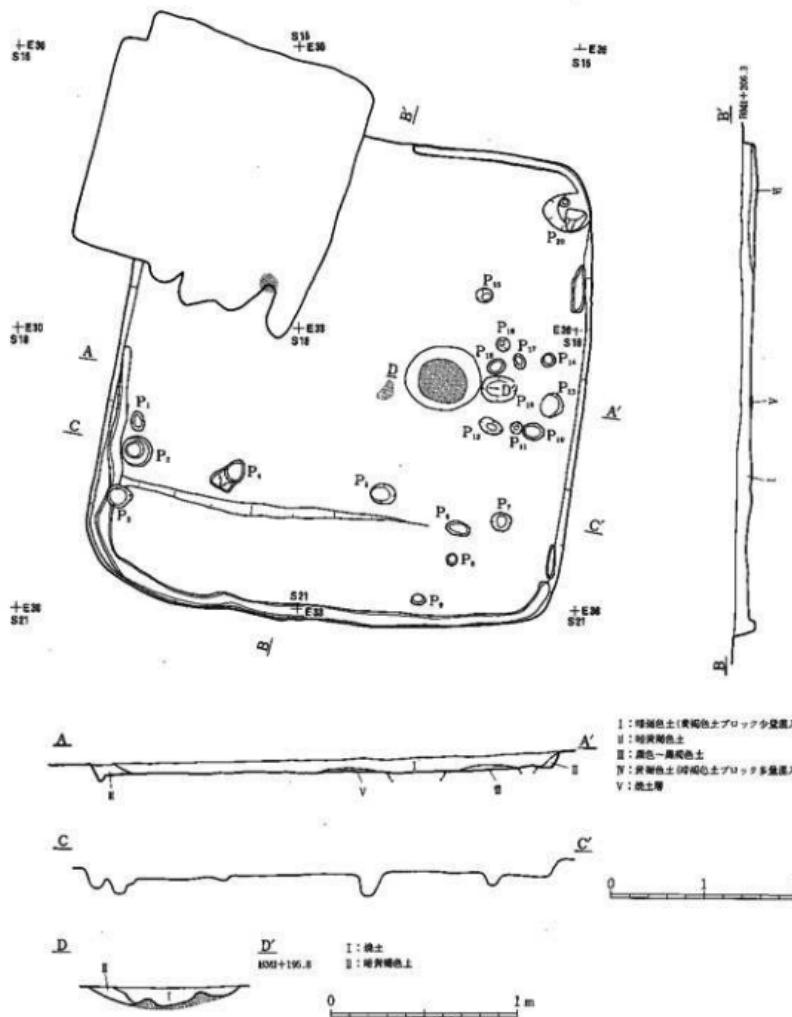
状況壁・床のほとんどが削平 床残存なし 突起窓 P₁～P₄ 推定床面積27.1m² 出土遺物 P₁より完形土器類、他は少量、器種は
平底甕 時期古墳時代前期

第90図 第7号住居址



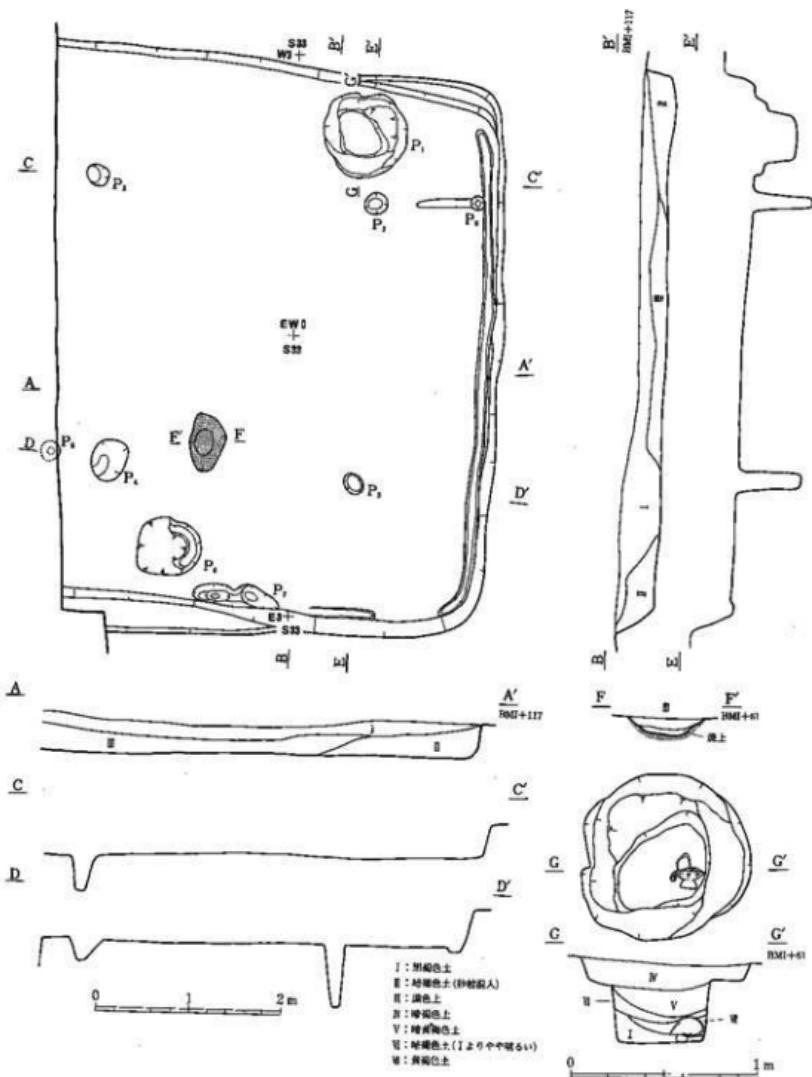
状況復元によりズタズタに破壊、壁上部はとんど焼化。床地山直床、部分的に良好。竪窓穴 P₁₃、床面積21.8m²、出土遺物 P₁₃より括土器68、他は床近くから少量出土(62~67)、漆種鉢、直口壺、有段口縁壺、丸底壺、平底壺、瓦石(9)。時期古墳時代前期。

第91図 第8号住居址



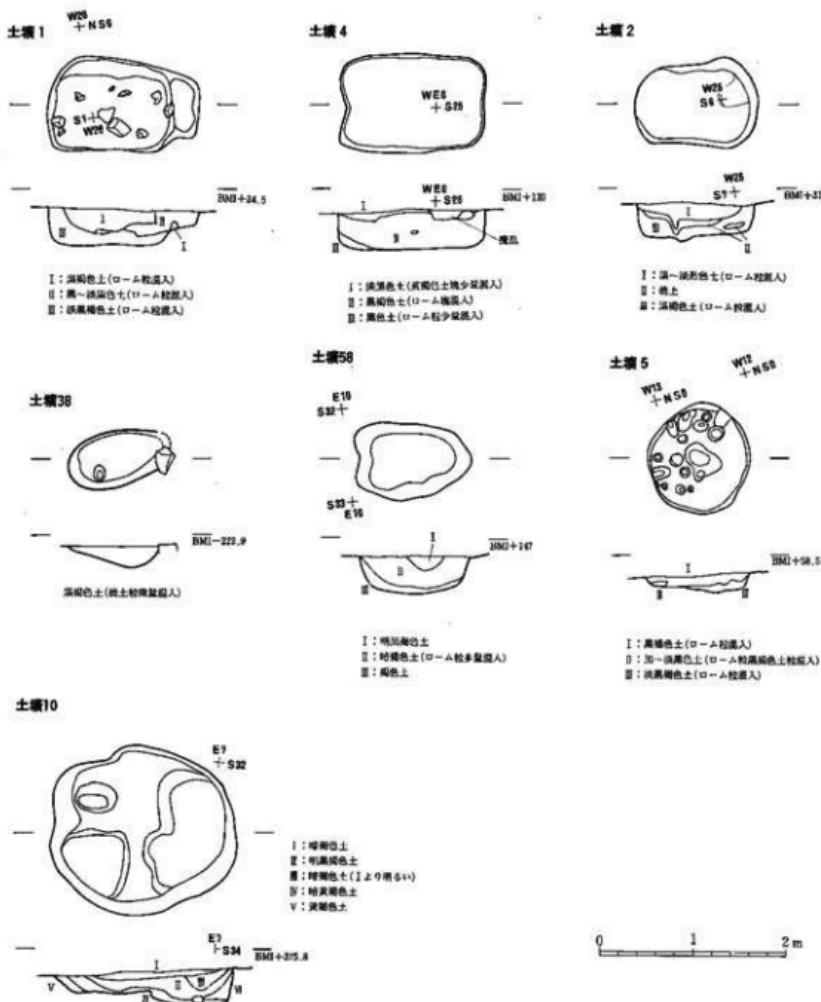
状況北西部大きく破壊、壁上部若干削平 庫地山直床、北西部若干高くなる部分あり床上に炭化材少量 出土遺物床上一括土器 (69~71)、他は (68~74) 小片、72は 8 住と遺構間接合 器種短頸甌・器台・台付甌・甌・丸底甌 推定床面積23.6m² 時期古墳時代前期

第92図 第9号住居址



第93図 第14号住居址

(2) 土 壤 (表7:P173参照)



第94図 古墳時代の土壤

2. 遺物

(1) 土器

表5 古墳時代土器一覧表

団番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考
住居址 土 器 区					胎 土	外 面	
					燒 成	内 面	
1	鉢	片	8.0	砂粒多混 暗褐色	胎 土	口縁部ヨコナデ後ミガキ 体部ヘラナデ後や粗雑な ミガキ 底部一層調整	
1			11.5				
95			2.7			ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	
1	鉢	片 底中位以上 片欠損	8.2	や 緩 密 淡褐色	胎 土	体部以下ヘラナデ→体部中位以上ヘラナデ→口縁部ヨ コナデ→ミガキ(底部を含む)	内外面にスス付着 二次焼成をうける
2			9.1				
95			3.3		燒 成	体部ヘラナデ→上位ハケ 口縁部ヨコナデ	
1	小型器 直口壺	片 片欠損		砂粒多混 淡褐色 灰 質	胎 土	ハラエ又は指によるナデ→肩部中位及び縁部付近ハケ→ ミガキ 底部一層調整	
3							
95			4.9			肩部ヘラカ指によるナデ→底部及び肩中位ハケ 口縁部ヘラナデ(→ユビナデか?)	
1	小 型 器 直口壺	片		砂粒多混 石英多量に 混入	胎 土	口縁部ヨコナデ→全面ミガキ	
4			11.3				
95					燒 成	口縁部ヨコナデにより内嚙する	
1	小 型 器 直口壺	片		極 密 淡褐色	胎 土	ハケ→口縁部ヨコナデ→口縁部入念なミガキ→口縁部 粗雑なミガキ	
5			10.4				
95					燒 成	口縁部ヨコナデ→口縁部全体ミガキ	
1	鉢	片 底中位以上 片欠損		黑褐色	胎 土	ハケ→口縁部下位方向へのハケ→口縁部ヨコナデ	二次焼成を受ける 在地品か?
6			14.7				
95					燒 成	口縁部ハケ→中位以上ヘラナデ→口縁部ハケ→上半のみ ヨコナデ	
1	甕	片 片欠損		砂粒多混 淡褐色	胎 土	ハケ→頭部下位方向へのハケ→口縁部ヨコナデ	煮沸時以外の二次焼成を 受ける
7			13.3				
95					燒 成	頭部ハケ→中位以上ヘラナデ→口縁部ハケ→上半のみ ヨコナデ	
1	蓋	片 片欠損		砂粒多混 淡褐色	胎 土	下位付近ユビナデ→中位以上ハケ→上位下位方向への ハケ→下位付近輪縁部ヨコ方向のハケ	外表面スス付着 二次焼成を受ける
8							
95						下位ヘラナデ→中位ハケ→全体を指かへらによるナデ	
1	蓋	片 片欠損		砂粒多混 淡褐色	胎 土	頭部中位ハケ→頭部付近下方向へのハケ→全体をヘラナデ	
9							
95					燒 成	下位ハケ→全体をヘラナデ(一部ケズリ状になる) 指痕压痕を顯著に残す	
1	平底甕	片 片欠損	23.2	砂粒多混 淡褐色	胎 土	底部一方向へのケズリ 脚部ハケ→底部付近指ナデ	脚部中位及び底部付近の 外表面全体にスス付着 二次焼成を受ける
10			15.4			上位下方向へのハケ 口縁部ハケ→ヨコナデ	
95			7.5		燒 成	脚部ヘラナデ→指痕压痕を顯著に残す 口縁部ハケ→ヨコナデ	
1	丸底甕	片 片欠損	16.7	小砂粒多混 茶褐色	胎 土	脚部以下複数かつ柔単位がやや不明瞭なハケ	煮沸時以外の二次焼成を 受ける 在地品
11			14.0			口縁部ヨコナデ	
95			—		燒 成	脚部以下ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	

固番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考
住居址 土器 甌				砂粒多混	胎 土 外面		
					口径 焼 成 内面		
1	甌	胴部上位以上 片破片	15.0	棕褐色	胴部下位方向へのハケ 口縁部ハケ→ヨコナデ	外面全体、口縁部内面に スス付着	
12					軟 質 脊部へラカ指によるナデ 口縁部ヨコナデ		
96							
1	甌	胴部上位以上 片破片	17.1	棕黃褐色	砂粒多混 脊部へラナデ 口縁部ヨコナデ	外面片に厚くスス付着	
13					軟 質 脊部へラナデ 口縁部ヨコナデ		
96							
1	平底甌	底部破片	6.8	暗黃褐色	砂粒多混 底部 回転ハラケズリ 胴部ハケのち底部近くをヘラナデ	中央に指頭によるユビオサエ痕	
14					堅 細 ハケ→ユビナデ 中央に指頭によるユビオサエ痕		
96							
1	丸底甌	胴部上位以上 片破片	11.2	暗 黄 色	砂粒多混 脊部細密なハケ 口縁部ヨコナデ	外面にスス付着、口縁部 内外面に丸く肥厚 施入品かは不明	
15					回転ハケリ 回転接合部 口縁部ヨコナデ		
96							
1	S字甌	口唇部外、肩 部内及び脚部 欠損	17.3	茶褐色	小砂粒多混 金富母微晶	口縁部上段に沈縮を伴うヨコナデ 肩部指紙ナゲ痕 脚部ヘラナデ 回転接合部上下ともヘラおさえ	施入品か
16					堅 細		
96							
1	台付甌	脚部破片	5.3	暗黃褐色	砂粒混入 ハケ 調脚接合部ユビナデ	脚部の外側中位と内側下 端にスス付着	
17					やや堅 細 ハケ		
96							
1	台付甌	脚部破片	8.8	暗褐色	砂粒多混 ハケ 調脚接合部ユビナデ	外面の一部にスス付着	
18					やや軟質 ヘラナデ		
96							
1	小型台付甌	脚部破片	5.1	暗褐色	砂粒多混 ユビナデか?	内、外面にスス付着 煮沸時以外の二次焼成を 受ける	
19					軟 質 ヘラナデ		
96							
2	広口甌	胴部中位以上 片破片	10.8	淡棕褐色	小砂粒混 口縁部ヨコナデ→全体を入念なミガキ	内、外面にスス付着	
20					口縁部ヨコナデ→入念なミガキ		
97					胴部中位以下ヘラケズリ→中位以上ヘラナデ		
2	受口甌	胴部以上片破 片	15.2	棕褐色	砂粒、石英 枚多混	脚部ハケ→脚部附近ユビナデ→平行櫛縞文→右回り櫛 縞波状文→ミガキ 口縁部ハケ 受口部ヨコナデ→櫛 状工具による刺突文の模様、口唇部面取り	二次焼成を受ける 在地品
21							
97					ヘラナデ→受口部ヨコナデ		
2	甌		15.8	棕黃褐色	大 粒 の 砂粒多混	ヘラナデ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	全体に器面が荒れている
22					軟 質		
97							
2	甌?	底部破片	6.9	暗茶褐色	砂粒多混 底部不定方向へのヘラケズリ 脊部ヘラナデ→ミガキ	二次焼成を受ける	
23					ヘラナデ		
97							
2	甌	脚部破片		黄褐色	やや緻密	内、外面及び断面にスス 付着 二次焼成を受ける 下方の欠損レベルが同じ	
24							
97					ヘラナデ		

図番号	器種	残存度	法數	色調	胎土・焼成	測定	備考
住居址	器高 口径 底径			胎土 焼成	胎土	外面	
土器					燒成	内面	
窓							
2	縁?	底部下位以下 片破片	3.3	砂粒混 暗赤褐色	胎部回転ヘラケズリによる上げ底 体部ヘラナデ→底 部付近をヘラケズリ	内、外面及び断面にスス付着 二次焼成を受ける	
25					ヘラナデ		
97							
2	縁	肩上位以上片 破片	19.1	砂粒及び石 英粒多混 堅 黒	脚部ハケ→中位近くをユビナデないしヘラナデ 口縁部 条間隔の粗いハケ→ヨコナデ→下半ケズリ	煮沸時以外の二次焼成を 受けるか?	
26					脚部ヘラナデ→脚部付近ヘラケズリ		
97					口縁部 条間隔の粗いハケ→ヨコナデ→ハケ		
2	丸底窓	肩部以上片 欠損	24.2 14.4 —	砂粒少混 淡褐色	底部ヘラケズリによる丸底 棚脚下位ハケ→ユビナデ →戊形第1段階部分ヨコ方向のハケ→中位以上ハケ→ 脚部近くをユビナデ	底部を除く外表面全体及び 口縁部内面の一部にスス付着 煮沸時以外の二次焼成を 受ける 在地品	
27					脚部以下底部 かつ堅黒		
97					口縁部 ハケ→ヨコナデ全体 ハケ→戊形第1段階部分 ヘラナデ 口縁部上半ヨコナデ		
2	平底窓	片破片	16.3 14.4 6.2	砂粒多混 淡茶褐色 やや堅黒	底部ヘラケズリによる丸底 棚脚上部ハケ→脚部ヘラケズリ 口縁部 ハケ→ヨコナデ	外表面にスス付着 煮沸時以外の二次焼成を 受ける 口縁部はヨコナデにより 若干内凹	
28					脚部以下底部 かつ堅黒		
96					口縁部ハケ→口縁部ヨコナデ		
2	平底窓	肩部の中位以 上片口縁部を 欠損	7.0	黄褐色	小砂粒混入 堅 黒	脚部は一方面のヘラケズリ→横辺回転ヘラケズリ 脚部ハケ→脚部付近ユビナデ 脚部ヨコナデ	脚部中位以上の外表面全体 に厚くスス付着 脚部中位以下内面に焦げ つき痕あり
29					脚部ハケ (のちにユビナデが入るか?)		
98					脚部ヨコナデ		
2	縁	肩部及び底 部を欠損	11.5	鐵 淡黃褐色	鐵 砂粒含まず	脚部ユビナデか? 口縁部幅広の条線を残すヨコナデ	外表面全体にスス付着 脚部下位の内面に焦げ つき痕あり
30					脚部ヘラナデ		
98					口縁部ヨコナデ		
2	縁	肩部上位以上 片破片	14.3	灰 黄色	砂粒混入 やや縦密	脚部ヘラナデ→脚部以上ヨコナデ	外表面全体にスス付着 煮沸時以外の二次焼成を 受ける 口縁部はヨコナデにより 若干内凹する
31					脚部ヘラナデ		
98					口縁部ヨコナデ		
2	縁	口縁部片 破片	12.6	淡黃褐色	砂粒少混 やや縦密	口縁部ヨコナデによる面取り ハケ→全面を幅広の条線を残すヨコナデ	外表面にスス付着 在地品か?
32					ハケ		
98					ハケ→全面を幅広の条線を残すヨコナデ		
2	丸底窓	肩部以上片 破片	11.9	暗灰 黄色	石英粒小石混 入	脚部細密なハケ 口縁部ヨコナデ	在地品か? 外表面にスス付着
33					脚部不明		
98					口縁部ヨコナデ 口縁部面取りし強く内 締めさせるも、ほとんど肥厚せず		
2	丸底窓	肩部下位以下 破片	—	淡茶褐色 軟質	砂粒多混 ハケ→ユビナデ (部分的に光沢を帯びることからさら にミガキが入るか?)	底部外表面耗 在地品	
34					底部ヨコナデ		
98					底部ヨコナデ		
2	縁	肩部上位以上 片破片	15.7	淡褐色	大粒砂粒及 び白色砂粒 混入	脚部 条間隔の粗いハケ→下方向の粗いハケ 口縁部ヨコナデ 口縁部面取り	搬入品か?
35					脚部ヘラナデ		
98					脚部ヘラナデ		
2	S字 三連窓	片破片	8.5 6.7 5.8	金雲母少混 茶褐色 鐵かつ堅黒	脚部 短絡線状のハケ 脚部 横縫を欠くハケ 口縁部ヨコナデ 各個部接合はハケ開裂後に行われる	6号住居址より同一個体 片出土 搬入品か?	
36					脚部以上ユビナデ 口縁部ヨコナデ 脚部折返し		
98							

団番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考
住居址 上 築 窓				砂粒多混 茶褐色	胎 土	外 面	
					燒 成	内 面	
3	有段口縁 壺	口縁部片及び 肩部片破片	12.9	砂粒多混 灰 黑	頭部以下ヘラナデ 口縁部上段ヨコナデ→全体を粗雑なミガキ 口唇端部 ヨコナデによる軽い面取り		
37							
99							
3	鉢	口縁部片欠損	3.9 10.3 5.3	小砂粒多混 灰 黑	ヘラナデ→口縁部ヨコナデ 底部リング状を呈す	内面にモミ圧痕あり	
38							
99							
3	壺	肩部中位以上 破片	10.8	淡黄褐色	頭部ハケ→肩部以上ヨコナデ 肩部下位ユビナデ 肩部に新焼物のヘラナデ有り	外側全体にスス付着	
39							
99							
3	S字壺		11.2	淡黄褐色	肩部ハケ→口縁部ヨコナデ 肩部ユビナデによるナデ 中位に指頭による ナデ圧痕有り 口縁部上段の一部に沈線を有するヨコ ナデ	在地品か?	
40							
99							
3	テヅクネ	口縁部片欠損	2.0 3.0 2.4	砂粒多混 茶褐色		外側の一部にスス付着	
41							
99							
3	壺	肩下部片破片	6.1 12.8 5.9	砂粒、白色 粒子多混 灰 黑	ハケ→ミガキ ハケ→ミガキ	二次焼成を受ける	
42							
99							
4	鉢	体部以上片欠 損	6.1 12.8 5.9	砂粒多混 灰 黑	体部以上ヘラナデ 底部リング状を呈す ユビナデ→ハケ		
43							
99							
4	不明	下段部破片	7.8	淡黄褐色	ユビナデ→下段部ミガキ ヘラナデ	内、外側の一部にスス付 着	
44							
99							
4	基 台	片破片	6.6 8.4 8.6	砂粒多混 茶褐色	ヘラナデ→口縁部ヨコナデ ヘラナデ→口縁部ヨコナデ		
45							
99							
6	壺	肩部中位以上 破片	6.6	白 粒子 多 混 茶褐色	底部リング状を呈す 制部ハケ→成形第1段階部分ケ ズリ→ユビナデないしはヘラナデ		
45							
99							
4	平底壺		20.2 15.6 6.6	やや細密 茶褐色	ヘラナデ→口縁部ヨコナデ 底部リング状を呈すか? ヘラナデ	内、外側にスス付着 底部外面にモミ圧痕有り	
47							
99							
4	壺	肩部上位片及 び肩部中位以 下欠損	14.7	淡灰黄色 茶褐色	底部ユビナデ 制部以上ヨコナデ 制部ハラナデ 口縁部ヨコナデ	外側全体スス付着 煮沸時以外の二次焼成痕 有り	
48							
100							
4	壺	口縁部片破片	14.7	砂粒多混 茶褐色	ハケ→口縁部ヨコナデ 制部ハラナデ 口縁部ヨコナデ	外側にスス付着	
49							
100							

試験番号	器種	残存度	法紙	色調	胎土・焼成	調 整	備 考
住居址	甌	器高 口径 底径	胎 土 燒 成	外 面 内 面			
5				暗茶褐色	密	脚部ハケ→ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	孟み顯著
100							
4	甌	脚部上位以上 片	9.8	基褐色	砂 粒 清	底部 不定方向へラケズリ 脚部ヘラナデ→底部付近 ユビナデ	外面上にスス付着
51							
100							
4	平底甌	底部破片	4.9	基褐色	堅 織	ヘラナデ	底部付近を除く外面上全体 にスス付着
51							
100							
4	丸底甌	脚部中位以上 片	12.4	灰 黄 色	やや織密	脚部や細密なハケ 口縁部間隔の粗い条縞を有すヨ コナデ	底部付近を除く外面上全体 にスス付着 煮沸時以外の二次焼成痕 在地品か?
52							
100							
4	平底甌	底部破片	5.5	暗茶褐色	やや織密	底部無調整 脚部ユビナデ	外面上にスス付着
53							
100							
4	合付甌	脚部片	8.7	橙褐色	小石混入 不明	外面上にスス付着	
54							
100							
4	合付甌	脚部以上片	17.3	暗茶褐色	砂粒、白色 粉多混	脚部ハケ→中位を除きユビナデ 口縁部ヨコナデ 脚部ハケ→中位ユビナデ 口縁部ハケ→ヨコナデ	外面上全体にスス付着
55							
100							
6	甌	口唇部片	5.5	石英粒多混	ハケ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	外面上の一部にスス付着 内面中位に馬毛で光沢を 帯びるもの付着 全面赤茶	
56							
100							
6	甌	はぼ 完形	11.6	橙褐色	砂粒混入	底部ハケズリ→ミガキ 底部は粘土を貼り足して丸 座とする ユビナデ→口縁部ミガキ	外面上にスス付着
57							
100							
6	甌	脚部下位以下 片	—	橙褐色	砂粒多混	ミガキ ハラナデ	
58							
101							
6	S字甌	脚部片	7.8	灰黄色	織 密	ハケ→ユビナデし短絡維状とする	在地品か?
59							
101							
7	平底甌	完 形	16.0	黄褐色	やや織密	底部面ハケズリ 脚部底付近ハケズリ→ハケ →頭部付近ユビナデ 口縁部ハケ→ヨコナデ	脚部外面の中位を中心に スス付着
60							
101							
7	平底甌	完 形	12.5	—	堅 織	脚部ハケ→中位以下ハケズリ 口縁部ハケ→ヨコナ デ	脚部内面下位に焦げ付き 無有り
61							
101							
7	甌	脚部中位以上 片	16.7	暗茶褐色	密	底部ハケ 脚部底部付近ハケズリ→ハケ ヘラナデ	内外面上の一部にスス付着
62							
101							
8	鉢	体部中位以上 片	16.7	石英粒多混	密	体部ハラナデ 口縁部ヨコナデ	外面上の一部にスス付着 在地品か?
62							
101							

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調査	備考
住居址 土器					胎土	外面	
					焼成	内面	
8	直口壺	口縁部破片	14.1	灰黄褐色	砂粒混入	ハケ→口唇部ヨコナデ→入念なミガキ 口唇部に水平面を有す	在地品か?
63					堅 細	ハケ→口唇部ヨコナデ→入念なミガキ	
101							
8	直口壺	口縁部破片	9.1	灰黄褐色	砂 粒	ハケ→ヨコナデ→ミガキ 口唇部面取り	
64						ハケ→ヨコナデ→ミガキ	
101							
8	有段口縁 壺	口縁部破片	10.4		砂粒多混	ユビナデ→上段部のみヨコナデ	
65						ユビナデ→上段部のみヨコナデ	
101							
8	丸底壺	口縁部破片	12.6	灰黄褐色	砂粒多混	ヨコナデ 墓部わざかに肥厚	外面にスス付着 在地品
66					軟質	ヨコナデ	
101							
8	平底壺	肩部下位以下 片破片	8.3	暗 暗 黄 色	砂粒多混	底部ヘラケズリ→粘土貼付けにより補強→ミガキ 肩部ハケ	
67							
101						ハケ→ユビナデ	
9	短頸壺	肩部弧、底部 欠損	15.3		やや緻密	ハケ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	二次焼成痕有り
68					堅 細	調部ハケ 口縁部ハケ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	
102							
9	器台	脚・脚接合部 欠損	9.2		砂粒・石英 粒多混	脚部ハケ→ミガキ 器受部・口唇部ヨコナデ→ミガキ 口唇部面取り	器受部内面の一部にスス 付着
69					堅 質	脚部上半部ヘラケズリ→下半部ハケ→脚部ヨコナデ 器受部・口唇部ヨコナデ→ミガキ	
102							
9	台付壺	脚・脚接合部 破片	9.2		砂粒・白色 粒子多混	ヘラナデ	
70					軟 質	ヘラナデ	
102							
9	壺	脚部上位以上 欠損	8.5		砂粒・白色 粒子多混	底部無調整 脚部ミガキ	底部外面にモザイク有り タキ割れ模様
71							
102						ヘラナデ→脚部中位以上ミガキ	
9	台付壺	脚部、口縁部 の一部欠損	11.5		石英粒・赤 色粒多混	脚部以下ハケ→脚部接合部ユビナデ 口縁部 ヨコナデ	煮沸以外の二次焼成痕有り
72					8.0		
102					6.1	脚部接合部ユビナデ 口縁部ヨコナデ	
9	丸底壺	底部破片	-		緻 密 白色粒・石 英粒多混	緻密なハケ	煮沸以外の二次焼成痕 有り 在地品か?
73							
102						緻密なハケ 底部しづらしきもの有り	
9	丸底壺	肩部上位以上 肩部欠損	23.3		緻 密 赤色粒多混	網・底部ハケ 口縁部ハケ→ヨコナデ	外面全体にスス付着
74					15.0	底部ヨコナデ 网上位ハケ 口縁部ヨコナデ	
102					6.4		
14	短頸壺	口縁部弧、肩 部欠損	27.9		砂粒・白色 粒多混	底部無調整 网下位ヘラケズリ 网中位～脚部ハケ→ ユビナデ→脚部ハケ→口唇部ヨコナデ	
75					13.0		
103					7.5	脚部ハケ 口縁部ハケ→口唇部ヨコナデ	
14	鉢	体部上位以上 肩部欠損	14.0		石英粒多混	体部ハラナデ→脚部以上ヨコナデ	二次焼成を受けるか? 在地品
76							
103						体部ユビナデ 口縁部ヨコナデ	

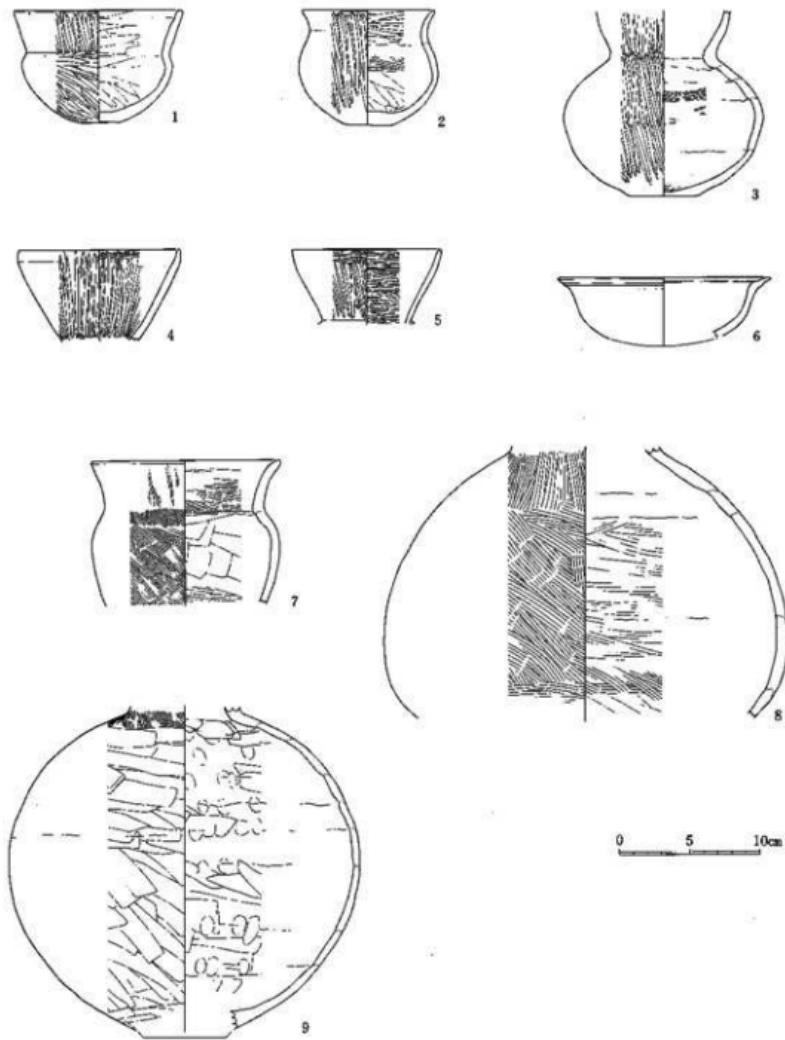
回番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調査	備考
住居址						胎土 外面	
土器							
甌						焼成 内面	
14	台付甌	脚部以上瓦砾片	13.9	やや黒藍 赤色粒多混 淡茶褐色		ハケ→成形第1段階部分及び脚部ユビナデ→ユビナデ 範囲に細かなハケ ヨコナデは口縁部のみ	脚部中位外面を中心に入 ス付着
77						ハケ→口縁上半ヨコナデ	
103							
14	甌	脚部中位以上 瓦砾片	11.4	砂粒多混 軟質		脚部ハケ→中位を除くユビナデ 口縁部ヨコナデ 脚部下位方向のヘラナデ→成形第1段階部分ハケ→中 位以上ヘラナデ	脚部中位以上の外面全体 にスス付着
78							
103							
14	台付甌	脚部上位以上 瓦砾片	10.6	赤色粒、白 色粒混 堅質		脚部ヘラナデ→脚部ヨコナデ 脚部ヘラナデ(一部ヘ ラケズリ)	脚部中位以上の外面にス ス付着
79						脚部ヘラナデ→脚部ヨコナデ 脚部ヘラナデ(一部ケ メリ状)	
103							
土器1	S字甌	脚部上位以上 瓦砾片	17.8	黒 金雲母微混 堅質		脚部織維を欠くハケ 口縁部ヨコナデ	外面全体にスス付着
80							
101						脚部ユビナデ 口縁部上段に沈緑を伴うハケ	
土器2	甌	底部瓦砾片	6.5	砂粒、白色 粒混入 堅質		底部無調整 脚部ハケ類似具(植物の茎を束ねたもの か)によるナデ	底部外面モミ压痕 二次焼成有り 同一個体の口縁破片有り
81							
101							
土器38	短腹甌	脚部上位以上 瓦砾片	13.6	灰黃色	軟質	ハケ→口縁部ヨコナデ	外面の一部にスス付着 同一個体の脚部及び底部 の破片あり
82						脚部ハケ→ユビナデ 口縁部ヘラナデ→ヨコナデ	
101							
土器38	台付甌	脚部上半破片	8.4	砂粒多混 軟質		ハケ→脚・脚接合部ユビナデ	
83						ハケ→ユビナデ	
101							
土器38	器台?	脚部上半破片		淡茶褐色	軟質	不 明	
84							
101						ハラナデ	

(2) その他

表6 磚石錐一覧表

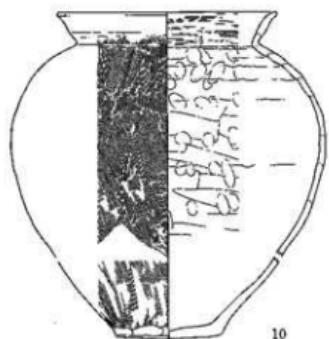
No.	註記	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	欠損状況	備考
1	6住	18.40	8.82	5.92	1100	砂岩		
2	+	19.20	9.42	6.45	1080	石英閃綠岩		
3	+	18.80	8.57	7.98	1500	砂岩		
4	+	18.20	8.05	6.64	1095	石英閃綠岩		
5	+	(15.27)	(8.53)	(5.14)	(1064)	礫岩	1/5 欠?	
6	+	15.23	6.36	6.38	1093	砂岩		
7	+	18.20	8.18	4.87	1400	ホルンフェルス(砂岩)		
8	+	14.67	7.47	6.13	1012	礫岩		
9	+	(15.36)	8.27	4.45	(849)	砂岩	上端 下端欠?	
10	+	12.37	7.89	7.30	959	砂岩		
11	+	21.00	6.78	3.56	689	砂岩		
12	+	20.80	8.16	5.55	1092	礫岩		

第1号住居址

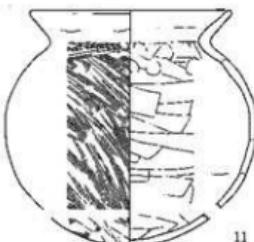


第95図 古墳時代土器(1)

第1号住居址



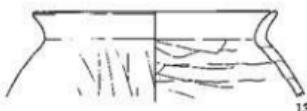
10



11



12



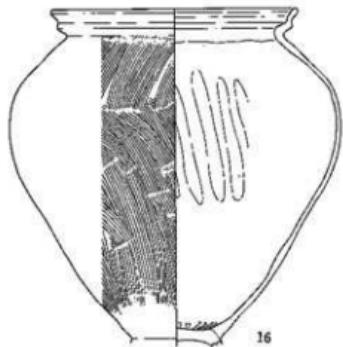
13



14



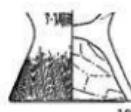
15



16



17



18

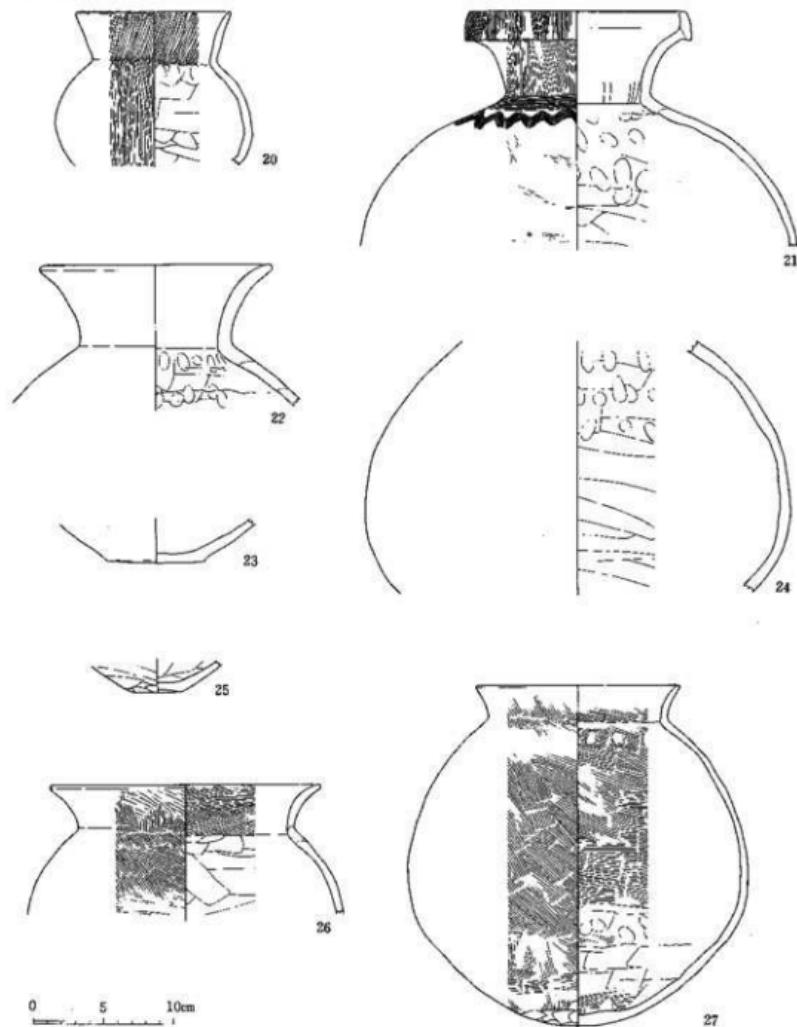


19

0 5 10cm

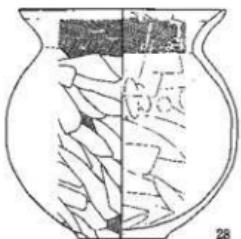
第96図 古墳時代土器(2)

第2号住居址

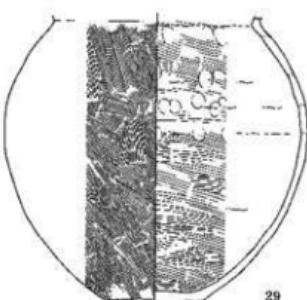


第97図 古墳時代土器(3)

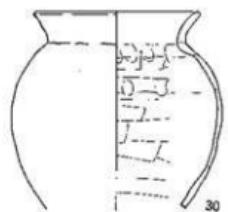
第2号住居址



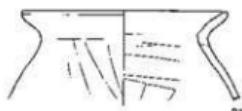
28



29



30



31



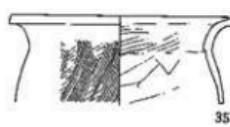
32



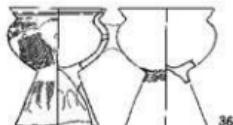
33



34



35

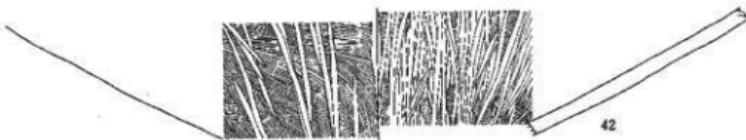
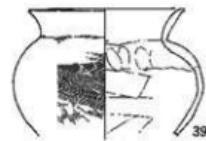
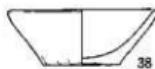
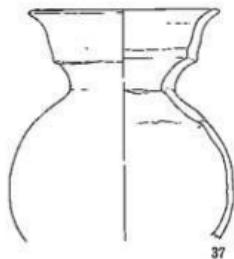


36

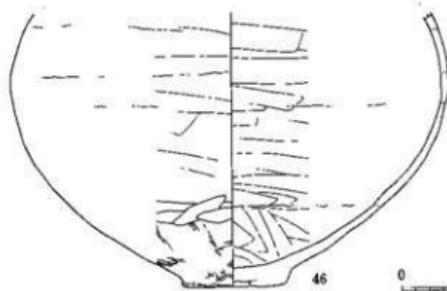
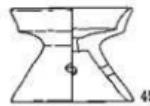
0 5 10cm

第98図 古墳時代土器(4)

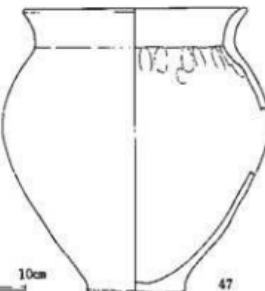
第3号住居址



第4号住居址

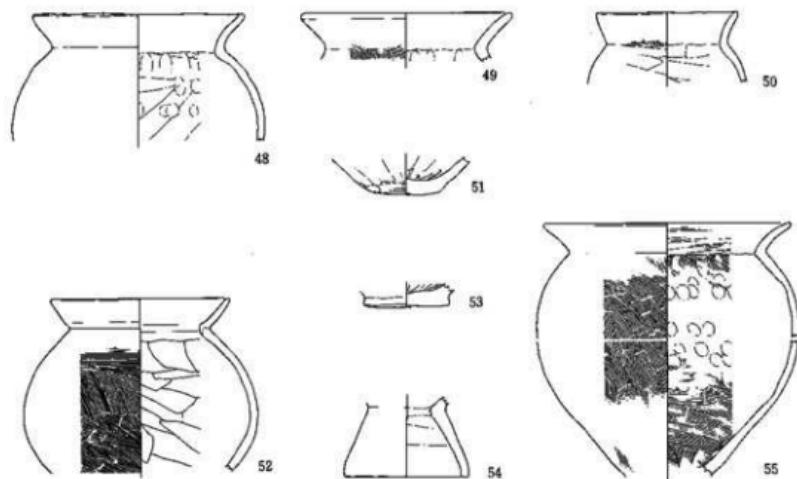


0 5 10cm

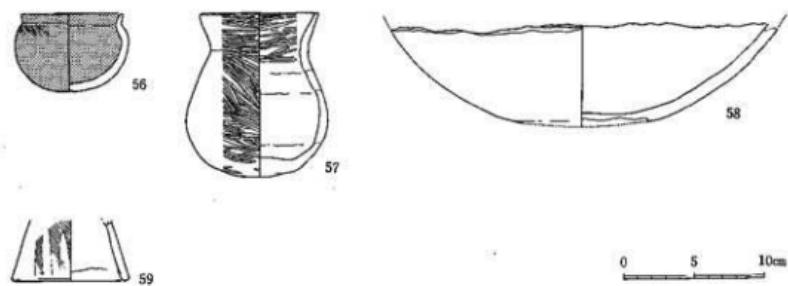


第99図 古墳時代土器(5)

第4号住居址

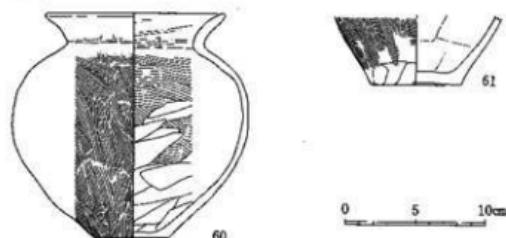


第6号住居址

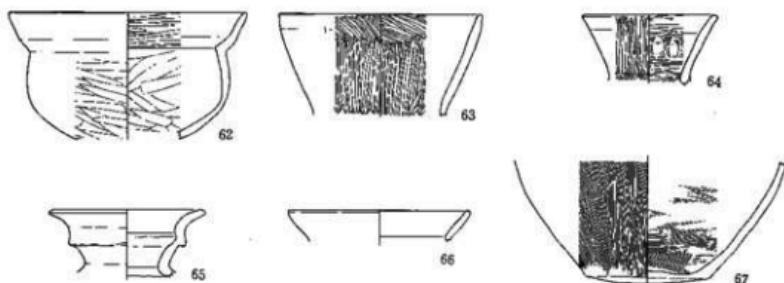


第100図 古墳時代土器(6)

第7号住居址



第8号住居址



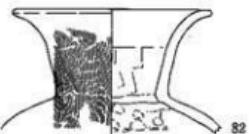
土壤1



土壤2

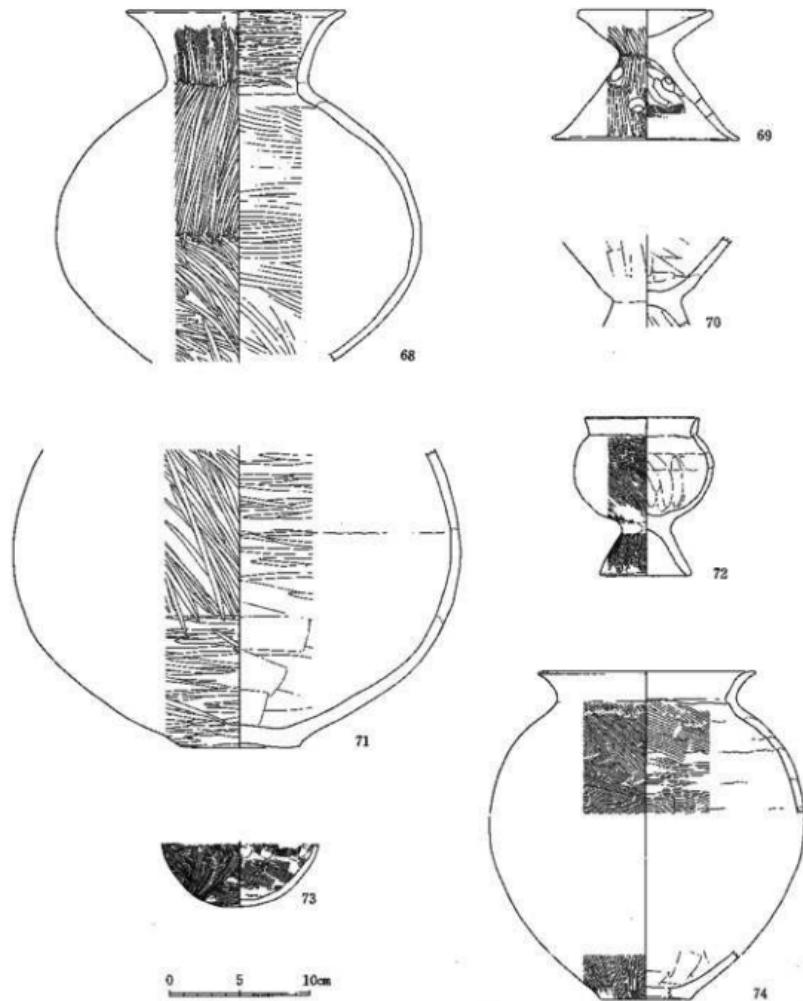


土壤38



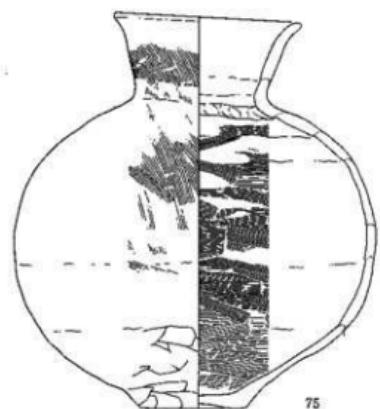
第101図 古墳時代土器(7)

第9号住居址



第102図 古墳時代土器(8)

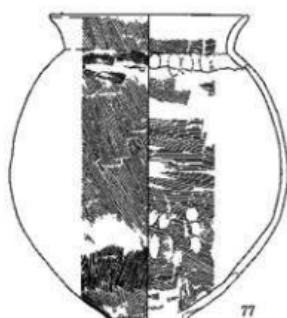
第14号住居址



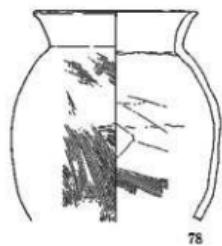
75



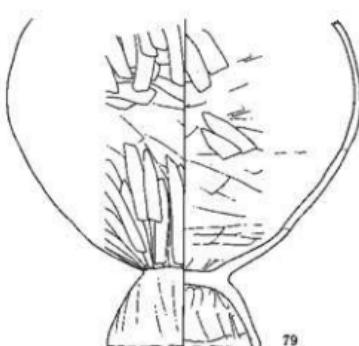
76



77



78



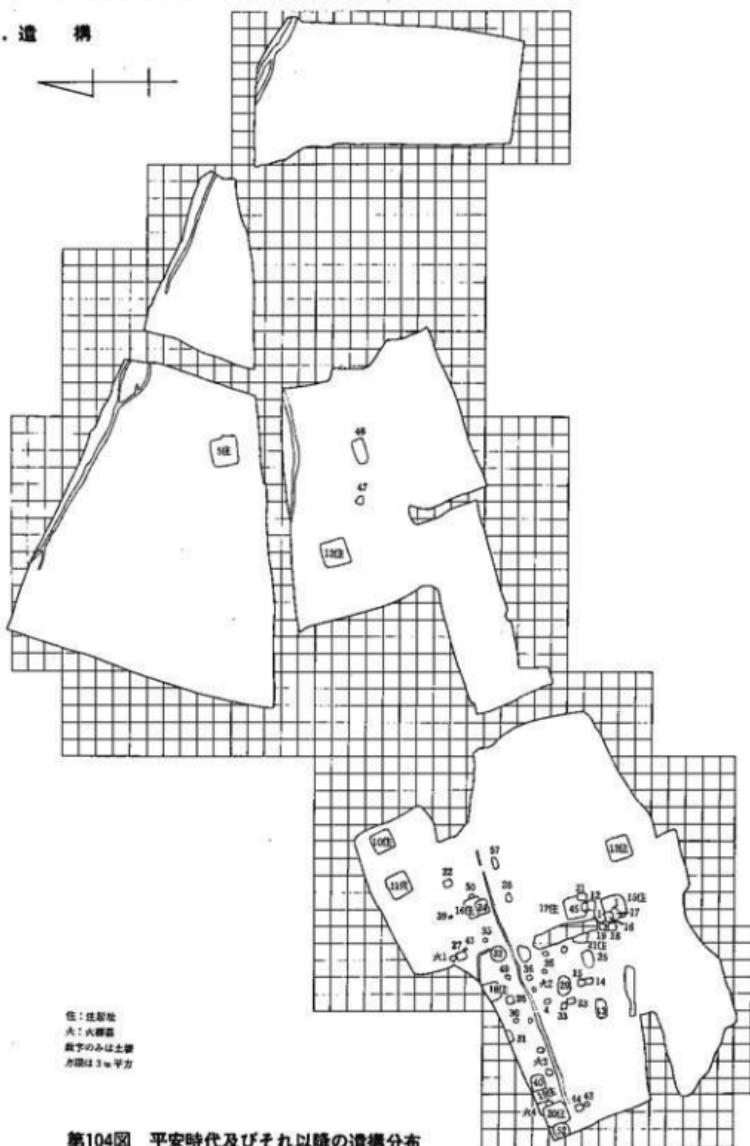
79

0 5 10cm

第103図 古墳時代土器(9)

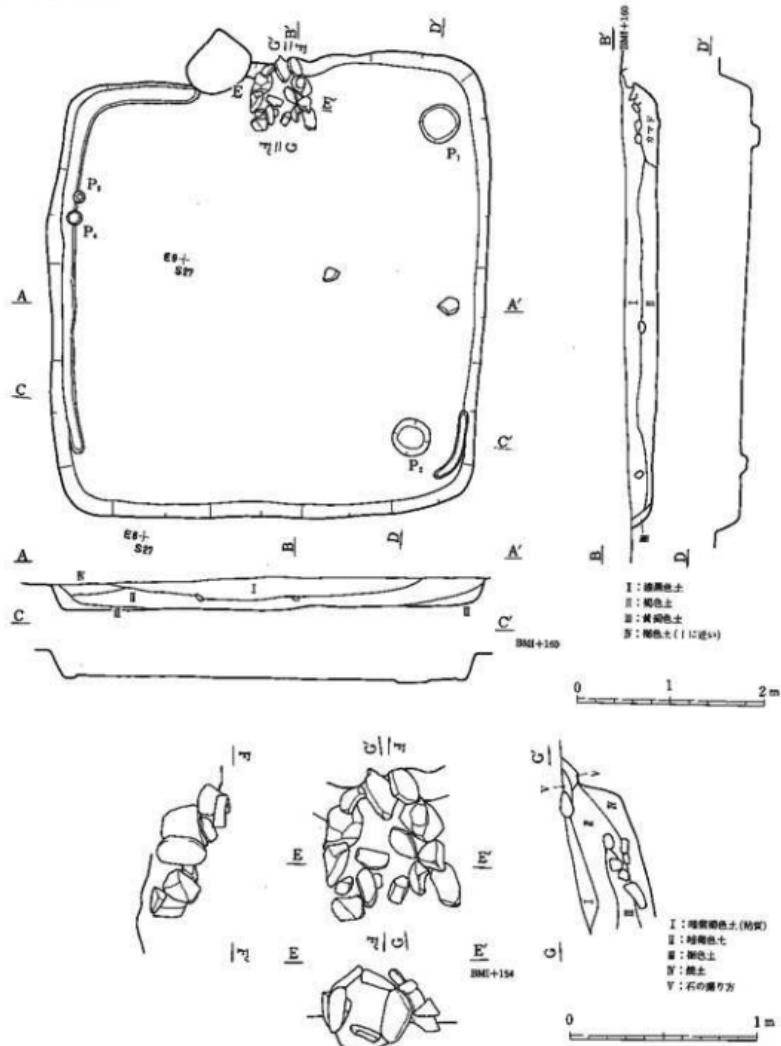
4 平安時代およびそれ以降の遺構と遺物

1. 遺構



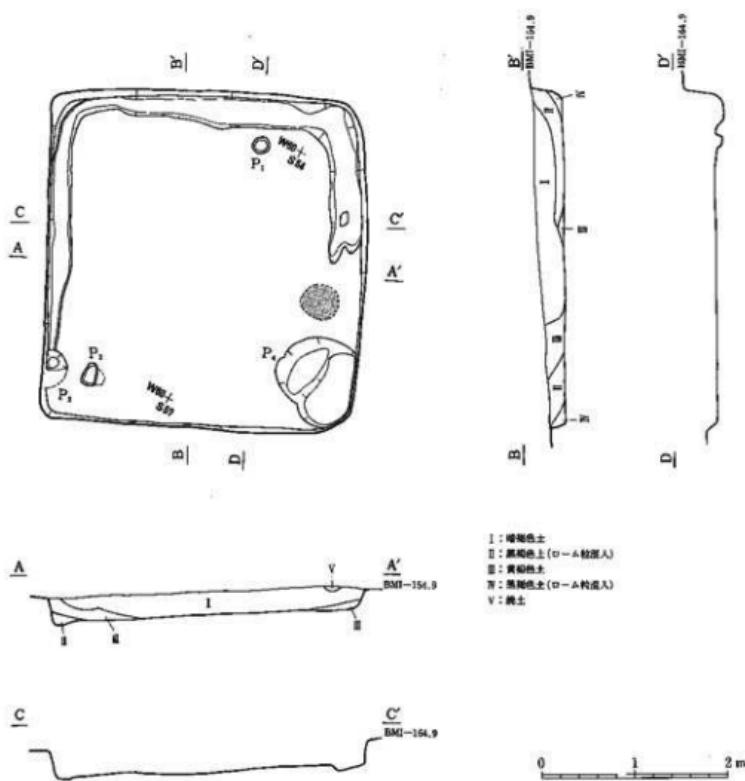
第104図 平安時代及びそれ以降の遺構分布

(1) 穹穴住居址



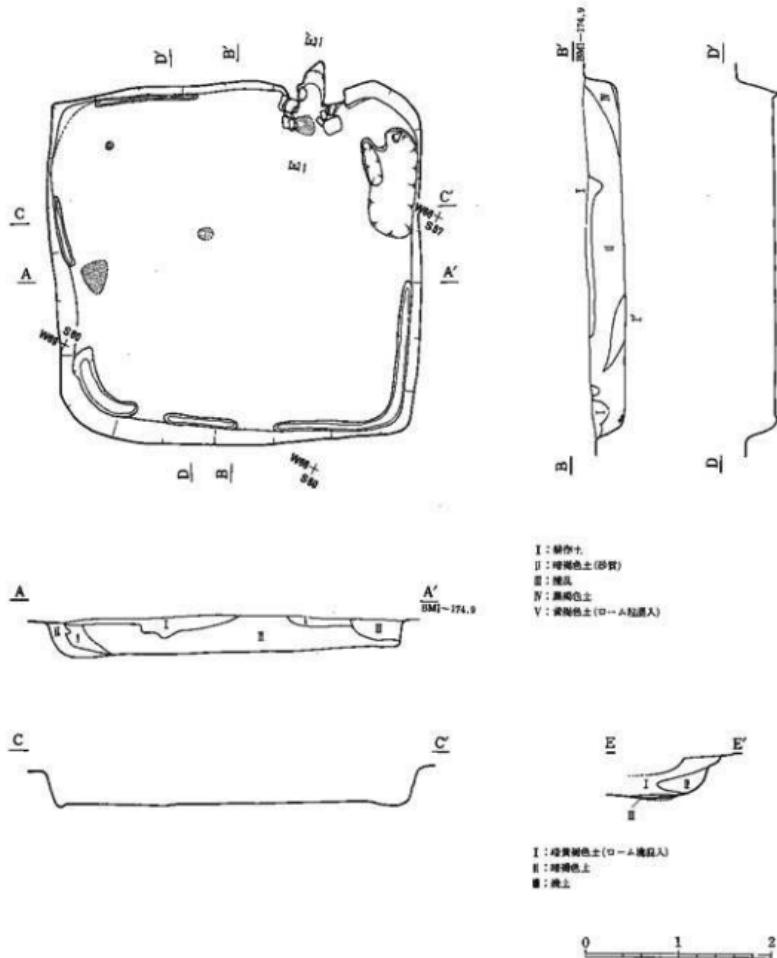
状況良好残存、カマド跡攪乱 床地山直床平坦良好 柱穴不明 面積約19.5m² 出土遺物覆土から数発的に出土 (81~88) ■種
土師器壺・境、延石(5) 刀子1(4) 不明鉄器1(6) 時期平安時代

第105図 第5号住居址



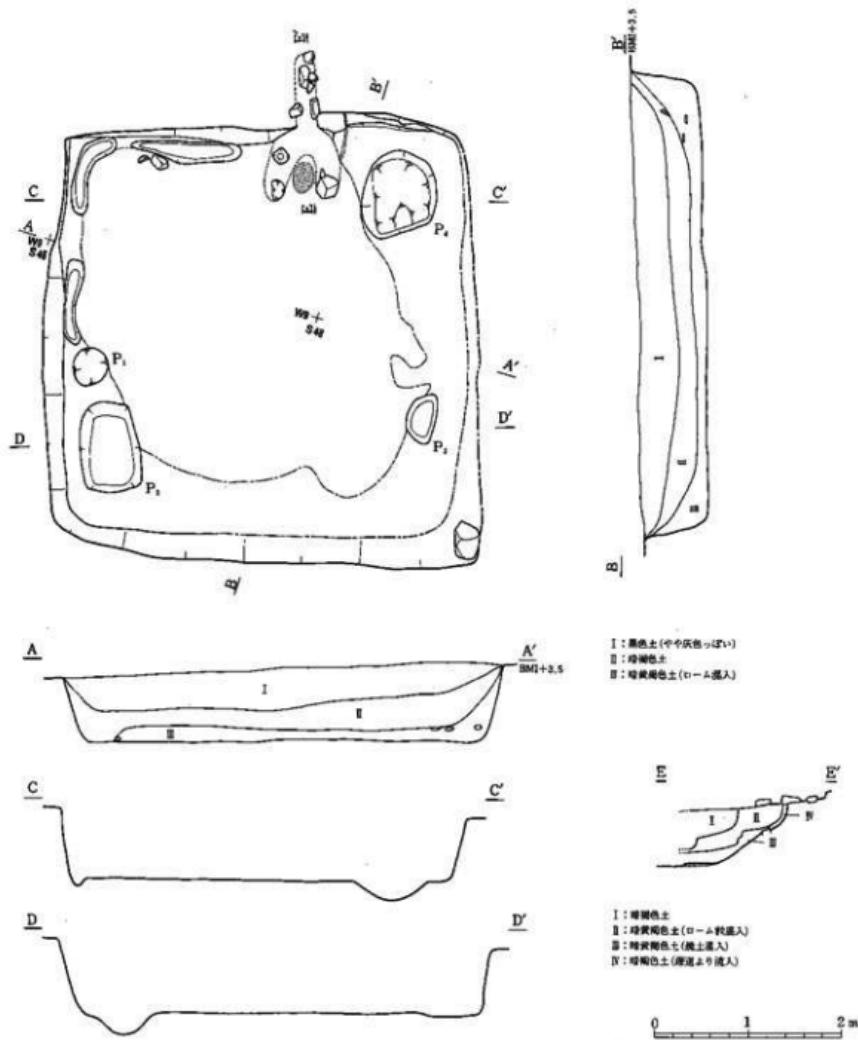
状況壁は良好に残存 床地山直床、平坦堅緻で良好、部分的に周溝あり 柱穴なし カマドなし、東壁下の焼土が該当か？ 床面積11.4m² 出土遺物覆土中から少量の縄文土器・土師器が散発的に出土・認化できるものなし、火打金具100 周期平安時代

第106図 第10号住居址



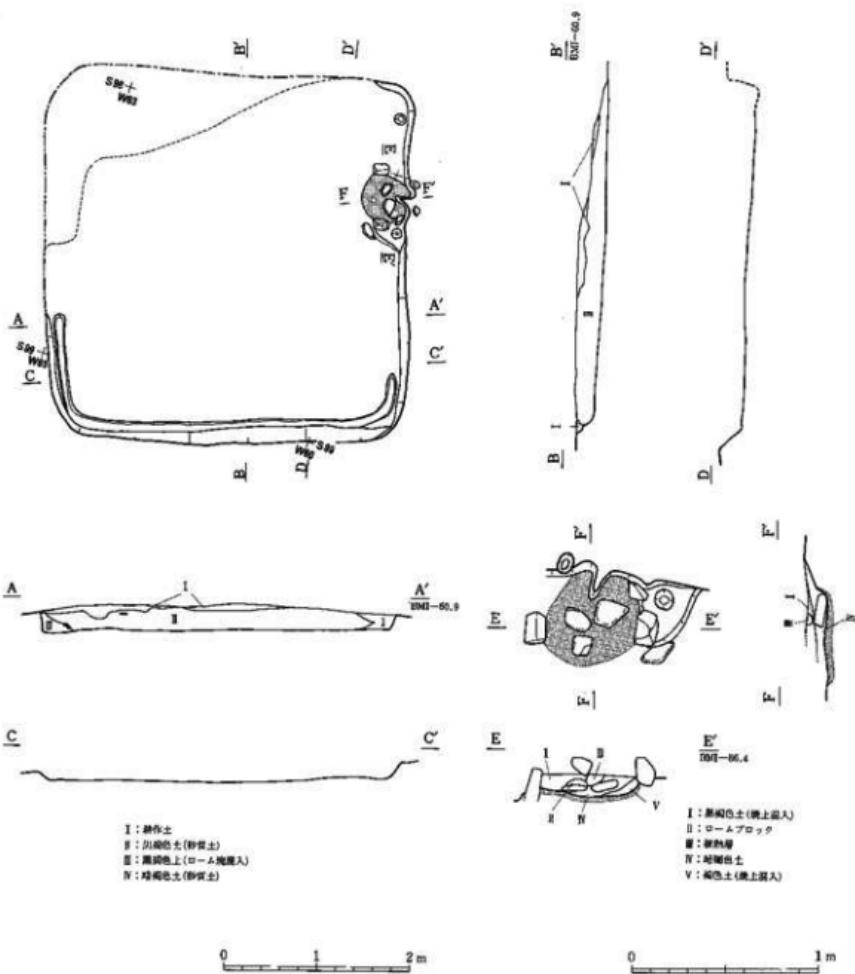
状況壁良好残存 床地山直床、堅歛、周溝あり カマドあり、西壁下の焼土第1次のカマド跡? 床面積12.9m² 出土遺物土師器碗・小形甕・灰陶瓶(89~92)、覆土中から散発的に出土・鉄滓190 刀子1(5) 時期平安時代

第107図 第11号住居址



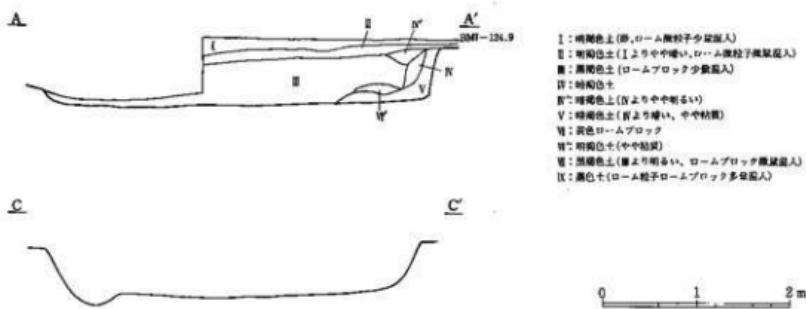
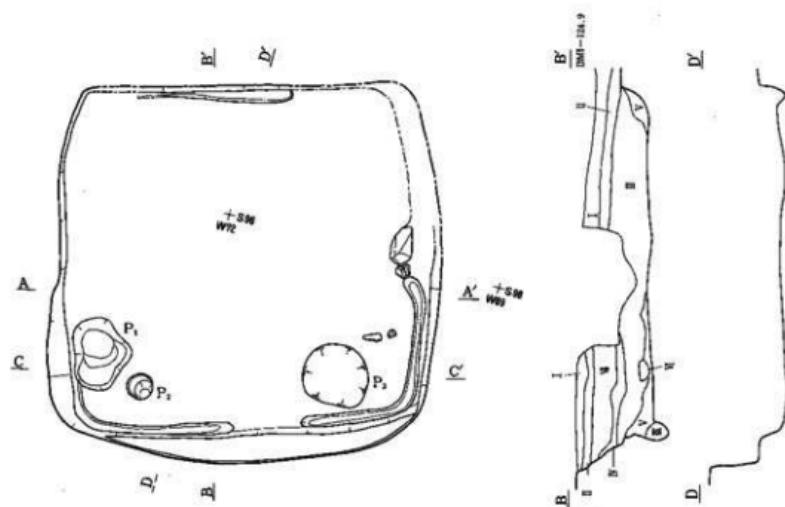
状況北・東・西壁良好残存、南壁は黒色土中のため不明瞭。床地山部分は良好、一部黒色土に黄色土貼り床 カマド既破壊、石材抜去の穴あり。床面積 $18.7m^2$ 出土遺物土器器坏、壺、小形壺、羽釜、灰釉瓶(96~110) 覆土下層・床面より一括品出土 時期平安時代

第108図 第12号住居址



状況北西部一帯削平、壁全体的に上部削平 埋地山直床、残存部分は非常に堅硬良好 カマド既破壊石材散乱 床面積14.3m²
出土遺物土師器甕、灰釉瓶 (93・94) 墓はカマド内から一括出土 時期平安時代

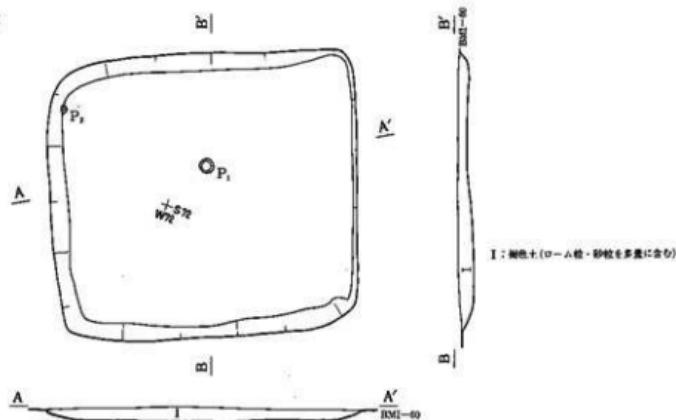
第109図 第13号住居址



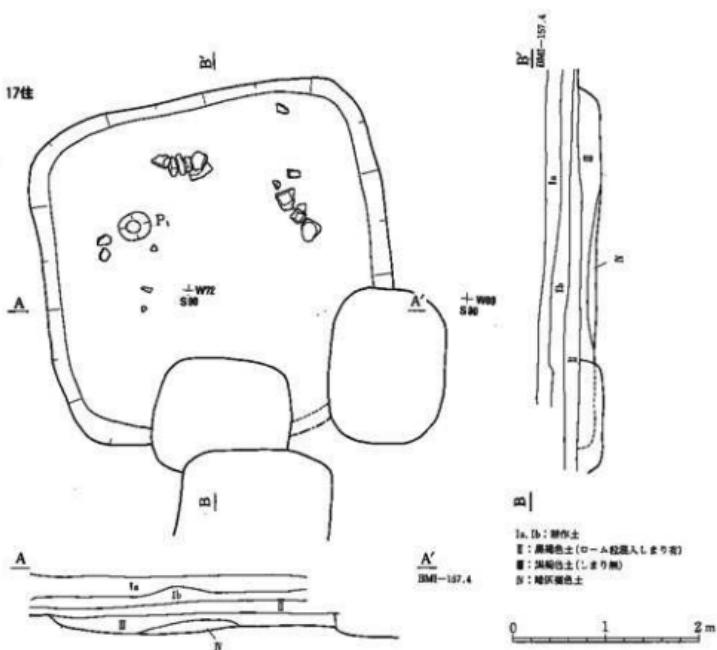
状況土横16・17西壁上部を破壊、北東 $\frac{1}{2}$ 認定して削平、他の壁は良好 床黒色土を叩き壓めて良好 カマド東壁に残骸あり 出土遺物土器器皿・塊、瓦残皿(112~114)、刀子(6)、鐵矛頭、瓦石(2)、灰陶(112)は P_1 と本社周辺出土のもの接合、完形 時期平安時代

第110図 第15号住居址

16住



17住

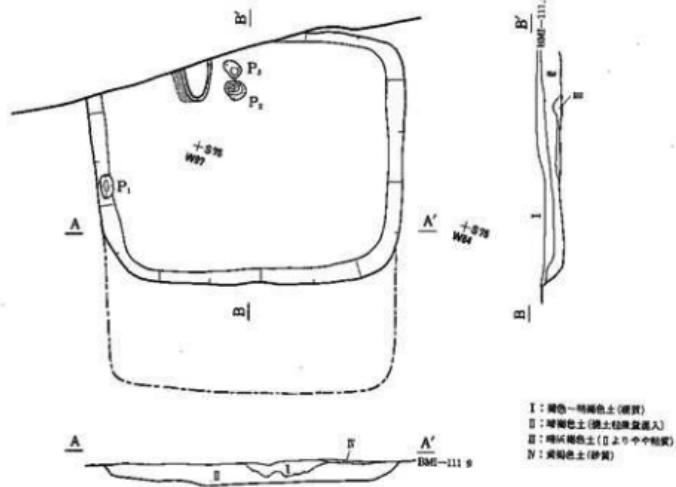


16住 状況土壌37・24の上部を切り、壁などらか 床地山直床北西部堅壁 カマドなし 床面積8.9m² 出土遺物若干の織文土器片、古墳時代土器片のみ図化なし 時期平安時代以降

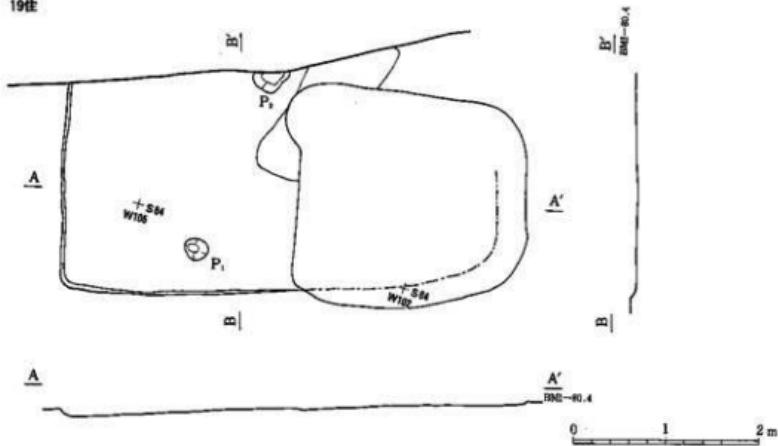
17住 状況土壌21・45に南東部を切られる。壁根斜め良好 床黑色土を叩き堅壁良好 カマドなし 床面積11.5m² 出土遺物若干の織文土器、平安時代土器片散見 時期平安以降

第111図 第16・17号住居址

18住



19住

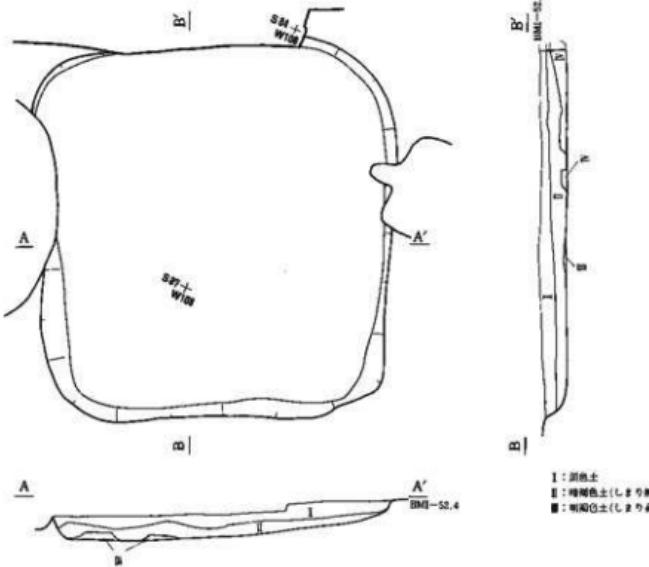


18住 状況悪低いが良好 床地山直床堅密良好 カマド北壁方面の焼土と高まりが該当? 出土遺物若干の繩文土器片のみ 固化なし 調査部分床面積6.6m² 時期平安以降

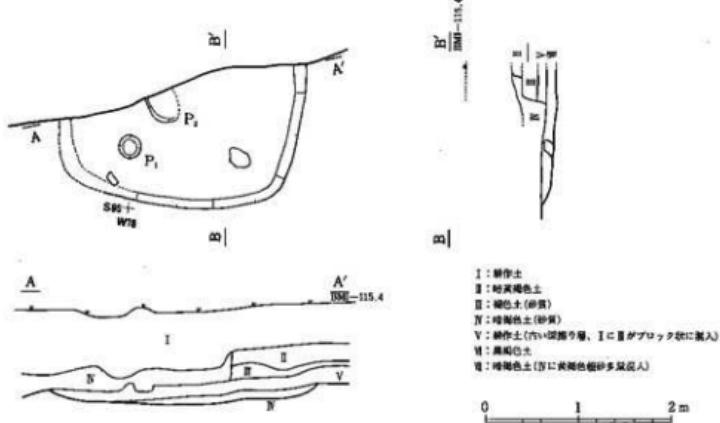
19住 状況北半区域外、ほとんど削平、土壌40-48cmに切られる。床黒色土中にあり歌詞 出土遺物若干の繩文土器片のみ 固化なし 調査部分床面積12.8m² 時期平安以降

第112図 第18・19号住居址

20住



21住



[20住] 状況上層に近世墓・土器51、壁やや不明瞭 床黒色土中にあり敷泥不明瞭 床面積12.7m² 出土遺物縄文土器多数 (発
期包含層を振り込んでいたため) 時期平安以降

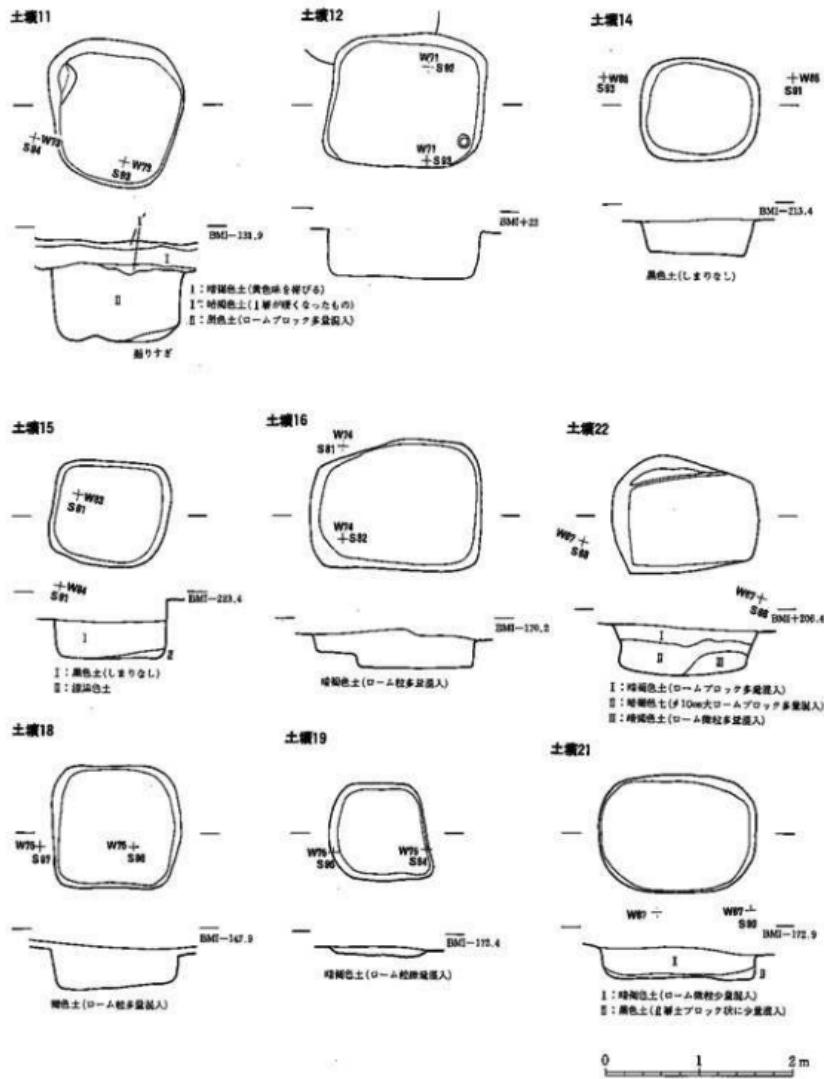
[21住] 状況東半区城外北壁全く削平、他は良好 床黒色土を叩いて堅緻 出土遺物若干の縄文土器片、北壁外に灰軸瓦2枚
一括出土 (117+118)、刀子(3) 調査部分床面積2.6m²

第113図 第20・21号住居址

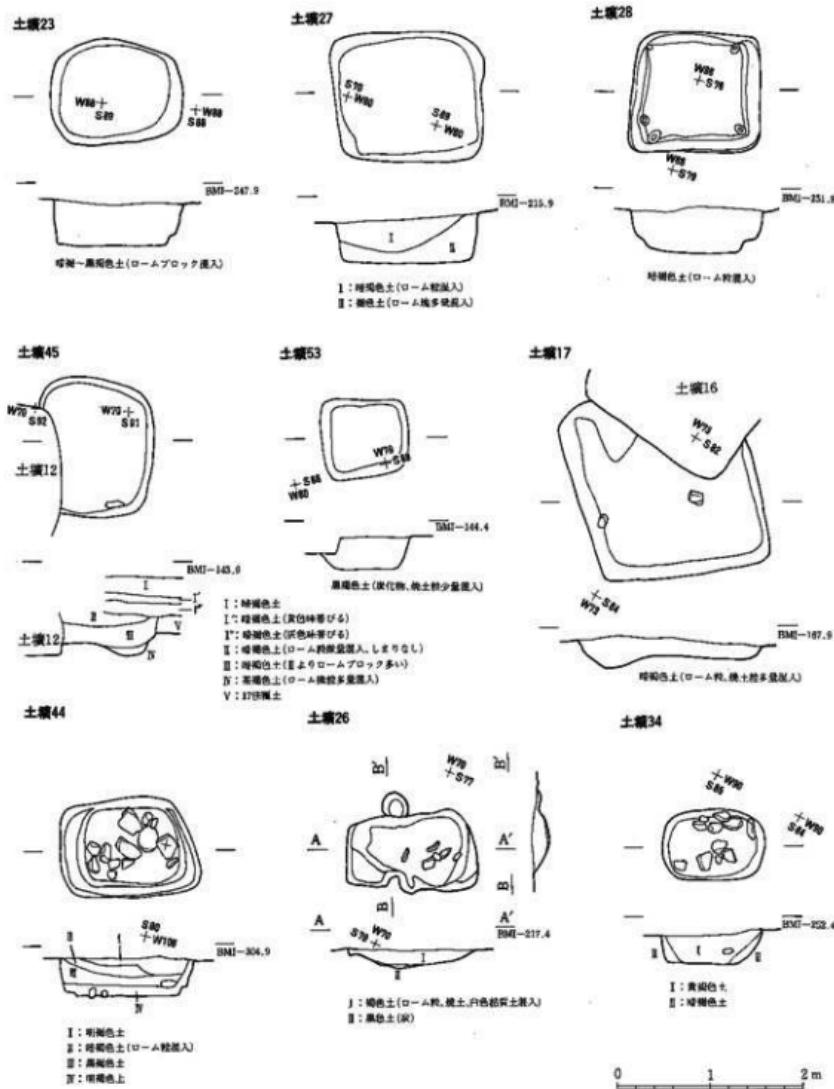
(2) 土 壤

表 7 土壤一覧表

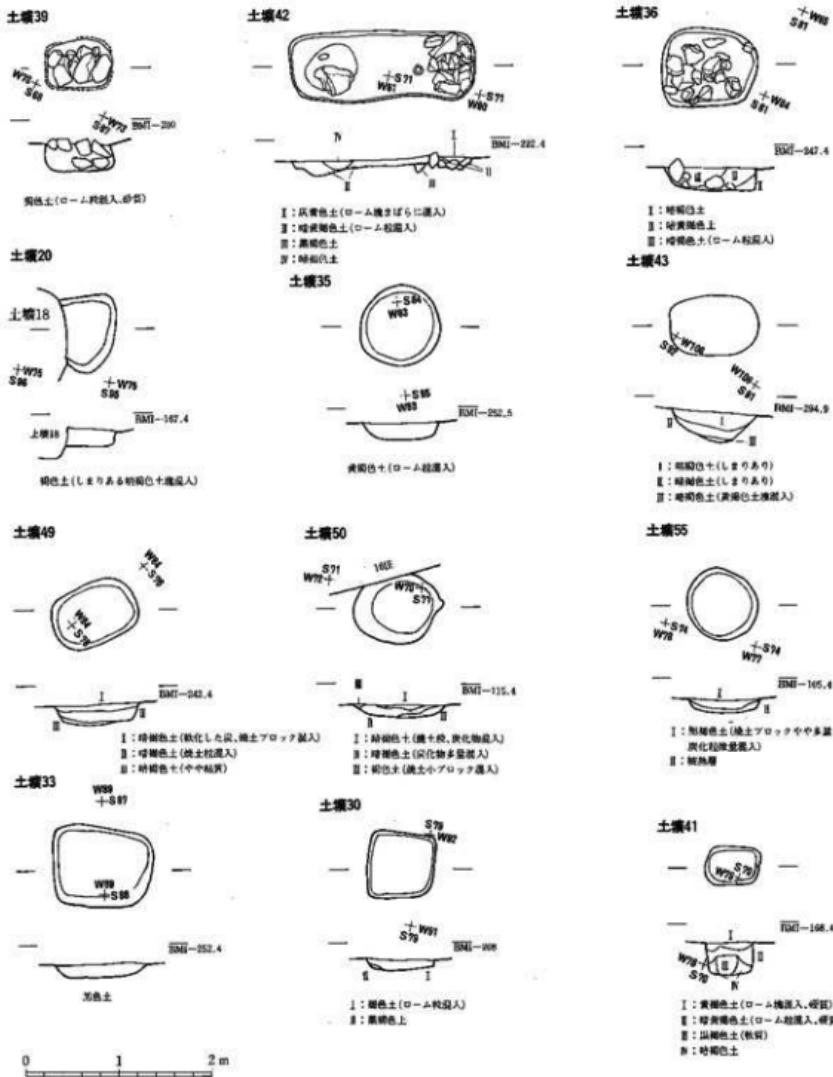
番 号	地 質 代	平 面 形 状 規 模 (cm)	新 斷 面 深 さ (cm)	實 土 件 数	偏 方 (過濾の合計面積 W>H)	番 号 分	名 称 回	位 置 代	平 面 形 状 規 模 (cm)	新 斷 面 深 さ (cm)	實 土 件 数	偏 方 (過濾の合計面積 W>H)
1 94	S 1 W26 古 猿	長方形 162×96	37	b	S 27 (80)	31	119	S 76 W94 長方形 183×126	長方形 7			
2 94	S 6 W25 古 猿	長方形 132×84	35	b	短距離 (81)	32	118	S 77 W81 長方形 (270)×263	長方形 36	b		
4 94	S 25 W60 古 猿	長方形 158×102	43	b		33	116	S 88 W29 長方形 167×85	長方形 14	a		
5 94	N50 W15 古 猿	円 形 120×110	20	b		34	115	S 85 W90 長方形 111×75	長方形 30	b?		
6 6 S46 W64 鯨 文	円 形 315×290	145	b	土器 (1-2-4-5)	35	116	S 84 W83 円 形 87×86	長方形 a				
8 6 S119 W83 鯨 文	円 形 125×100	20	b		36	116	S 81 W84 長方形 103×82	長方形 25	b			
9 6 S113 W85 鯨 文	円 形 115×112	58	b		37	6	S 70 W73 半円形 285×135	台 形 95	b	土製円盤 (36)	土器 (6-29, 303-309)	
10 94 S 32 E7 吉 猿	円 形 203×168	34	b		38	94	S 63 W73 半円形 113×36	台 形 23	b	錐状土製品 (57)		
11 114 S 95 W73 櫛 形	長方形 156×138	83	a	鐵 (1-2)	39	116	S 66 W73 長方形 70×45	長方形 28	a			
12 114 S 92 W71 長 方 形	長方形 165×143	50	a		40	119	S 84 W102 長方形 232×177	長方形 4				
13 117 S 95 W90 長 方 形	長方形 333×202	16	a	鐵等具? (6)	41	116	S 70 W79 長方形 58×41	長方形 35	a			
14 114 S 91 W85 長 方 形	長方形 126×117	36	a	鐵 (1)	42	116	S 71 W81 長方形 119×72	長方形 7				
15 114 S 91 W83 長 方 形	長方形 125×114	40	a		43	116	S 92 W106 長方形 94×64	台 形 32	b			
16 114 S 82 W74 長 方 形	長方形 184×130	42	a	鐵 (3-4)	44	115	S 90 W106 長方形 146×108	長方形 40	b			
17 115 S 82 W73 長 方 形	長方形 198×164	19	a	灰陶 (115) <土築26, >15住	45	115	S 91 W70 長方形 148×124	長方形 40	a	<土築12, >18住		
18 114 S 96 W75 長 方 形	長方形 138×130	43	a	鐵 (5-6-7)	46	119	S 51 E1 長方形 427×177	長方形 37				
19 114 S 95 W75 長 方 形	長方形 107×104	10	a		47	117	S 52 EWO 半圓形 130×126	台 形 70				
20 116 S 95 W75 半圓形 83×69	長方形 83×69	19	a	<土築18	48	117	S 83 W103 長方形 (190)×75	長方形 15		<土築40		
21 114 S 91 W67 長 方 形	長方形 168×127	32	a	>18住	49	116	S 79 W84 長方形 95×65	比方形 22	a'			
22 114 S 68 W67 半圓形	長方形 156×130	50	a		50	116	S 71 W70 円 形 38×(78)	比方形 15	a'	<18住		
23 115 S 89 W68 長 方 形	長方形 142×110	63	a	土偶 (4)	51	118	S 88 W106 長方形 216×135	長方形 37		19住の下部		
24 119 S 74 W72 長 方 形	長方形 245×203	16		>16住	52	118	S 88 W111 円 形 (260)×(260)	長方形 28	b			
25 117 S 92 W81 長 方 形	長方形 (216)×(160)	10	a		53	115	S 88 W79 長方形 94×81	長方形 35	a			
26 115 S 77 W70 長 方 形	長方形 140×83	17	a		54	118	S 82 W80 長方形 289×190	長方形 23				
27 115 S 69 W85 長 方 形	長方形 157×139	48	a	不明 (石) (?)	55	116	S 74 W77 円 形 78×77	長方形 14	a'			
28 115 S 78 W88 長 方 形	長方形 140×128	50	a		56	6	S 87 W93 円 形 336×323	台 形 115	b	不明 (土) (67)		
29 117 S 87 W85 半圓形	長方形 352×236	22	a	有孔球狀土製品 (46)	57	117	S 75 W63 長方形 192×108	長方形 56	c	土器 (30-35, 339-347)		
30 116 S 79 W92 長 方 形	長方形 73×70	11	a		58	94	S 33 E10 半圓形 121×76	長方形 45	b			



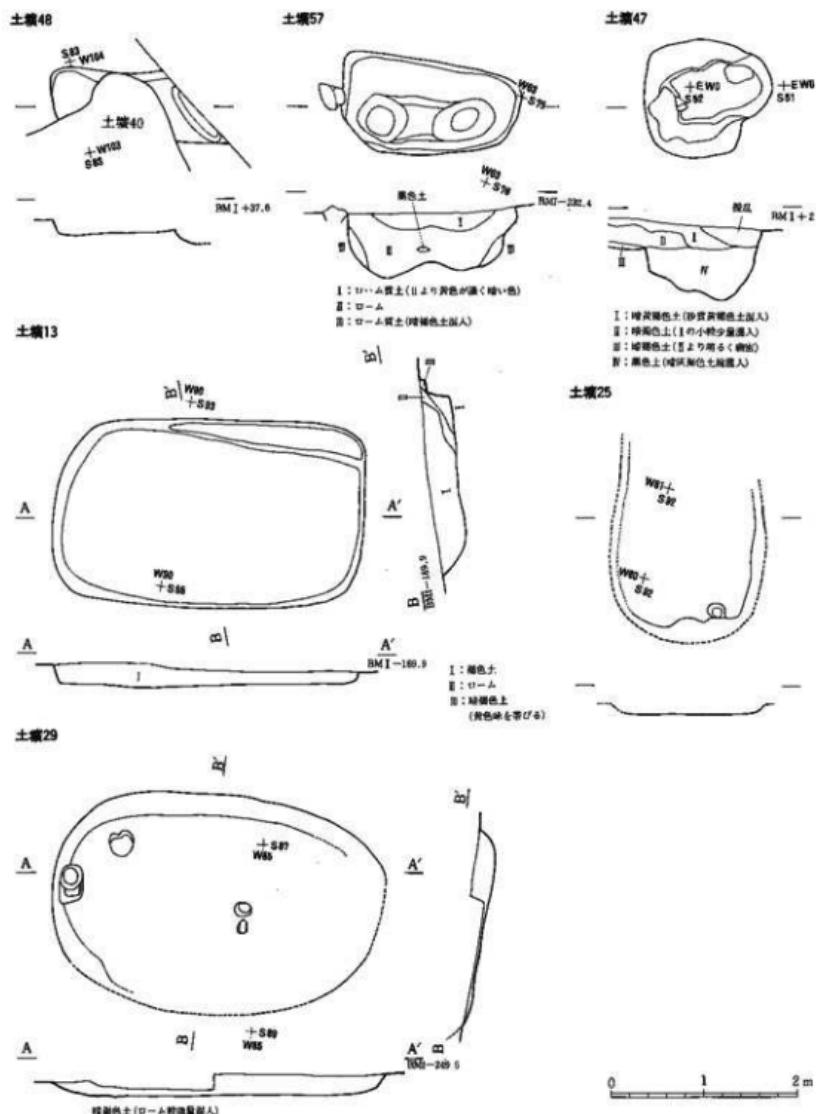
第114図 平安時代以降の土壌(1)



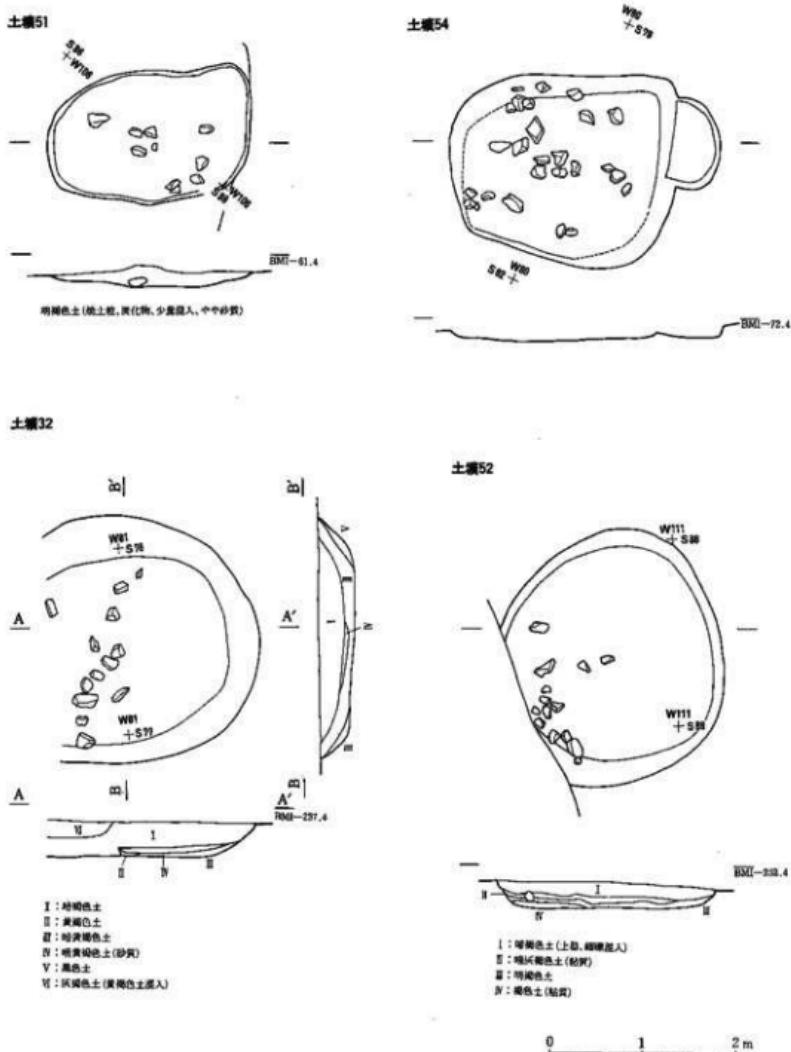
第115図 平安時代以降の土壤(2)



第116図 平安時代以降の土壤(3)

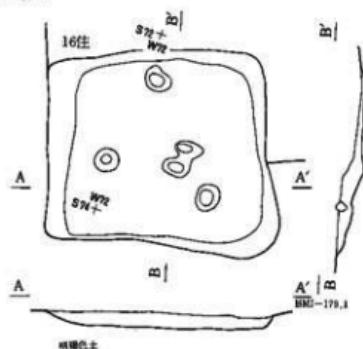


第117図 平安時代以降の土壇(4)



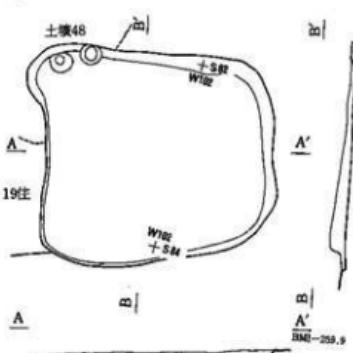
第118図 平安時代以降の土壤(5)

土壤24



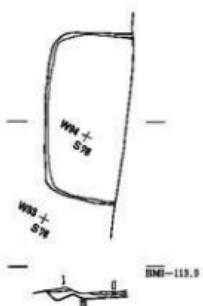
暗褐色土

土壤40



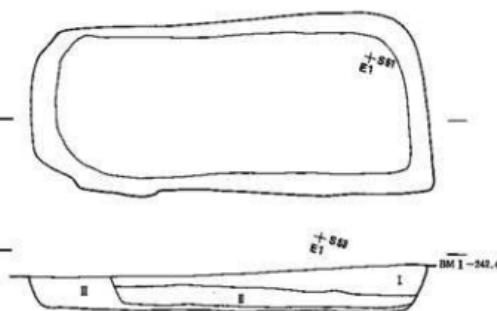
暗褐色土(やや砂質)

土壤31



I : 暗褐色土
II : 黄色土(砂質)
III : 黄色土(ローム鉱物量多く)

土壤46

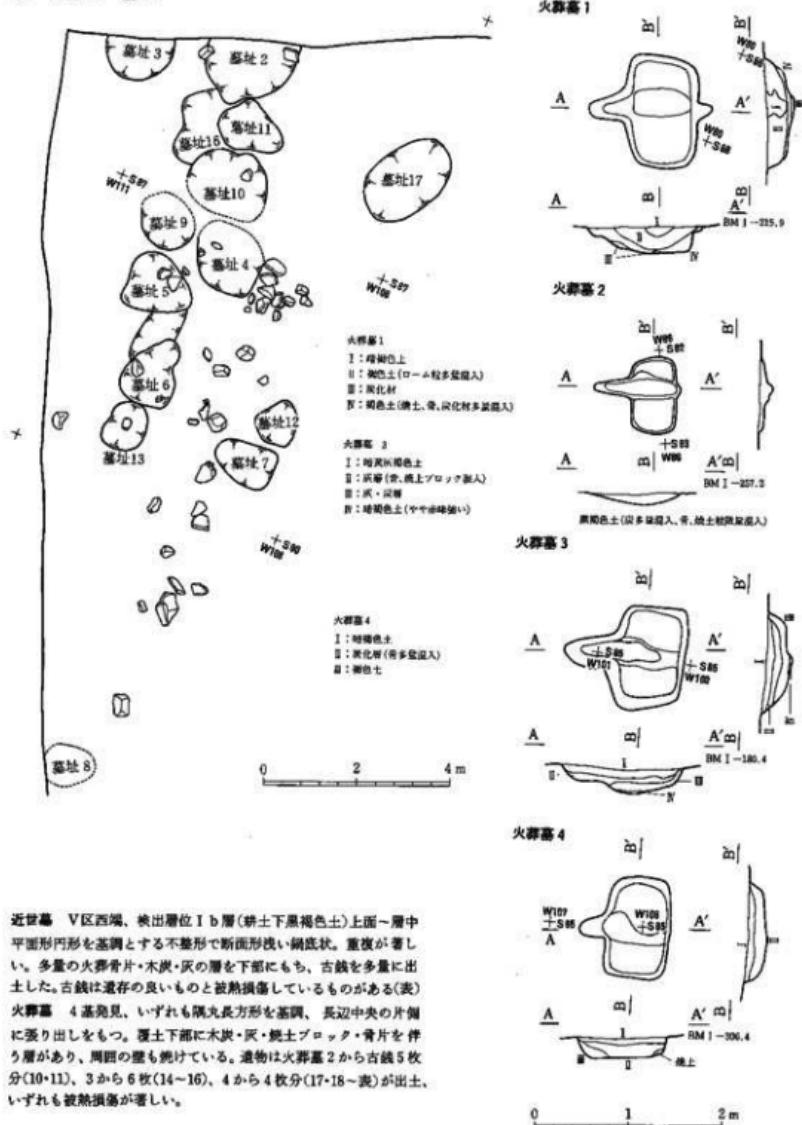


I : 暗褐色土
II : 暗褐色土(炭多量に混入)
III : 黄色土(粘性あり)

0 1 2 m

第119図 平安時代以降の土壤(6)

(3) 火葬墓・墓址



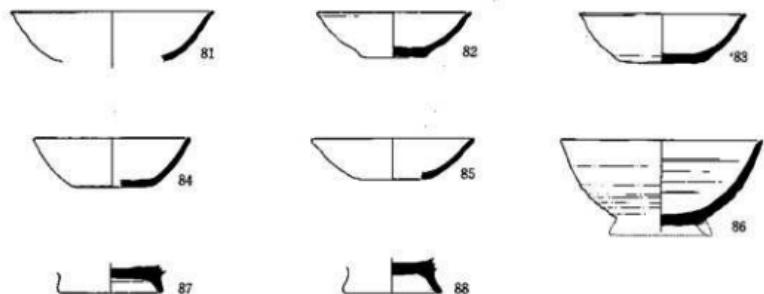
第120図 火葬墓、近世墓の分布

2. 遺 器
(1) 土 器

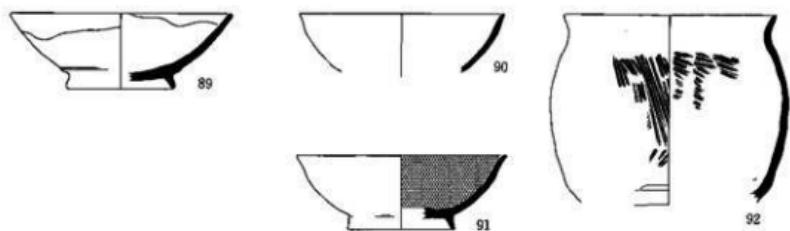
表 8 平安時代土器一覧表

名	出土地点	種別	器形	寸 法 (m)			残存度 口径 底径 器高 (底部)	色 調		成 形・調整・修復の特徴	備 考
				口径	底径	器高		外 面	内 面		
				(台)	(台)	(台)		(白)	(白)		
81	5 住	灰 粘	碗	14.2			1/5	灰白	(白)	ロクロナダ	
82	*	土師器	环	10.8	4.0	3.2	1/10	黄灰～黄褐	黄灰～黄褐	ロクロナダ。底部凹起糸切り	
83	*	*	*	11.5	4.8	4.5	1/6	黄褐	黄褐	ロクロナダ。底部凹起糸切り	
84	*	*	*	10.8	5.6	3.5	1/5	暗褐色	黄灰～黄褐	ロクロナダ。底部凹起糸切り	
85	*	*	*	11.2	4.6	2.4	1/6	黄灰～黄褐	暗褐色	ロクロナダ。底部凹起糸切り	
86	*	*	碗	14.2			2/5	黄褐	暗褐色～非漆	ロクロナダ。表面に漆跡付へり。また、口縁ヘラタガキ。底面アラカリ。底部凹起糸切り	
87	*	*	*			7.1	(未)	赤褐	暗褐色	底部凹起。ロクロナダのものと空器の點跡付。内面に漆付。底面アラカリ。	
88	*	*	*			6.6	(2/3)	橙灰	黄灰	底部凹起ロコナダ。付け高台のものヨコナダ。底部凹起ナダ	
89	11 住	灰 粘	碗	7.8	7.2	5.4	2/5	白～灰白	白～灰白	ロクロナダ。口縁ヘラタガキ。付け高台のものヨコナダ。底部凹起糸切り	白色不透明釉
90	*	土師器	碗	14.4			2/5	黄褐～赤褐	暗褐色～赤褐	ロクロナダ。口縁内面コハラヘタガキ。外縁コハラ	口縁外側スス付
91	*	*	*	14.8	7.5	5.3	1/2	赤褐～黄褐	黑～暗褐色	ロクロナダ。脚部内面及底付へリ。また、口縁内面ヘラタガキ。付け高台。底部凹起糸切り	内黑
92	*	*	小形碗	14.8			2/5	黄褐～暗褐色	黄褐～暗褐色	底部凹起ナダのものによるナダ。付け高台ヨコナダヘラタガキ	
93	13 住	灰 粘	碗	16.2	5.7	4.7	1/3	灰白	灰白	ロクロナダ。付け高台のものヨコナダ。底部凹起糸切り	溶けかけ。透明釉
94	*	土師器	甕	14.6	10.2	17.2	2/3	黄褐	黄褐	脚部アラカリ及上部ヘラタガキのもの。口縁取取り。底部凹起ヘラタガキ。ナダ	脚下二次的 施釉
95	12 住	灰 粘	碗			7	(2/3)	灰白	灰白	ロクロナダ。付け高台のものヨコナダ。底部凹起糸切り	手ぬ使感 動かし
96	*	*	*	12.3	5.2	4.3	1/6	灰白～白	(淡緑透明)	ロクロナダ。付け高台のものヨコナダ。底部凹起糸切り	重ね施釉
97	*	*	*	14.4	6.5	5.4	1/3	灰白	(透綠)	ロクロナダ。付け高台のものヨコナダ	溶けかけ 重ね施釉
98	*	土師器	环	11.8	5.0	3.5	1/6	暗赤褐～黄灰	赤褐	ロクロナダ。底部凹起糸切り	
99	*	*	*	11.3	5.2	3.1	完	橙灰	暗褐色	ロクロナダ。底部凹起糸切り	板压痕
100	*	*	*	11.5	5.0	3.1	1/5	暗褐色	暗褐色	ロクロナダ。底部凹起糸切り	
101	*	*	*	10.9	5.4	3.1	1/3	暗褐色	暗褐色	ロクロナダ。底部凹起糸切り	各所にスス付
102	*	*	*	11.8	5.7	3.0	2/5	暗褐色	暗褐色	ロクロナダ。底部凹起糸切り	タル状のスス付
103	*	*	*	10.7	6.3	3.2	1/6	暗褐色	黄灰	ロクロナダ。口縁コハラ。底部凹起糸切り	
104	*	*	碗	14.3	7.7	4.7	2/3	黄褐～黄灰	暗褐色	ロクロナダ。付け高台のものヨコナダ。内側に神狀のやせた脚。底部凹起糸切りのちナダ	
105	*	*	*	13.5				黄褐	黑	ロクロナダ。脚部上半ヨコタガキ。下半タテタガキ	内黑
106	*	*	小形碗	9.0	5.6	6.1	1/3	暗褐色	暗褐色	ロクロナダ。脚部内面工具によるロクロナダ。底部凹起糸切り	
107	*	*	碗			6.6	完	黄灰	黄灰	ロクロナダ。付け高台のものヨコナダ。底部内面ロクロナダのものヘラタガキ。外縁ナダ	底部の可能性あり
108	*	*	碗(直)	12.1			1/5	暗褐色	暗褐色	ロクロナダ	
109	*	*	甕	16.4			1/8	暗褐色～黄褐	暗褐色～黄褐	ロクロナダ	
110	*	*	深 瓶	15.2			1/6	暗褐色	暗褐色	ナダ。部分的にハケ目。口縁ヨコナダ	
111	14 住	灰 粘	碗			7.6	完	灰白～白	(透綠)	ロクロナダ。付け高台のものヨコナダ。底部凹起ヘラタガキ	重ね施釉 透明釉
112	15 住	*	皿	12.9	6.6	2.9	完	灰白	(透綠)	ロクロナダ。脚部下部ヘラタガキ。付け高台のものヨコナダ。底部内面ヘラタガキ	溶けかけ。透明釉 重ね施釉
113	*	土師器	环	10.8	4.0	3.5	1/6	赤褐～暗赤褐	暗褐色～暗褐色	ロクロナダ。底部凹起糸切り	
114	*	*	碗			6.7	1/3	黄褐	黄褐	付け高台。底部内面ロクロナダ。外縁神狀のやせた脚	
115	土城27	灰 粘	碗	13.4	5.2	4.3	1/6	灰白～白	灰白～白	ロクロナダ。付け高台のものヨコナダ	輪なし
116	瓦屋-S67-WHNE	*	*	15.2	5.1	4.8	1/6	暗褐色	(灰白～白)	ロクロナダ。脚部下部凹起ヘラタガキ。付け高台のものヨコナダ。底部凹起ヘラタガキ。蓋けつけ	重ね施釉 瓦と荷合
117	瓦屋-S67-WHNE	*	皿	11.4	5.8	2.4	1/3	*	(白)	ロクロナダ。付け高台のものヨコナダ。底部凹起ヘラタガキ	溶けかけ 重ね施釉
118	瓦屋-S67-WHNE	*	*	12.1	5.8	2.3	2/3	*	(黄緑)	ロクロナダ。付け高台のものヨコナダ。底部凹起ヘラタガキ。蓋けつけ	重ね施釉 瓦と荷合

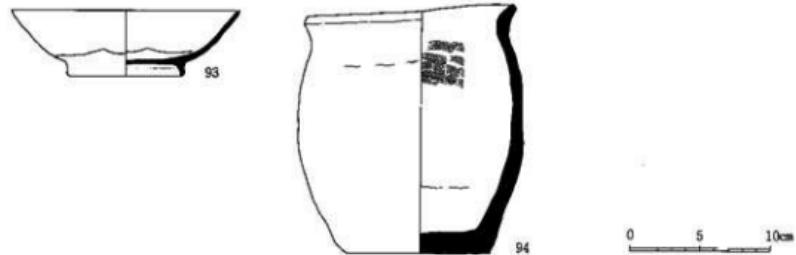
第5号住居址



第11号住居址



第13号住居址



0 5 10cm

第121図 平安時代土器(1)

第12号住居址



95



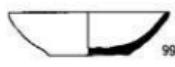
96



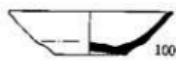
97



98



99



100



101



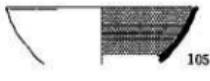
102



103



104



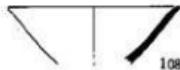
105



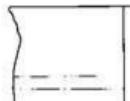
106



107



108



109



110

0 5 10cm

第122図 平安時代土器(2)

第14号住居址



111

第15号住居址



112



113

土壤17



115



116

S 89-W78 NEⅡ層上



117



118

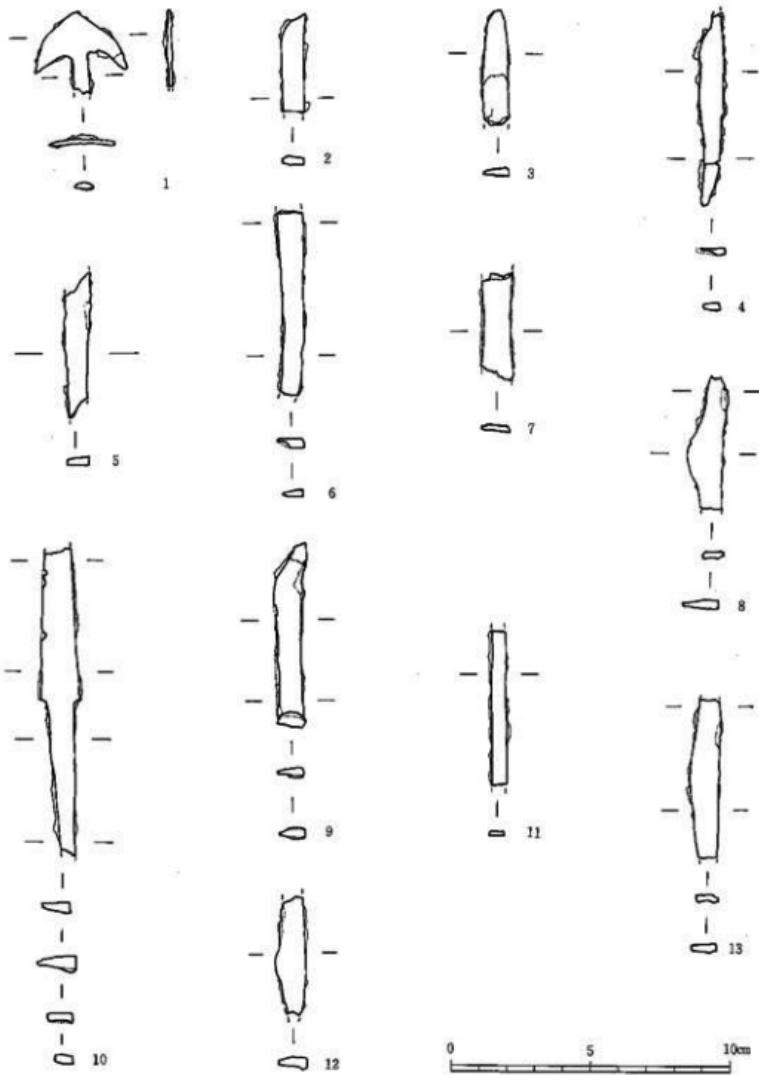
0 5 10cm

第123図 平安時代土器(3)

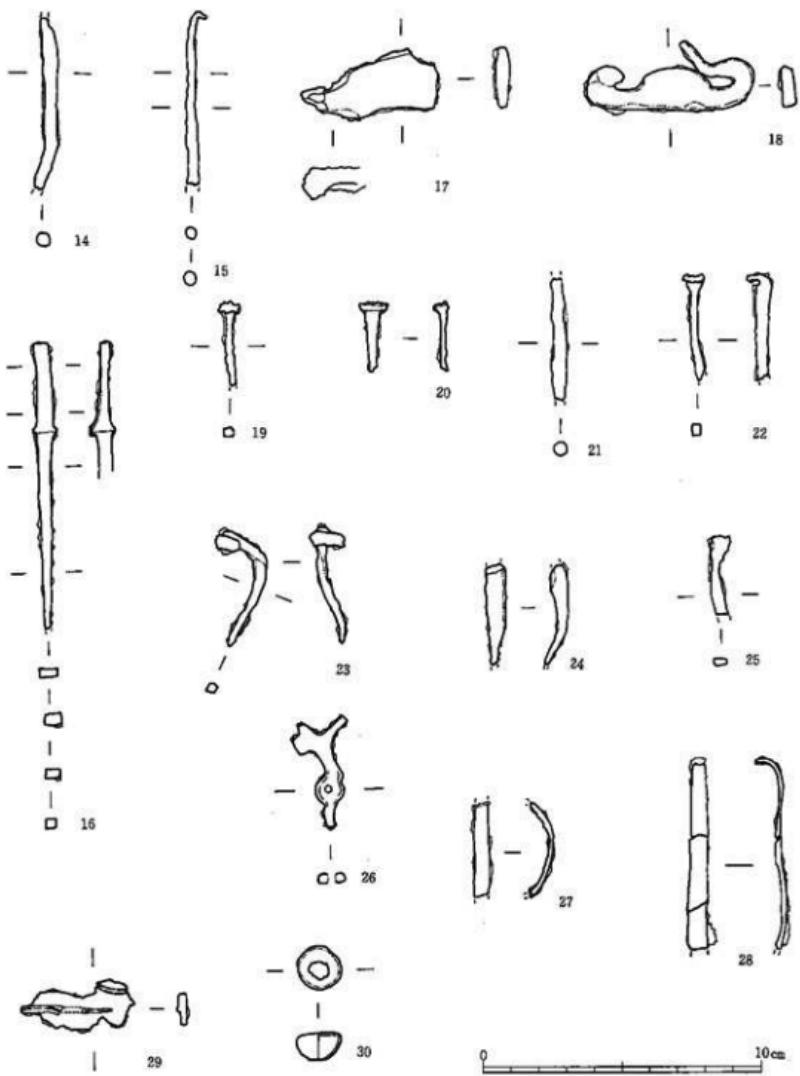
(2) 金属製品

表9 金属製品一覧表

番号	器種	出土	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	欠損状況	備考
1	鉄 錐	1住 No29	(2.89)	3.19	0.42	(2.51)	下部欠損	
2	刀子	1住 No34	(3.59)	(0.86)	(0.37)	(2.34)	上・下部欠損	
3	*	21住	(4.06)	(1.04)	(0.70)	(3.68)	下部欠損	
4	*	5住 No10	(6.85)	(1.25)	(0.34)	(4.06)	上部及刀部欠損	
5	* (案)	11住覆土	(5.27)	(0.92)	(0.48)	(4.91)	上・下部欠損	
6	*	15住 No4	(6.54)	(1.09)	(0.51)	(5.58)	*	
7	*	S 93 W72・I	(3.87)	(1.18)	(0.41)	(3.48)	*	
8	* (?)	S 63 W69	(4.67)	(1.35)	(0.30)	(5.85)	*	
9	*	S 78 W87・II	6.49	1.35	0.64	7.88	上・下部屈曲	
10	*	S 81 W60・II	(10.96)	(1.59)	(0.58)	(15.22)	上・下部欠損	
11	* (?)	S 90 W81・II	(5.42)	(0.71)	(0.35)	(2.75)		
12	*	S 93 W69・I	(4.28)	(1.11)	(0.50)	(4.99)		同一個体の一部あり
13	*	Ⅲ区検出面	(5.56)	(1.01)	(0.36)	(5.88)	上・下部欠損	
14	紡錘車(輪)	S 69 W78・II	(6.01)	(0.61)	—	(5.98)	*	
15	* (*)	S 72 W75・II	(6.10)	(0.45)	—	(3.03)	下部欠損	
16	不明(茎)	5住 No 9	(10.18)	(0.94)	(0.94)	(10.64)	上部欠損	
17	火打金具	10住覆土	(4.85)	(2.21)	(1.21)	(24.84)	両端欠損	火打金具 (?)
18	*	S 78 W81・II	5.97	2.54	0.72	(19.51)	一部欠損	
19	釘	S 72 W78・II	(3.04)	(0.82)	(0.38)	(1.39)	上・下部欠損	
20	*	S 78 W84・II	(2.39)	(1.16)	(0.28)	(1.34)	下部欠損	
21	*	S 81 W81・II	(4.27)	(0.59)	—	(3.54)	上・下部欠損	同一個体の一部あり
22	*	S 93 W69・I	(3.72)	(0.78)	(0.38)	(2.38)	下部欠損	
23	*	Ⅲ区検出面	4.18	1.32	0.86	3.49		軸部屈曲
24	* (?)	S 96 W105・I	(3.71)	(0.71)	(0.65)	(4.04)	上・下部欠損	刀子の一部 (?)
25	不明	S 90 W66・I	(2.83)	(0.78)	(0.38)	(2.08)	*	同一個体 3片あり
26	*	S 93 W72・II	(3.89)	(2.22)	(0.99)	(6.55)	不明	飾り金具?
27	*	満7	(3.34)	(0.64)	(0.24)	(1.42)	上・下部欠損	
28	*	S 93 W72・II	(6.71)	(1.07)	(0.48)	(3.48)	*	
29	*	Ⅲ区検出面	(4.11)	(1.96)	(0.45)	(5.69)	一部残	
30	キセル		1.64	1.47	(0.91)	(1.81)	頭部の一部のみ	銅 製
31	鉄 漆	11住覆土				2.23		
32	*	15住 *				3.99		
33	*	タ タ				3.86		
34	*	S 69 W69・I				3.05		
35	*	S 75 W75・I				95		
36	*	S 75 W90・II				5.08		
37	*	S 78 W81・II				5.88		
38	*	S 87 W57・I				4.10		同一個体 5片
39	*	S 87 W69・II				128.0		
40	*	S 90 W78・I・II				125.0		
42	*	S 90 W72・I				2.85		
43	*	S 93 W69・II				6.79		
44	*	S 93 W87・II				9.95		



第124図 鉄 器 (1)

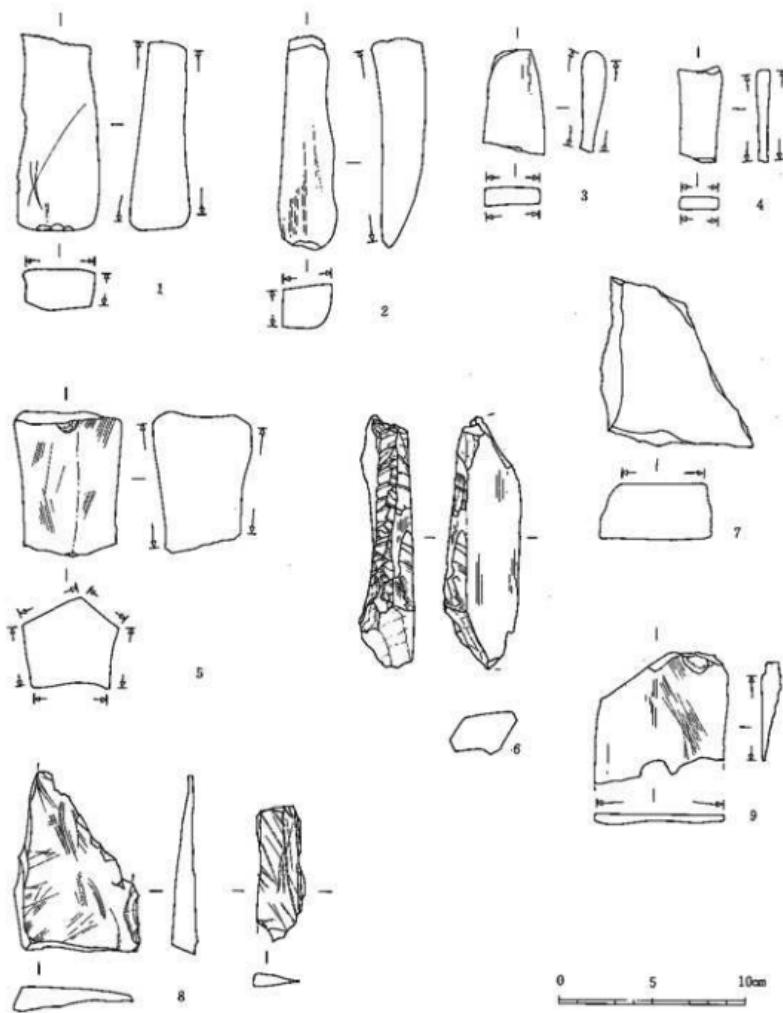


第125図 鉄 器 (2)

(3) 石製品

表10 磚石一覧表

No.	出 土	層 位	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	砥面 の数	欠損状況	備 考
1	土壤14		(10.27)	4.00	2.60	(169.00)	凝灰岩	4	約1/4欠	
2	15住	覆 土	11.30	3.10	2.36	119.00	砂 岩	2	完	
3	S75W72	II	(5.68)	(3.42)	(1.30)	(30.80)	粘土質岩	4	約1/3欠	
4	S93W69	I・II	(5.10)	(2.34)	(0.73)	(12.45)	・	4	上・下欠	
5	5住No.13		(7.26)	5.41	6.99	(298.00)	石英質砂岩	5	約1/4欠	
6	2住No.61		(13.49)	4.29	2.24	(163.50)	砂 岩	2	ほぼ完	製作痕(タガネ?) 鋼著に残る
7	S78W75	II	8.92	8.21	3.05	—	・	1	約3/4欠	
8	S81W84	溝7覆土	(9.52)	(6.79)	(1.36)	(69.51)	頁 岩	1	約2/3欠	他に同一個体が 2片
9	8住No.3		(6.77)	(6.95)	(1.04)	(49.10)	砂 岩	3	約3/4欠	



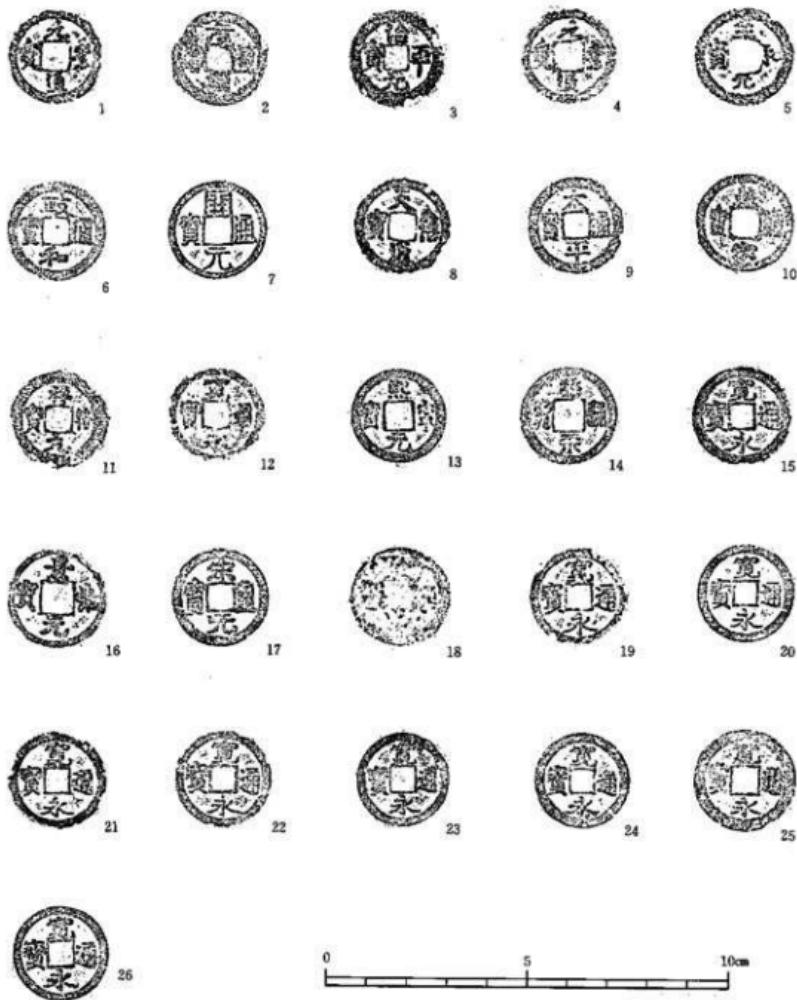
第126図 砕 石

(4) 銭貨

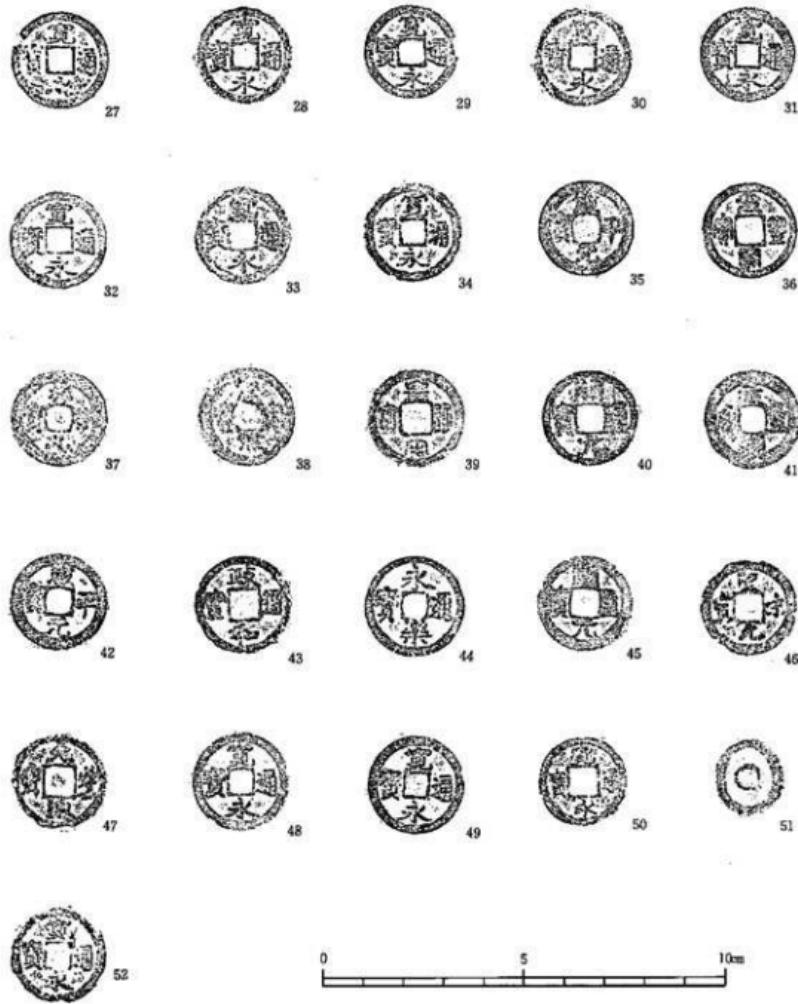
表11 銭一覧表

長	出土地	名	初鑄年	径(mm)	重量(g)	拓本番号	備考
1	土壤II	元豐通宝	1078	23.5	1.74	1	外回りが少々腐蝕している
2	土壤II	不規	—	24.0	2.19	2	腐蝕が激しい 元〇〇〇か
3	土壤I6	銀錢	—	21.0	1.01		腐蝕が激しい
4	土壤I8埋土	治平元宝	1064~7	24.0	2.41	3	腐蝕がすむ
5	土壤I8	皇宋元宝	1253~8	(24.0)	1.69		2片割れ
6		治平元宝	1064~7	24.0	2.47		通宝の字が内側へ変形している
7	土壤I8	元豐通宝	1078	23.5	2.49	4	腐蝕がすんでいる
8	溝5	至通元宝	995~7	24.0	2.22	5	中央の穴の部分が欠損して大きくなっている
9	S93 W72 15佳覆土SE	政和通宝	1111	24.0	1.98	6	外回りが少々腐蝕している
10	火葬墓2	不規	—	24.0	7.81		二枚付着の状態で出土、腐蝕激しく銘名判読不可能
11		開元通宝	621	24.0	3.25	7	完存
12		天祐通宝	1017~21	23.5	2.36	8	外回りが少々腐蝕している
13		咸平元宝	998	(25.0)	2.56		2片に割れた状態で出土
14	火葬墓3	不規	—	25.0	8.36		三枚付着の状態で出土、腐蝕激しく銘名判読不可能
15	火葬墓3	不規	—	24.0	1.88		少量残 腐蝕激しく銘名判読不可能
16		不規	—	25.0	4.72		二枚付着の状態で出土、腐蝕激しく銘名判読不可能
17	火葬墓4	不規	—	(24.0)	4.05		四枚付着の状態で少量残 腐蝕激しく銘名判読不可能
18	火葬墓4	不規	—	(24.0)	3.35		四枚付着の状態で出土 少量残 腐蝕激しく銘名判読不可能
19		不規	—	—	0.66		少量残 腐蝕激しく銘名判読不可能
20	墓址1	太平通宝	976	24.0	2.52	9	外回りが少々腐蝕している
21		皇宋通宝	1038	24.0	2.53	10	字が可成り擦れている
22		祥符元宝	1008	24.5	2.48	11	外回りが少々腐蝕している
23	墓址2	寛永通宝	1626	24.0	1.99	12	腐蝕がすむ
24		熙寧元宝	1068	23.5	3.78	13	字が少々擦れている
25		治平通宝	1064~7	24.0	3.91	14	字が少々擦れている
26		寛永通宝	1626	23.5	3.47		変形
27	墓址3	不規	—	24.0	5.25		二枚付着の状態で出土、両面裏側のため銘名判読不可能
28		寛永通宝	1626	24.0	12.38	15	四枚付着の状態で出土
29	墓址4	寛永通宝	*	(24.0)	1.58		3片に割れた状態で出土、全く残
30		景祐元宝	1034	24.0	2.93	16	腐蝕がすんでいる
31	墓址5	宋通元宝	971	24.0	2.96	17	完存
32		不規	—	(24.0)	1.08		少量残 ○景祐〇か 腐蝕が激しい
33		寛永通宝	1626	25.0	14.59	18	四枚付着の状態で出土、○永遠〇、寛永通〇などの背面 寛永通宝と思われる
34	墓址6	寛永通宝	*	24.0	2.73	19	外回りが腐蝕している
35	墓址6	寛永通宝	*	24.0	2.79	20	完存
36		寛永通宝	*	24.5	2.21	21	外回りが腐蝕している 宝の字の横に穴が空いている
37		寛永通宝	*	24.0	2.26	22	外回りが腐蝕している
38		寛永通宝	*	23.0	2.15	23	
39		寛永通宝	*	24.0	6.92	24	二枚付着の状態で出土
40		寛永通宝	*	(24.5)	1.19		4片に割れも欠損

41	墓址7	不明	—	24.5	17.66		六枚付着の状態で出土
42	墓址8	寛永通宝	1626	25.0	2.74	25	
43	墓址9	寛永通宝	*	23.5	2.82	26	完存
44		不明	—	(24.5)	2.06		2片に割れた状態で出土、量残、腐蝕が激しく錢名判読不可能
45		寛永通宝	1626	24.0	4.05	27	宝の字の左上少々欠損
46		寛永通宝	*	23.5	1.97	28	寛と宝の字の間に龜裂
47		寛永通宝	*	23.0	2.04	29	中心の穴の外側が擦れている
48		寛永通宝	*	24.5	2.92	30	外回り少々腐蝕している
49		寛永通宝	*	23.0	2.10	31	完存
50	墓址10	寛永通宝	*	24.0	13.37	32	四枚付着の状態で出土
51		寛永通宝	*	24.0	2.12	33	腐蝕がすんでいる
52	墓址10	不明	—	(24.0)	1.56		士量残 寛〇〇宝
53		不明	—	(24.0)	1.60		2片に割れた状態で出土、少々損 寛永〇〇
54		寛永通宝	1038	(25.0)	2.11		3片に割れた状態で出土、腐蝕が激しい
55		寛永通宝	1626	24.0	9.79	34	三枚付着の状態で出土
56	墓址11	咸平元宝	998	23.5	5.05	35	二枚付着の状態で出土、片面は裏が出ている
57		元豐通宝 符符元宝	1078 1008	23.5 24.0	6.48	36 37	二枚付着の状態で出土
58		皇宋元宝	1253~8	24.0	2.43	38	字が可成り揃っている
59		皇宋通宝	1038	24.0	2.04	39	
60		開元通宝	621	23.5	3.17	40	字が可成り揃っている
61		元豐通宝	1078	24.0	2.71	41	
62		咸平元宝	998	24.0	2.20	42	元の字の左が欠損
63	墓址14	永樂通宝	1411	(25.0)	1.74		2片に割れた状態で出土
64		政和通宝	1111	24.0	2.63	43	外回り少々腐蝕
65		不確	—	—	2.29		4片に割れ少々欠損、〇通元〇、又は〇元通〇か？ 裏面裏面
66	墓址14 東隣	永樂通宝	1411	25.0	5.63	44	二枚付着の状態で出土
67	墓址15	不明	—	—	1.07		細かい頸片の状態で出土、錢名判読不可能
68	墓址15	開元通宝	621	24.0	2.81	45	裏表何かで揃ってある
69	土18, 19, 20 檻正面	不明	—	23.0	1.44		腐蝕激しく錢名判読不可能
70		聖宋元宝	1101	24.0	2.24	46	
71	S75 W90 II層上SE	開元通宝	621	(24.0)	1.77		3片に割れている
72	S78 W81 SE~II層上	不明	—	—	0.34		士量残 腐蝕激しい
73	S84 W108 I層下NE	元豐通宝	1078	23.5	1.96	47	腐蝕激しい
74	S93 W105 NW II層上	寛永通宝	1626	24.0	2.76	48	外回り少々腐蝕
75		不明	—	24.0	20.18		五枚付着の状態で出土、両面裏側が出てるので錢名判読不可能
76	S93 W108 II層上面SE	寛永通宝	1626	24.0	1.94	49	寛の字の右、永の字の左が欠損
77	S84 W93 I層SE	開元通宝	621	(25.0)	2.75		3片に割れた状態で出土、腐蝕がすむ
78	W48 S79ES 基I層	寶永通宝	1626	22.0	1.73	50	腐蝕がすむ
79	S81 W90 NE I層	鉢 銭	—	17.0	1.91	51	
80	S84 W93 I層SE	聖宋通宝	1038	(25.0)	2.62		2片に割れた状態で出土
81	黒色土	不明	—	(25.0)	1.12		士量殘 成〇〇宝 或後先生又は咸豐通宝か
82	S75 W69 II層上SE	寛永通宝	1626	23.5	1.68	52	寛の字の右が欠損



第127図 古 錢 (1)



第128図 古 銭 (2)

II 調査のまとめ

1 縄文時代の土器について

縄文晩期土器については既述の如く分類を行った。土器群の位置付けについてはおおよそ水I式終末を主体とする事を述べたが、ここでは特定の器種等を挙げ、再度まとめをしておく。

i) 浅鉢について

本遺跡での特徴としては、①浅鉢Aは少なく、主要な構成要素ではない。②代って浅鉢Cが増加することが挙げられよう。

浅鉢Aは網状文モチーフb・cのみ見られ、器形も5を主体とする。この内容は水I式の新しい段階を示しており、松本平ではトチガ原遺跡等で見られる。

浅鉢Cでは器形5の存在が目立っている。口外帯を欠き、頸部のくびれも形態化、すなわち幅広の沈線文に近くなっている。

この2つの特徴は関連するものと受けとてよく、浅鉢A5から浮線文を省略したC5への変化が考えられよう。そして浅鉢Dは浮線文の消失と関連して新たに出現するものと受けとれる。

ii) 壺・深鉢について

本遺跡での特徴は①両器種ともCが主体となる②B類ではB2が多いことが挙げられる。

壺・深鉢B2は手法的にB1の省略・変化として捉えられよう。詳細な検討をする余裕はないが、B1の1条隆線→B2の1条沈線の変化が考えられないだろうか。多条の沈線帶も同様に技法の省略の可能性が強い。

壺・深鉢Cにおいては、組成に占める割合が増し、特にC'cの存在が目立っている。口外帯は消失の方向へ向うものの依然強く残る。壺は全般に体部の張りが弱く、器形3が現れる。

以上の特徴は壺・深鉢は基本的に無文化の方向をたどる。器形的には壺体部の張りが弱まり、深鉢との差がなくなりつつある過程が読みとれよう。特に壺の器形3は刈谷原遺跡に類例を求めることができ、水I式以後につながるものと理解できないだろうか。深鉢の器形4は水神平式の壺と類似し、新しい要素であろう。

iii) 壺について

壺は本遺跡においても量的に少なく、器形の把握が困難である。今回あえて細分を試みたが問題点を残す。基本的には1から2への変化、2・3から4の派生を考え行ったが、他遺跡との比較や、資料収集の増加を待って再検討する必要がある。

壺も壺や浅鉢同様、無文化をたどり、また精製品が減少するようである。器形の変化と合せ、条痕文系土器等との関連の中で検討しなければならない。

iv) 第2類土器について

本類土器は第1類土器とは胎土・技法等、明瞭に異なる土器群である。中南信地方を中心に、水I式に伴出するものであるが、その出自・変遷等実体の不明な部分が多い。今回出土のものを御社宮司遺跡出土例と比較すると、沈線文を付す口端部が水平に取り付く。口頸部文様帶、特にレンズ状付帯文が細長く、立体感を失う。全体に整形（ミガキ）が難になる点に違いが認められよう。第1類土器の位置付けより見て、この相違はおそらく時間差によるものと見られる。詳細な分類は今後の課題として、①口端面は内傾→水平に変化②レンズ状付帯文の退化する点のみ指摘しておく。

東海地方を含め、広範囲での資料集成が必要となろう。

v) 第3類土器について

本文で述べた様に、櫻王式～水神平式に位置付けられよう。そのほとんどは搬入品と思われるが地域の特定は困難である。口縁部突帯に貝殻背面による圧痕を付すものは、木曾川中流域（岐阜県）で認められるようである。内陸部で模倣されたものが搬入されていることも考えられよう。

vi) 土器組成について

土器組成については本文で触れたが、ここではまとめとして他遺跡と比較しておく。本遺跡では水遺跡や御社宮司遺跡と比べ、浅鉢の比率が3分の1程度である。壺や第3類土器は各遺跡ともあまり変わらない。従って壺・深鉢の占める割合が他遺跡より大きい事が言える。

この様に組成上からも浅鉢の減少が示すように本遺跡の土器群がより新しい様相のものであることが言えよう。壺は他遺跡と変化なく、浅鉢の減少とは相関を示さない。新しい傾向を示してはいるものの基本的な構成は水I式のそれと変わらないと見てよいだろう。

vii) 針塚遺跡出土土器について

最後に、本遺跡の土器群に後続する資料として、針塚遺跡出土土器を取り上げ、晩期土器の觀点に従って分類をしておく。尚針塚遺跡出土土器については先に『長野県史』に掲載したものの他、今回新たに実測したものも呈示している。また、図の番号は『長野県史』に対応するものである。

①第1類土器

壺 A'b 1点認められる。9は口縁部に小突起をもち、肩部の丸く張る器形2である。肩部は太い沈線を横走させ、段をつくる。体部外面の整形はケズリの後、2条1単位の原体により粗大な条痕を施す。整形の方向はB型である。内面は横ケズリの後ナデを行う。

壺 C'a 4は器形2の特徴を示す。体部は肩の張り、ふくらみをもって底部に至るが、全体に歪みが大きい。底部は口径より小さく不安定である。体部の整形は、内面は口頸部を除き横にナデ、体部外面は縦方向にケズリを行なう。口頸部は内外面ともケズリを行い、後ナデする。外面はケズリ・ナデ共に不十分で、輪積成形痕が残る。器厚も1cm前後で厚手である。

壺 C'b 6・7の2点ある。7は器形3で、体部中位が屈曲して張り、菱形を呈する。小突起は上端に圧痕が付加され、4単位取り付く。外面の整形はケズリの後縦位に粗いミガキ、内面は横位ナ

デを行う。6は器形2ないし3で、肩が張る長胴の体部を有する。小突起は4単位設計、押圧を加える。肩部には深い非影刻的な沈線を施し、上下を画す。肩部以上にはLRの繩文を9段前後横位に転がす。体部外面は縱方向ケズリの後、縱ミガキを行う。下半部は明顯にケズリ痕を残す。

壺C'c 2・5・Aが該当する。2・Aは器形2で、肩部がやや張り、下半部は直線的に収束する。圧痕は2は口端面に深く工具を押しつけ、Aは口端側面にヘラ状具により刻む。内面は口縁部はケズリのちナデ、体部はナデを横位に行う。外面の整形はどちらも、3条1単位前後の条痕による。2の工具は先端の間隔が一定しない。方向は下半で縦位ないし斜位、肩部以上は左上り斜位～横位に施す。5は器形4で、体部は中位で強く張る。口端側面には刻目を連続させ、第3類土器に似せる。整形は内外面粗くケズリ（横～斜位）を行い、後ナデる。外面は最初2条前後の太い条痕を体部に施し（斜～横位）、さらに3cm巾前後の、間隔の一定しない櫛状具により縦位の整形を行う。

壺D 3は口頸部を欠く。体部上位に最大径をもつ器形2と思われる。肩部には2本の沈線を引き、その間に3本1単位の沈線文を山形に數単位連続させ、木葉文風のモチーフをつくり出す。沈線は影刻的でない。外面は文様帶内外をミガキ仕上げ（縦位）する。

壺E 1は器形2を呈し、やや肩の張る体部を有する。口縁部は断面逆L字状に突起を貼付し、端側面には工具により深く圧痕をつける（口縁部圧痕a手法）。又、突帯上面には工字文風の沈線文を配する。沈線は深く刻まれ、沈線間、沈線内側縁にはミガキを施すが、沈線底面は未調整である。体部外面の調整はケズリの後、3条前後の間隔の一定しない条痕を縦位→斜位に施す。

Bは口頸部を欠するが、本類の器形2と思われる。体部は強く張り、長く直線的に収束する。外面の整形はケズリの後、6本歯の櫛状具により縦位～斜位に条痕を施す。

②第3類土器

壺A Dは太い頸より外反する口縁がつく。口縁端面は外傾し、浅く凹ませる。突帯は断面三角形を呈し、工具により深く圧痕を施す。体部は3条前後の、貝殻に似せた条痕を施す。方向は底部付近で縦位、それ以上を横ないしやや左上りに施す。胎土は第1類と同様、在地系である。

壺B 11は肩部に区画文を有する。頸部及び肩部に横位の断面四角形の隆帯を横走させ、4ヶ所で縦位の隆帯により連結する。隆帯上には貝殻による押し引きを施し、区画内は波状文を貝により施す。口頸部及び体部は横位に貝殻条痕を施す（右→左）。突帯は下向きで、深く押圧する。胎土は東海系ではない。

Cは突帯をもたない。全面を貝殻条痕により整形するが、体部中位～頸部は羽状条痕となる。条痕は右→左、下→上に施される。胎土は東海系とは異なる。

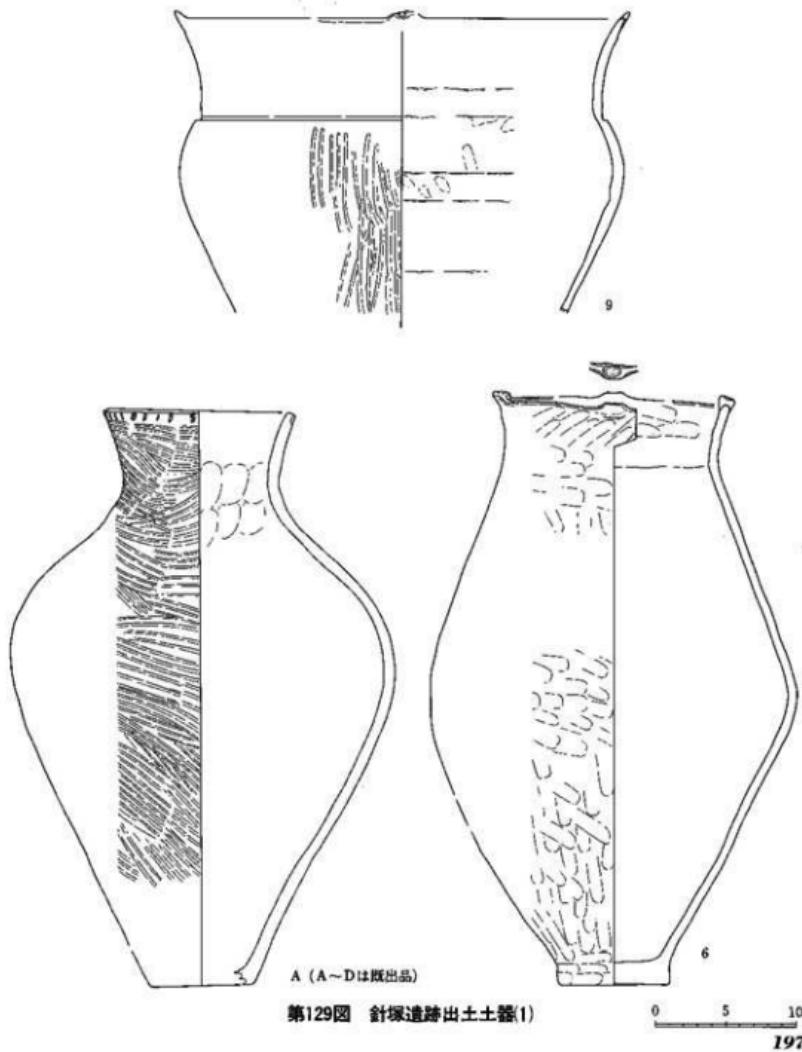
③第4類土器

石行遺跡晩期土器にはない類で、遠賀川系土器を扱う。12・13の2点がある。

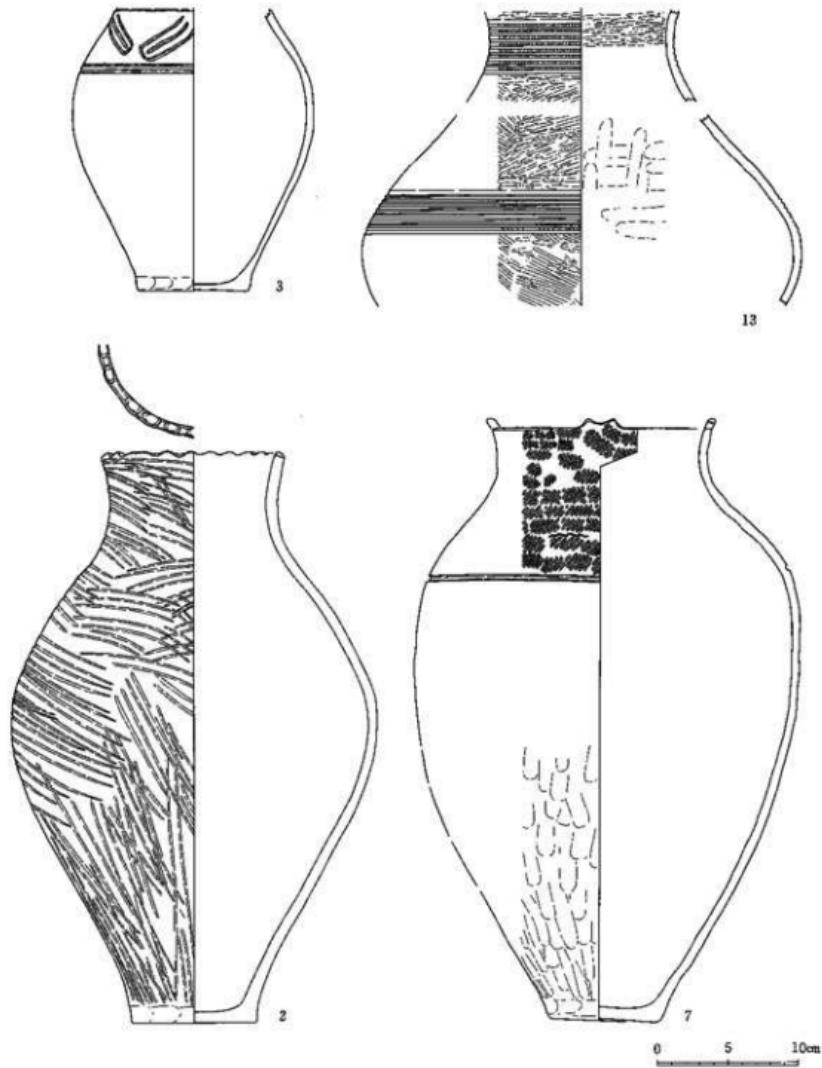
壺 頸部及び肩部に突帯、沈線帯をおく。12は頸部に削り出し突帯を設ける。突帯上には沈線を1条付加する。肩部は3条の沈線帯をおく。

13は12より体部上半が上方にのびる器形であり、大きく外反して開く口縁部が取り付くと思われる。頸部・肩部にはそれぞれ9条の沈線帯がおかかる。それぞれの上端の沈線は、上側の側縁を削り取り、削り出しの名残をとどめる。

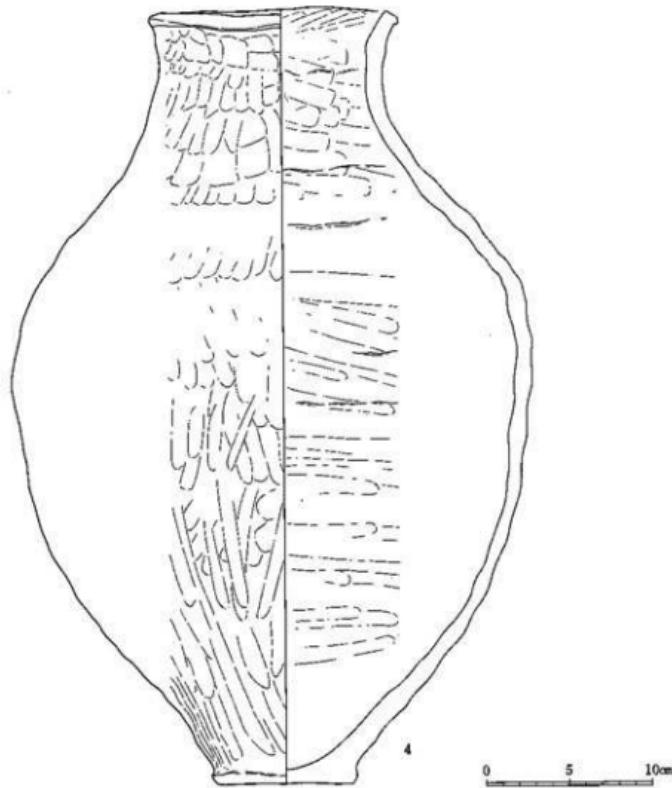
12・13ともにハケ整形→施文→ミガキを施す。下半部ではミガキは甘い。内面はナデ整形をする。



第129図 針塚遺跡出土土器(1)



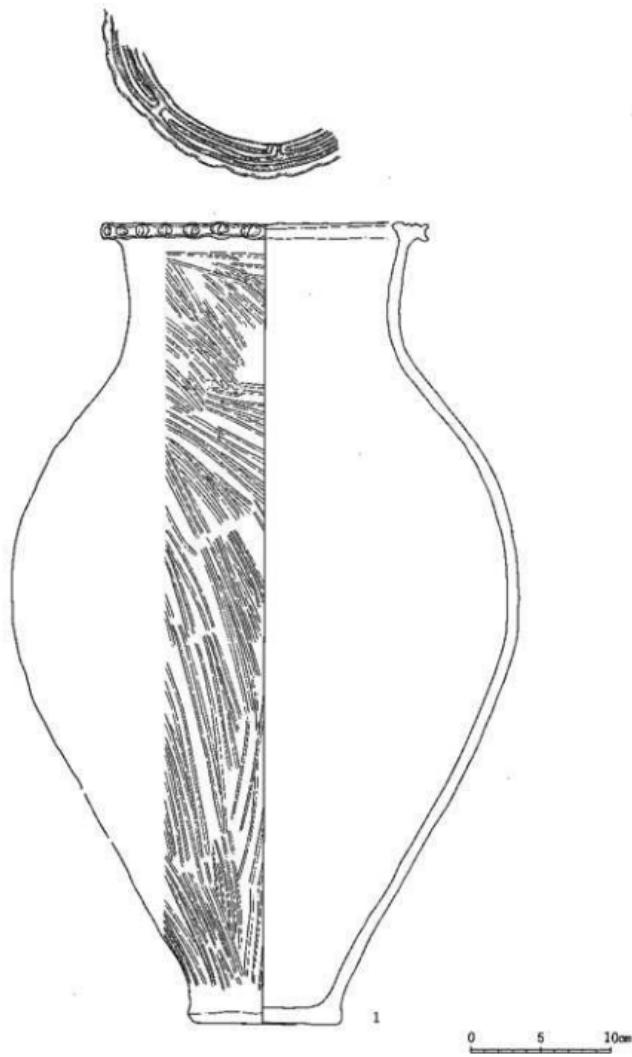
第130図 針塚遺跡出土土器(2)



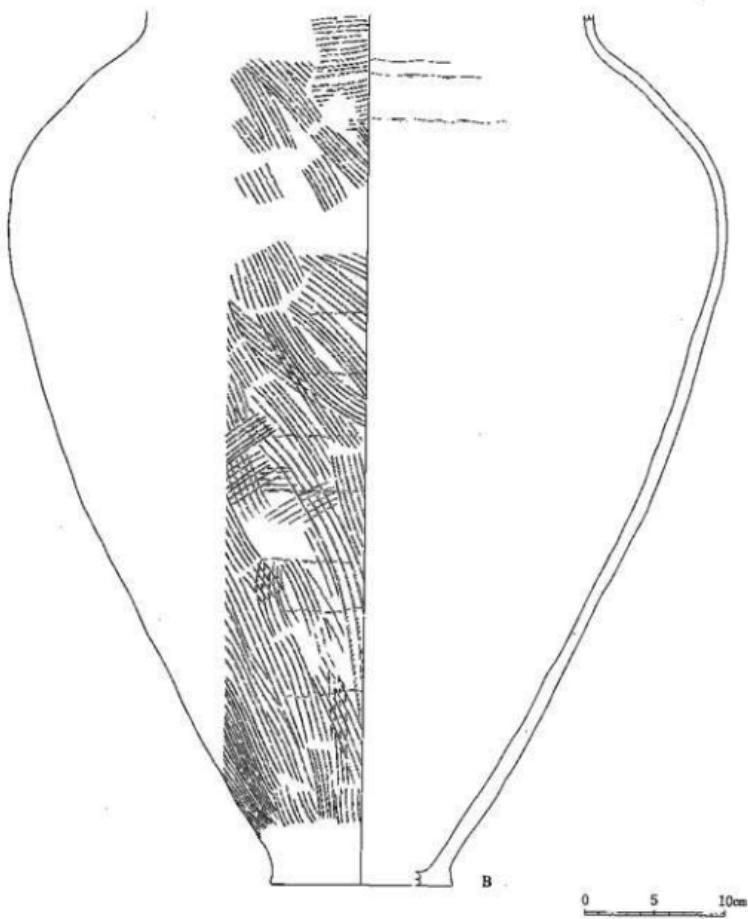
第131図 針塚遺跡出土土器(3)

④各類土器の位置付け

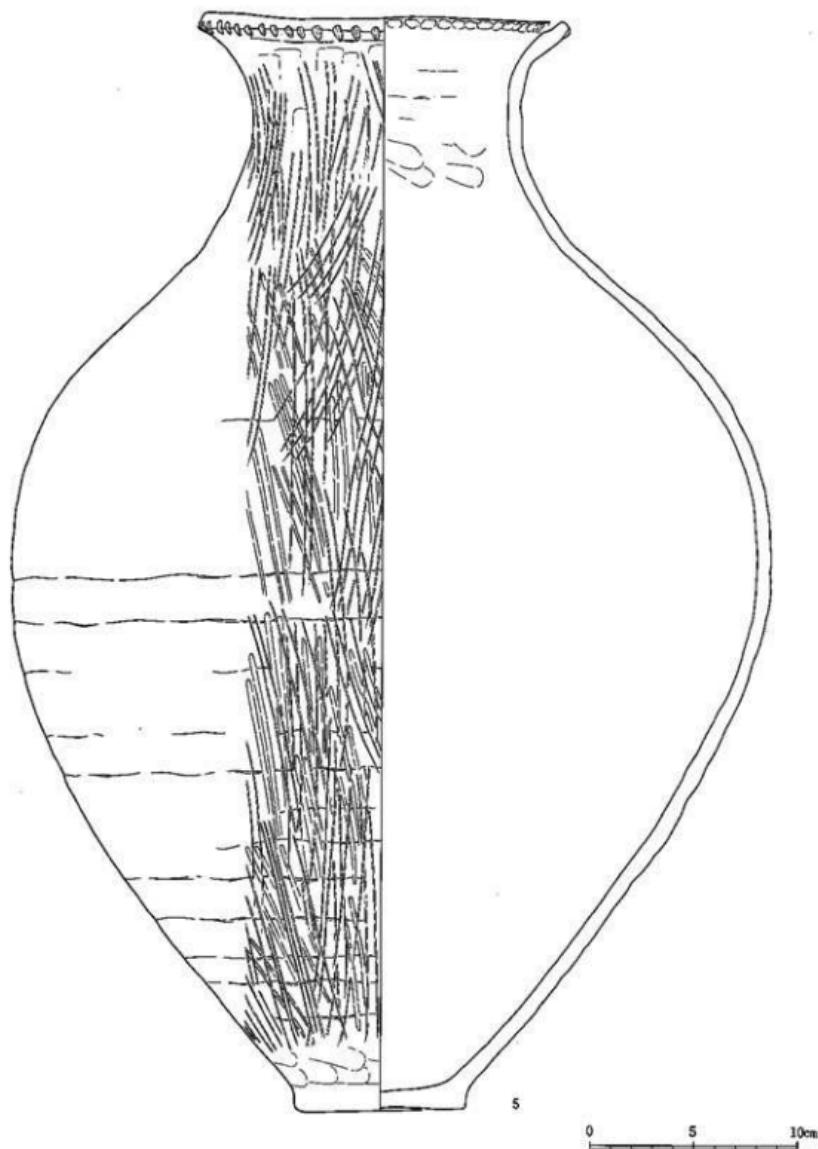
第1類土器 蕁・壺とともに石行遺跡土器群の技法を踏襲するが、若干の変化も見られる。器形的にはほとんど変化はない。5は器形3であるが、第3類土器壺Bと類似し、影響を考えなくてはならない。刻目の施し方にもその傾向がうかがえる。整形については、ケズリの不徹底で器面の凹凸が消されないものが多く、細密条痕とは呼べない太い条痕や櫛状具を用いている。全体に氷I式の整形が省略・退化していると言えよう。施文では工字文のモチーフを彫刻的でない沈線により施文するものがあり(8)、氷II式に見られる有り方である。細文の施文については北日本との関連を考えなくてはならないだろう。壺D(3)のモチーフは石行遺跡第2類に類似が見られる(305)。



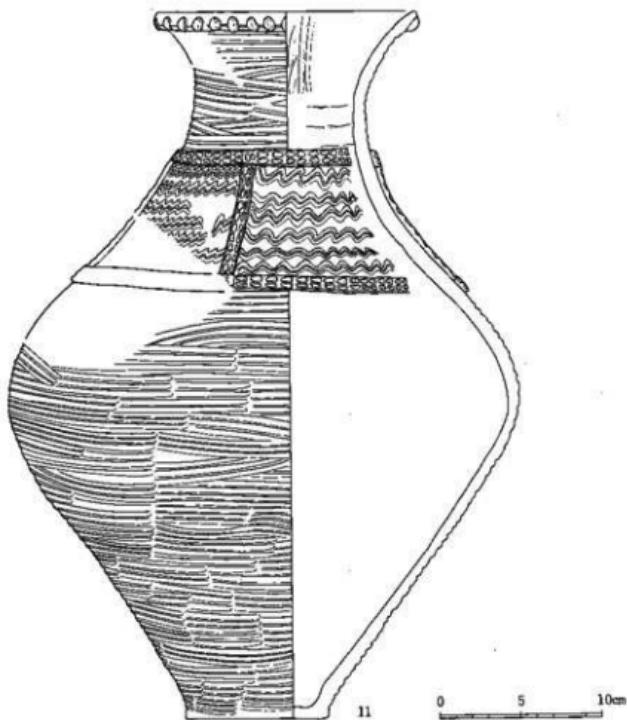
第132図 針塚遺跡出土土器(4)



第133図 針塚遺跡出土土器(5)



第134図 針塚遺跡出土土器(6)



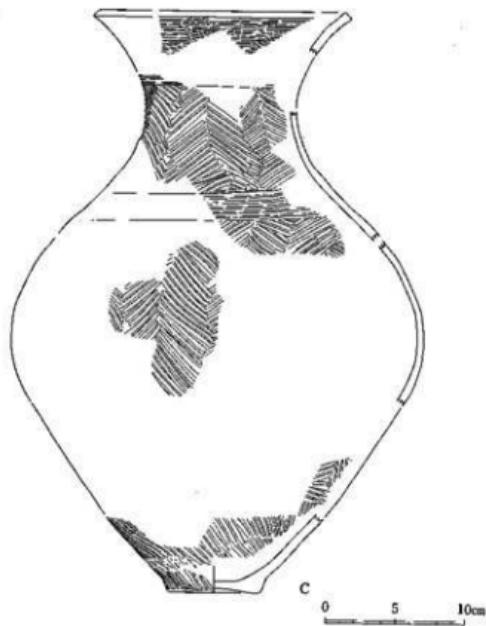
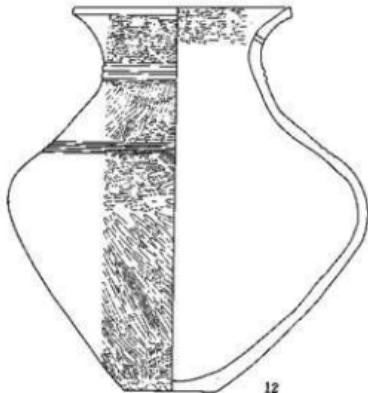
第135図 针塚遺跡出土土器(7)

第3類土器 東海系胎土の特徴を示すものではなく、在地あるいは比較的近接した地域での模倣品の可能性がある。工具は貝殻と、貝殻に似せた原体があり、後者は在地的な胎土であった。時期的には羽状条痕、波状文、押引文より水神平式併行を見て相違ないだろう。11の隆帯の有り方は、遠賀川系土器に類例を求めるかもしれない。水神平式にはない手法である。

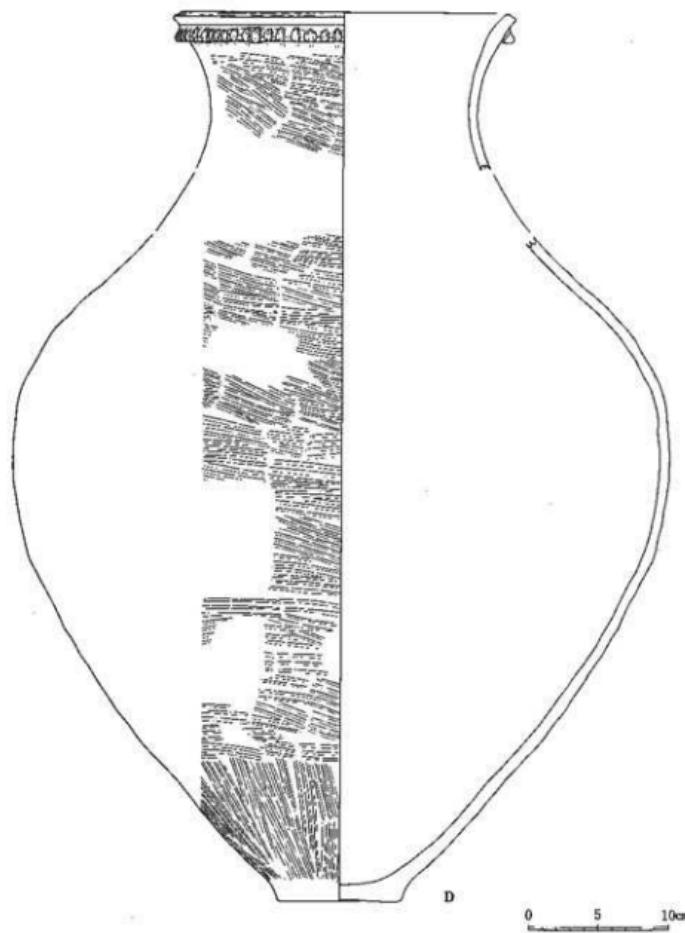
第4類土器 遠賀川系土器は、2点とも東海の「赤焼き土器」と異なり、畿内のあり方に近い。畿内での編年を適用すれば、12は器形、手法よりみて第1様式中段階、13は同新段階の多条沈線を付すタイプである。12は胎土に多量の砂粒を混入する点でも、畿内のあり方に似ている。

以上各類についてまとめたが、第1類は水II式、第3類は水神平式として良いだろう。従って、石行遺跡の新しい段階の土器とは併行か前後する時間関係を考えてよいと思われる。

今回は晩期土器については、時間のなさと筆者の力不足もあり、十分に吟味することはできなかつた。まとめにあたり問題点と可能性を列記したが、今後の解明課題としたい。

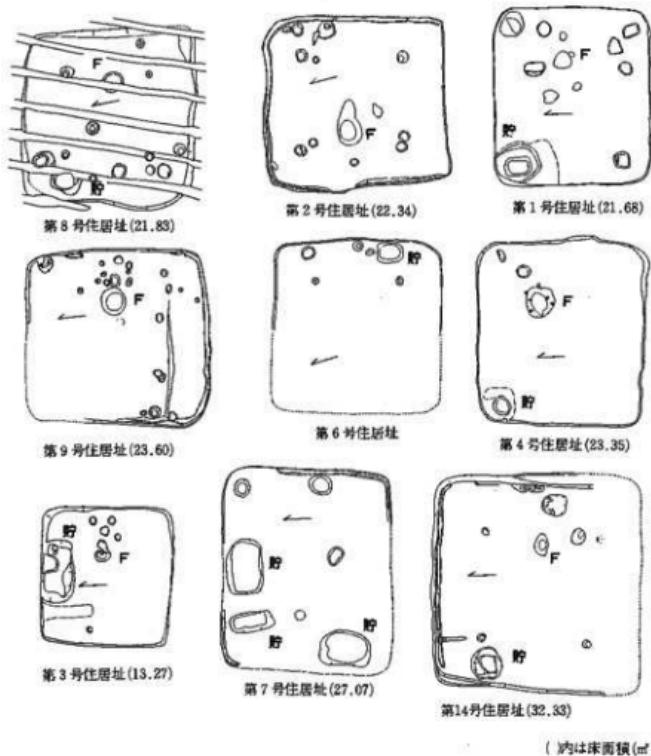


第136図 針塚遺跡出土土器(8)



第137図 針塚遺跡出土土器(9)

2 古墳時代の遺構について



Fが伊址、窓が貯蔵穴、貯蔵穴のまわりの一点鋼線は周堤状の凸堤である。2・6住を除き東西方向に主軸を有し伊が西奥柱穴間付近という構成で、貯蔵穴のあり方は北西隅によるもの（1・4・8・14住—9住?）と北壁中央下のもの（3・7住）の2通りである。3・9住は伊と奥壁間に小ピットをいくつかもち、2住は柱穴配置よりみて拡張の可能性が指摘できる。

第138図 古墳時代の住居址一覧

3 古墳時代前期の土器について

古墳時代前期の遺構は堅穴住居址9棟・土壙7基を数える。いかなる要因に基づくものかは不明だが、古墳時代に入ると、堅穴住居址内に残存する遺物の絶対量が突如として増大する傾向にあり、石行遺跡もその例外ではなかったようである。遺存器種に偏りを認めるものの、それぞれの住居址より良好な資料を得ることができた。弥生時代後期末から古墳時代前期にかけて、全国的規模で土器が移動し、それらの器種・系譜・数量等を比較・検討すれば、社会情勢や地域的特質をある程度まで推測し得るといわれるが⁽¹⁾、これまで当該期集落址の調査例が極めて少かった松本平にあっては地域的特質の一端を解明する上での恰好な資料になり得ることは言うまでもない。ここでは、堅穴住居址出土資料を主として各器種毎に検討を重ね、その系譜及び土器群の編年的位置を明らかにし、今後の松本平、ひいては長野県全体の古式土師器研究における問題点を2・3抽出することで古墳時代前期調査報告の結びとしたい。

1 各器種の検討

壺形土器

ハケ具を主要な調整工具とし、口縁を「くの字」に鋭く外反させ端部を丸く、あるいはやや尖り気味に終らせるものを基本形式とするようであるが、他に畿内・東海・北陸系の土器が含まれる。

在地で主要に製作されたものは、大きく平底甕と台付甕との二種に分けられる。底部形態の判別可能なものの20個体を見ると、平底甕が11個体、台付甕が9個体とほぼ同じ割合で併存している。こういった現象は、本遺跡に限らず長野県全体の傾向として看取できるが⁽²⁾、「全国的齊一性」の波に乗りながらも「地方的特殊性」が残るひとつの表れであると考えられる。他に、2号住28、4号住48のように口唇部をやや弯曲させるヨコナデ調整は、弥生時代の手法を受け継ぐものであろう。

畿内系の甕は、1号住11・15、2号住27・33・34、4号住52、8号住66、9号住73の計8個体が出土した。いわゆる「布留形甕」を模倣して在地で製作したものが多い。その中で1号住15のみが、畿内地方のそれと何ら技法的違いをみせないものである。但し、胎土の内容物から勘案すると、在地品ともいい難いが、少くとも畿内地方より直接搬入されてきたものではない。2号住33、4号住52は比較的よく似せているが、後者の方は内面にヘラケズリを施しているにもかかわらず器壁を薄く仕上げておらず、また前者も頭部内面と口唇部調整に若干の差異を認める。その他、単に底部外面をヘラケズリすることで丸底状に仕上げ「布留形甕」に似せようとしている1号住11、2号住27等も存在する。

東海系の甕はS字状口縁台付甕に限定した。5個体出土している。1号住16は、茶褐色を呈し、かつ焼成堅敏な土器で、金雲母の混入が微量である点を除けば「藤井原S字」とも称される東海東部地方のS字状口縁台付甕に酷似している⁽³⁾。2号住36も同様な色調及び焼成からなるが、非常に小形でしかも同種のものを最低3個体は連ねるといった特異な形態を呈している。類似資料は、静岡県

富士宮市野中向原遺跡で出土しており、神奈川県平塚市御所ヶ谷遺跡でも認められるという。したがって、単に例外的存在として片付けるわけにはいかず、確固たる何らかの機能的役割を果たしていたに違いない。3号住40の外面調整は粗雑で、ヘラケズリの後乱雑なハケ調整を施している。ヘラケズリ痕を確認できた資料はこれだけであるが、1号住16・土壇1の80のハケ調整はハケ目痕が浅くかつ一重で終らせる部分も随所でみられることから、器壁を薄く仕上げるために用いられたものではないと考えられ、やはりハケ調整前のヘラケズリを想定せざるを得ない。あわせて、口縁部及び胴部の形状、三連甕の存在から、これらS字状口縁台付甕の系譜は東海西部地方の瀬尾平野に求めるよりも、むしろ東海東部地方にあるのではないかと考えられる。

北陸系の甕は2号住35が該当する。口縁部を「くの字」状に強く外反させ端部を面取りする点を特徴とするもので「能登系甕」あるいは「くの字口縁甕」と呼ばれている。北陸地方東北部（能登・越中・越後・佐渡）に分布している。搬入品の可能性がある¹⁰⁾。

壺形土器

口縁部形状により、有段口縁壺・直口壺・短頸壺・広口壺・受口壺に分けることが可能である。有段口縁壺は、3号住37と8号住65の2個体である。ともに頸部から二段に外反する口縁形態をとる中形品で、また、ミガキ調整が入念でなくその他の要素においてあまり入念さを感じ得ない土器である。口唇端部に面を有し端部外側がやや尖り気味になっている点は、2号住32の甕と等しいが、この種の手法の系譜は不明である。

直口壺は大形・小形に分かれ、大形のものに8号住63、小形のものに1号住4・5が該当する。8号住63は、口唇端部に平坦面を有し、また、口唇部をヨコナデすることで端部に向かうにつれて器壁が薄くなり最終的にはわずかに外反している。これは、畿内地方の直口壺にしばしばみられる手法であり、加えて東海西部地方には大形直口壺自体の存在が極めて客体的であることから、畿内地方に系譜が追えそうである。1号住4・5は小形直口壺としたが、胴部形状を知り得ないもののむしろ長頸の中形壺の部類に該当する可能性の方が大きい。いずれにしても、系譜はやはり畿内地方に求められる。

口頸部が「ハの字」状に外反する短頸壺が在地大形壺の主体になるようである。2号住22、9号住68、14号住75計3個体を図示したが、他に同種の口縁部小破片を多數認め得た。この種の壺は普遍的に分布するため、一概に系譜地を決定することはできない。弥生時代後期末に始まる在来土器の胴部球形化・頸部収縮化・口頸部短縮化・無文化は、東海東部地方以東地域の共通現象であり、中部高地もその例外ではない。案外、箱清水式の壺からのスムーズな型式変化として把えられるのかもしれない。但し、その場合においても、該期における畿内・東海地方の影響を軽視できないことはいうまでもない。

受口壺は2号住より出土している。受口壺は、飯田・下伊那地方に限らず松本平南端に至るまで確実に分布しているが、受口部外面の篦刺突文を意識した櫛描文から察すれば、やはり飯田・下伊

那地方の影響としか考えざるを得ない。在地で製作したものと思われ、「中部高地型」の櫛描波状文で飾られている。独自の発展を遂げる東海西部地方を除いて壺の無文化現象が著しくすむ中、装飾された受口壺が該期に至るまで残る例を他に知らないが、駿河から相模川西岸にかけての地域においても装飾壺の残存例を示す報告がいくつかなされている。比較的大形のものが目立ち、本遺跡出土資料も通常のものに比べ一回り大きい。特殊な機能を果たすためには、「加飾する」だけでなく「大形」でもなければならなかったのではないだろうか。

鉢形土器

鉢には、弥生時代から系譜が追えるもの、小形丸底土器に類するもの、口縁が二段に屈曲するもの、その他がある。

先行形式の残存と思われる土器は、3号住38と4号住43である。但し、該期に至っては赤色磨研されることはない。

小形丸底土器に類するものは1号住1のみである。口頭部が短かく、かつ、欠くことのない唇の口縁部内面のミガキ調整が認められないものの、体部の形状を重視して一応小形丸底土器の範疇で考えておきたい。典型的なものは、2号住覆土中より小破片が1片出土しているのみである。

口縁部が短かく二段に屈曲する鉢の出自が畿内地方にあり、小形精製土器群のひとつに数えられていることは自明のことである。しかしながら、本遺跡で出土した1号住6、8号住62、14号住76は、いざれも粗製品であり形態的にも大きな差異を認める。完全な模倣品であることは胎土の上からも明らかである。

器台形土器

2個体出土している。一般に該期の小形器台には、器受部が皿状のもの、口唇部を短かく直立させるもの、口縁部を二段に屈曲させるもの、長く外反する口縁を有し器受部を深くさせるもの等の種類があり、後二者は東海西部地方の元屋敷式に出現するようである。4号住45は、脚部形状に趣きを異にする点があるものの器受部形状からすれば最後に挙げた形式に該当させても差支えなく、また、9号住69は、広範に分布する形式であるが、千鳥状の透孔を有する点から同様に東海西部地方に系譜を求めることが可能であろう。

2 編年的位置

石行遺跡の古式土器が、畿内地方の布留様式・東海西部地方の元屋敷様式のある時期と時間を共有することは明白である。長野県ではというと、かつて岩崎卓也・桐原健両氏による編年研究⁽⁵⁾以後、それらが踏襲されることなく現在の盛んな細別的編年研究に至っており、明確な様式名が付されないまま、各研究者独自の考えによる「期別」が氾濫している状況にある。また、細別の対象となる時期が古墳出現前後の時期に集中しているため、小形丸底土器出現以後の細分研究は、山下誠一氏に目を見張る論考がある以外積極的に行われていない⁽⁶⁾。ならば、様式論的見地のもとに時間軸を再構成し、石行遺跡の古式土器の編年的位置を推定しなければならないのであるが、資料的に

問題があり分析に費す時間も残されていない。したがってここでは、正式ルートを踏まずに、縄年の確立しつつある畿内及び東海地方の研究成果を参考にし、当該地方に系譜があるとした壺形土器の形式的特徴から、あくまでも○〇式併行期という表現に留めることにする。尚、畿内・東海地方の縄年は寺沢薰・加納俊介両氏の縄年観に準ずる⁽⁷⁾。

まず、布留形壺の口縁形態をみると、1号住15は矢部分類「f 手法」、2号住33は「g 手法」、4号住52は「h 手法」により作出されたものと思われる⁽⁸⁾。「f 手法」及び「h 手法」は、その占める比率に増減こそあれ布留〇式以降長期に渡って存続するため、単体を比較してみての時期決定は許されない。決め手となり得るのは「g 手法」であり、これは布留2式以降に登場する。さらに石行遺跡の土器群が「小形精製土器群崩壊後」の布留3式まで下る筈がないから、布留2式に併行する可能性が大きいといえよう。S字状口縁台付壺に目を転じてみると、肩部横ハケ調整が消え失せ、口唇部内面には一条の凹線を伴うことから月の輪分類「A₅類」の属性を具備している⁽⁹⁾。「A₅類」は「A₄類」とともに月の輪新段階(=大邱式新段階)、東海西部地方に対応させれば元屋敷式新段階に時間を共有する場合が多いといふ。寺沢編年「布留2式」と加納編年「元屋敷式新」段階が併行関係にあることを勘案すれば、外来系土器二者の時間的矛盾のない石行遺跡の土器群が当該期に併行するという結論を得ることができる。

3 二・三の問題

東海東部系土器の問題

石行遺跡出土のS字状口縁台付壺の系譜が、東海東部地方にあることを指摘した。同系統と考えられるものが、岡谷市新井南遺跡2号住・諏訪市本城遺跡31号住・茅野市下蟹河原遺跡・伊那市堂外垣遺跡1号住においても出土している。また、下蟹河原・堂外垣遺跡例では大邱式に比定できる壺形土器が共伴している点からも、より東海東部地方との結び付きを裏付けている。類例に乏しいものの、諏訪盆地が分布域の中心になるのではないかと思われる⁽¹⁰⁾。

東海東部地方に系譜を求めたが、直接的には、東海東部地方色の濃い甲府盆地を当てた方が自然であり、それが妥当であるならば現在の甲州街道に平行する伝播ルートが想定できよう。詳細な検討は資料の増加を待たねばならないが、甲府盆地の影響力は決して微小なものではなく、県内で諏訪盆地だけがひとり独特な地域圏(大邱式土器圏)を形成していたことは想像に難くない。そして諏訪盆地に通ずるいくつかの峠道を越えて、松本平や伊那谷北部、あるいは上田・佐久平にも少なからず影響を及ぼしていたものと思われる⁽¹¹⁾。

北陸東北部系土器の問題

北陸東北部系の「くの字口縁壺」の出土は、松本平においては初例のことであり、県内に限れば分布域の南限としておさえられる。多くは東北信地方に分布しており、遺構単位では壺の主体をなす場合もある。長野県を離れると、畿内・東海地方には見当らず、神奈川県伊勢原市久門寺遺跡の例⁽¹²⁾を除けば埼玉県岩槻市平林寺遺跡を南限とする関東地方(主体は石田川式分布圏)に多数認め

られる。広範囲での一方的な土器の流出として看取でき、そこには比較的規模の大きい人間の移動を認めざるを得ない。その社会的背景には興味深いものがあるものここでは触れない。

上記の移動は明らかに北信→東信→関東地方という単線的経路が辿れ、その場合の長野県の役割は、経由地であったと同時に、一堅穴住居址出土遺物の主体になることもあるから入植地でもあったことがうかがえる。この種の土器は、現在のところ多時期に渡って存在するが、時期毎の分布密度を明らかにすることで、入植の在り方を推測し得るのではないかと考えている。また、北陸東北部地方の集団が東北信地方に与えた影響を考えなければならず、まずは土器に表象化される諸様相を細かく観察することが先決となってくるであろう。

4 まとめ

石行遺跡の古式土器が、おそらくは布留2式および元厘敷新段階に多くは併行するとした。しかしながら個体単位でみると、新旧関係が成立しそうなものも少なくない。型式的把握と様式的把握といった立場の違いによって起こる現象として捉えたいが、土器の製作技術の流れを型式学的に序列することは次くことのできない作業であり、それとは逆に、型式の変遷を見極めた上で新しい技術と古い技術により製作された土器がある時期併行して製作・使用されたという事実をつかむことも文化内容を推察するのに重要である。この二点を明らかにするためには比較資料の増加を待たなければならないが、良好な一括資料を得た石行遺跡の意義は、様式構造の不明瞭な長野県において大きいといえよう。またS字状口縁台付甕及び北陸東北部系甕の分布より導出した内容については決して憶測の域を出たものではない。しかしこれらの土器が、地域社会の構造を理解するひとつの手掛りになることはまちがいない。批判的となることによって、より正当な評価がなされることを期待したい。

以上、焦点を絞って簡略にまとめてみたが、紙数に限りがあるため出土例の提示はおろか引用文、註文においても最少限に留めさせていただいた。先学の業績を充分生かしきれず、また誤解を生む点も多々あったのではないかと思う。御寛容の上、御批判、御教示がいただければ幸いである。

- 註 1 岩崎卓也 1964 「古墳出現期の一考察」『中關高地の考古学』長野県考古学会
2 但し、原田「伊勢地方での台付甕の比較」やや高いうようである
3 小川貴司 1983 「別所城跡、三~四世紀の東部」八王子市郷土資料館
4 笠置佐氏御表示
5 木代藤一 岩崎卓也 1961 「城の内」「史学研究」東京教育大学文学部紀要 XXXI
6 桥本達也 1967 「信濃における古式土器の伝承」『信濃』19-8
6 山下誠一 1968 「信濃遺跡群」飯田市教育委員会
7 両氏のそれぞれの論文作業は、方法論的に納得でき、畿内地の様式変化をも意識した東濃地方の加納編年と畿内地方の寺沢編年は自ずと矛盾なく整合している。
8 今井義和 1985 「久保遺跡」奈良県立橿原考古学研究所
9 馬鹿野行雄 加納俊介他 1981 「月の輪遺跡群」富士吉田市教育委員会
10 両地区にS字状口縁台付甕が主体的に存在することは、既に山下誠一氏が指摘している。
11 上田市神木遺跡 今佐より東濃東部系の變形土器が出土している。上田平はS字状口縁台付甕の出土例も比較的多いようであるが、実見していないため詳細については置きたい。
12 現在整理中、立花英氏の教示によれば洗浄途中的状態にありながらも甕を含めて瓶に100升以上詰められているという。周辺地域には今のところ出土例がなく歴史的意義。

V 結 語

紙数の都合で本文中で触れられなかつたことについて述べて結びとしたい。

遺跡の層序のこと。I～III区は耕作土下にすぐ二次堆積ロームをもつており、その面で縄文～平安までの遺構が捉えられた。しかしIV・V区は谷状地形で検出面まで深く、時期毎の重複もあつた。V区西部では50～100cm 耕作土を剥ぐと近世墓址が現われ、30cm 下層で中世～平安の遺構検出、更に縄文晚期の包含層はこの下部にあたり土器集中区はその深さではじめて発見できた。しかもこれらの土層は黒褐～暗褐色腐植質土で、層中に切り込む同質の土を覆土とする遺構の検出は非常に困難なもので、小規模なピット等の見落しは充分考えられる。

晩期土器集中区のこと。8ヶ所の発見があったが、7を除くと他は小規模で整理にいたって図示できる土器のないものまであった。とは言え調査中は、周辺とは明らかに異なる土器片の集中を示していたのだが。この中で6は整理を通じて特異なものであることが判明した。小形の一括品が多いのである。これは7などの単なる廐棄箇所とは若干性格を異にしていると考える。7についてみればとにかくその集中度はすさまじいもので調査時に一度土器片を露呈させると次には足を踏み込めないという状態であった。

縄文時代の遺構、焼土面とピット群のこと。焼土面は文字通り地山が焼けていたものでその一帯から多数の晩期遺物が出土したことと、それ以降の土壤・ピットすべてに切られていたことにより縄文時代晩期と判断した。近くの土塊37がやはり同期の土器を多量出土し、覆土下層に多量の焼土をもつことから、双方一体のものかもしれない。ピット群は谷（V区）の南方やや高いところにあり、その一帯は地山がロームでこれに掘り込まれていた。中央部に土壤8・9をもちこの中からは晩期土器が出土したが、周辺で他の時期の遺物は皆無だったので概ね時期を示すものと理解した。

IV区からV区にかけて自然流路の跡があつたこと。同区の中世～平安の層の上下に断続的に存在していたとみられるものが何本か発見された。最古のものは溝7に通ずると推定される。断面観察を行ったが紙数の都合で掲載していない。

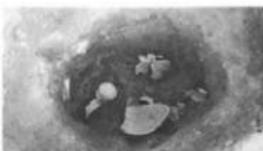
溝について。I～III区を通るもの、IV区北端を通るもの、V区の中に何本か、溝があつた。V区のものは中世～平安の遺構と関連するものと自然流路の最古のもの、他は溝中から縄文時代の遺物を微量出土したが時期不詳である。

以上に述べた他にも調査中に発見・観察できることは多くあつた。それだけ大規模で複雑な遺跡であり調査であった訳だが、本書がそれをどの程度伝えられるものになっているのか、不安は常に念頭を去らない。

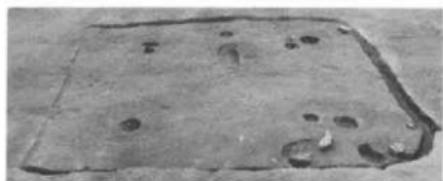
最後になりましたが、この大規模な調査が無事終了できたことはひとえに地権者の皆様、寺土地改良区他地元関係各位の御理解と御尽力の結果であります。記して感謝申し上げるとともに今後の調査においてもよろしくお願ひ申し上げる次第であります。



第1号住居址



同左貯藏穴



同上



同遺物出土



第2号住居址



同左遺物出土



第3号住居址



同左



第4号住居址(奥は3住)



同左(奥はロームマウンド)

第1図版



第6号住居址



同左炭化材出土



同上



同上



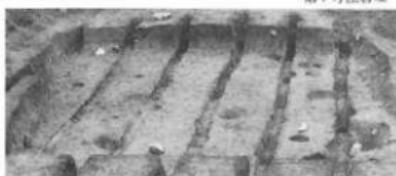
第7号住居址



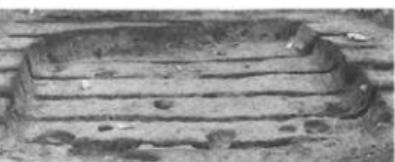
同左遺物出土



第6号住居址柱材?



第8号住居址



同左

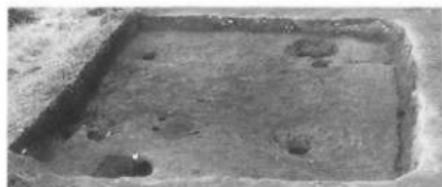


第9号住居址



同左

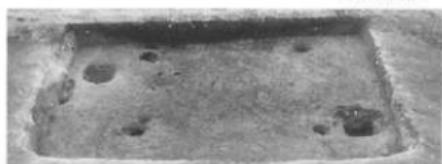
第2図版



第14号住居址



同左貯藏穴



同上



第5号住居址カマド



第5号住居址



同上



第11号住居址カマド



第5号住居址



第11号住居址



同左



第10号住居址

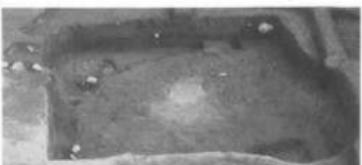


同左

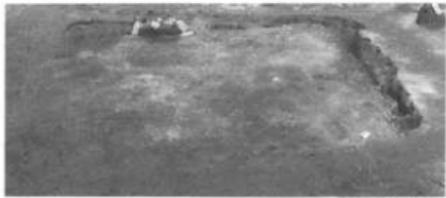
第3図版



第12号住居址



同左



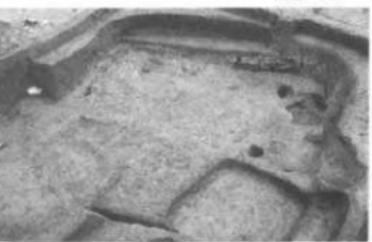
第13号住居址



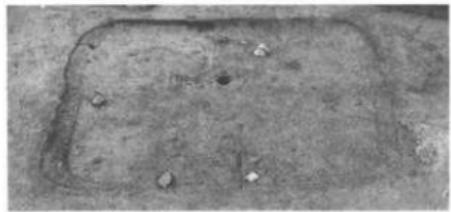
同左カマド



第17号住居址



第15号住居址

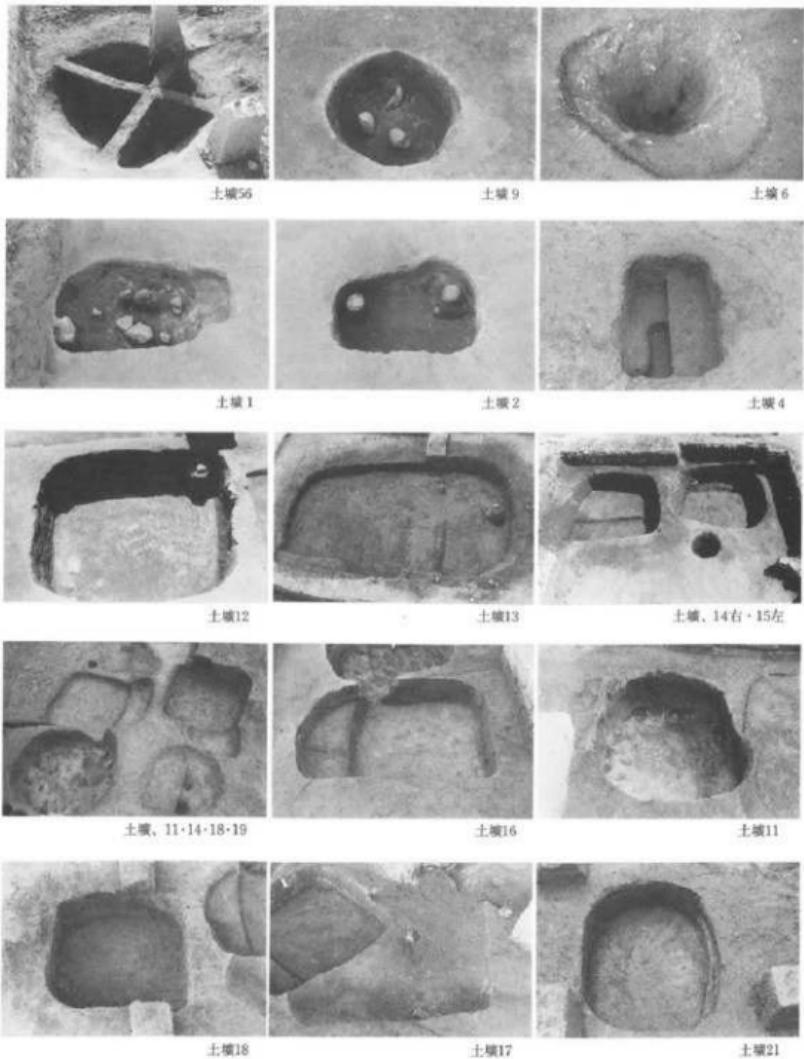


第16号住居址

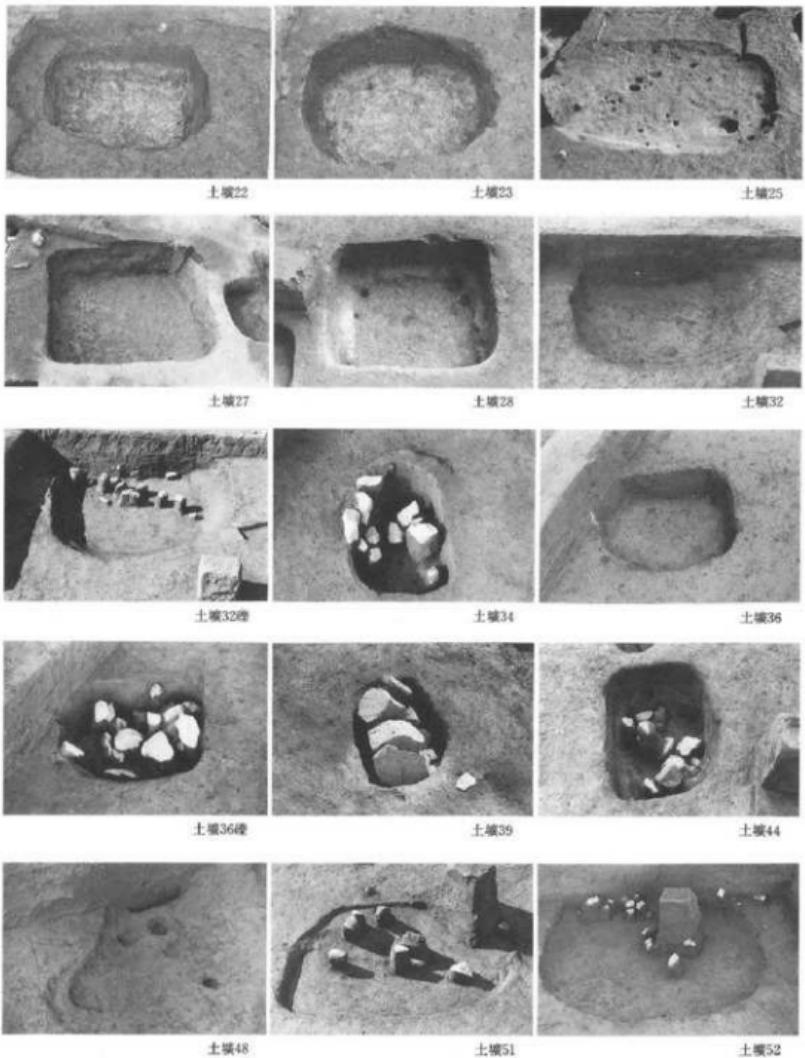


第19号住居址

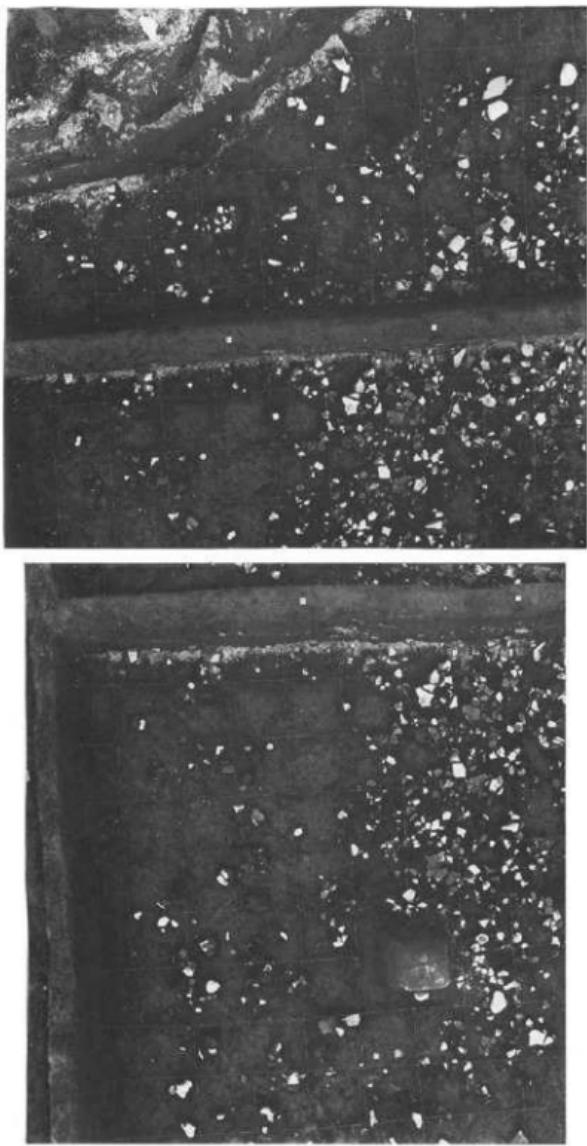
第4図版



第 5 図版

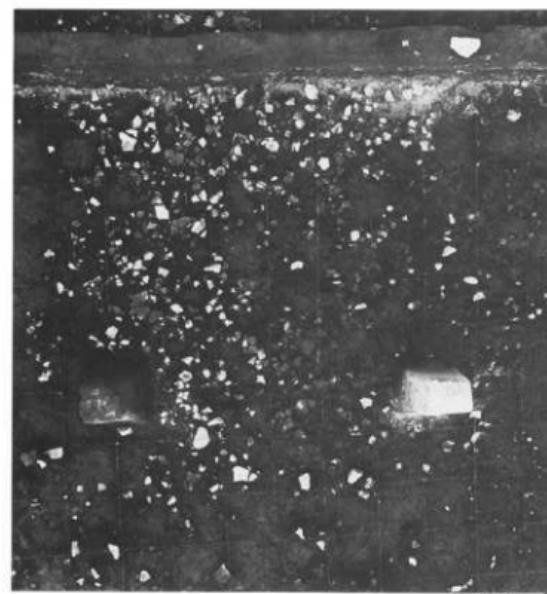
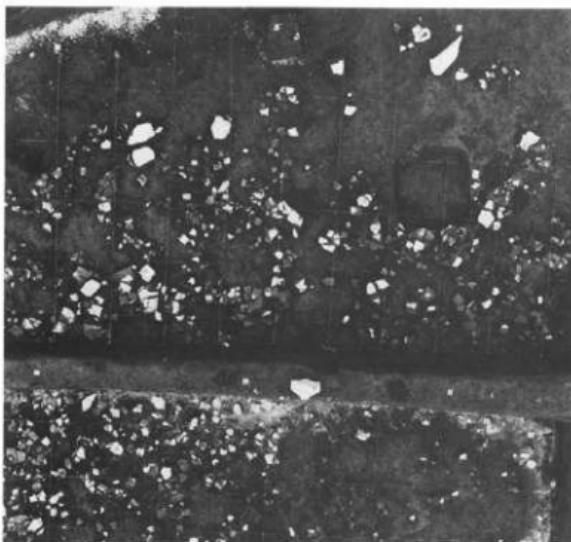


第6図版



第7図版

土器集中区7



土器集中区 7

第 8 図版



石行道路表土除去



同住居址掘り下げる



調査風景



調査風景



写真測量



写真測量



土器集中区7



土器集中区7



108



70



113



110



267



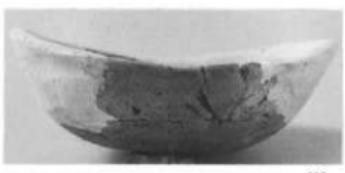
274



282



11



111



270



172



171

第10図版



252

268



271

295

259



72

273

75

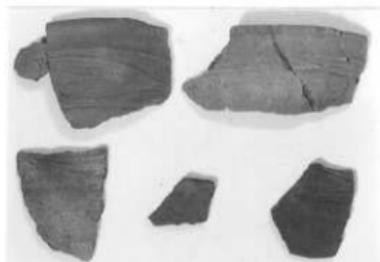


28

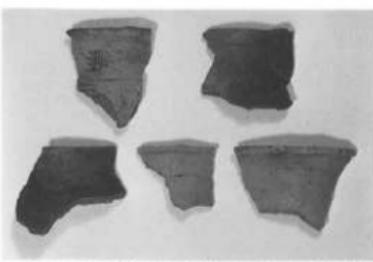
60

69

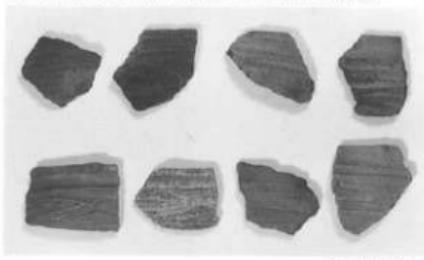
第11図版



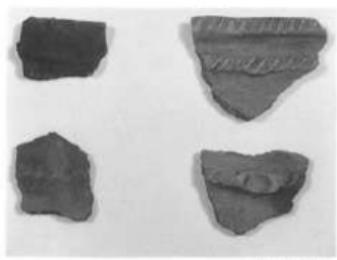
第1類 深鉢A(上)・浅鉢D(下右)・壺A(下中)・甕A(下左)



第1類 壺A(上左)・B2(上右)・C(下右・中)・C'(左)



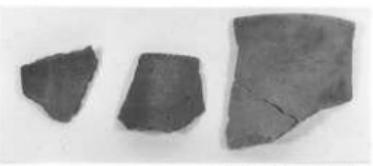
第1類 浅鉢A



第1類 壺E



第1類 深鉢B1(上右)・B2・B3(下右)



第1類 壺B3・C'(右)



第1類 壺D(左)・第2類(右)



第3類土器

第12図版



舟形土器(左)・耳付箆形土器(右)・注口土器(下左)



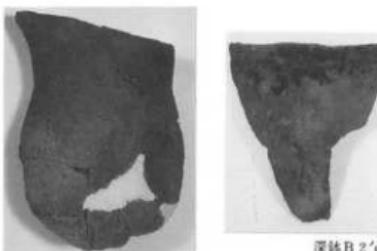
深鉢C'e(左)・C'(右)



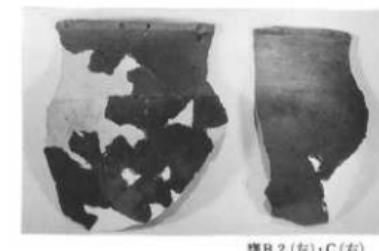
深鉢C'(左)・深鉢C'e(右)



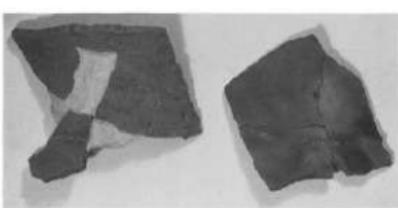
浅B 2



浅C'(片口部)



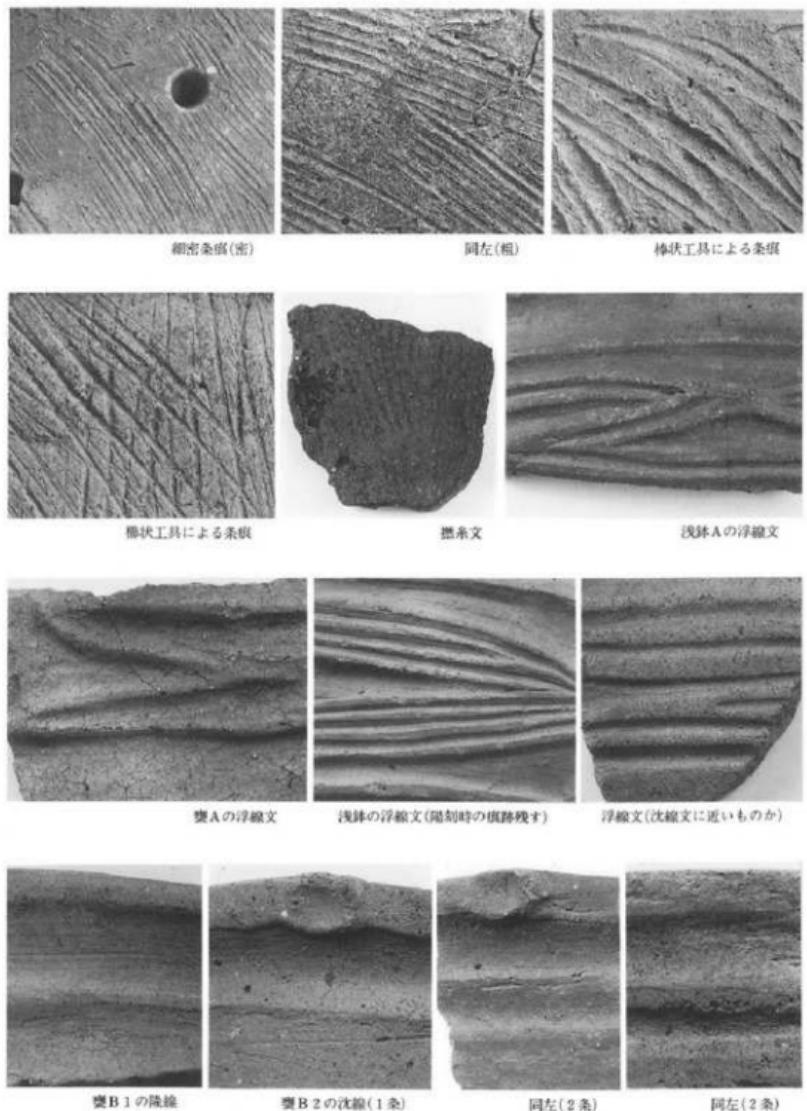
浅B 2(左)・C(右)



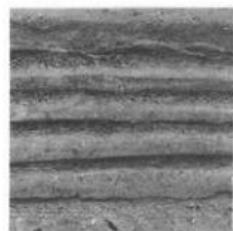
浅E 1(肩部突唇)



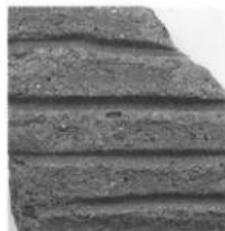
浅C



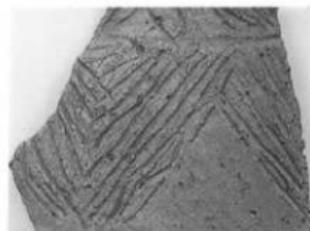
第14図版



甕B 2 の沈線



甕B 3 の沈線



壺D の沈線



甕E の突帶・圧痕



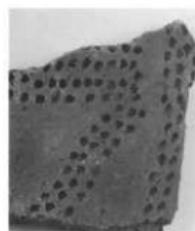
同 左



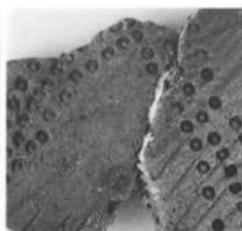
同 左



口縁部圧痕 a 手法



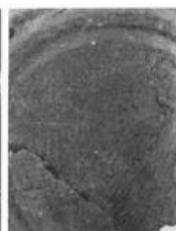
甕の刺突文



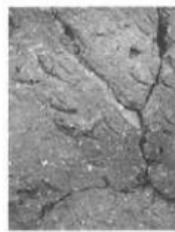
同 左



甕の刺突文



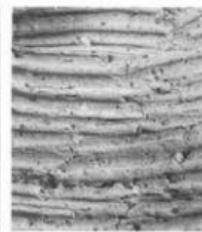
第2類土器の成形
(ハケ状工具による調整)



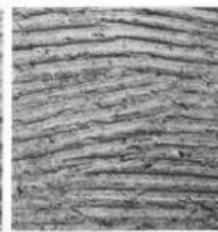
第2類土器内面
(爪の圧痕?)



第2類土器の沈線



第3類土器貝殻条痕



同 左



第3類土器波状文(貝殻)



第3類土器羽状条痕(柳状文)



第3類土器突縁(ヘラ押圧)



第3類土器突縁
(条痕原体による押圧)



同左(指?による押圧)



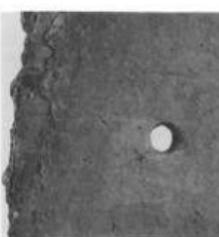
同左貝殻背面压痕



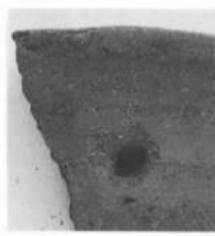
同左



深鉢C(200)の穿孔、粘土の塗られた破断面

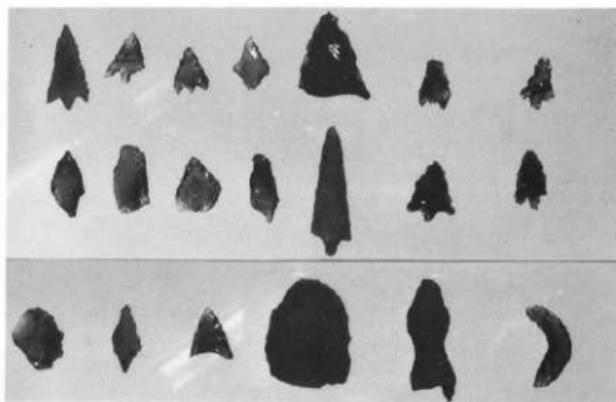


壺・浅鉢の穿孔(焼成前刺突穿孔)



壺の穿孔(焼成前回転穿孔)

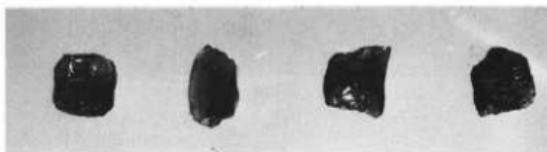
第16図版



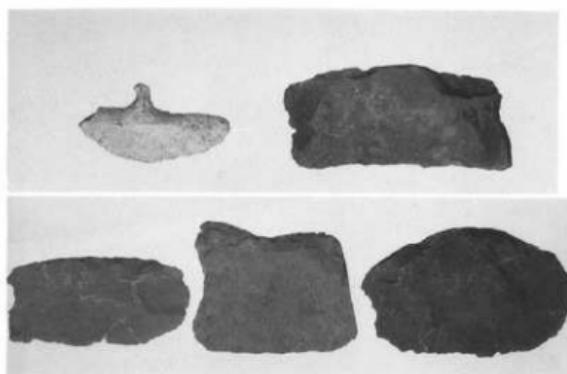
石 箭
異形石器



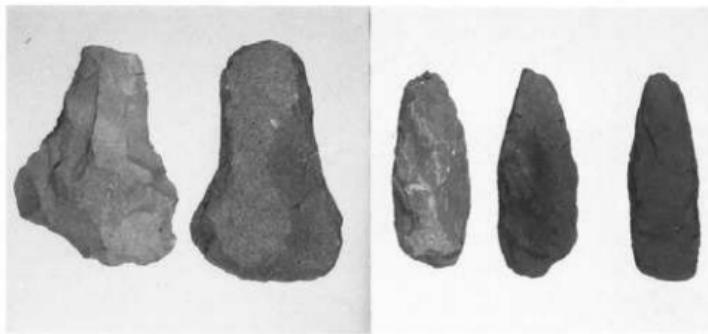
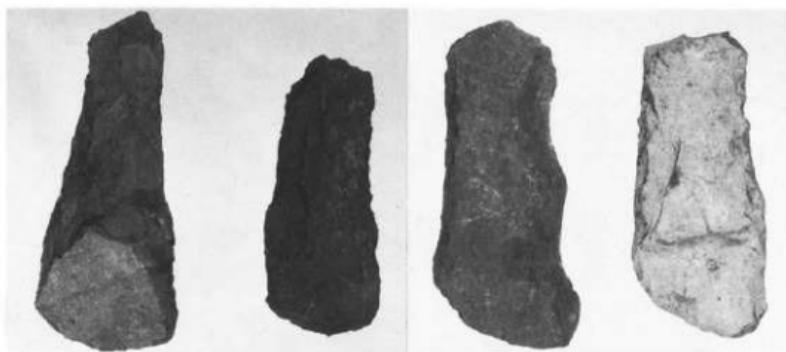
石 刀



ピエス・エスキーユ



石逃
スクレーバー



打製石斧

第18図版



磨製石斧



凹狀石器



石製品



砾石製作痕



土偶



第20図版

松本市文化財調査報告No47

松本市赤木山遺跡群Ⅱ

昭和62年3月20日印刷

昭和62年3月31日発行

発行 長野県松本地方事務所
松本市教育委員会
印刷 電算印刷株式会社

